14.4
18イ

0032582001

0032582-001

１４．４－１８イ

大阪府統計書

大阪府・編

大阪府

大正１４至昭和２，４至６年

昭和２至８

AFB

3E-17

大正十四年

大阪府統計書

大阪府

14.4－18ｲ

大阪府統計書

大正十四年

正誤表

頁	表	欄	行	誤	正
記述 101	—	—	5	千百八人	千百六十八人
〃 〃	—	—	〃	初メノ(?)	(四割五分七厘)
〃 〃	—	—	〃	後 ノ(?)	(五割四分三厘)
75	第一六表	累年ノ見出シ	—	—	大正四年ヨリ同十一年迄ヲ順次大正五年ヨリ同十二年迄ニ改ム
231	第八九表續	2	十四年	484,066	* 484,066
336	第一表		十四年	104	110
414	第一二表	5	總ヨリ2	090	90
501	第三六表	2	5	5,479	5,476
607	第三表	見出シ中	—	歳出決算	歳入決算
〃	第四表	〃	—	歳入決算	歳出決算
654	第一九表	總ヨリ3	11	8,796	3,796

14,4-181

大阪府統計書

凡例

本書ハ大阪府報告規程ニ依リ郡市役所ヨリノ報告ヲ主トシ、其他應中主務部課ノ調査及他官應諸會社等ヨリ直接蒐集セル資料ニ依リ之ヲ編纂ス。

本編ハ主トシテ大正十四年ノ事實ヲ掲載ス、雖然往々累年ノ計數ヲ例記シ以テ比較研究ニ便セリ。

編中部類ヲ分チテ次ノ二十四門トス卽チ

第一	土地	第九	工業	第一七	社寺
第二	氣象	第一〇	商業	第一八	兵事
第三	人口	第一一	會社及組合	第一九	救濟及褒賞
第四	農業	第一二	金融	第二〇	警察
第五	家畜及家禽	第一三	貯蓄及保險	第二一	衛生
第六	山林	第一四	交通	第二二	議會
第七	殖業	第一五	土功	第二三	財政
第八	漁業	第一六	教育	第二四	官公吏及文書

表中事實ナキ郡市區名ハ之ヲ省略セリ。

表中題目ノ次ニ何年トアルハ曆年間ノ事實、何年度トアルハ其年四月一日ヨリ翌年三月三十一日迄ノ事實、何年何月何日トアルハ其ノ日ノ現在ナリ。

數位ハ概ネ圓、坪、段、石及貫等ノ一位ニ止メ以下ノ小數ハ大抵四捨五入スト雖モ一位以下ノ小數ヲ知ル必要アルモノハ其單位ニ「•」ヲ附シテ掲記ス而シテ「0」ヲ附スルモノハ計數ノ一位ニ滿タサルモノ、事實ナキモノハ「—」ヲ、事實不詳又ハ調査未了ノモノハ「?」ノ符號ヲ附セリ。

編中計數ニシテ往々メートル法又ハ「ヤード、ポンド」法ノ度量衡ニ據ルモノアルヲ以テ尺貫法度量衡トノ比較ヲ示セハ次ノ如シ

「ヤード、ポンド」法

度	碼(ヤード)	三尺一分七五二
	鎖(チエイン)	十一間三寸八四
	哩(マイル)	十四町四十五間八寸三五
	呎(フート)	一尺〇〇五八四
	吋(インチ)	八分三厘八二
量	瓦(ガロン)	二升五合二勺〇一四
衡	封度(ポンド)	百二十匁九六
	噸(トン)	二百七十貫九五〇四
	Oz(オンス)	七匁五六〇〇〇

「メートル」法

度	米(メートル)	三尺三寸
	糎(センチメートル)	三分三厘
	粍(ミリメートル)	三厘三毛
量	立(リツトル)	五合五勺四三五
衡	瓦(グラム)	二分六六六七
	瓩(キログラム)	二百六十六匁六六六七

合　數

哥(グロツス)	百四十四個
打(ダズン)	十二個

大阪府統計書目錄

第一圖　大阪府管内全圖
第二圖　大阪府管内氣象圖
第三圖　一、土地　二、人口ノ疎密
第四圖　一、現住人口　二、郡部人口發達ノ趨勢
第五圖　年齢別配偶關係
第六圖　一、重要物産價額　二、生産物價額
第七圖　一、米收穫高累年比較　二、米收穫高郡市別
第八圖　一、大阪港外國貿易　二、貿易品種別價額　三、國別貿易品價額
第九圖　一、學齢兒童就學及出席歩合　二、學齢兒童就學歩合　三、尋常小學校兒童日々出席歩合
第一〇圖　一、中等程度ノ學校生徒　二、現住人口一人ニ付公學費負擔額
第一一圖　一、死亡千ニ對スル死亡原因　二、人口一萬人ニ付傳染病患者及死亡者
第一二圖　自殺者ノ手段及月別
第一三圖　一、府費決算額　二、郡市町村歳入出決算
第一四圖　一、諸稅　二、現住一戸ノ負擔額

記述

第一　土地 …… 1
第二　人口 …… 2
第三　農業 …… 4
第四　家畜及家禽 …… 23
第五　林業 …… 31
第六　鑛業 …… 36
第七　漁業 …… 36
第八　工業 …… 39
第九　商業 …… 61
第一〇　會社及組合 …… 65
第一一　金融 …… 69
第一二　貯蓄及保險 …… 74
第一三　交通 …… 78
第一四　土功 …… 83
第一五　教育 …… 84
第一六　救濟 …… 98
第一七　警察 …… 108
第一八　衛生 …… 112
第一九　財政 …… 117

統計表

第一　土地

第一表　本府ノ面積及廣袤 …… 1
第二表　山嶽 …… 2
第三表　河川 …… 3
第四表　池沼 …… 4
第五表　公園 …… 4
第六表　郡市區劃 …… 5
第七表　警察區劃 …… 5
第八表　稅務區劃 …… 7
第九表　陸軍管區 …… 8
第一〇表　土地總覽 …… 9
第一一表　官有地 …… 8
第一二表　民有有租地ノ一(累年比較) …… 10
第一三表　民有有租地ノ二(郡市別) …… 13
第一四表　免租地ノ一(累年比較) …… 14
第一五表　免租地ノ二(郡市別) …… 14
第一六表　民有年期地ノ一(累年比較) …… 16
第一七表　民有年期地ノ二(郡市別) …… 16
第一八表　地價最高最低 …… 18
第一九表　土地賣買價格 …… 22
第二〇表　土地賃貸價格 …… 25

第二　氣象

第一表　府立大阪一等測候所 …… 29
第二表　管内氣象觀測所 …… 29
第三表　大阪氣象ノ概況 …… 30
第四表　管内平均氣溫 …… 32
第五表　管内最高氣溫ノ平均及極度 …… 32
第六表　管内最低氣溫ノ平均及極度 …… 33
第七表　管内平均濕度 …… 34
第八表　管内雲量 …… 35
第九表　管内降水總量 …… 35
第一〇表　管内降水最多日量 …… 36
第一一表　管内降水日數 …… 37
第一二表　管内風向觀測回數 …… 38
第一三表　管内霜雪期節 …… 38
第一四表　地震回數(其ノ一) …… 39
第一五表　地震回數(其ノ二) …… 40
第一六表　地震月別 …… 40
第一七表　震源別 …… 40

第三 人口

第一表 體性ニ依リ分チタル本籍人口及現住人口並ニ現住戶數(全管) …… 41
第二表 體性ニ依リ分チタル本籍人口及現住人口並世帶數(全管、郡市別) …… 42
第三表 體性ニ依リ分チタル現住人口並世帶數(市區町村別) …… 43
第四表 管內在留ノ植民地人及外國人(全管) …… 47
第五表 國籍ニ依リ分チタル在留外國人(全管、郡市別) …… 48
第六表 現住人口動態總覽(全管、郡市別) …… 49
第七表 本籍人口動態並現住人口動態總覽比例數 50
第八表 現住者體性及身分ニ依リ分チタル生產 …… 51
第九表 體性及身分ニ依リ分チタル死產(全管、郡市別) …… 52
第一〇表 月ニ依リ分チタル死產(郡市別) …… 52
第一一表 現住者體性及月ニ依リ分チタル生產(郡市別) …… 53
第一二表 現住者ノ體性及月ニ依リ分チタル死亡(全管) …… 55
第一三表 現住者ノ體性及年齡ニ依リ分チタル死亡(全管) …… 56
第一四表 現住者體性及死亡原因ニ依リ分チタル死亡(全管) …… 58

第四 農業

第一表 農家戶數(全管、郡市別) …… 65
第二表 自作小作ニ分チタル農家戶數(全管、郡市別) …… 65
第三表 耕作スル耕地ノ廣狹ニ依リ分チタル農家戶數(全管、郡市別) …… 66
第四表 農事ニ關スル敎育ヲ受ケタル者(全管、郡市別) …… 66
第五表 自作及小作田畑段別(全管、郡市別) …… 67
第六表 一毛作及裏作田段別(全管、郡市別) …… 67
第七表 耕地整理ノ事業完了(全管、施行者別) …… 68
第八表 耕地整理ノ工事完了(全管、施行者別) …… 69
第九表 耕地整理ノ工事中(全管、施行者別) …… 70
第一〇表 產米檢査ノ成績(全管、郡市別) …… 71
第一一表 農產物價額累年比較 …… 72
第一二表 農產物價額郡市別 …… 72
第一三表 米作付段別及收穫高累年比較 …… 73
第一四表 米作付段別及收穫高(郡市別) …… 73
第一五表 米收穫高累年比較 …… 74
第一六表 麥作付段別及收穫高累年比較 …… 75
第一七表 麥收穫高累年比較 …… 75
第一八表 麥作付段別及收穫高(郡市別) …… 76
第一九表 食用園藝農產物總覽 …… 76
第二〇表 工藝農產物總覽 …… 78
第二一表 食用園藝工藝農產物價額累年比較 …… 78
第二二表 1.食用農產物(大豆、小豆、落花生)(全管郡市別) …… 79
第二三表 2.食用農產物(粟、黍、玉蜀黍)(全管郡市別) …… 79
第二四表 3.食用農產物(蕎麥、甘藷、馬鈴薯)(全管、郡市別) …… 80
第二五表 4.食用農產物(蒟蒻芋)(全管、郡市別) …… 80
第二六表 1.園藝農產物果實(梅、桃、枇杷)(全管、郡別) …… 81
第二七表 2.園藝農產物果實(日本梨、西洋梨、苹果)(全管、郡市別) …… 81
第二八表 3.園藝農產物果實(生柿、乾柿、葡萄)(全管、郡市別) …… 82
第二九表 4.園藝農產物果實(蜜柑、ネーブル、オレンヂ、夏橙)(全管、郡別) …… 82
第三〇表 5.園藝農產物果實(其他柑橘類、其他果實)(全管、郡市別) …… 83
第三一表 1.園藝農產物蔬菜及花卉(豌豆、蠶豆、苺)(全管、郡市別) …… 83
第三二表 2.園藝農產物蔬菜及花卉(菜豆、胡瓜、越瓜)(全管、郡市別) …… 84
第三三表 3.園藝農產物蔬菜及花卉(南瓜、西瓜、甜瓜)(全管、郡市別) …… 85
第三四表 4.園藝農產物蔬菜及花卉(茄、蕃茄、花百合)(全管、郡市別) …… 85
第三五表 5.園藝農產物蔬菜及花卉(生蘿蔔、切干蘿蔔、蕪菁)(全管、郡市別) …… 86
第三六表 6.園藝農產物蔬菜及花卉(胡蘿蔔、牛蒡、青芋)(全管、郡市別) …… 86
第三七表 7.園藝農產物蔬菜及花卉(生薑、葱頭、葱)(全管、郡市別) …… 87
第三八表 8.園藝農產物蔬菜及花卉(食用百合、蓮根慈姑)(全管、郡市別) …… 87
第三九表 9.園藝農產物蔬菜及花卉(漬菜、甘藍、蕃椒)(全管、郡市別) …… 88
第四〇表 10.園藝農產物蔬菜及花卉(其ノ他ノ蔬菜)(全管、郡市別) …… 88
第四一表 1.工藝農產物(菜種、胡麻)(全管、郡市別) 89

第四二表 2.工藝農產物(大麻、絲瓜、除虫菊)(全管郡市別) …… 89
第四二表 3.工藝農產物(實綿、杞柳、其ノ他工藝農產物)(全管、郡市別) …… 90
第四四表 春季ニ播種シタル綠肥用作物(全管、郡別) 90
第四五表 秋季ニ播種シタル綠肥用作物(全管、郡市別) …… 91
第四六表 桑畑(全管、郡別) …… 91
第四七表 茶畑(全管、郡市別) …… 92
第四八表 果樹苗(全管、郡別) …… 92
第四九表 造林用苗木(全管、郡別) …… 93
第五〇表 觀賞樹(全管、郡別) …… 94
第五一表 桑苗(全管、郡別)自每年七月至翌年六月 …… 97
第五二表 繭產額(全管、郡別) …… 98
第五三表 春蠶(全管、郡別) …… 98
第五四表 夏秋蠶(全管、郡別) …… 99
第五五表 蠶絲(全管、郡市別) …… 100

第五 家畜及家禽

第一表 畜產物價額累年比較 …… 101
第二表 畜產物價額郡市別 …… 101
第三表 家畜家禽飼養戶數(全管、郡市別) …… 102
第四表 家畜頭數累年比較 …… 102
第五表 牛(全管、郡市別) …… 103
第六表 馬(全管、郡市別) …… 104
第七表 豚(全管、郡市別) …… 106
第八表 綿羊(全管、郡別) …… 107
第九表 山羊(全管、郡市別) …… 107
第一〇表 成牛ノ屠殺(全管、郡市別) …… 108
第一一表 犢ノ屠殺(全管、郡市別) …… 108
第一二表 馬ノ屠殺(全管、郡市別) …… 109
第一三表 豚ノ屠殺(全管、郡市別) …… 109
第一四表 山羊ノ屠殺(全管、郡市別) …… 110
第一五表 牛乳(全管、郡市別) …… 110
第一六表 家畜市場(全管、郡市別) …… 111
第一七表 種牡牛現在頭數(全管、郡市別) …… 112
第一八表 鷄現在數(全管、郡市別) …… 112
第一九表 鶩現在數(全管、郡市別) …… 113
第二〇表 七面鳥現在數(全管、郡別) …… 113

第六 山林

第一表 林產物價額累年比較 …… 115
第二表 林產物價額郡別 …… 115
第三表 國有林野箇所及面積(全管、郡別) …… 116
第四表 著名國有林ノ面積及立木 …… 116
第五表 國有林新植及補植(全管、地方別) …… 116
第六表 國有林產物賣却主產物(全管、郡別) …… 116
第七表 國有林貸地(全管、郡別) …… 117
第八表 民有林野面積 …… 117
第九表 保安林箇所面積種類別(全管、種類別) …… 121
第一〇表 保安林編入解除箇所面積 …… 121
第一一表 學校林 …… 122
第一二表 民有林野開墾(全管、種類別) …… 122
第一三表 民有林野人工造林新植(全管、樹種、郡別) 123
第一四表 民有林野人工造林補植(全管、樹種、郡別) 126
第一五表 民有林野天然造林面積(下種、萠芽)(全管、郡別 …… 127
第一六表 民有林野被害(火災ヲ除ク) …… 127
第一七表 民有林用材伐採(全管、樹種、郡別) …… 128
第一八表 民有林薪炭材伐採(全管、郡別) …… 129
第一九表 民有林竹材伐採(全管、種類別) …… 130
第二〇表 林野產物總覽 …… 131
第二一表 林野產物(五倍子、松茸、椎茸) …… 131
第二二表 林野產物(造林用種子) …… 131
第二三表 林野產物(樹實樹皮) …… 132
第二四表 林野產物(樹葉、柴草、蔓及莖葉) …… 133
第二五表 林野產物(木炭) …… 133

第七 鑛業

第一表 採鑛高及鑛石價格累年比較 …… 135
第二表 採掘鑛區箇所別 …… 135
第三表 試掘鑛區箇所別 …… 136
第四表 石材(全管、郡市別) …… 137
第五表 有用土石及鑛水 …… 138

第八 漁業

第一表 水產物價額累年比較 …… 139
第二表 水產物價額郡市別 …… 139
第三表 漁獲物總覽 …… 140
第四表 漁獲物(全管、郡市別) …… 140
第五表 水產製造物(全管、郡市別) …… 144
第六表 水產養殖總覽 …… 146
第七表 水產養殖(全管、郡市別) …… 146
第八表 水產業者(全管、郡市別) …… 148
第九表 漁船(全管、郡市別) …… 150
第一〇表 難波漁船(全管、種類別) …… 151

第九 工業

第一表 工業總覽(全管、郡市別) …… 153
第二表 工產物價額總覽(全管、郡市別) …… 155
第三表 工產物價額種類別 …… 155

第四表 染織工業(全管、郡市別) …… 157
第五表 綿絲紡績(全管、工場別) …… 158
第六表 綿絲紡績生産額(全管、工場別) …… 162
第七表 麻絲紡績(全管、工場別) …… 164
第八表 絹絲紡績(全管、工場別) …… 165
第九表 製綿組紐編物(全管、郡市別) …… 165
第一〇表 織物價額累年比較 …… 166
第一一表 綿織物(機業戸數、機臺數、職工)(全管、郡市別) …… 166
第一二表 織物價額(全管、郡市別) …… 167
第一三表 絹及絹綿交織物(機業戸數、機臺數、職工)(全管、郡市別) …… 168
第一四表 麻及其ノ交織物(機業戸數、機臺數、職工)(全管、郡別) …… 168
第一五表 毛及其ノ交織物(機業戸數、機臺數、職工)(全管、郡市別) …… 168
第一六表 特殊織物(機業戸數、機臺數、職工)(全管郡市別) …… 170
第一七表 絹及絹綿交織物(全管、郡市別) …… 170
第一八表 綿織物(全管、郡市別) …… 171
第一九表 麻及其交織物(全管、郡別) …… 173
第二〇表 毛及其交織物(全管、郡市別) …… 174
第二一表 特殊織物(全管、郡市別) …… 174
第二二表 撚絲(全管、郡市別) …… 175
第二三表 賃付洗張製平、西洋洗濯(全管、郡市別) 176
第二四表 晒及染物(全管、郡市別) …… 176
第二五表 莫大小(全管、郡市別) …… 180
第二六表 ドロンウオーク及メテンレース、手巾(全管、郡市別) …… 183
第二七表 カタン絲其ノ他(全管、郡市別) …… 184
第二八表 機械及器具工業(全管、郡市別) …… 184
第二九表 銅器、青銅器及眞鍮(全管、郡市別) …… 185
第三〇表 製鐵鑄釜、鐵葉類、弘物類(全管、郡市別) …… 185
第三一表 アンチモニー製品、アルミニューム製品(全管、郡市別) …… 186
第三二表 金屬製品(全管、郡市別) …… 186
第三三表 車輛製造(全管、郡市別) …… 188
第三四表 船舶製造(全管、郡市別) …… 189
第三五表 被覆電線 …… 190
第三六表 時計(全管、郡別) …… 190
第三七表 化學工業(全管、郡市別) …… 191
第三八表 七寶(全管、郡市別) …… 191
第三九表 陶磁器 …… 192
第四〇表 硝子製品(全管、郡市別) …… 192
第四一表 セメント、コークス(全管、郡市別) …… 193
第四二表 煉瓦、瓦、土管(全管、郡市別) …… 194
第四三表 和紙(全管、郡市別) …… 195
第四四表 西洋紙(全管工場別) …… 196
第四五表 漆液(全管、郡市別) …… 196
第四六表 漆器(全管、市別) …… 196
第四七表 製革(全管、郡市別) …… 198
第四八表 燐寸(全管、郡市別) …… 199
第四九表 油類(全管、郡市別) …… 199
第五〇表 工業用藥品(全管、郡市別) …… 200
第五一表 醫療藥品賣藥(全管、郡市別) …… 203
第五二表 セルロイド製品、護謨製品(全管、郡市別) 204
第五三表 化粧品(全管、郡市別) …… 204
第五四表 石鹸(全管、郡市別) …… 205
第五五表 蠟燭(全管、郡市別) …… 205
第五六表 薫物及線香、琺瑯鐵器(全管、郡市別) 205
第五七表 製藍(全管、郡市別) …… 206
第五八表 塗料及顔料、染料(全管、郡市別) …… 207
第五九表 インキ、化學工業其ノ他(全管、郡市別) …… 206
第六〇表 肥料分類別輸入販賣額(全管、郡市別) …… 206
第六一表 肥料分類別製造販賣(全管、郡市別) …… 208
第六二表 肥料分類別製造販賣(全管、郡市別) …… 208
第六三表 飲食物工業(全管、郡市別) …… 210
第六四表 清酒、白酒、味淋、燒酎(全管、郡市別) …… 210
第六五表 酒精、酒精含有飲料(全管、郡市別) …… 211
第六六表 麥酒(總數、工場別) …… 211
第六七表 醤油(全管、郡市別) …… 212
第六八表 味噌(全管、郡市別) …… 212
第六九表 煙草(總數、郡別) …… 213
第七〇表 砂糖(全管、郡市別) …… 214
第七一表 寒天(全管、郡別) …… 215
第七二表 各種飲食物(全管、郡市別) …… 215
第七三表 穀粉(全管、郡市別) …… 217
第七四表 澱粉(全管、郡市別) …… 219
第七五表 罐詰(全管、郡市別) …… 220
第七六表 製茶(全管、郡市別) …… 221
第七七表 乳肉製品(全管、郡市別) …… 221
第七八表 漬物(全管、郡市別) …… 222
第七九表 麪類(全管、郡市別) …… 223
第八〇表 雜工業(全管、郡市別) …… 223
第八一表 文具、製本印刷(全管、市別) …… 224
第八二表 紙製品、表裝類(全管、郡市別) …… 224
第八三表 木製品(全管、郡市別) …… 225
第八四表 棕櫚製品(全管、郡市別) …… 226
第八五表 莚及其他敷物、藤製品(全管、郡市別) …… 227

第八六表 履物及其部分品(全管、郡市別) …… 228
第八七表 傘及提灯、扇子及團扇(全管、郡市別) …… 229
第八八表 帽子(全管、郡市別) …… 230
第八九表 刷子及刷毛(全管、郡市別) …… 231
第九〇表 釦(全管、郡市別) …… 232
第九一表 竹製品(全管、郡市別) …… 232
第九二表 籠類、杞柳製品(全管、郡市別) …… 233
第九三表 玩具、樂器類(全管、郡市別) …… 233
第九四表 洋服、足袋(全管、郡市別) …… 234
第九五表 袋物、靴鞄(全管、郡市別) …… 234
第九六表 皮革製品(全管、郡市別) …… 235
第九七表 防水布及合羽、擬革アツククロース(全管、郡市別) …… 236
第九八表 洋傘(全管、郡市別) …… 236
第九九表 藁製品(全管、郡市別) …… 236
第一〇〇表 石材及細工品彫刻(全管、郡市別) …… 238
第一〇一表 炭團、雜具(全管、郡市別) …… 238
第一〇二表 石綿及其加工品、其ノ他(全管、郡市別) …… 239
第一〇三表 度量衡器及計量器ノ檢定數及檢定料 …… 239
第一〇四表 度量衡器及計量器檢定成績 …… 240
第一〇五表 度量衡器及計量器製作者、修覆者、販賣者數 …… 240
第一〇六表 度量衡器及計量器製作者ニ於ケル製作高及販賣高 …… 240
第一〇七表 電氣會社 …… 241
第一〇八表 瓦斯會社 …… 242
第一〇九表 金屬精煉(全管、市別) …… 243
第一一〇表 工場數覧(全管、郡市別) …… 244
第一一一表 工場種類大別 …… 244
第一一二表 工場種類細別 …… 247
第一一三表 官立工場(總數、工場別) …… 259
第一一四表 大阪市諸傭賃銭 …… 259
第一一五表 堺市諸傭賃銭 …… 262
第一一六表 石炭消費高(全管、郡市別) …… 263

第一〇 商業

第一表 大阪商業會議所 …… 265
第二表 取引所 …… 265
第三表 大阪堂島米穀取引所賣買高及相場(總數、月別) …… 266
第四表 大阪株式取引所賣買高及受渡高(總數、月別) …… 268
第五表 大阪株式取引所諸證券長期取引賣買高及受渡高) …… 267
第六表 大阪株式取引所主要株式相場(先物相場) …… 271
第七表 大阪三品取引所賣買高及受渡高(總數、月別) …… 273
第八表 大阪三品取引所賣買相場(總數、月別) …… 273
第九表 大阪砂糖取引所賣買高及受渡高(總數、月別) …… 274
第一〇表 大阪砂糖取引所賣買相場(總數、月別) …… 274
第一一表 大阪港貿易品價額累年比較 …… 275
第一二表 大阪港外國貿易品國別價額 …… 276
第一三表 大阪港外國貿易輸出品別 …… 277
第一四表 大阪港外國貿易輸入品別 …… 280
第一五表 海陸出貨品種別(總數、種別) …… 284
第一六表 海陸入貨品種別(總數、種別) …… 288
第一七表 大阪港出貨品種別(總數、種別) …… 291
第一八表 大阪港入貨品種別(總數、種別) …… 295
第一九表 倉庫及上屋 …… 298
第二〇表 大阪市日用品小賣相場 …… 299
第二一表 堺市重要物品相場 …… 302
第二二表 諸市場(全管、郡市別) …… 305
第二三表 商業興信所回報件數及日報件數(總數、所別) …… 306

第一一 會社及組合

第一表 會社資本別(全管、郡市別) …… 307
第二表 會社事業別(全管、郡市別) …… 318
第三表 會社種類別 …… 328
第四表 會社支店事業別(全管、郡市別) …… 332
第五表 諸組合(全管、郡市別) …… 332
第六表 産業組合(全管、郡市別) …… 334

第一二 金融

第一表 銀行總覧(總數、銀行別) …… 336
第二表 普通銀行組織別(全管、郡市別) …… 338
第三表 貯蓄銀行(全管、郡市別) …… 340
第四表 預金銀行別(全管、郡市別) …… 346
第五表 普通銀行預金(全管、郡市別) …… 348
第六表 貯蓄預金(全管、郡市別) …… 350
第七表 貯蓄預金職業別(全管、郡市別) …… 352
第八表 貸付金銀行別(全管、郡市別) …… 358
第九表 普通銀行貸付金(全管、郡市別) …… 358
第一〇表 貯蓄銀行貸付金(全管、郡市別) …… 360
第一一表 内國爲替(銀行別) …… 362
第一二表 普通銀行内國爲替(全管、郡市別) …… 364
第一三表 外國爲替(全管、郡市別) …… 366
第一四表 普通銀行外國爲替金(全管、市別) …… 366
第一五表 日本銀行大阪支店預金及貸出金別 …… 368

第一六表 農行銀行貸付者別 …… 368
第一七表 手形交換高日數及枚數金額(總數、月別)… 369
第一八表 手形交換高組合銀行枚數金額(總數、月別) 369
第一九表 不渡手形 …… 371
第二〇表 不渡手形月別 …… 372
第二一表 郵便爲替 …… 372
第二二表 質屋ノ貸金 …… 373
第二三表 土地建物船舶賣買抵當權登記(全管、郡市別) …… 374

第一三 貯蓄及保險

第一表 郵便貯金預入及拂戻(總數、月別) …… 377
第二表 郵便貯金者職業別累年比較 …… 377
第三表 郵便貯金現在高郡市別 …… 378
第四表 郵便貯金現在高局所別 …… 379
第五表 生命保險(總數、會社別) …… 387
第六表 火災保險(總數、會社別) …… 388
第七表 機關汽罐保險(總數、種別) …… 391
第八表 傷害保險(總數、種別) …… 391

第一四 交 通

第一表 國 道 …… 393
第二表 府 道 …… 393
第三表 里 道(全管、郡市別) …… 401
第四表 橋 梁(種類別) …… 402
第五表 鐵道哩數 …… 404
第六表 東海道線旅客及貨物(總數、驛別) …… 406
第七表 關西線旅客及貨物(總數、驛別) …… 407
第八表 南海鐵道旅客及貨物(總數、驛別) …… 409
第九表 大阪鐵道旅客及貨物(總數、驛別) …… 411
第一〇表 新京阪鐵道旅客及貨物 總數、驛別) … 412
第一一表 東海道線旅客竝貨物收入(總數、驛別) … 413
第一二表 關西線旅客竝貨物收入(總數、驛別) … 414
第一三表 南海鐵道旅客竝貨物收入(總數、驛別) … 415
第一四表 大阪鐵道旅客竝貨物收入(總數、驛別) … 418
第一五表 新京阪鐵道旅客竝貨物收入(總數、驛別)… 419
第一六表 電氣鐵道(總數、經營者別) …… 419
第一七表 電氣鐵道線路(總數、經營者別) …… 420
第一八表 電氣鐵道建設費(總數、經營者別) …… 422
第一九表 電氣鐵道車輛及運轉從業者(總數、經營者別) …… 423
第二〇表 電氣鐵道營業成績 總數、經營者別) … 423
第二一表 電氣鐵道收入(總數、經營者別) …… 424
第二二表 電氣鐵道支出(總數、經營者別) …… 425
第二三表 電氣鐵道事故(總數、經營者別) …… 426
第二四表 驛車(全管、郡市別) …… 426
第二五表 港 灣 …… 426
第二六表 燈 臺 …… 427
第二七表 汽船(全管、郡市別) …… 427
第二八表 帆船噸數船(全管、郡市別) …… 428
第二九表 帆船石數船(全管、郡市別) …… 428
第三〇表 小船(全管、郡市別) …… 429
第三一表 入港船舶累年比較 …… 429
第三二表 入港船舶 …… 430
第三三表 汽船嵌客 …… 430
第三四表 郵便局數(總數、郡市別) …… 430
第三五表 郵便線路里程 …… 431
第三六表 引受通常郵便物(總數、郡市別) …… 431
第三七表 配達通常郵便物(總數、郡市別) …… 432
第三八表 引受小包郵便物(總數、郡市別) …… 432
第三九表 配達小包郵便物(總數、郡市別) …… 433
第四〇表 電信取扱局數(總數、郡市別) …… 433
第四一表 電信線路及電柱 …… 433
第四二表 發信電報通數及料金(總數、郡市別) …… 434
第四三表 着信電報通數及中繼(信總數、郡市別)… 434
第四四表 電話取扱局數(總數、郡市別)…… 434
第四五表 電話線路及電柱 …… 435
第四六表 電話加入者、加入申込者及通話數(總數、郡市別 …… 435

第一五 土 功

第一表 土木費決算(全管、費用別) …… 437
第二表 工事別土木費決算(全管、費用別) …… 437
第三表 異音員數 …… 438
第四表 災害損失價額 …… 439
第五表 道路坪數及延長(全管、郡市別) …… 439
第六表 府道新築改築 …… 440
第七表 里道新築改築 …… 440
第八表 道路新築改築及修繕費(全管、郡市別)… 441
第九表 橋梁箇數及坪數(全管、郡市別) …… 442
第一〇表 橋梁架設 …… 442
第一一表 橋梁修繕 …… 443
第一二表 橋梁架設及修繕費(全管、郡市別) …… 444
第一三表 新設者大橋梁 …… 444
第一四表 河川堤防ノ築造及修繕費 …… 445
第一五表 溜池及水路(全管、郡市別) …… 447
第一六表 溜池及水路新設竝修(繕全管、郡市別)… 447
第一七表 用惡水路新築改築及修繕費(全管、郡市別) 448
第一八表 港灣築造及修繕 …… 449
第一九表 上水道 …… 449
第二〇表 上水道栓數及給水戸數 …… 449
第二一表 上水道給水量及水料 …… 449

第二二表 大阪市下水道 …… 450

第一六 教 育

第一表 學校總覽 …… 451
第二表 人口及學齡兒童 …… 453
第三表 學齡兒童 …… 454
第四表 不就學齡兒童(其一就學猶豫者) …… 454
第五表 丈就學齡兒童(其二就學免除者) …… 456
第六表 學齡兒童中盲者聾唖者 …… 456
第七表 小學校種別 …… 458
第八表 學級別市町村小學校(各上關ハ等當下ハ高等 …… 460
第九表 學級別市町村小學校(各上關ハ等當下ハ高等 …… 462
第一〇表 學級別私立小學校(各上關ハ等當下ハ等當高等) …… 464
第一一表 小學校學級 …… 465
第一二表 補習科ヲ設ケル小學校及其學級 …… 465
第一三表 小學校正教員 …… 466
第一四表 小學校專科正教員 …… 468
第一五表 小學校准教員及代用教員 …… 470
第一六表 小學校教員全數 …… 472
第一七表 小學校等當科兒童 …… 474
第一八表 小學校等當科兒童學年別 …… 476
第一九表 小學校高等科兒童 …… 476
第二〇表 小學校高等科兒童學年別 …… 478
第二一表 小學校兒童男女比例 …… 480
第二二表 小學校兒童日々出席平均數 …… 480
第二三表 小學校兒童日々缺席平均數 …… 482
第二四表 小學校等當科卒業者 …… 482
第二五表 小學校高等科卒業者 …… 484
第二六表 小學校入學兒童 …… 486
第二七表 二部教授施行ノ小學校 …… 486
第二八表 加設科目ヲ課スル小學校 …… 488
第二九表 市町村立小學校教員俸給別 …… 490
第三〇表 市町村立小學校教員俸給別(等當小學校ノ教授ニ從事スル本科正教員) …… 492
第三一表 市町村立小學校教員俸給別(高等小學校ノ教授ニ從事スル本科正教員) …… 494
第三二表 市町村立小學校教員俸給別(等當小學校ノ教授ニ從事スル專科正教員) …… 496
第三三表 市町村立小學校教員俸給別(高等小學校ノ教授ニ從事スル專科正教員) …… 496
第三四表 市町村立小學校教員俸給別(准教員) … 498
第三五表 市町村立小學校教員俸給別(代用教員)… 500
第三六表 市町村立小學校教員住宅 …… 500
第三七表 授業料ヲ徴收スル市町村立小學校 …… 502
第三八表 師範學校(其一學校數、學級數、教員數及生徒數 …… 504
第三九表 師範學校(其二生徒組別) …… 504
第四〇表 師範學校(其三卒業者) …… 506
第四一表 師範學校(其四入學志願者) …… 506
第四二表 師範學校(其五入學者) …… 508
第四三表 師範學校(其六入學者從前ノ教育) …… 508
第四四表 師範學校(其七入學者入學時ノ年齡) … 508
第四五表 師範學校(其八退學者) …… 510
第四六表 師範學校(其九教員ノ有資格無資格比例、生徒ニ對スル卒業生及退學者) …… 510
第四七表 中學校(其一學校數學級數教員數生徒數) 512
第四八表 中學校(其二生徒學年別卒業者) …… 514
第四九表 中學校(其三卒業者) …… 514
第五〇表 中學校(其四入學志願者及入學者) …… 515
第五一表 中學校(其五入學者ノ從前ノ發育及入學時ノ年齡) …… 516
第五二表 中學校(其六退學者) …… 517
第五三表 中學校(其七教員ノ有資格無資格比例、生徒ニ對スル卒業者及退學者ノ比例) … 518
第五四表 高等女學校(其一學校數學級數及教員數) 519
第五五表 高等女學校(其二生徒數) …… 520
第五六表 高等女學校(其三生徒學年別) …… 521
第五七表 高等女學校(其四卒業者) …… 522
第五八表 高等女學校(其五入學志願者) …… 523
第五九表 高等女學校(其六入學者) …… 524
第六〇表 高等女學校(其七本科入學者ノ從前ノ教育及入學當時ノ年齡) …… 525
第六一表 高等女學校(其八退學者) …… 526
第六二表 高等女學校(其九教員有資無資格比例、生徒ニ對スル卒業者及退學者比例) …… 527
第六三表 官立大阪高等學校職員 …… 528
第六四表 官立大阪高等學校生徒 …… 528
第六五表 官立大阪外國語學校職員 …… 528
第六六表 官立大阪外國語學校生徒(總數、種別)… 529
第六七表 官立大阪高等工業學校職員 …… 529
第六八表 官立大阪高等工業學校生徒(總數、種別) 530
第六九表 大阪醫科大學職員 …… 530
第七〇表 大阪醫科大學生及生徒 …… 531
第七一表 大阪醫科大學學生生徒年齡別 …… 531

第七二表 大阪醫科大學入學志願者及入學者 …… 531
第七三表 大阪醫科大學豫科入學者ノ年齡 …… 532
第七四表 大阪醫科大學學年試驗成績 …… 532
第七五表 大阪醫科大學卒業者ノ年齡 …… 532
第七六表 大阪醫科大學中途退學者死亡者事故及學年別 …… 533
第七七表 大阪醫科大學卒業者ノ狀況 …… 533
第七八表 大阪醫科大學職員俸給額 …… 534
第七九表 大阪醫科大學豫科職員俸給額 …… 534
第八〇表 大阪醫科大學病院職員 …… 534
第八一表 大阪醫科大學附屬看護婦養成所 …… 535
第八二表 市立大阪高等商業學校職員 …… 535
第八三表 市立大阪高等商業學校學級及生徒 …… 536
第八四表 市立大阪高等商業學校生徒年齡 …… 536
第八五表 市立大阪高等商業學校本科入學志願者從前ノ教育 …… 536
第八六表 市立大阪高等商業學校本科入學者ノ年齡 …… 537
第八七表 市立大阪高等商業學校本科卒業者ノ年齡 …… 537
第八八表 市立大阪高等商業學校生徒中途退學及死亡(總數、病類別) …… 537
第八八表 市立大阪高等商業學校生徒學年試驗成績 …… 538
第八九表 市立大阪高等商業學校ノ狀況 …… 538
第九〇表 市立大阪高等商業學校職員俸給額 …… 538
第九一表 府立女子專門學校職員 …… 539
第九二府 立女子專門學校學級及生徒 …… 593
第九三表 府立安子專門學校豫科生徒年齡別 …… 593
第九四表 市立女子專門學校豫科入學志願者從前ノ教育 …… 539
第九五表 府立女子專門學校豫科入學者ノ年齡 … 540
第九六表 府立女子專門學校生徒中途退學及死亡 … 540
第九七表 府立女子專門學校教員俸給額 …… 540
第九八表 關西大學職員 …… 541
第九九表 關西大學生徒學年別 …… 541
第一〇〇表 關西大學生徒年齡別 …… 543
第一〇一表 關西大學入學志願者及入學者從前ノ教育 …… 545
第一〇二表 關西大學入學者年齡別 …… 546
第一〇三表 關西大學入學者年齡別(續) …… 547
第一〇四表 關西大學學年試驗成績 …… 547
第一〇五表 關西大學中途退學者 …… 549
第一〇六表 關西大學卒業者 …… 549
第一〇七表 關西大學卒業者年齡別 …… 550
第一〇八表 關西大學卒業者卒業後ノ狀況 …… 552
第一〇九表 私立日本大學專門學校 …… 552
第一一〇表 私立大阪歯科醫學專門學校 …… 552
第一一一表 私立大阪醫學專門學校 …… 553
第一一二表 私立梅花女子專門學校 …… 553
第一一三表 私立帝國女子藥學專門學校 …… 553
第一一四表 實業學校甲(公立ノ部)(全管、學校別)… 554
第一一五表 實業學校甲(公立ノ部) …… 554
第一一六表 實業學校甲(公立ノ部) …… 556
第一一七表 實業學校甲(私立ノ部) …… 556
第一一八表 實業學校甲(私立ノ部) …… 558
第一一九表 實業學校甲(私立ノ部) …… 558
第一二〇表 實業學校乙 …… 560
第一二一表 實業學校乙(續) …… 560
第一二二表 實業學校乙 …… 562
第一二三表 實業補習學校 …… 562
第一二四表 公私立各種學校 …… 564
第一二五表 幼稚園(全管、郡市別) …… 566
第一二六表 幼稚園(全管、郡市別) …… 566
第一二七表 盲聾唖學校(全管、學校別) …… 568
第一二八表 盲聾唖學校(全管、學校別) …… 568
第一二九表 圖書館(全管、館別) …… 570
第一三〇表 市町村立小學校醫 …… 570
第一三一表 小學校教員檢定(總數、教員別) …… 571
第一三二表 小學校教員無試驗定規年比較 …… 571
第一三三表 小學教員試驗檢定累年比較 …… 572
第一三四表 公學費 …… 573
第一三四表 公學費歲入總數學校別 …… 574
第一三五表 公學費歲出(總數、學校別) …… 576
第一三六表 市町村立尋常小學校歲入(全管、郡市別) …… 582
第一三七表 市町村立尋常小學校歲出(全管、郡市別) …… 582
第一三八表 市町村立尋常高等小學校歲入(全管、郡市別) …… 584

第一四〇表 市町村立尋常高等小學校歲出(全管、郡市別) …… 584
第一四一表 市町村立高等小學校歲入(續) …… 586
第一四二表 市町村立高等小學校歲出(總數、郡市別) 586
第一四三表 市町村立幼稚園歲入(總數、郡市別)…… 587
第一四四表 市町村立幼稚園歲出(總數、郡市別)…… 588
第一四五表 公學資產 …… 588
第一四六表 公學資產土地建物(總數、學校別) …… 589
第一四七表 公學資產價額(總數、學校別) …… 591
第一四八表 學校基本財產及積立金(三月三十一日現在) 593
第一四九表 市町村立尋常小學校資產土地建物(全管郡市別) …… 594
第一五〇表 市町村立尋常小學校基本財產及積立金(全管、郡市別) …… 595
第一五一表 市町村立尋常高等小學校資產土地建物(全管、郡市別) …… 596
第一五二表 市町村立尋常高等小學校資產價額(全管、郡市別) …… 597
第一五三表 市町村立尋常小學校基本財產及積立金(全管、郡市別 …… 597
第一五四表 市町村立高等小學校資產土地建物(全管、郡市別) …… 598
第一五五表 市町村立高等小學校資產價額(全管、郡市別 …… 599
第一五六表 市町村立高等小學校基本財產及積立金(全管、郡市別 …… 599
第一五七表 市町村立幼稚園資產(全管、郡市別) … 600
第一五八表 教育資產 …… 600
第一五九表 市町村立小學校教員加俸費金收入 …… 601
第一六〇表 市町村立小學校教員年功加俸(全管、郡市別) …… 601
第一六一表 市町村立小學校教員特別加俸(全管、郡市別) …… 602
第一六二表 市町村立小學校教員國庫補助法第六條ニ依ル加俸 …… 602
第一六三表 市町村立小學校公立實業補習學校教員公立幼稚園保姆恩給基金積金收入 …… 602
第一六四表 師範學校長訓導加俸及公立學校職員年功加俸(總數、種別) …… 603

第一七 社 寺

第一表 神社及神職(全管、郡市別) …… 605
第二表 著名ノ神社 …… 605
第三表 官幣社歲入決算(總數、神社別) …… 607
第四表 官幣社歲出決算(總數、神社別) …… 607
第五表 府社歲入決算(總數、神社別) …… 609
第六表 府社歲出決算(總數、神社別) …… 609
第七表 寺院及住職(全管、郡市別) …… 608
第八表 著名ノ寺院 …… 610
第九表 佛道教會所設教所及擔任教師(全管、郡市別) …… 611
第一〇表 佛道教會所設教所及擔任教師(全管、郡市別) …… 612
第一一表 基督教會所及布教師(全管、郡市別) … 614
第一二表 特別保護建造物(全管、郡市別) …… 615
第一三表 國寶 (全管、郡市別) …… 615

第一八 兵 事

第一表 壯丁體格檢查成績(全管、郡市別) …… 617
第二表 壯丁教育程度(全管、郡市別) …… 617
第三表 海軍志願兵 全管、郡市別) …… 618

第一九 救濟及褒賞

第一表 救助人員總數(恤救其一)(全管、郡市別)… 619
第二表 年末現在救助人員及救助費額 (恤救其二)(全管、郡市別) …… 620
第三表 棄兒養育 全管、郡市別) …… 620
第四表 行旅病人及行旅死亡人(全管、郡市別) … 622
第五表 市町村長ノ監護スル精神病者 …… 622
第六表 監獄所在資產經費等(感化院其一) …… 624
第七表 入院退院及年末現在人員(感化院其二) … 624
第八表 年末現在員ノ身分竝ニ收容當時保護者トノ關係及收容當時ノ年齡(感化院其三) … 626
第九表 改悛退院者ノ在院期間及其退院後方途(感化院其四) …… 626
第一〇表 義捐ノ美擧(全管、郡市別) …… 628
第一一表 救濟事業總覽 …… 628
第一二表 幼兒保育事業(總數、箇所別) …… 633
第一三表 婦人保護事業(總數、箇所別) …… 635
第一四表 盲兒事業(箇所別) …… 636
第一五表 乳兒哺育事業(總數、箇所別) …… 642
第一六表 貧兒教育事業(總數、箇所別) …… 644
第一七表 異常兒教育事業(總數、箇所別) …… 650
第一八表 盲唖教育事業 …… 651
第一九表 職業紹介事業(總數、箇所別) …… 654
第二〇表 宿泊救護事業(總數、箇所別) …… 669
第二一表 養老事業(總數、箇所別) …… 670
第二二表 施藥救療事業(總數、箇所別) …… 675

第二三表 授產事業(總數、箇所別) …… 678
第二四表 婦救者保護事業(總數、箇所別) …… 680
第二五表 産院(總數、箇所別) …… 682
第二六表 窮民救助事業(總數、箇所別) …… 684
第二七表 救濟事業費(總數、箇所別) …… 685
第二八表 救濟事業費(總數、箇所別) …… 686
第二九表 救濟事業費(總數、箇所別) …… 686
第三〇表 救濟事業費(總數、箇所別) …… 687
第三一表 救濟事業費 …… 688
第三二表 日本赤十字社大阪支部社員及年醵金(全管、郡市別) …… 693
第三三表 日本赤十字社大阪支部病院ノ概況 …… 694
第三四表 日本赤十字社大阪支部病院ノ概況(總數支部別) …… 694
第三五表 愛國婦人會大阪支部(全管、郡市別) … 695
第三六表 褒賞(總數、種類別) …… 696

第二〇 警 察

第一表 警察職員 …… 699
第三表 巡査勤續年數(總數、年數別) …… 702
第四表 巡査退隱料遺族扶助料及賜給與(總數種類別) …… 704
第五表 警察上ノ賞與(總數、種別) …… 705
第六表 警察上ノ死傷(總數、事故別) …… 705
第七表 警察署別取締營業及其他 …… 706
第八表 花街狀況(總數、廓別) …… 708
第九表 諸與行日數(總數、署別) …… 709
第一〇表 取締請工場 …… 711
第一一表 投宿人員(總數、署別) …… 711
第一二表 新聞雜誌(總數、種別) …… 712
第一三表 集會(總數、種別) …… 712
第一四表 行政執行ニ依ル處分人員(總數、署別) … 712
第一五表 留置場入場人員(總數、署別) …… 714
第一六表 許可及成績許可數(總數、署別) …… 715
第一七表 監置精神病者(總數、種別) …… 717
第一八表 棄兒(總數、年齡別) …… 718
第一九表 變死(總數、署別) …… 718
第二〇表 自殺(總數、手段別) …… 721
第二一表 自殺者ノ年齡及因由(總數、因由別) …… 722
第二二表 遺失拾得及賍物置物品處分(全管、署別)… 723
第二三表 難波船遭難場所(總數、月別) …… 725
第二四表 難波船損害程度(總數、月別) …… 725
第二五表 火災(總數、署別) …… 726
第二六表 火災月別 …… 727
第二七表 火災原因(總數、月別) …… 729
第二八表 消防職員(總數、類署別) …… 728
第二九表 消防器具(總數、署別) …… 729
第三〇表 消防組員(總數、署別) …… 731
第三一表 强盜竊盜詐欺被害(總數、署別) …… 732
第三二表 强盜竊盜詐欺被害件數月別 …… 733
第三三表 强盜竊盜詐欺被害價額(總數、署別) … 734
第三四表 强盜竊盜詐欺恐嚇横領檢擧件數(總數、署別) …… 736
第三五表 强盜竊盜詐欺被害及檢擧累年比較 …… 737
第三六表 犯罪檢擧(總數、署別) …… 738
第三七表 檢擧犯罪人及警察犯處罰令請犯則人員(總數署別) …… 740
第三八表 惡戲事件(總數、署別) …… 744
第三九表 警察署務 …… 746

第二一 衛 生

第一表 現住者死亡體性原因別比例 …… 749
第二表 體性及原因ニ依リ分チタル死亡者(總數、月別) …… 750
第三表 體性及原因ニ依リ分チタル死亡者年齡別 754
第四表 體性及原因ニ依リ分チタル死亡者郡市別 758
第五表 傳染病患者及死亡(全管、郡市別) …… 764
第六表 傳染病患者及死亡者比例(全管、郡市別) 766
第七表 傳染病患者及死亡者月別 …… 766
第八表 傳染病死亡者年齡別 …… 768
第九表 死體檢案成績(總數、種別) …… 769
第一〇表 第一乳種痘(全管、郡市別) …… 769
第一一表 第二乳種痘(全管、郡市別) …… 770
第一二表 細菌檢査月別 …… 771
第一三表 除虱(總數、月別) …… 772
第一四表 船上船舶健康診斷及檢疫月別 …… 773
第一五表 公立病院 …… 773
第一六表 私立病院 …… 774
第一七表 公立施療病院 …… 774
第一八表 私立病院(全管、郡市別) …… 774
第一九表 傳染病院及隔離病舍 …… 775
第二〇表 醫師(全管、郡市別) …… 776
第二一表 齒科醫(全管、郡市別) …… 776
第二二表 藥舗師(全管、郡市別) …… 777
第二三表 産婆看護婦(全管、郡市別) …… 778
第二四表 入齒齒拔口中療治接骨水蛭吸角業(全管、郡市別) …… 779
第二五表 鍼灸、按摩營業者(總數、種別) …… 779
第二六表 賣藥商製藥者賣藥及同規則外製賣者(全管、郡市別) …… 780
第二七表 指定藥品毒物劇物販賣營業者(全管、郡市別) …… 781
第二八表 藥品巡視施行成績 …… 781

第二九表 水道及清凉飲料水(總數、署別) …… 782
第三〇表 屠畜頭數(總數、屠場別) …… 783
第三一表 屠畜頭數月別 …… 784
第三二表 屠畜檢査 …… 784
第三三表 畜牛結核檢査(總數、種別) …… 785
第三四表 病的部ヲ廢棄セル屠畜 …… 785
第三五表 飲食物其他ノ物品試驗成績 …… 786
第三六表 媒統健康診斷(總數、廓別) …… 787
第三七表 府立難波病院娼妓健康診斷及有病ト認メタル者ノ病類(總數、廓別) …… 787
第三八表 府立難波病院娼妓收容患者月別 …… 788
第三九表 寄實淫人員健康診斷月別 …… 789
第四〇表 寄實淫入院者病類別 …… 790
第四一表 藥物中毒 …… 791
第四二表 藥物以外ノ中毒 …… 791
第四三表 死體解剖死産兒骨格保存(總數、種別)… 792
第四四表 汚物掃除 …… 792
第四五表 司法處分及行政處分件數 …… 793
第四六表 工場職工疾病負傷者(總數、種別) …… 793
第四七表 工場職工疾病負傷者治療成績(總數、病類別) …… 794
第四八表 狂犬病發生月別 …… 795
第四九表 狂水病豫防接種人員 …… 795
第五〇表 狂水病豫防接種人員月別 …… 795
第五一表 野犬捕獲頭數 …… 796
第五二表 狂水病豫防接種人員年齡別 …… 797
第五三表 咬傷原因 …… 797
第五四表 咬傷部位 …… 797
第五五表 狂犬病發生署別成績 …… 798
第五六表 犬ニ對スル狂犬病豫防注射頭數 …… 800

第二二 議 會

第一表 貴族院多額納稅者議員互選者(總數、大阪市) …… 803
第二表 衆議院議員及選擧有權者 …… 803
第三表 衆議院議員選擧 …… 804
第四表 衆議院議員選擧區別 …… 805
第五表 府會議員選擧(全管、選擧區別) …… 805
第六表 府會議員選擧有權者累年比較 …… 806
第七表 府會開會日數及議事件數 …… 807
第八表 府參事會 …… 807
第九表 市會議員及選擧有權者 …… 808
第一〇表 市會及區會(全管、市別) …… 808
第一一表 町村會及町村組合會(全管、郡別) …… 808

第二三 財 政

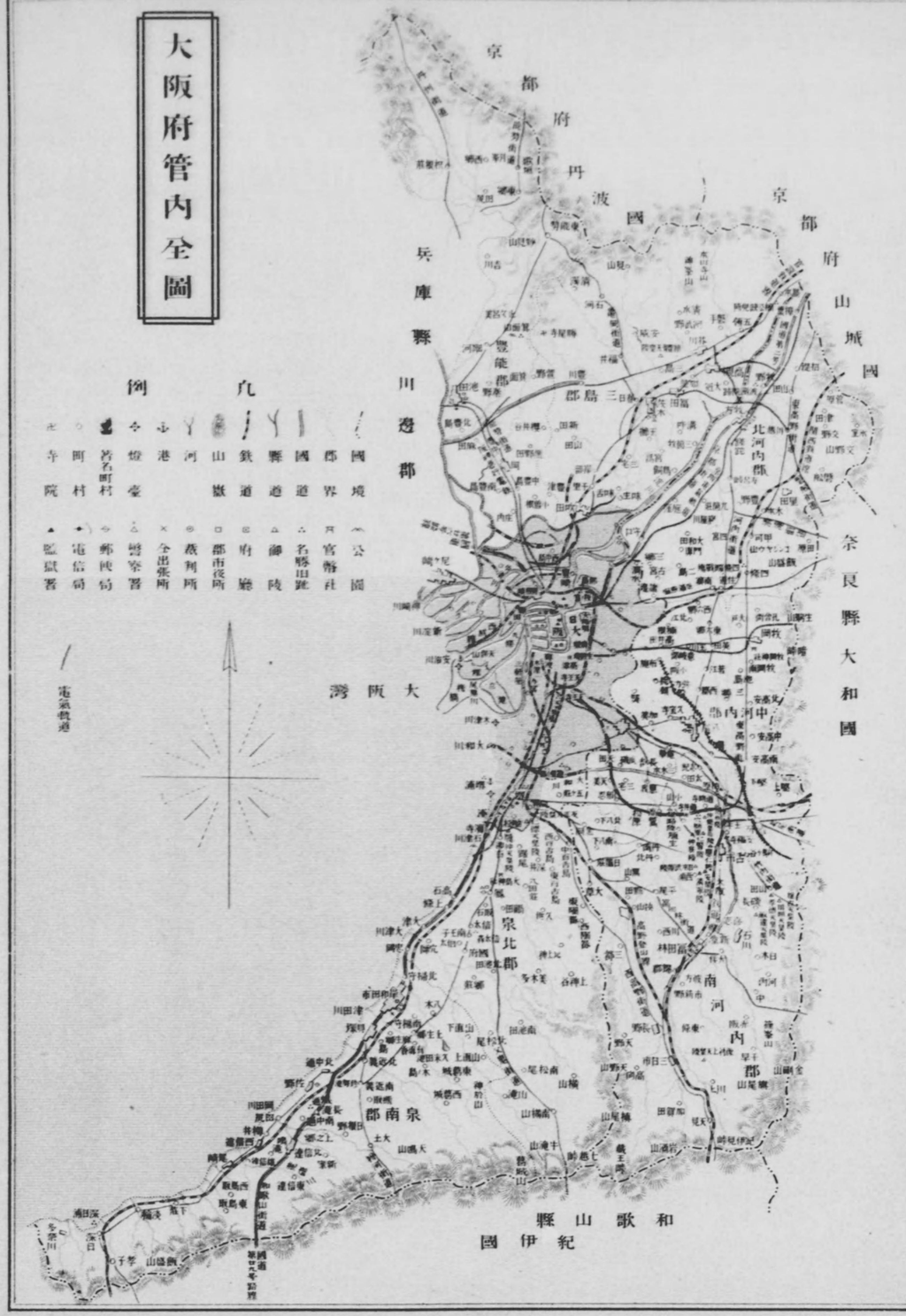
第一表 國庫支出ノ諸費 …… 811
第二表 府歳入決算累年比較 …… 814
第三表 府歳出決算累年比較 …… 814
第四表 府歳入決算所屬別 …… 815
第五表 府歳出決算所屬別 …… 815
第六表 大阪市歳入出決算額累年比較 …… 817
第七表 大阪市經濟別歳入出豫算決算額 …… 817
第八表 大阪市普通經濟歳入出決算 …… 818
第九表 大阪市特別經濟歳入出決算 …… 820
第一〇表 堺市歳入決算 …… 824
第一一表 堺市歳出決算 …… 824
第一二表 岸和田市歳入決算 …… 825
第一三表 岸和田市歳出決算 …… 826
第一四表 町村費歳入決算累年比較 …… 826
第一五表 町村費歳出決算累年比較 …… 827
第一六表 普通水利組合費歳入決算累年比較 …… 829
第一七表 普通水利組合費歳出決算累年比較 …… 830
第一八表 水害豫防組合費歳入決算累年比較 …… 830
第一九表 水害豫防組合費歳出決算累年比較 …… 831
第二〇表 諸稅負擔額累年比較 …… 831
第二一表 國稅調定額(全管、郡市別) …… 832
第二二表 地租(大正十三年度調定額) …… 832
第二三表 地租納稅額別人員(總數、郡市別) …… 834
第二四表 所得稅決定額(總數、郡市別) …… 836
第二五表 第一種所得稅納額別人員(全管、郡市別 837
第二六表 第三種所得稅納額別人員(全管、郡市別) 838
第二七表 營業稅決定額(全管、郡市別) …… 838
第二八表 營業稅納額別人員 …… 844
第二九表 砂糖消費稅査定額(全管、郡市別) …… 847
第三〇表 織物消費稅査定額(全管、郡市別) …… 847
第三一表 府稅累年比較 …… 848
第三二表 府稅郡市別 …… 848
第三三表 大阪市稅 …… 849
第三四表 堺市稅 …… 849
第三五表 岸和田市稅 …… 850
第三六表 町村稅累年比較 …… 850
第三七表 國稅滯納人員及稅額(全管、郡別) …… 851
第三八表 國稅滯納處分總數(稅目別) …… 852
第三九表 國稅滯納處分郡市別 …… 852
第四〇表 府稅滯納人員及稅額 …… 853
第四一表 府稅滯納處分總數稅目別 …… 855
第四二表 府稅滯納處分(郡市別) …… 855
第四三表 市町村稅滯納處分(總數、稅目別) …… 856
第四四表 市町村稅滯納處分郡市別 …… 857
第四五表 府有財産(總數、種別) …… 857
第四六表 府有財産所屬別 …… 858

第四七表　市町村經濟全般ノ爲メニ設備スル市町村基本財産 …… 859
第四八表　特定ノ目的ノ爲メニ設備スル市町村基本財産 …… 860
第四九表　府　債 …… 860
第五〇表　起債ノ目的ニ依リ分チタル市町村債 … 861
第五一表　地方費利率別 …… 861
第五二表　利率ニ依リ分チタル市町村債累年比較… 862

第二四　官公吏及文書

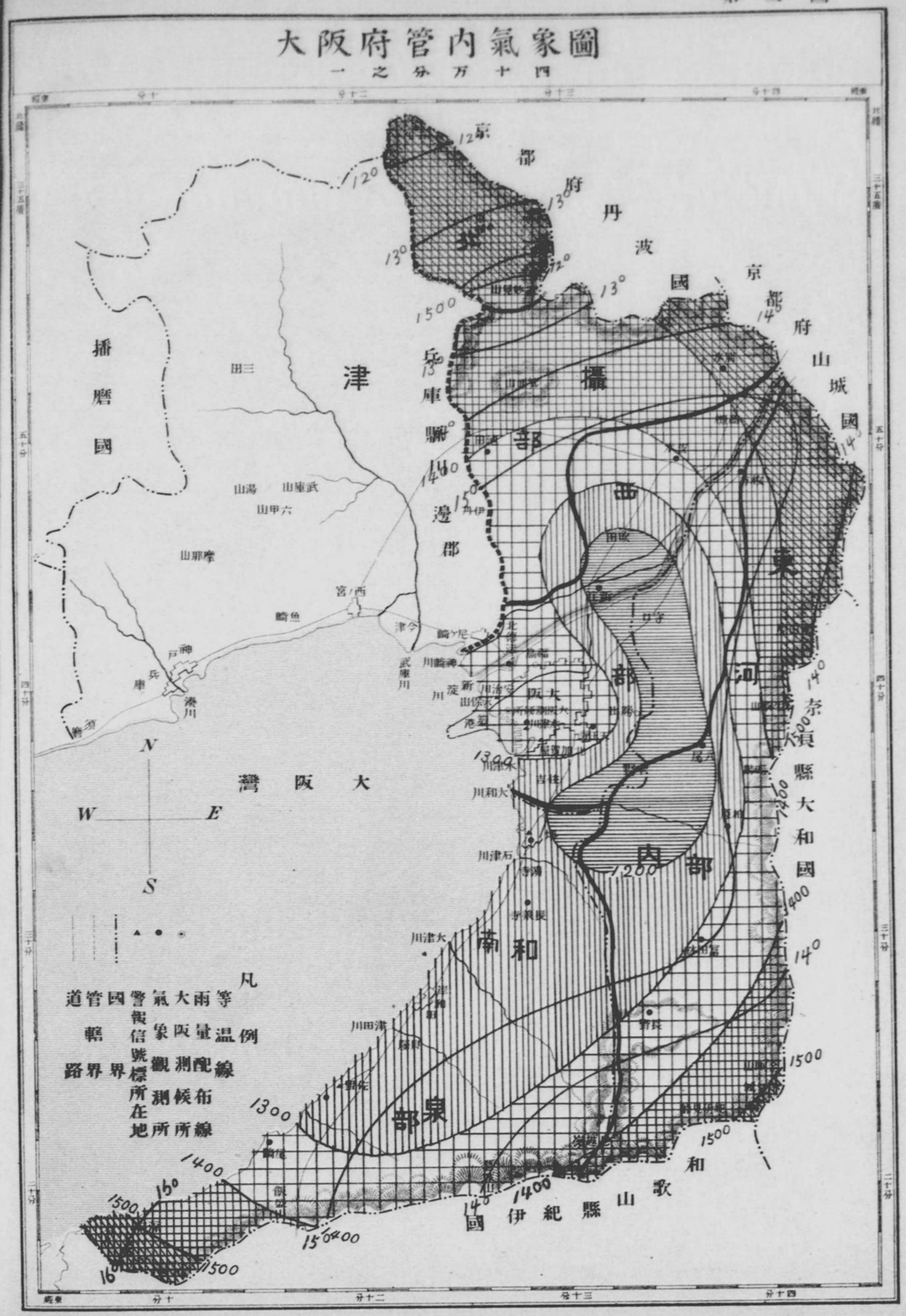
第一表　本府官吏屬員及府吏員(總數、種別) … 863
第二表　本府官吏府吏員及其俸給額(總數、所屬別) …… 864
第三表　市町村吏員及其俸給額(總數、種別) … 869
第四表　市町村吏員退隱料受領人員及金額（總數、種別) …… 872
第五表　市町村吏員退隱料受領人員及金額(續)… 872
第六表　令達(總數、所屬別) …… 873
第七表　文書收受及發遣數(總數、所屬別) …… 874

大阪府管內全圖

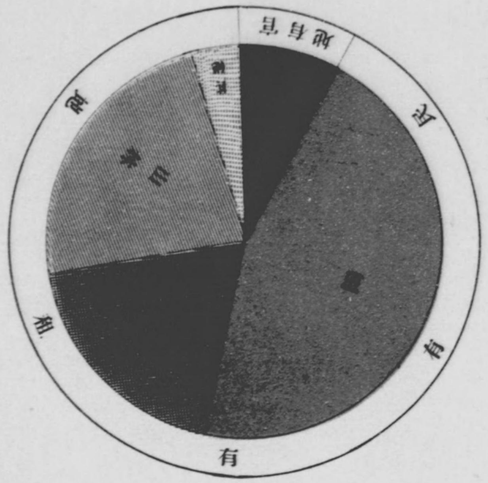


大阪府管內氣象圖

四十万分之一



人口並土地ノ密度

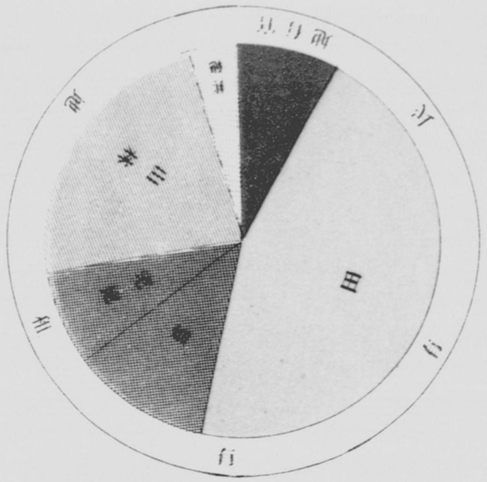


一方里ノ現在人口	
大阪市	179,525
堺市	138,170
岸和田市	97,121
三島郡	6,062
豊能郡	5,521
泉北郡	10,060
泉南郡	8,270
南河内郡	5,658
中河内郡	15,720
北河内郡	7,922
全管	26,485

一方里ニ付

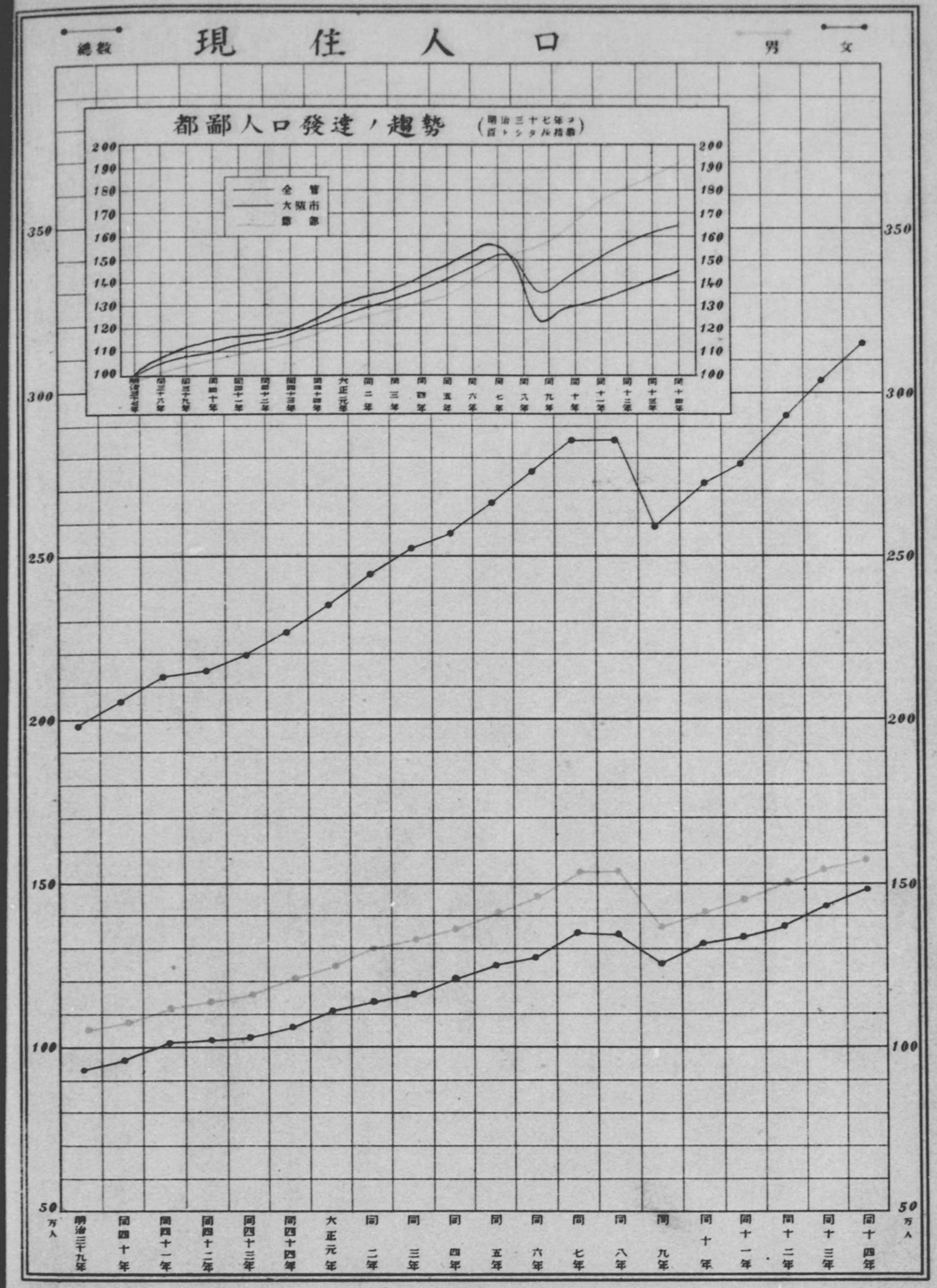
6,000未満	6,000以上 9,000未満	9,000以上 11,000以下	11,000以上 14,000未満	14,000以上

土地並人口ノ密度



方里ノ現在人口	
大阪市	179,525
堺市	138,170
東成西成両郡	97,121
島郡	6,062
豊能郡	5,521
家北郡	10,060
家南郡	8,270
南河内郡	5,655
中河内郡	15,720
北河内郡	7,922
全管	26,485

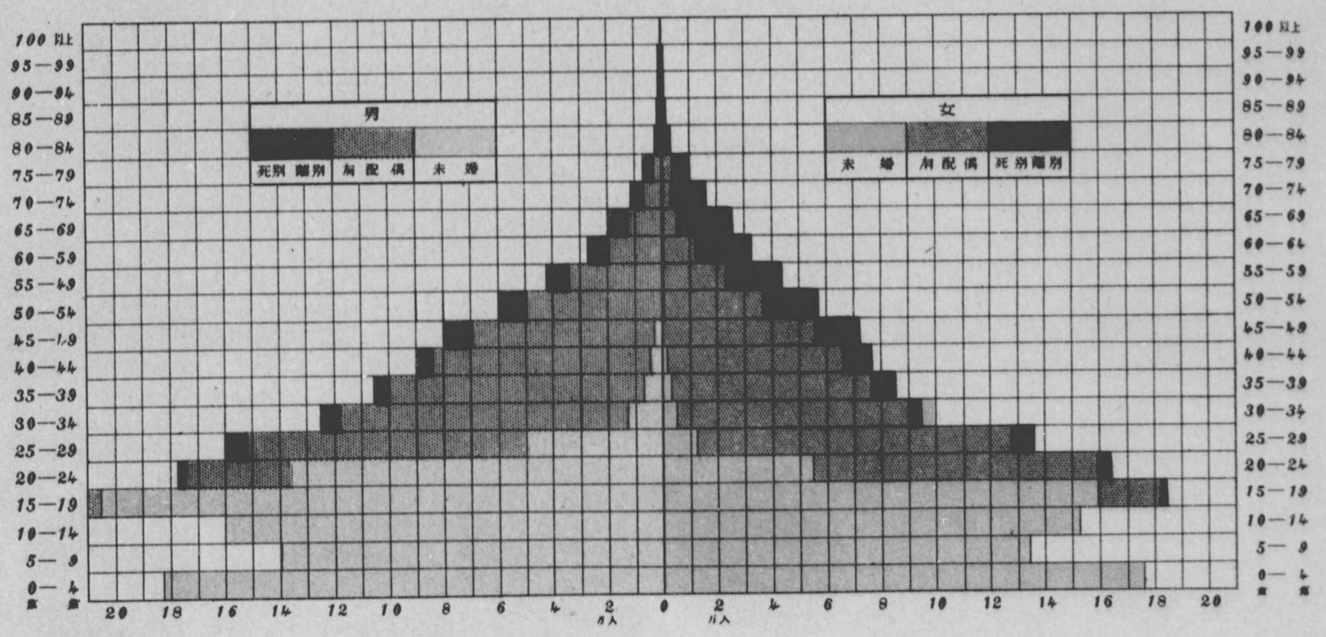
第四圖



現住人口
總數
男
女
都鄙人口發達ノ趨勢
(明治三十七年ヲ百トシタル指數)
全管
大阪市
鄙部
200
190
180
170
160
150
140
130
120
110
100
350
300
250
200
150
100
50
万人
明治三十九年
同四十年
同四十一年
同四十二年
同四十三年
同四十四年
大正元年
同二年
同三年
同四年
同五年
同六年
同七年
同八年
同九年
同十年
同十一年
同十二年
同十三年
同十四年

第五圖

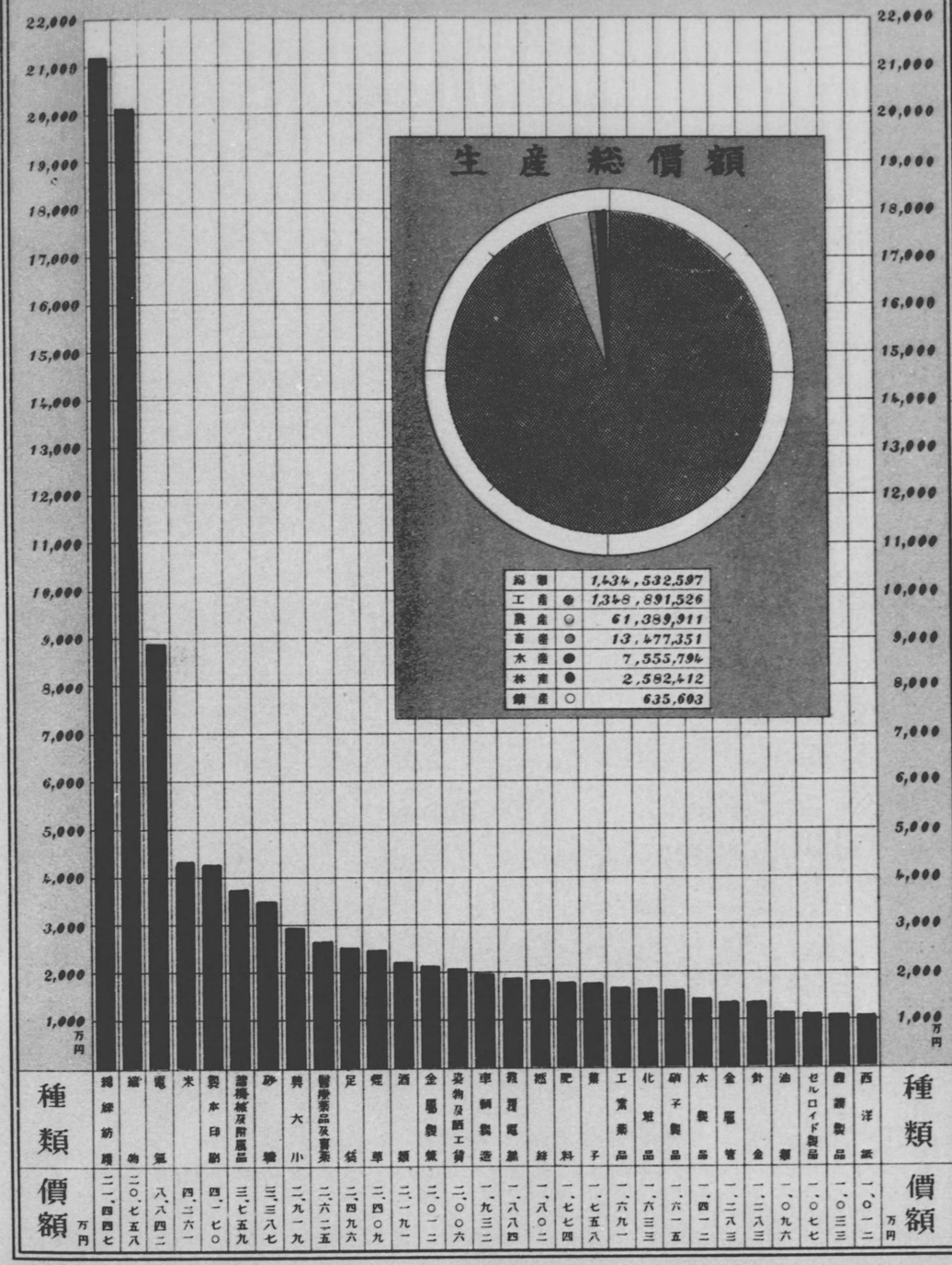
年齡別配偶關係 (大正十四年十月一日現在)



第六圖

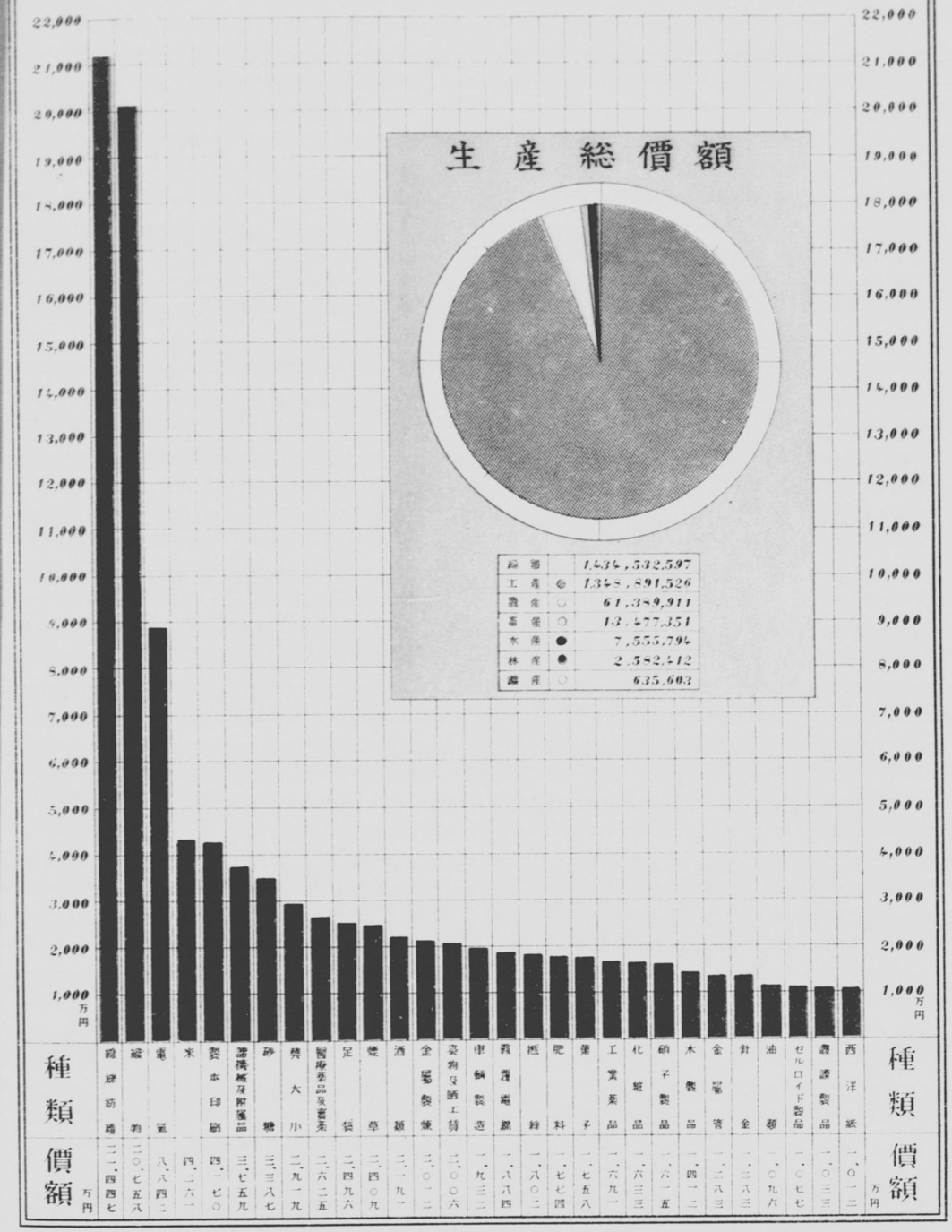
重要物産價額

價額一千萬圓以上



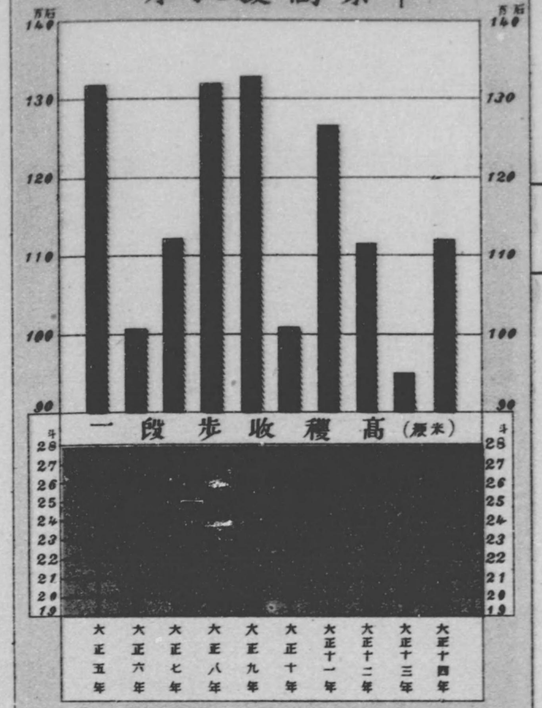
重要物産價額

價額一千萬圓以上

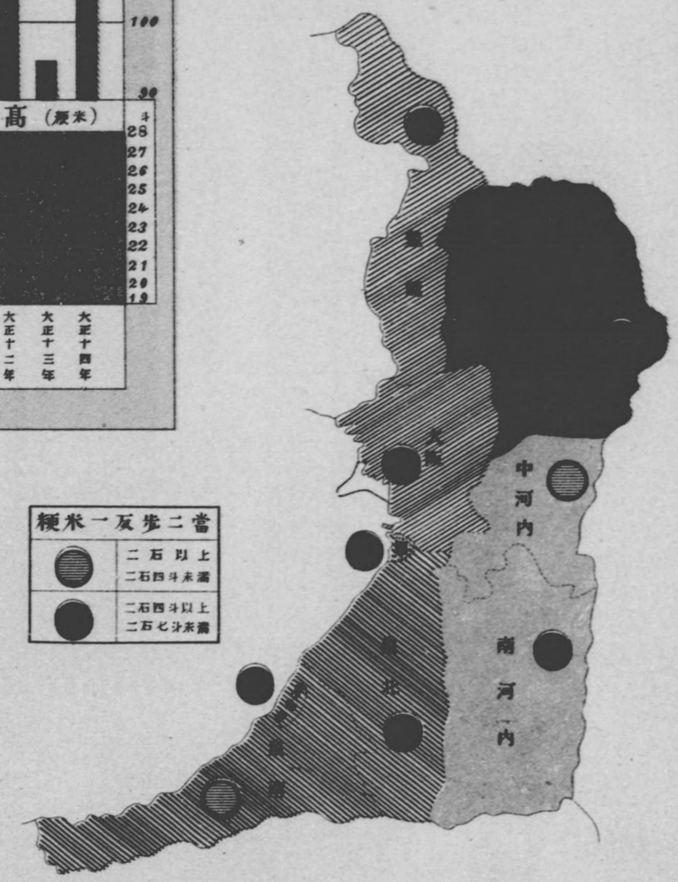


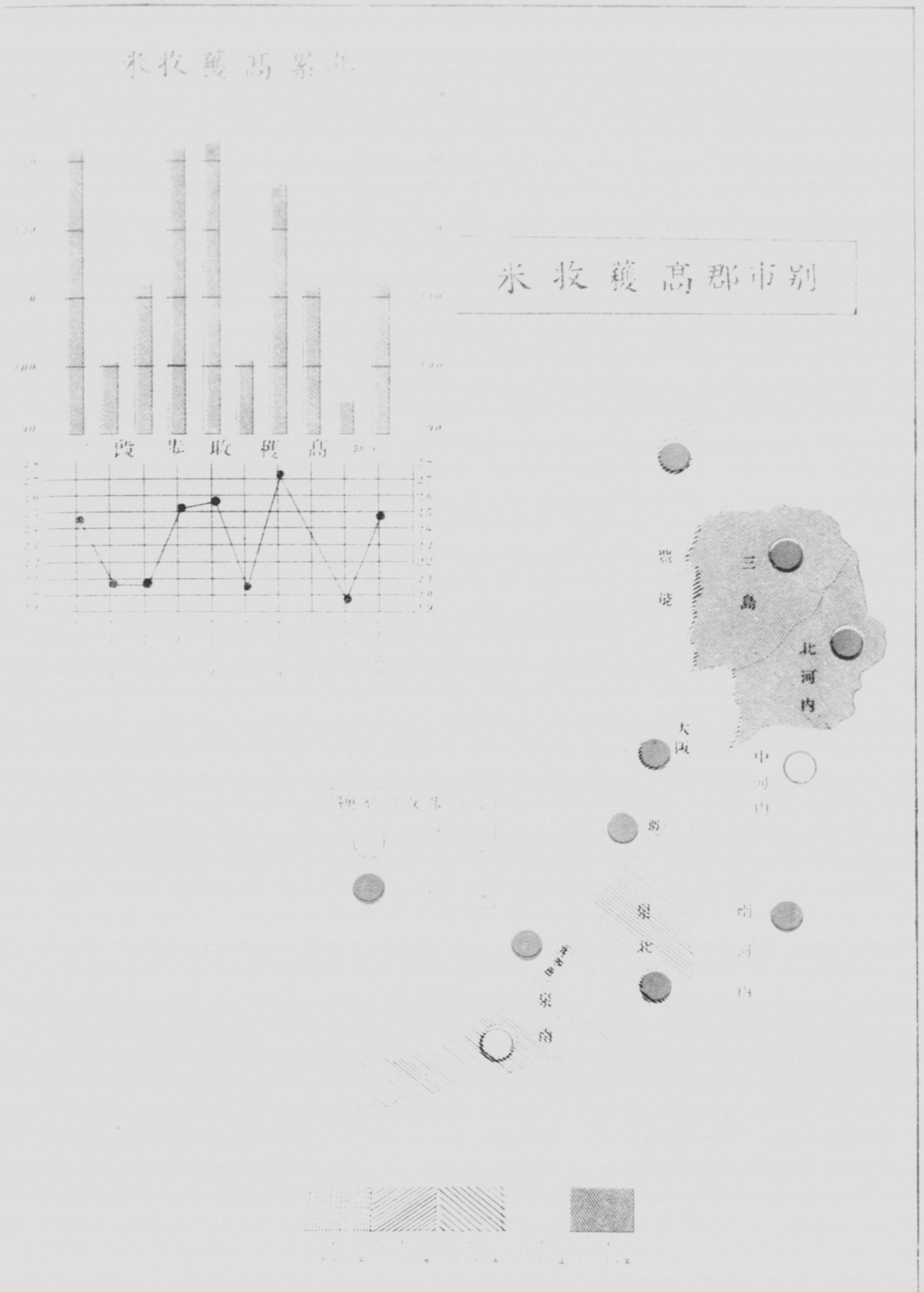
種類	價額 万円	種類	價額 万円
綿絖紡績	二二、四四七	西洋紙	一、〇一二
絹絲	二〇、七五八	製糖	一、〇三三
電氣	八、八四二	セルロイド製品	一、〇七七
米	四、二六一	油類	一、〇九六
製本印刷	四、一七〇	針金	一、二八三
諸機械及附屬品	三、七五九	金屬管	一、二八三
砂糖	三、三八七	木製品	一、四一二
燐寸	二、九一九	硝子製品	一、六一五
醫藥品及書類	二、六二五	化粧品	一、六三三
足袋	二、四九六	工業藥品	一、六九一
煙草	二、四〇九	帶	一、七五八
酒類	二、一九一	肥料	一、七七四
金屬製械	二、〇一二	絲	一、八〇二
染物及晒工賃	二、〇〇六	燃寸	一、八八四
車輛製造	一、九三二	鐵道電鐵	一、八八四
鑄鐵	一、八八四	諸機械及附屬品	三、七五九
燃寸	一、八〇二	砂糖	三、三八七
肥料	一、七七四	燐寸	二、九一九
帶	一、七五八	醫藥品及書類	二、六二五
工業藥品	一、六九一	足袋	二、四九六
化粧品	一、六三三	煙草	二、四〇九
硝子製品	一、六一五	酒類	二、一九一
木製品	一、四一二	金屬製械	二、〇一二
金屬管	一、二八三	染物及晒工賃	二、〇〇六
針金	一、二八三	車輛製造	一、九三二
油類	一、〇九六	鐵道電鐵	一、八八四
セルロイド製品	一、〇七七	絲	一、八〇二
製糖	一、〇三三	燐寸	一、七七四
洋紙	一、〇一二	帶	一、七五八
		工業藥品	一、六九一
		化粧品	一、六三三
		硝子製品	一、六一五
		木製品	一、四一二
		金屬管	一、二八三
		針金	一、二八三
		油類	一、〇九六
		セルロイド製品	一、〇七七
		製糖	一、〇三三
		洋紙	一、〇一二
綿絖紡績	二二、四四七	絹絲	二〇、七五八
電氣	八、八四二	米	四、二六一
製本印刷	四、一七〇	諸機械及附屬品	三、七五九
砂糖	三、三八七	燐寸	二、九一九
醫藥品及書類	二、六二五	足袋	二、四九六
煙草	二、四〇九	酒類	二、一九一
金屬製械	二、〇一二	染物及晒工賃	二、〇〇六
車輛製造	一、九三二	鐵道電鐵	一、八八四
燃寸	一、八〇二	肥料	一、七七四
帶	一、七五八	工業藥品	一、六九一
化粧品	一、六三三	硝子製品	一、六一五
木製品	一、四一二	金屬管	一、二八三
針金	一、二八三	油類	一、〇九六
セルロイド製品	一、〇七七	製糖	一、〇三三
洋紙	一、〇一二		

米收穫高累年

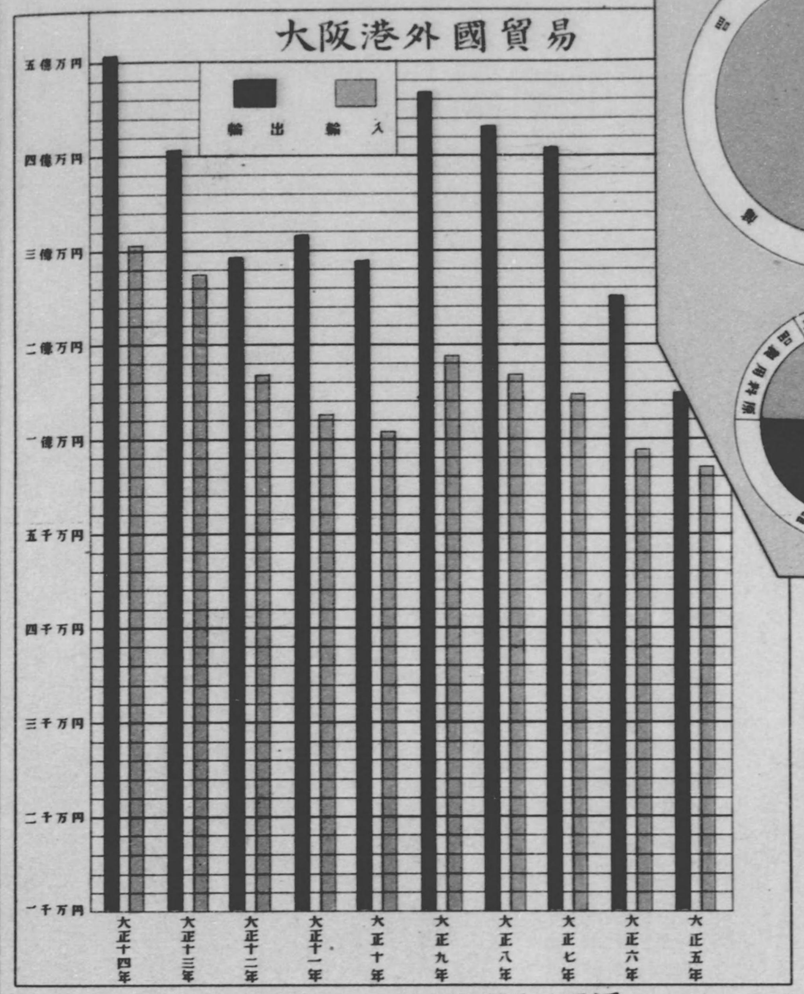


米收穫高郡市別



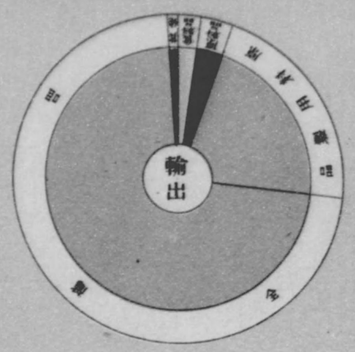

米收穫高累年
米收穫高郡市別
三島
豊能
北河内
大阪
中河内
堺
泉北
南河内
泉南
岸和田

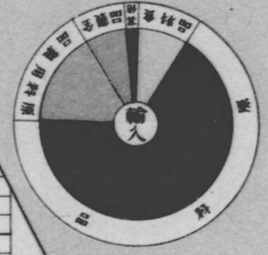
大阪港外國貿易



額價別種品易貿

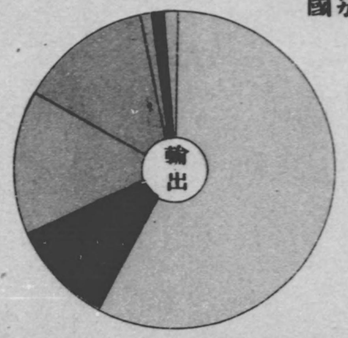
（大正十四年）

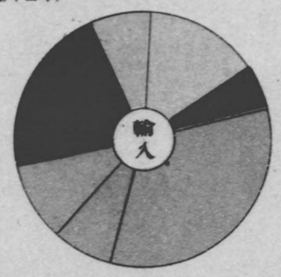


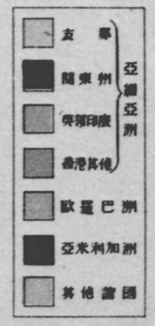


額價品易貿別國

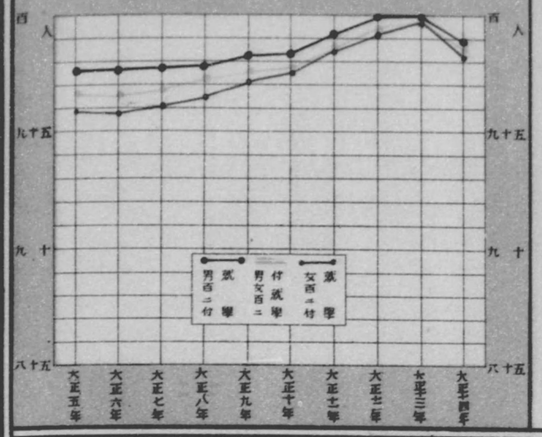
（大正十四年）



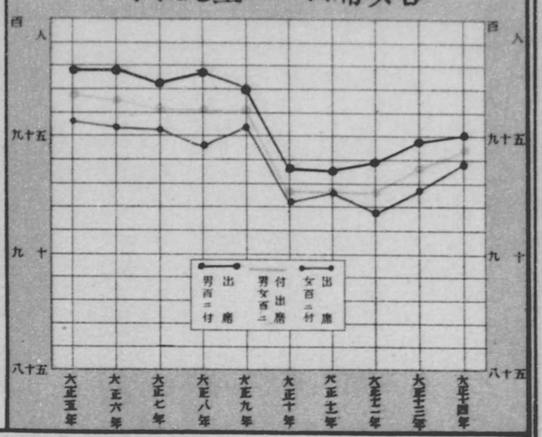




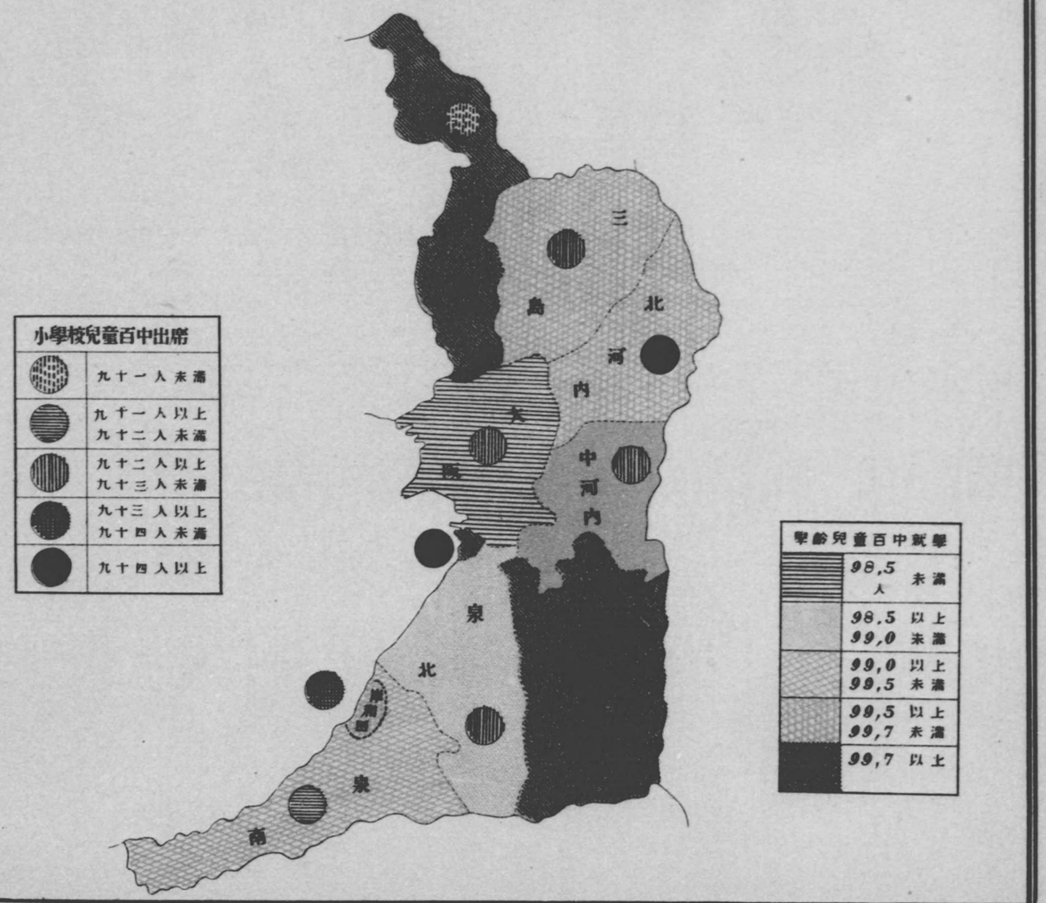
合歩學就學童兒齡學



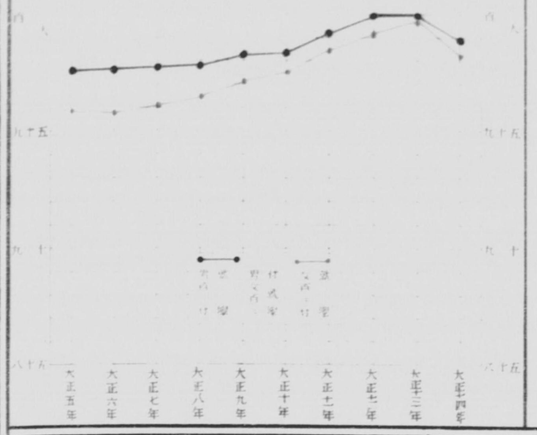
合歩席出日日童兒校學小



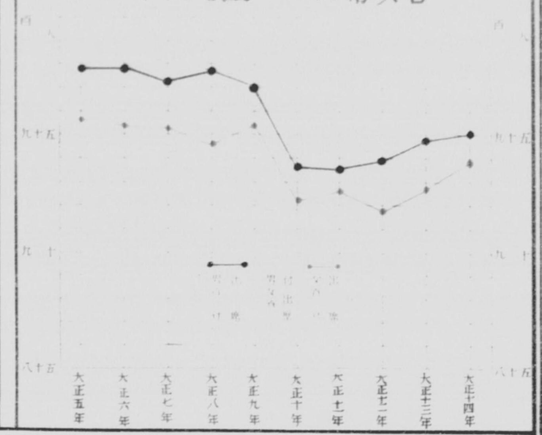
合歩席出童兒及學就童兒齡學



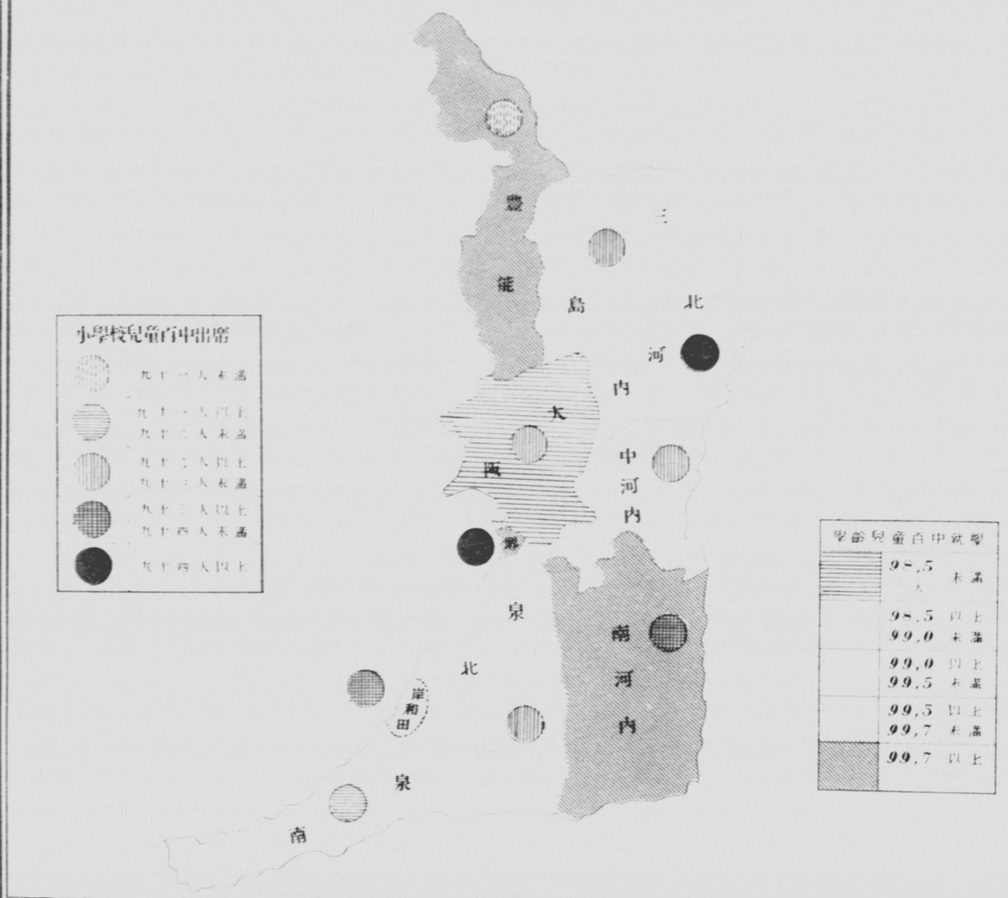
合歩學就童兒齡學



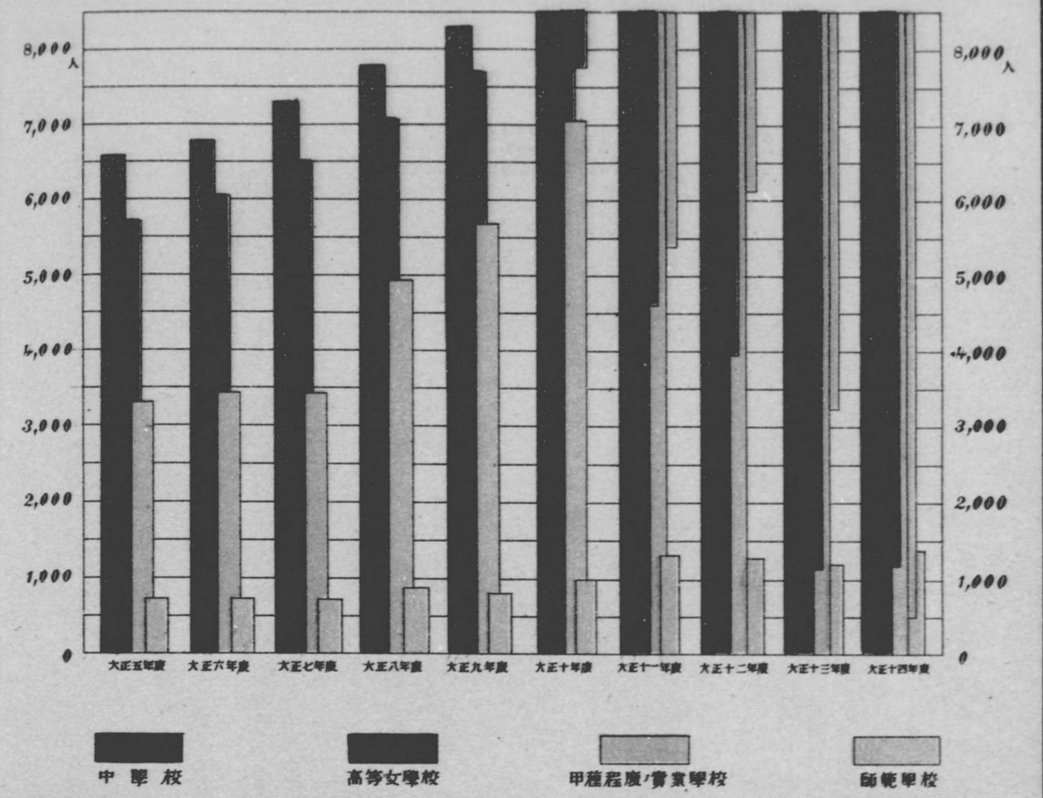
合歩席出日日童兒校學小



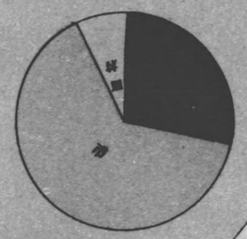
合歩席出童兒及學就童兒齡學



中等程度ノ學校生徒



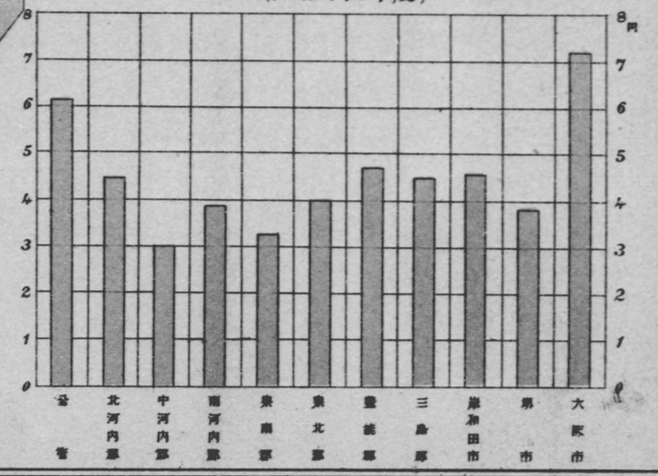
公學費ノ構成（大正十四年度）



人口一二付

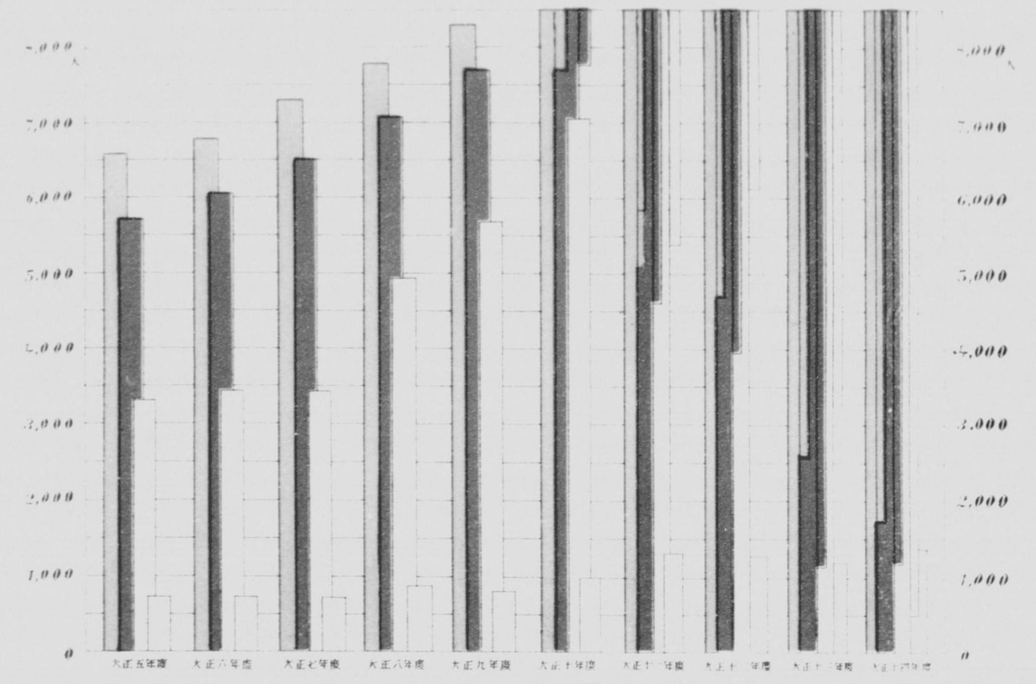
市町村立小學校公學費負擔額

（大正十四年度）



第十圖

中等程度ノ學校生徒

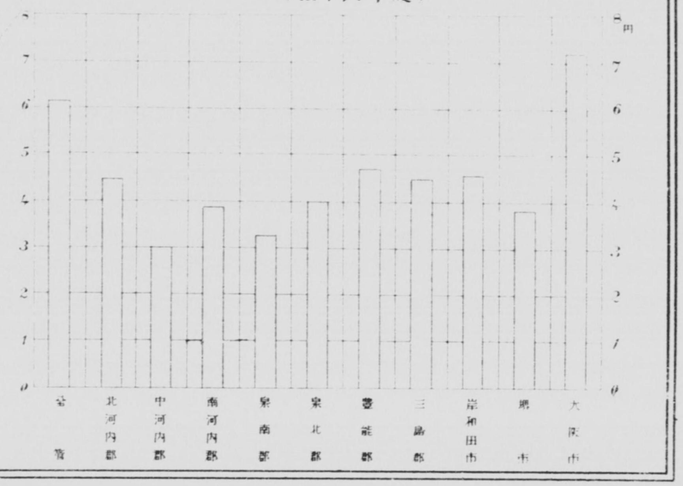


公學費ノ權衡 （大正十四年度）

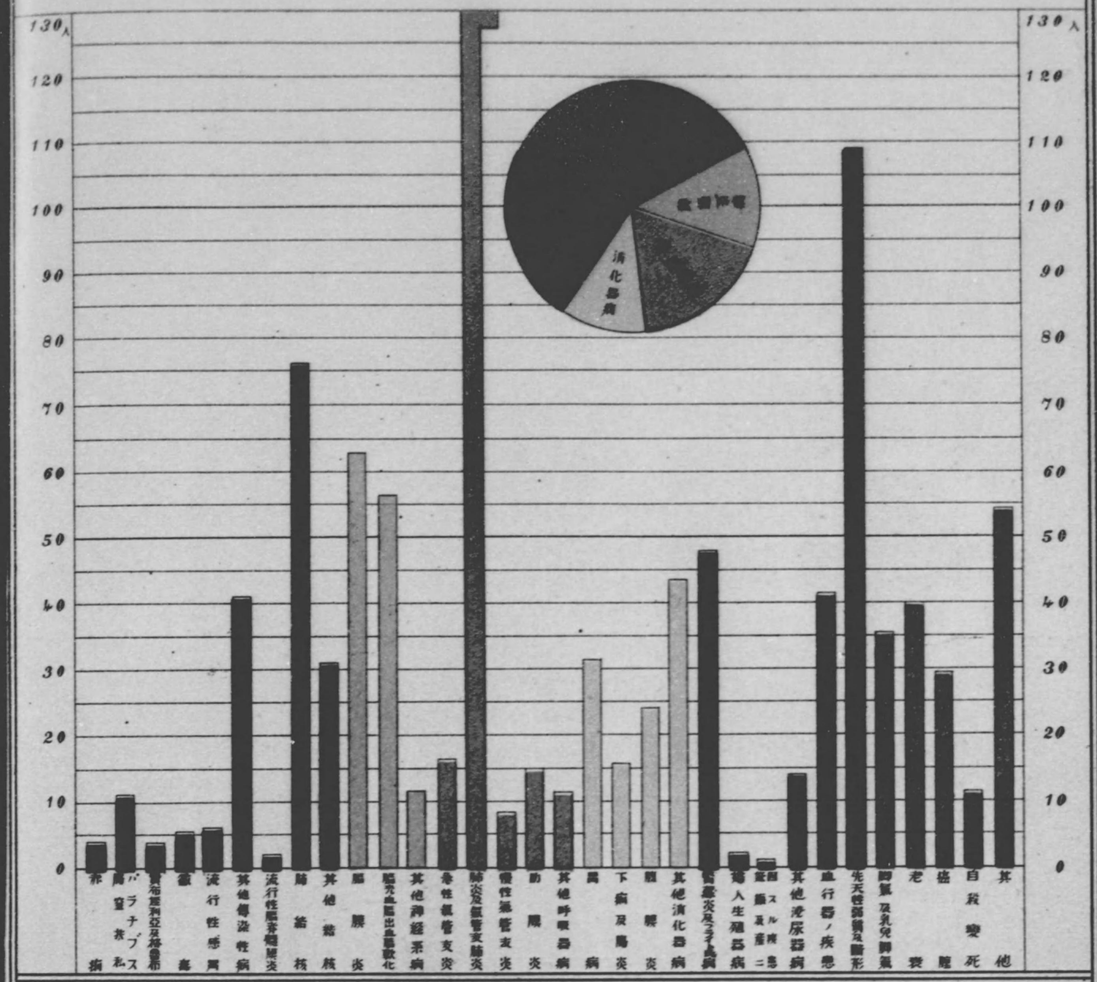
人口一人ニ付

市町村立小學校公學費負擔額

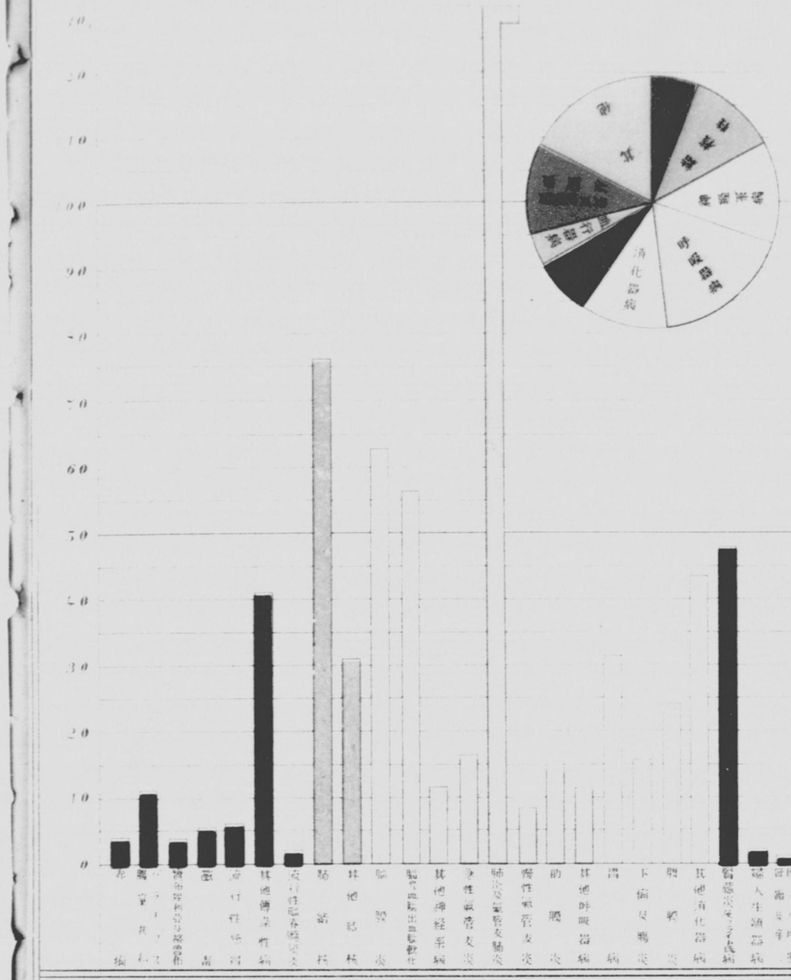
（大正十四年度）

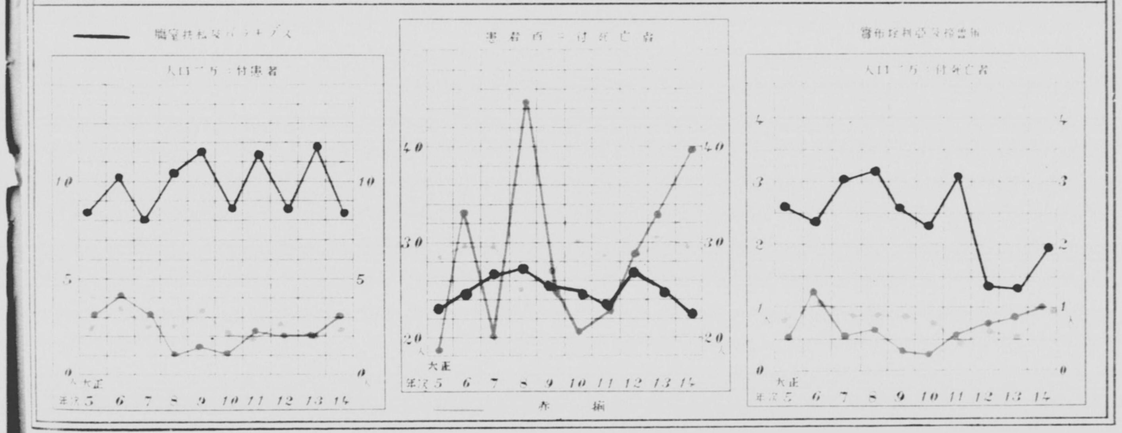


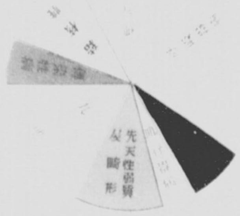
死亡千ニ對スル死亡原因

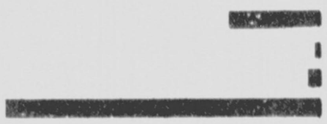


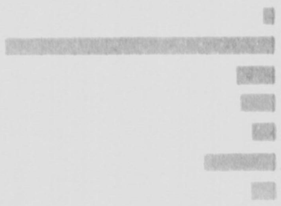
死亡千ニ對スル死亡原因



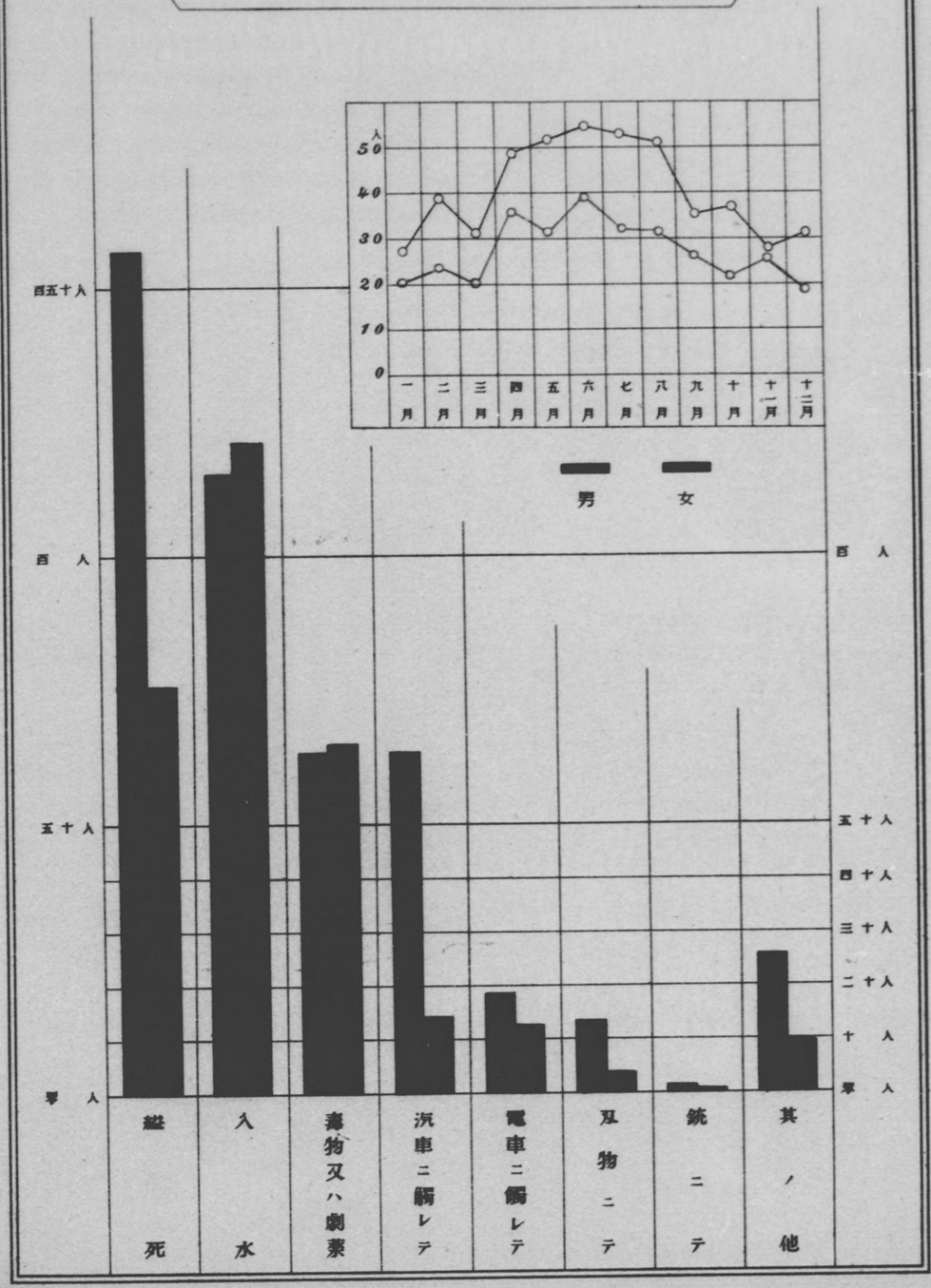



先天性弱視
屈折異常

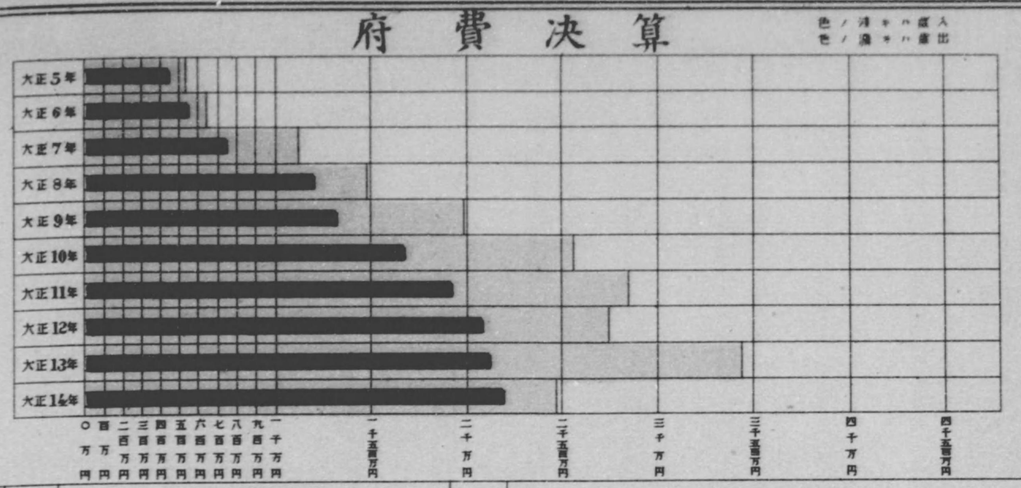




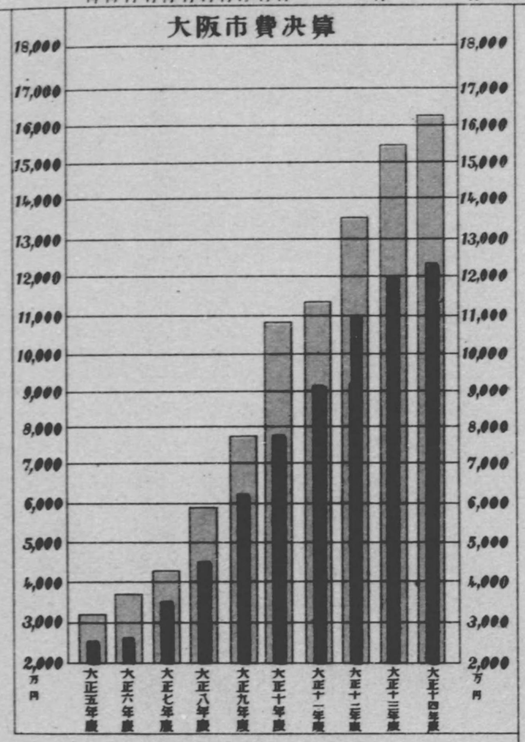
自殺者ノ手段及月別

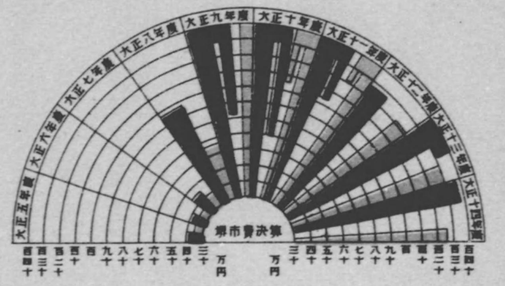

人
50
40
30
20
10
0
一月
二月
三月
四月
五月
六月
七月
八月
九月
十月
十一月
十二月
男
女
四十五人
百人
五十人
拾人
縊死
入水
毒物又ハ劇藥
汽車ニ觸レテ
電車ニ觸レテ
刃物ニテ
銃ニテ
其ノ他

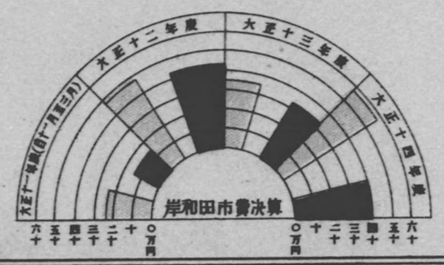
府費決算



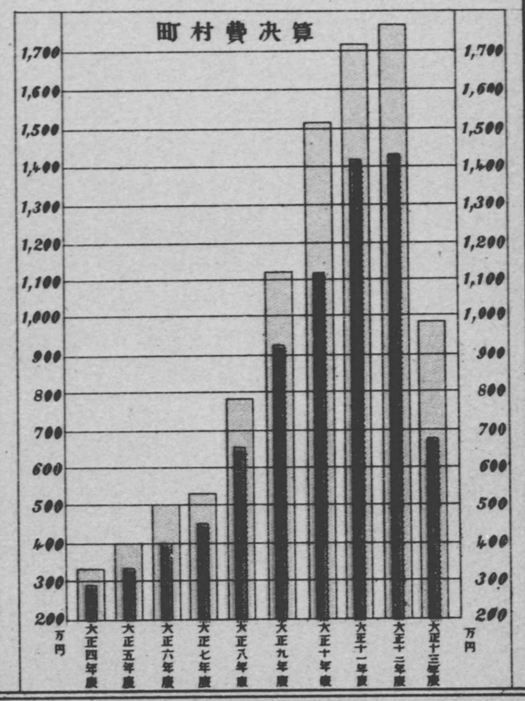
大阪市費決算



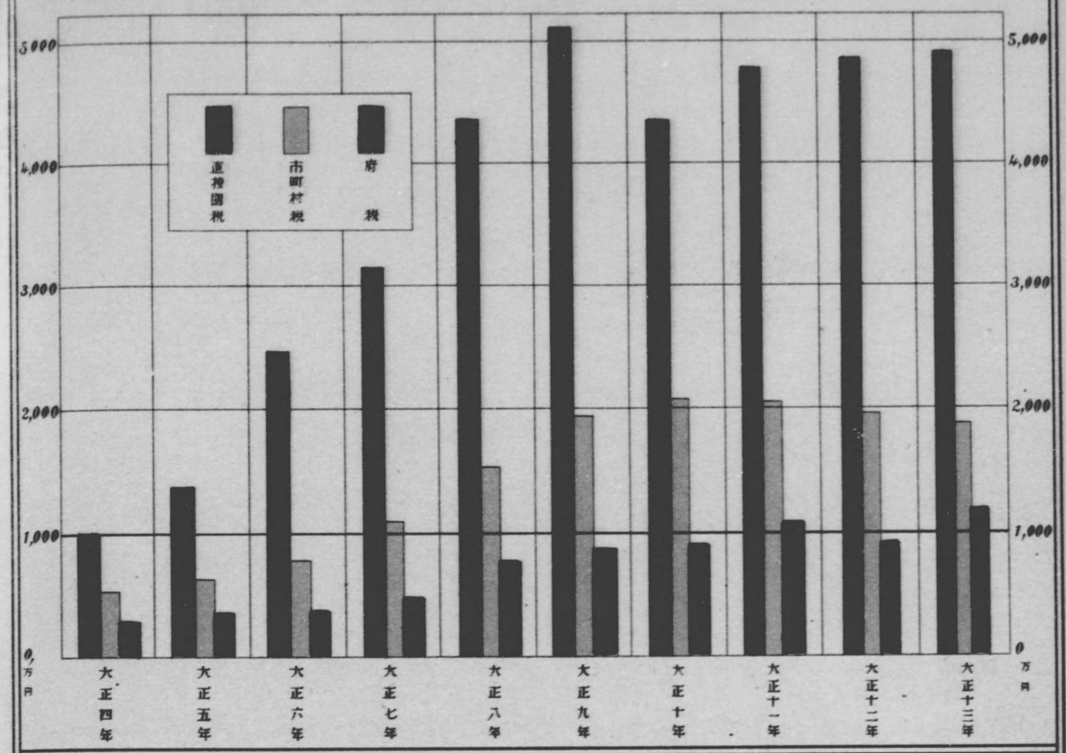




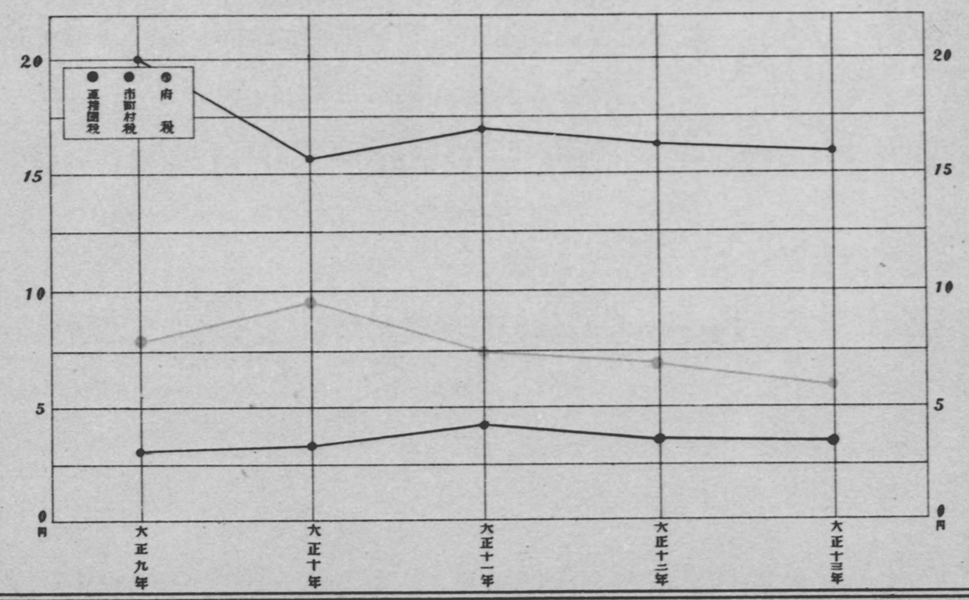
町村費決算



諸　　稅



現住人口一人平均負擔額



記述

記述

第一 土地

地勢 大阪府ハ本土ノ中央ニ位シテ攝津國大阪市及三島、豐能ノ二郡竝河內和泉ノ兩國ヲ併セ實ニ畿內ノ二分ノ一ヲ管セリ、北丹波ニ境シ東北山城ニ接シ、東南一帶山嶽連亘シテ紀伊大和ノ境ヲ劃シ、西北ハ兵庫縣攝津國川邊郡ト[illegible]、遙カニ淡路島ト相對セリ。

山脈ハ東南ニ起リ蜿蜒北ニ走ル西ハ平野相連リテ數流ノ河川其間ヲ流ル其中最モ大ナルモノヲ淀川及大和川トス。

淀川ハ源ヲ近江ノ琵琶湖ニ發シ山城ノ諸川ヲ集メ河內攝津ノ國境ヲ流レテ江口ニ至リ岐レテ西スルヲ神崎川ト云ヒ、本流毛間ニ至リテ更ニ閘門ヲ設ケ大阪市ニ入リ堂島川、土佐堀川トナリ安治川木津川ノ名ヲ以テ大阪灣ニ入ル而シテ本流ハ大阪市ノ北部ヲ貫流シテ西淀川區外島町ニ至リ海ニ入ル、大阪市ハ閘門ヨリ分岐シタル堂島川土佐堀川ノ水流ヲ利用シテ天滿堀川、東橫堀、西橫堀、百間堀、江戶堀、立賣堀、京町堀、阿波堀、薩摩堀、堀江、道頓堀等ノ疎水路ヲ設ケ水上ノ公道ヲ開キ運漕ノ便ニ供セリ。

大和川ハ源ヲ大和國ニ發シ信貴、葛城兩山ノ間ヲ流レテ管內ニ入リ南河內郡道明寺村ニ至リ石川ヲ合セ西流シテ堺市ノ北端ヲ經テ海ニ入ル、淀川ニ次ク大河ナレトモ河心年ヲ逐ヒテ淺淤トナリ舟楫ノ便ヲ缺キ又往々氾濫ノ憂ヲ免レス。

池沼ハ山間ノ低地ニ在リ或ハ平原ニ存在スルモノアリ多クハ田圃灌漑ノ用ニ供センカ爲メ開鑿セシモノナリトス、其ノ殊ニ大ナルモノハ和泉國泉南郡ノ久米田池ニシテ之レニ次クヲ狹山池トス、狹山池ハ河內國南河內郡ニ在リ前者ト共ニ田圃ヲ灌漑スヲ數千頃實ニ無量ノ利益ヲ河泉ノ野ニ與ヘリ。

管內ノ地勢ハ概ネ平坦ナルヲ以テ交通ノ便頗ル宜シク諸方ニ通スル街道數條アリテ何レモ車馬ヲ通ス加之晩近鐵道又ハ軌道縱橫ニ貫通シテ海陸共ニ交通至便ナリ。

地質 本府地質ノ最大面積ヲ占ムルモノハ第四紀古層及第四紀新層ニシテ和泉沿海ノ地方ハ主トシテ前者ニ屬シ、攝津南部及河內平坦部ハ後者ニ屬ス、而シテ之ニ亞クモノハ攝津中央部河內東北端及和泉中央部ヨリ河內南部ニ渉ル第三紀層竝河內和泉ノ山間部ノ片麻岩及和泉砂岩層トス、又花崗岩ハ河內東北部ノ山間部及攝津北部ニ分布セラレ、秩父古生層ハ攝津北部ニ於テノミ之ヲ見ル、以上ノ外雲英安山岩ハ大和川支流原川上流ノ河內山間ニ於テ僅少ノ面積ニ限ラレ、石灰岩ハ攝津北部ノ山間僅カニ點在セルヲ見ルノミ。

位置 本府在廳地ハ大阪市東區大手前町壹番地ニシテ東經百三十五度三十一分北緯三十四度四十一分ニ位ス而シテ管內極所ノ經緯度ハ次ノ如シ。

方位	地名	經度	方位	地名	經度
東	北河內郡氷室村	東經 135.45.00 度分秒	南	泉南郡多奈川村	北緯 34.16.40 度分秒
西	泉南郡多奈川村	東經 135.07.40	北	豐能郡枳根莊村	北緯 35.02.19

面　　積　本府管內ハ大阪、堺、岸和田ノ三市及三島、豐能、泉北、泉南、南河內、中河內、北河內ノ七郡ニシテ大阪市ハ之ヲ十三區ニ分タレ郡部ハ通シテ三十二箇町二百六十四箇村ヲ管シ此面積百十五方里五二トス、而シテ其八割五分六厘ハ民有有租地ニシテ免租地及年期地ハ六分六厘ニ相當シ殘餘ノ七分八厘ハ官有地ナリ。（第三圖參照）

氣　　候　本年ノ管內平均氣溫ハ南部深日ニ於テ十五度八ヲ示シ、大阪市內ノ十五度六乃至十五度五之レニ亞キ、其ノ他ノ沿海部ヨリ平坦部地方ハ十五度三ヨリ十四度六ノ間ヲ示シ、南東部ヨリ東部、北東部ノ山間地方ハ十四度內外ニシテ北部ニ至レハ十三度四ヨリ十一度七ノ間ヲ示セリ。之レヲ平年ニ比スレハ殆ント等シキモ稍々低キ方ニアリ、而シテ最高氣溫ノ極ハ西部枚方ニ於テ三十六度六ニ達セシヲ高極トシ、天王寺ノ三十六度五、八尾ノ三十六度三之レニ亞キ、其他ハ三十五度八ヨリ三十二度九ノ間ニアリシモ、北部妙見山ハ二十七度八ニ止マレリ。最低氣溫ノ極ハ北部天王ノ零下十一度ヲ低極メシ妙見山ノ零下九度ニ之レニ亞キ、其ノ他ノ山間部ハ零下七度ヨリ五度、平坦部ヨリ沿海部地方ハ零下四度乃至三度ヲ示セリ。降水量ハ北部地方ニ於テ千六百粍以上ヲ示シ、漸次南下スルニ從ヒ減少シ本府ノ中央部ニ於テ最少千百粍トナリ、東部ヨリ南東部及南部ノ山間ハ多量トナリ千五百粍ヲ示シ之レヲ平年ニ比スレハ略ホ等シキモ、中央部ニ於テハ約二百粍ノ寡量トナレリ。一日中ノ最多量ハ北部東鄕ニ於テ百二十八粍降下セシヲ最多トス。

第　二　人　口

一、人口ノ靜態

總　　數　大正十四年十月一日現在ノ現住人口ハ三百五萬九千五百二人ニシテ內男百五十九萬四千二百二十七人、女百四十六萬五千二百七十七人ナリ。之レヲ前年同日ノ推計人口ニ對比スレバ六萬三千二人ヲ增加シ、內男三萬二千六百二十七人、女三萬三百七十五人ニ該當ス。今本府ニ於ケル人口增加ノ趨勢ヲ見ルカ爲、既往三十年前即チ明治二十八年ヲ一〇〇トセル指數ヲ算出スレハ次ノ如シ。

明治二十八年	一〇〇
同　三十八年	一三二
大正四　年	一七八
同　十四年	二一二

密　　度　大正十四年十月一日現在一方里平均人口ハ二萬六千四百八十五人ナリ、之ヲ郡市別ニ見レバ、大阪市十七萬九千五百二十五人、堺市十三萬八千百七十人、岸和田市九萬七千百二十一人、中河內郡一萬五千七百二十人、泉北郡一萬六十人、泉南郡八千二百七十人、北河內郡七千九百二十二人、三島郡六千六十二人、南河內郡五千六百五十八人、豐能郡五千五百二十一人ノ順位ナリ、其ノ內大阪市ノ前年三十七萬七千四人ニ比シ著シク減少ヲ示セルハ西成、東成兩郡ノ市區編入ニ伴フ結果ナリトス。

尙既往ニ遡リ一方里人口ヲ見ルニ明治二十八年一萬二千五百七人、同三十八年一萬六千五百六十三人大正四年二萬三千百八十二人、同十四年二萬六千四百八十四人トナリ、即チ三十年前ニ比シ二倍以上

ノ人口トナレリ。

男女ノ別　本年ニ於ケル現住人口中男女ノ割合ハ女一〇〇ニ付男一〇八・八ヲ示ス。是レ本府カ東洋第一ノ商工業中樞地タル所以ニシテ男ノ來住往往多キヲ示スモノナリ。今之ヲ郡市別ニ見レハ男ノ超過セルハ大阪市ノ百十三人九分ヲ最高トシ、三島郡百三人九分、中河內郡百三人、南河內郡百一人九分、豐能郡百人五分ノ順位トス。

女ノ超過セルハ泉南郡百十七人最多ニシテ岸和田市百十五人三分' 北河內郡百一人、泉北郡百人四分堺市百人三分等ナリ、女ノ超過泉南郡、岸和田市ニ於テ甚シキハ紡績機業ノ發展セルニ起因スルモノナリ。

世帶數　大正十四年十月一日現在ニ於ケル世帶總數ハ六十八萬三千六百三十八世帶ナリ。內普通世帶六十七萬九千四百六十、準世帶四千百七十八ニシテ、此割合普通世帶九割九分四厘、準世帶ハ僅カニ六厘ニ相當ス。尙郡市別ニ見レハ中河內郡普通世帶最モ多ク99.81%ヲ占メ、北河內郡99.72%之ニ亞キ、以下南河內郡99.37%、大阪市99.34%、三島郡99.16%ノ順位トス。

世帶ニ於ケル平均人口ハ一普通世帶ニ付僅カニ4.3人ヲ數フルノミ、即チ較近文化ノ進展ニ伴ヒ、世帶ノ構成ハ吾國古來ノ大家族主義ハ漸次其ノ蔭ヲ潛メ、小家族狀態ニ推移シツヽアルヲ窺フコトヲ得ルモノナリ。

管內在留殖民地人及外國人　管內在留殖民地人ハ朝鮮人ノミニシテ總數三萬一千八百六十人、內男二萬五千七百九十五人、女六千六十五人ノ割合トス。

在留外國人ハ其數三千五十八人ニシテ內男二千六百九十七人、女三百六十一人ナリ、之ヲ國籍別ニ見レハ支那人ノ二千九百五人ハ其ノ大部分ヲ占メ、次ハ北米合衆國五十五人、露西亞二十七人、佛蘭西二十三人、英吉利二十二人、獨逸八人、其ノ他十八人ニ相當ス。

二、現住人口動態

生　　產　總數九萬四千四百七十三人、內男四萬八千二百七十九人、女四萬六千百九十四人ニシテ其ノ割合ハ男一〇〇ニ對シ女九五・七トス。之ヲ郡市別ニ觀察スレハ大阪市ノ六萬二千九百七十九人最多ニシテ次ハ中河內郡五千四百四十人、泉北郡四千五百七十一人、南河內郡四千四百八十五人、泉南郡四千四百五十四人、三島郡三千三百二十九人、北河內郡三千二百三十四人、堺市二千五百五十八人豐能郡二千四百八人、岸和田市千十五人ノ順位トス。

死　　產　總數六千二百七十二人內男三千四百四十五人、女二千七百九十人、性不詳三十七人トス。之ヲ郡市別ニスレハ大阪市ノ四千四百九十二人最多ニシテ次ハ泉北郡三百五人、泉南郡二百五十五人中河內郡二百十七人、南河內郡二百六人、堺市二百四人、三島郡百九十八人、北河內郡百六十八人、豐能郡百四十四人、岸和田市八十三人ノ順位トス。

死　　亡　總數六萬一千二百九十五人內男三萬一千八百四十九人、女二萬九千四百四十六人ニシテ女一〇〇ニ對シ男一〇八トス。尙郡市別ニ列記スレハ大阪市ノ四萬二千三百一人ヲ第一位トシ、泉南郡二千八百九十八人、中河內郡二千八百五十七人、泉北郡二千五百六十三人、南河內郡二千三百三十人堺市二千六十五人、三島郡千九百五十八人、北河內郡千八百六十九人、豐能郡千七百五十一人、岸和田市七百三人ノ順位トス。

第三　農業

管内ニ於ケル農業ノ狀勢　本府ハ商工業ノ區地テアツテ年ニ月ニ發達スル商工業、都市進展等ノ爲ニ耕地ハ漸次減少シ、純農ハ半農ニ、半農ハ商工業者ニ日ト共ニ轉業セラレツヽアル狀態トナツテ居ル、尙近時農業勞賃昂マリ生產費彌カ上ニモ嵩ンテ來テ豐テナイ農家ノ經濟ハ益々苦境ニ陷リ延テ自然ト農業隆興ノ路ヲ塞ク誘因トナルノテアル。

然モ府下農業ノ實際ハ其ノ技術方面ニ於テモ年ト共ニ改良進步シツヽアルコトハ疑フ餘地カナイ、即チ之等ニ關スル府ノ施設トシテハ農業收益ノ增進ヲ計ル爲ニ共同耕作、畜力機械力ノ利用ニ依ツテ勞力ノ節減分配ヲ改善シ、作業能率ノ增進ヲ圖リ尙一面農談會、農業技術ノ競技會開催等之カ向上善導ニ就テ努力セラレツヽアリテ進步改善ノ蹟モ着々シテ現レテ居ル。以下各表ニ付之カ概況ヲ述フレハ

農家戶數　本年末農家ノ總數ハ八萬六千三十二戶テアル、同年末現住戶數ノ一割三分ニ該當シテ居ル總數ノ中專業農家ハ六割二分二厘ニ當リ、兼業農家ハ三割七分八厘ニ割合シテ居ル、專業農家ヲ前年事實ニ比スレハ四厘ヲ增シ、五ケ年前ナル大正十年ニ比スレハ二分九厘、十ケ年前タル大正五年ノ事實ニ比スレハ七分五厘ノ減少トナル。兼業農家ニ在リテハ前年同一事實ニ比シ四割九分五厘、五ケ年前タル大正十年ニ比シテ七分五厘、十ケ年前タル大正五年ニ比スレハ七分五厘等何レモ減少スル。尙最近十ケ年ニ於ケル之カ增減ノ狀況ヲ大正五年ヲ百トシタル各年ノ指數ニヨリ對比研究スレハ、專業農家ニ在リテハ大正六年九十八、七年九十七、八年九十五、九年九十五、十年九十三、十一年、十二年各九十、十三年八十九、十四年九十ニ該當シ、各々遞減ノ現象ヲ示ス。兼業農家ニ在リテハ大正六年九十七、七年、八年各九十七、九年九十九、十年百、十一年、十二年各九十八、十三年九十九、十四年九十三等ニ該當シテ率ハ一高一低增減常ナキヲ示シテ居ルノテアル。

以上ニヨリ、專業ト兼業トノ增減スル經路ヲ觀察スルトキハ兩者全ク軌ヲ一ニシテ居ナイ、即チ專業ニ在リテハ逐年減退ノ狀明瞭ナルモ、兼業農家ハ或年ハ增加シ或年ハ減退シテ全ク增減常ナキヲ示シテ居ル。然シナカラ大勢減退ノ狀明カナルヲ觀取シ得ラルヽノテアル。之カ都市分布ノ狀況ヲ觀ルニ總農家ニ在リテハ土地面積ノ廣大ナル關係カラ南河內郡首位ヲ占メ17.40%ヲ占メ、次ハ中河內郡ニシテ15.39%、泉北郡15.17%、泉南郡13.00%、北河內郡12.02%、三島郡11.27%、大阪市7.69%豐能郡7.24%、堺市0.51%、岸和田市0.31%、ニ該當シテ居ル、而シテ此ノ比ハ連年殆ント同一順序ニテ表ハレテ居ルノテアル。尙之ヲ專業、兼業ニ分類シテ見ルト專業農家ニ在リテハ總數ニ於ケルト同シク南河內郡最多ニシテ總數ノ16.98%ヲ占メ、次ハ中河內郡15.73%、北河內郡14.24%、泉北郡12.46%三島郡12.00%、泉南郡11.96%、豐能郡8.21%、大阪市8.14%、堺市0.44%、岸和田市0.24%等ニ割合シテ居ル。兼業農家ニ在リテハ泉北郡最モ多ク總數ノ19.63%ヲ占メ、次ハ南河內郡18.10%、中河內郡15.48%、泉南郡14.70%、三島郡10.07%、北河內郡8.37%、大阪市6.96%、豐能郡5.65%、堺市1.62%、岸和田市0.42%等ニ割合シテ居ル。

以上ニヨリ之レヲ觀レハ專業農家ハ南、中河內郡等ニ多ク、兼業ハ泉北郡ニ多ク、中河內郡之ニ亞イテ居ル。

現住戶數千ニ對スル農家ハ百三十戶ニ當リ各年漸減ノ狀勢テアル、郡市ニ在リテハ南河內郡七百二十三戶ニシテ最モ多ク、次ハ泉北郡ニシテ五百六十戶、北河內郡五百四十一戶、泉南郡五百二十四戶、中河內郡四百六十一戶、三島郡四百戶、豐能郡三百十九戶、岸和田市四十戶、堺市二十一戶、大阪市十三戶等ニ割合ス。

自作小作ニ分チタル農家

農家ヲ自作、小作、自作兼小作ニ分節比ヲ求ムレハ、小作農家ハ總數ノ五割一分四厘ヲ占メテ最モ多ク、自作兼小作二割六分六厘、自作農家ハ二割二分ニ割合シテ居ル、即チ小作農家ハ管內農家ノ半ヲ占メテ居ルノテアル、自作農家ヲ前年事實ニ比スレハ二厘ヲ減シ、五ケ年前タル大正十年ニ比スレハ二分九厘、十ケ年ヲ遡リ大正五年ニ比スレハ七分五厘等何レモ減退ヲ示ス。小作農家ヲ前年事實ニ比スレハ二分一厘、五ケ年前タル大正十一年ニ比スレハ一割四分七厘、十ケ年ヲ遡リ大正五年ニ比スレハ七分一厘等何レモ減退ヲ示シテ居ル。自作兼小作農家ニ在リテハ前年事實ニ比シ三分四厘、五ケ年前ニ比シ一割三分、十ケ年前ニ比シ一割四厘等何レモ減少ス。

自作農家都市分布ノ狀況ハ南河內郡最モ多クシテ總數ノ18.14%ヲ占メ、次ハ泉北郡16.97%、泉南郡15.23%、三島郡11.85%、北河內郡11.57%、中河內郡11.44%、豐能郡8.63%、大阪市5.33%、堺市0.50%、岸和田市0.34%等ニ該當ス。

小作農家ニ在リテハ中河內郡總數ノ18.59%ニ當リテ最モ多ク、次ハ南河內郡16.81%、泉北郡13.97%北河內郡12.45%、泉南郡10.86%、三島郡10.81%、大阪市9.24%、豐能郡6.56%、堺市0.411%、岸和田市0.301%等ニ割合ス。

自作兼小作農家ニ在リテハ南河內郡最モ多クシテ總數ノ17.93%ヲ占メ、次ハ泉北郡15.99%、泉南郡15.28%、中河內郡12.46%、三島郡11.71%、北河內郡11.57%、豐能郡7.40%、大阪市6.65%、堺市0.71%、岸和田市0.30%等ニ割合シテ居ル。

即チ以上ニ依リ之ヲ觀察スレハ自作農家ハ南河內郡、泉北郡等ニ最モ多ク、小作農家ハ中河內郡、南河內郡ニ、自作兼小作農家ハ南河內郡、泉北郡等ニ各々多キヲ示シテ居ル。

耕作スル耕地ノ廣狹ニヨリ分チタル農家戶數

更ニ農家ヲ其ノ耕作スル耕地ノ廣狹ニヨリ分節スレハ耕地ノ狹少ヨリ廣大ニ進ムニ從ツテ戶數ハ漸減スル現象ヲ示ス、即チ五段步未滿ヲ耕作スル農家ハ最モ多クシテ農家總數ノ四割五分一厘ヲ占メテ居リ次ハ五段步以上ヲ耕作スル農家ニシテ三割九分三厘ニ當リ、一町步以上ヲ耕作スル農家ハ一割四分二町步以上一分三厘、三町步以上二厘、五町步以上ニ在リテハ一厘ニ割合ス。各階級ニヨリ郡市分布ノ狀況ヲ觀察スルト五段步未滿ヲ耕作スル農家ニ在リテハ南河內郡最多ニシテ、總數三萬八千八百十一戶ノ19.52%ヲ占メ、次ハ泉北郡ニシテ18.03%、中河內郡15.52%、泉南郡13.66%、三島郡9.40%北河內郡8.55%、大阪市7.48%、豐能郡6.87%、堺市0.65%、岸和田市0.32%等ニ該當ス。

五段步以上ヲ耕作スル農家ニ在リテハ等シク南河內郡最モ多クシテ總數三萬三千七百七十戶ノ18.16%ヲ占メテ居リ、中河內郡ハ16.39%ニシテ之ニ亞キ、泉北郡13.38%、泉南郡12.46%、北河內郡11.78%、三島郡10.46%、豐能郡8.57%、大阪市7.94%、堺市0.48%、岸和田市0.38%ニ割合ス。

一町步以上ヲ耕作スル農家分布ノ狀況ハ北河內郡最多テアツテ總數一萬二千五十一戶ノ2.381%ヲ占メ、次ニハ三島郡19.43%、中河內郡12.39%、泉南郡11.58%、泉北郡10.26%、南河內郡9.51%、大

阪市7.48%、豐能郡5.25%、堺市0.19%、岸和田市0.10%等ニ該當ス。

二町歩以上耕作スル農家ハ總數千百四十六戸ニシテ泉南郡ハ總數ノ18.24%ヲ占メテ最多ニ、次ハ泉北郡16.58%、北河內郡15.01%、中河內郡14.57%、三島郡14.05%、大阪市11.08%、南河內郡7.16%、豐能郡2.79%、堺市0.52%等ニ割合シ、岸和田市皆無テアル。

三町歩以上ヲ耕作スル農家ハ堺岸和田市ニハナク、泉北郡ハ總數二百二戸ノ41.09%ヲ占メテ居リ、次カ泉南郡テ25.25%、南河內郡13.37%、中河內郡8.91%、三島郡5.44%、北河內郡2.97%、大阪市2.48%、豐能郡0.49%等ニ該當ス。

五町歩以上ヲ耕作スル農家ハ泉北郡ニ多ク總數ノ44.23%ヲ占メテ居リ、次ハ泉南郡26.92%、南河內郡9.62%、三島郡、北河內郡各7.69%、大阪市1.93%、中河內郡1.92%等ニ割合シ、堺、岸和田市、豐能郡ハ皆無テアル。

即チ大農ハ面積廣大ナル平坦地ノ泉北、泉南郡ニ多ク、中農ハ北河內、中河內郡ニ多クシテ、小農ニ在リテハ山間部ノ多キ南河內、豐能郡ニ多キヲ示スノテアル。

農事ニ關スル教育ヲ受ケタル者

農事ニ關スル教育ヲ受ケタル者ノ總數ハ一萬九千五百四十七人テアル、之レヲ前年同一事實ニ比スレハ四分、五ケ年前タル大正十年ニ比シ五分六厘各々減少シテ居ル、十ケ年前タル大正五年ニ比スレハ八割二分九厘ノ增加テアル。尙教育ノ程度ニヨリ分節スレハ小學校程度ノ農事教育ヲ受ケタルモノハ總數ノ五割四分九厘ヲ占メテ最多テアル、次カ農事講習會又ハ之ニ準シタル講習ヲ受ケタル者ニシテ四割六厘、中學程度ノ農業教育ヲ受ケタルモノハ四分三厘テアル高等程度、大學程度ノ教育ヲ受ケタルモノハ各一厘ニ該當ス。

教育程度ニ分節シタル郡市分布ノ狀況ヲ觀察スレハ、小學校程度ノ教育ヲ受ケタルモノハ南河內郡最モ多クシテ總數一萬七百二十四人ノ21.87%ヲ占メテ居リ、次ハ泉南郡21.86%、中河內郡13.49%、泉北郡13.35%、豐能郡10.92%、三島郡8.25%、北河內郡5.14%、大阪市5.14%等ニ割合スル。

中學程度ノ農事教育ヲ受ケタルモノハ南河內郡最モ多ク總數ノ18.64%ヲ占メ、次ハ豐能郡16.27%、泉北郡16.16%、南河內郡12.97%、三島郡11.20%、北河內郡10.14%、中河內郡8.73%、大阪市4.9.%、堺市0.59%、岸和田市0.35%等ニ割合ス。

高等程度ノ教育ヲ受ケタルモノハ僅カニ二十四人ニシテ三島郡ノ八人最モ多ク、泉北、中河內郡之ニ亞イテ各四人、大阪市、豐能郡、北河內郡各二人、岸和田市、泉南郡ハ各一人テアル。

大學程度ニ在リテハ二十二人ノ內八人ハ三島郡ニシテ最多ニ次ハ泉北、南河內、北河內郡各三人之ニ亞イテ多ク、大阪市二人、豐能、泉南、中河內郡各一人ハ最少テアル。農事講習會又ハ之ニ準シタル講習ヲ受ケタルモノハ泉北郡ニ最モ多クシテ總數七千九百二十九人ノ20.03%ヲ占メ、次ハ北河內郡17.09%、南河內郡15.45%、中河內郡13.41%、豐能郡9.85%、三島郡8.80%、泉南郡8.79%、大阪市5.11%、岸和田市0.92%、堺市0.55%等ニ割合シテ居ル。

耕　地

自作及小作田畑段別大正十四年末耕地總段別ハ六萬三千三百五十町二段歩テアル、田ハ其ノ八割一分八厘、畑ハ一割八分二厘テアル、田ノ中三割三分七厘ハ自作地テ、六割六分三厘ノ大部分ハ小作地テアル、畑ノ中四割八分五厘カ自作地テ小作地ハ五割一分五厘ニ割合シテ居ル。

自作地ノ田ヲ前年事實ニ比スレハ一分七厘ヲ減シ、五ケ年前ナル大正十年ニ比スレハ四分、十ケ年前ナル大正五年ニ比スレハ七分四厘ノ減退ニ當ル。自作地ノ畑ハ前年事實ニ比シ一分五厘ヲ減シ、五ケ年前タル大正十年ニ比スレハ一厘ヲ增加ス、十ケ年前ナル大正五年ニ比スレハ一割八分六厘ノ減少ニ當ル。小作地田ヲ前年事實ニ比スレハ一分七厘、五ケ年前ナル大正十年ニ比スレハ二分七厘、十ケヲ遡リ大正五年ニ比スレハ三分八厘等何レモ減退テアル。小作地畑ヲ前年事實ニ比スレハ四分八厘ヲ減シ、五ケ年前ナル大正十年ニ比スレハ一割一厘、十ケ年前ナル大正五年ニ比スレハ一割二分八厘等何レモ減退ヲ示シテ居ル。

尙之カ最近十ケ年ニ於ケル增減ノ狀況ヲ大正五年ヲ百トシタル各年ノ指數ニヨリ對比スレハ自作地田ニ在リテハ六年九十九、七年百、八年九十八、九、十年各九十六、十一、十二、十三年各九十四、十四年九十三ニ該當スル。自作地ノ畑ニ在リテハ大正六年九十六、七年八十四、八年八十三、九、十年各八十一、十一年八十、十二年八十一、十三年八十二、十四年八十一ニ該當ス。

小作地ノ田ハ大正六年百、七年九十八、八年、九年各百、十年九十九、十一年九十八、十二年九十七十三年九十八、十四年九十六ニ該當スル。小作他畑ニ在リテ六年百、七年百三、八年百一、九年百、十年九十七、十一年九十五、十二年九十三、十三年九十二、十四年八十七ニ該當シ各年遞減著シキヲ見ル。耕地ノ郡市ニ於ケル割合ハ自作田ニ在リテハ南河內郡最モ多クシテ總數ノ16.62%ヲ占メテ居ル、次ハ三島郡ノ16.21%、泉南郡ノ15.25%、北河內郡13.89%、泉北郡ノ12.69%、中河內郡11.23%豐能郡8.52%、大阪市4.33%堺市0.97%岸和田市0.29%等ニ割合ス。小作地田ハ北河內郡最モ多クシテ總數ノ17.09%ヲ占メ、次ハ中河內郡16.51%、三島郡14.44%、南河內郡14.42%、泉南郡11.72%、泉北郡9.05%、大阪市8.93%、豐能郡6.99%、堺市0.43%、岸和田市0.22%等ニ該當ス。

自作地畑ノ郡市ニ於ケル割合ハ泉北郡總數ノ26.70%ヲ占メテ最モ多ク次ハ泉南郡16.90%、南河內郡13.66%、北河內郡11.44%、豐能郡9.30%、中河內郡9.09%、三島郡6.09%、大阪市4.86%、堺市1.87%、岸和田市0.09%等ニ該當ス。小作地畑ニ在リテハ泉北郡最モ多クシテ總數ノ19.56%ヲ占メ、次ハ大阪市17.72%、中河內郡16.77%、南河內郡13.77%、北河內郡10.04%、泉南郡8.43%、豐能郡5.90%、三島郡5.76%、堺市1.74%、岸和田市1.74%等ニ該當スル。

一毛作及裏作田段別　一毛作、二毛作ニ分チタル田耕地ノ面積ハ五萬八百三町六段歩テアル、一毛作田ハ面積三割三分一厘ニ當リ、二毛作田ノ面積ハ六割六分九厘ノ割合トナル。

一毛作田ノ中三分六厘ハ桑樹、果樹其ノ他樹木ヲ植エタルモノニシテ、其ノ他ノ一毛作田ハ九割六分四厘ニ割合ス。

二毛作田ハ普通裏作九割七分二厘、綠肥裏作二分八厘ニ割合シテ居ル。

總數ヲ前年事實ニ比スレハ一分八厘ヲ減シ、五ケ年前タル大正十年ニ比スレハ四分五厘、十ケ年前タル大正五年ニ比スレハ六分八厘等何レモ減少トナツテ居ル。

一毛作田ヲ前年ノ事實ニ比スレハ九厘ヲ增シ、五ケ年前タル大正十年ニ比スレハ七分、十ケ年ヲ遡リ大正五年ニ比スレハ一割六厘等何レモ增加シテ居ル。

二毛作田ニ在リテハ前年ニ比シ三分一厘ヲ減シ、五ケ年前タル大正十年ニ比スレハ九分五厘ノ減退ニ

當リ、十ケ年前タル大正五年ニ比スレハ一割三分九厘ヲ減少ス。

即チ一毛作田ハ遞増シ、二毛作田ハ遞減ノ狀勢トナル、尙此ノ増減ノ狀況ヲ明ニスル爲大正五年ヲ百トシタル各年ノ指數ヲ求メ對比スルト一毛作田ニ在リテハ大正六年九十八、七年百二、八年百四、九年百二、十年百四、十一年、十二年各百九、十三年百十一、十四年百十二ニ該當シ、大正六年ヨリ遞増ノ現象ヲ示シテ居ル。

二毛作田ニ在リテハ大正六年百一、七年、八年各九十七、九年九十六、十年九十五、十一年九十、十二年八十九、十三年八十九、十四年八十六ニ該當シ、一毛作田ニ比シ正反對ノ各年遞減ノ現象ヲ示シテ居ル。

總數ニ在リテハ大正六年百、七、八年九十九、九、十年各九十八、十一、十二、十三年各九十五、十四年九十三ニ該當シ、一高一低スルト雖モ大勢ハ耕地遞減ノ現象ヲ示シテ居ル。

一毛作田ニ於ケル郡市分布ノ狀況ハ三島郡最モ多クシテ總數ノ24.77%ヲ占メ、次ハ北河内郡20.91%中河内郡19.06%、大阪市13.45%、泉南郡6.35%南河内郡5.38%、豐能郡5.08%、泉北郡4.88%、堺市0.12%等ニ該當ス。

二毛作田ニ在リテハ南河内郡最モ多ク總數ノ20.55%ヲ占メ、次ハ泉南郡16.56%、北河内郡14.12%、中河内郡12.03%、泉北郡11.90%、三島郡10.66%、豐能郡8.77%、大阪市4.42%、堺市0.61%、岸和田市0.38%等ニ該當シテ居ル。

一毛作、二毛作ノ總數ニ在リテハ北河内郡最モ多ク總數ノ16.37%ヲ占メ、次ハ南河内郡15.53%、三島郡15.33%、中河内郡14.36%、泉南郡13.18%、泉北郡9.58%、豐能郡7.55%、大阪市7.41%、堺市0.44%、岸和田市0.25%等ニ該當ス。

耕地整理

事業完了　明治三十七年始メテ耕地整理組合ヲ設置セラレテヨリ該事業ヲ着手シ其ノ後管下ニ於テ事業完了シタル段別總數ハ八百三十七町歩ニシテ本年末耕地總段別ノ一分三厘ニ對合ス。

組合數ハ三十ニシテ前年ニ比シ五組合ヲ増加ス、即チ五組合ハ本年事業ノ完了シタルモノデアル。各郡中泉北郡ノ七組合ハ最多ニシテ、大阪市ノ五組合之ニ亞キ、三島、南河内郡各四組合、豐能、泉南北河内郡ノ各三組合ハ又其ノ次ニ　中河内郡ノ一組合ハ最少デアル。

完了シタル面積ノ各郡對合ハ大阪市最多デアツテ總數ノ28.83%ヲ占メ、次ハ三島郡21.84%、北河内郡13.07%、泉北郡12.93%、泉南郡9.50%、豐能郡7.68%、南河内郡3.08%、中河内郡3.07%等ニ該當ス。

工事完了　始業以來本年度末迄ニ工事ヲ完了シタル面積ハ千六百七町三段歩テ、年末現在耕地總面積ノ二分五厘ニ對合ス。

該事業ヲ經營スル組合數ハ四十ニシテ前年ニ比ヲ八組合ノ増トナル、郡市ニ在リテハ三島郡ノ九組合最モ多ク、次ハ泉南郡ノ八組合、泉北郡七組合モ又多ク、南河内郡五組合、中河内郡四組合、豐能、北河内郡各三組合、大阪市一組合ハ最少ナリ。

工事完了面積ノ各郡市ノ對合ハ泉北郡總面積ノ24.78%當ニリテ最モ多ク、次ハ三島郡ノ20.77%、中河内郡15.42%、北河内郡12.69%、豐能郡10.98%、泉南郡8.35%、南河内郡5.04%、大阪市1.97%等

ニ該當ス。

工事費ハ決算額ハ六十二萬七千四百五十二圓ニシテ之レヲ當初豫算ニ比スレハ五分四厘ノ増加ニ當ル各郡ニ於ケル支出對合ハ三島郡ハ施行地區面積ノ廣大ナル關係上總額ノ37.40%ヲ占メ、次ハ泉北郡19.66%、中河内郡18.88%、泉南郡10.26%、北河内郡4.90%、豐能郡4.48%、南河内郡3.21%、大阪市1.21%等ニ該當ス。

工事中　工事中ニ屬スルモノハ五十二組合、面積四千四百十八町二反歩ニシテ之レヲ前年事實ニ比スレハ十二組合、面積二割七分二厘ヲ増加ス。

組合ハ中河内郡ノ十一組合最モ多ク、次ハ大阪市ノ九組合、三島郡ノ七組合、泉南郡ノ六組合、豐能北河内郡ノ各五組合、泉北郡ノ四組合、南河内郡ノ三組合、岸和田市ノ二組合ハ最少デアル。

面積ノ各郡市ノ對合ハ中河内郡最多ニシテ總面積ノ37.15%ヲ占メ、次ハ大阪市21.71%、北河内郡19.47%、三島郡6.94%、豐能郡6.71%、泉南郡3.69%、泉北郡2.54%、岸和田市1.04%、南河内郡0.75%等ニ該當ス。

工事費豫算額二百十四萬六千五百九十四圓ノ各郡市ニ於ケル對合ハ大阪市ハ總數ノ48.20%ヲ占メテ最モ多ク、次ハ中河内郡26.29%、北河内郡8.91%、豐能郡3.94%、三島郡3.76%、泉北郡2.81%、泉南郡2.76%、南河内郡1.87%、岸和田市1.46%等ニ該當スル。

産米檢査ノ成績　年中ニ檢査シタル總數ハ百四十三萬三千六百八十七俵ニシテ其ノ九割七厘一厘ハ檢査ニ合格シ、二分九厘ハ不合格數デアル、總檢査俵數ヲ前年ノ事實ニ對比スルト二割五分ヲ増シ、五ケ年前ナル大正十年ニ比スレハ三分二厘ヲ増加シ、十ケ年前タル大正五年ニ比スレハ二割六分三厘ノ減退ナリ。各郡市ニ於ケル檢査總俵數ノ對合ハ三島郡最多ニシテ21.27%ヲ占メ、次ハ北河内郡19.28%、南河内郡13.50%、中河内郡12.54%、泉南郡11.04%、泉北郡7.95%、豐能郡7.76%、大阪市5.87%、岸和田市0.49%、堺市0.30%等ニ該當ス。

受檢俵數千中合格數ハ九百七十一俵ニシテ前年ニ比シ少シク良好デアル、郡市中最モ良好ナル成績ヲ示スハ三島、南河内郡ノ九割八分九厘テ、次ハ豐能、北河内郡ノ九割八分六厘、泉北郡ノ九割八分三厘、泉南郡ノ九割七分九厘、堺市ノ九割五分八厘、岸和田市ノ九割五分六厘、中河内郡九割二分六厘大阪市ノ八割七分五厘等ニ當ツテ居ル。

農産物價額累年比較　本年中ニ於ケル農産物ノ總價額ハ六千百三十八萬九千九百十一圓ニシテ、之レヲ前年同一事實ニ對比スレハ七分一厘ヲ増シ、五ケ年前タル大正十年ノ事實ニ比スレハ七厘ヲ増加シ十ケ年ヲ遡リ大正五年ノ事實ニ對比スレハ十一割二分八厘ノ増加ニ當ツテ居ル。

總數ヲ九大分類ニ分節比ヲ求ムルト農産物中米ハ主ニシテ總數ノ69.41%ヲ占メテ最モ多ク、次ハ園藝農産物ノ17.50%、麥7.95%、食用農産物2.43%、工藝農産物1.28%、苗木0.96%、藺0.38%、綠肥用作物0.10%、蜜蜂0.01%等ニ對合ス。

今之等各種ノ最近十ケ年間ニ於ケル増減ノ狀況ヲ大正五年ヲ百トシタル各年ノ指數ニ依リ對比研究スルナラハ、米ニ在リテハ大正六年九十八、七年百七十九、八年三百、九年三百六、十年百九十七、十一年百七十二、十二年百九十一、十三年百八十八、十四年二百六トナリ、大正五年ヨリ九年迄ハ著シキ増加ヲ示シ、十年ヨリ減退ノ狀態トナツテ、十二年ヨリ十四年迄ハ増加ノ現象ヲ示シテ居ル。

麥ニ在リテハ大正六年百七十九、七年二百七十六、八年三百三十七、九年六百七十五トナリ甚シク增加ヲ示シ、以降十年百八十三、十一年百十九、十二年百六、十三年百二十八、十四年百九十一ニ該當シ減退ノ現象ヲ示シテ居ル。

食用農產物ハ大正六年百十一、七年二百五、八年三百六十六、九年三百四十二、十年三百十一、十一年百八十九、十二年二百二、十三年百六十九、十四年百八十三ニ該當ス。

園藝農產物ニ在リテハ大正六年百二十二、七年百八十九、八年二百五十六、九年二百九十、十年二百八十五、十一年三百十一、十二年二百九十六、十三年三百九、十四年二百六十四ニ該當ス。

工藝農產物ニ在リテハ大正六年百三十六、七年百八十九、八年ニハ六百二十四ノ著シク增加ヲ示シ以降遞減ノ現象ヲ示シテ九年ニハ二百十一、十年百六十、十一年九十六、十二年八十八、十三年百十、十四年百十九ニ該當ス。

絲肥用作物ニ在リテハ大正五年以前調査ヲ缺ケルヲ以テ六年ヲ百トスレハ大正七年百一、八年百三十六、九年百十三、十年百十四、十一年百三、十二年百七十一、十三年百八十九、十四年百三十六ニ該當ス。

苗木ハ大正六年百十四、七年百六十三、八年八百二十、九年八百八十七、十年七百六十四トナリ、十一年ヨリ觀賞樹ノ調査セラレタル關係上甚シク增加シ千六百九十四トナリ、十二年千六百六十七、十三年千六百十五、十四年三千九十八ニ該當ス。

繭ニ在リテハ大正六年百七十、七年二百四十六、八年三百五十二、九年二百十八、十年二百三十八、十一年三百四、十二年三百九十七、十三年二百五十九、十四年四百五十九ニ該當ス。

蜜蜂ハ大正十一年ヨリ調査セラレ產額僅少テアツテ一高一低ノ現象ヲ示シテ居ル。

總額ニ在リテハ大正六年百十、七年百九十、八年三百七、九年三百十五、十年二百十一、十一年百八十七、十二年百九十八　十三年百九十九、十四年二百十三ニ該當シ大正五年以降九年迄ハ遞增シ以降遞減ノ現象ヲ示シテ居ル。

農產物價額郡市別　總數ノ郡市生產ノ割合ハ南河內郡最モ多ク15.25%ヲ占メ、次ハ北河內郡15.07%中河內郡14.95%、泉南郡13.66%、三島郡13.49%、泉北郡11.35%、豐能郡7.95%、大阪市7.37%、堺市0.59%、岸和田市0.32%等ニ割合ス。

米ノ價額ハ北河內郡最多ニシテ總額ノ17.39%ヲ占メ、次ハ三島郡16.32%、中河內郡15.14%、南河內郡14.19%、泉南郡11.54%、泉北郡10.29%、豐能郡7.50%　大阪市6.99%、堺市0.34%、岸和田市0.30%等ニ割合ス。

麥價額ハ南河內郡首位ニシテ總額ノ18.01%ヲ占メ、次ハ北河內郡16.29%、泉北郡15.84%、泉南郡14.15%、中河內郡11.54%、三島郡9.89%、大阪市6.80%、豐能郡6.60%、岸和田市0.47%、堺市0.41%等ニ該當ス。

食用農產物ニ在リテハ泉北郡最モ多クシテ總額ノ21.30%ヲ占メ、次ハ北河內郡ノ19.73%、中河內郡ノ18.38%、南河內郡16.07%、泉南郡7.30%、三島郡6.74%、豐能郡6.40%、大阪市 3.87%、堺市16%、岸和田市0.05%等ニ割合ス。

園藝農產物ニ在リテハ泉南郡總額ノ24.29%ヲ占メテ最モ多ク、次ハ南河內郡19.11%、中河內郡17.23%、泉北郡10.42%、大阪市10.18%、豐能郡6.33%、三島郡5.61%、北河內郡4.72%、堺市1.78%、岸和田市0.33%等ニ該當ス。

工藝農產物ニ在リテハ泉北郡最モ多クシテ總數ノ42.85%ヲ占メ、次ハ三島郡16.88%、北河內郡14.68%、豐能郡11.02%、大阪市6.20%、南河內郡4.49%、中河內郡1.95%、岸和田市1.47%、泉南郡0.45%該當ス。

絲肥用作物ニ在リテハ南河內郡最モ多クシテ總數ノ35.97%ヲ占メ、次ハ豐能郡22.16%、泉北郡14.18%、泉南郡13.53%、三島郡11.13%、北河內郡2.73%、中河內郡0.27%、大阪市0.03%等ニ該當ス。

苗木ニ在リテハ豐能郡最多ニシテ總額ノ77.85%ヲ占メテ最モ多ク、次ハ南河內郡8.37%、中河內郡4.51%、泉南郡3.93%、泉北郡2.76%、大阪市2.44%、三島郡0.10%、北河內郡0.04%等ニ割合ス。

繭ハ北河內郡總額ノ56.40%ヲ占メ最多ニシテ、次ハ南河內郡ノ16.93%、豐能郡12.87%、泉南郡7.77%、泉北郡5.80%、三島郡0.73%等ニ該當ス。

蜜蜂ハ泉南郡最多ニシテ總數ノ55.56%ヲ占メ、次ハ豐能郡17.07%、泉北郡11.18%、南河內郡8.16%北河內郡3.40%、三島郡2.82%、大阪市0.81%等ニ該當ス。

以上ニ依リ之カ狀勢ヲ對比研究スレハ米ハ北河內郡最多ニ、麥ハ南河內郡、食用農產物ハ泉北郡、園藝農產物ハ泉南郡、工藝農產物ハ泉北郡、絲肥用作物ハ南河內郡、苗木ハ本邦三大產地ノ一ナル豐能郡、繭ハ北河內郡、蜜蜂ハ泉南郡首位ヲ占ムル等各郡市ニ依リテ其ノ特質ヲ現ハシテ居ル。

米作付段別及收穫高累年比較

本年米作付段別ノ總數ハ四萬五千三百五十八町二段歩テアル、粳米ハ其ノ九割四分一厘ナル四萬二千六百七十六町四段歩、糯米ハ二千六百七十二町四段歩ニシテ五分九厘、陸米ハ僅少テ九町四段歩ニ當ツテ居ル。

總數ヲ前年事實ニ比ヘルト五分八厘ヲ減シ、五ケ年前ナル大正十年ニ比スレハ一割三分ノ減退ニ當リ十ケ年ヲ遡リ大正五年ニ比スレハ一割六分一厘ヲ減少ス、尙大正五年ヲ百トセル各年ノ指數ヲ算出對比スレハ六、七、八年各九十九、九年九十八、十年九十六、十一年八十七、十二、十三年各八十九、十四年八十四ニ該當ス。

更ニ之ヲ粳米、糯米、陸米ニ分チ其ノ增減ヲ對比スレハ作付段別ノ九割四分一厘ヲ占ムル粳米ニ在リテハ前年ニ比シ五分三厘、五ケ年前ナル大正十年ニ比シ一割三分五厘、十ケ年前タル大正五年ニ比シ一割五分八厘等何レモ減少ス。大正五年ヲ百トセル各年ノ指數ニヨリ對比スレハ六、七、八年各九十九、九年九十八、十年九十七、十一年八十六、十二、十三年各八十九、十四年八十四ニ該當シ各年漸減ノ現象ヲ示スノテアル。

糯米ノ作付反別ヲ前年事實ニ比スレハ一割三分四厘ヲ減シ、五ケ年前ナル大正十年ノ事實ニ比スレハ一割二分七厘、十ケ年前ナル大正五年ニ比スレハ一割七分六厘等何レモ減退ヲ示ス、尙大正五年ヲ百トシタル各年ノ指數ニヨリ對比スレハ六年百、七、八、九年各九十七、十年九十四、十一年九十五、十二年百、十三年九十五、十四年八十二ニ該當ス。

陸米ノ作付段別ヲ前年事實ニ比スレハ六割二分三厘ヲ增加シ、五ケ年前ナル大正十年ニ比スレハ七割三厘ヲ減シ、十ケ年前タル大正五年ニ比スレハ九割二分八厘ヲ減退スル。尙最近十ケ年ノ事實ヲ大正

五年ヲ百トシタル各年ノ指數ニヨリテ對比スルト大正六年六十七、七年四十二、八年三十二、九年二十八、十年二十四、十一年二十六、十二年八、十三年一、十四年七トナリテ各年甚シキ減少チ示シテ居ル。

收穫高　本年收穫高總數百十二萬六千百七十五石ノ九割四分四厘ニ當ル百六萬三千三百七十九石ハ糓米テアル、糯米ハ六萬二千六百五十石ニテ總數ノ五分六厘ニ當ツテ居ル、陸米ハ僅ニ百四十六石テアル、總數ヲ前年事實ニ比スレハ一割八分八厘ヲ增シ、五ケ年前ナル大正十年ニ比ヘルト六分五厘ヲ增加シ、十ケ年前ナル大正五年ニ比スレハ一割三分八厘ノ減退テアル、尙最近十ケ年ノ狀況ヲ大正五年ヲ百トシタル各年ノ指數ニヨリテ對比スレハ大正六年八十三、七年八十七、八年百二、九年百五、十年八十一、十一年九十七、十二年八十五、十三年七十三、十四年八十六ニ該當ス。即チ大正八、九年ハ特ニ豊作ニシテ、各年漸減ノ現象ヲ示シテ居ル、尙增減ノ狀況ヲ糓米、糯米、陸米ニ分チテ略說スレハ、

總收穫高ノ九割四分四厘ヲ占ムル糓米收穫高ヲ前年ノ事實ニ比ヘルト一割九分一厘ヲ增加ス、五ケ年前ノ大正十年ニ比シ六分五厘ヲ增加ス、十ケ年前ナル大正五年ニ比シ一割三分六厘ノ減少テアル、尙大正五年ヲ百トシタル各年ノ指數ニ依リ最近十ケ年中ノ增減狀況ヲ對比スルト大正六年八十三、七年八十七、八年百二、九年百五、十年八十一、十一年九十六、十二年八十四、十三年七十三、十四年八十六ニ該當ス。

糯米ノ收穫高ヲ前年事實ニ比ヘルト一割三分五厘、十ケ年前ナル大正十年ニ比スルト六分七厘各增加ス、十ケ年ヲ遡リ大正五年ニ比スレハ一割四分八厘ノ減退トナル、尙此ノ增減狀況ヲ大正五年ヲ百トシタル各年ノ指數ニ依リ對比研究スルト大正六、七年各八十六、八年百、九年百三、十年八十、十一年百五、十二年九十五、十三年七十五、十四年八十五ニ該當ス。

陸米ハ各年增減ノ差甚シクシテ大正五年ヲ百トシタル指數ニヨリ對比スルト、六年六十、七年三十七八年三十二、九年二十八、十年十九、十一年二十一、十二年八、十三年一、十四年百七トナル。

平均一段步收穫高　粳米ノ平均一段步收量ハ二石四斗九升二合テアル、之レヲ前年ノ事實ニ比スレハ二割五分八厘、五ケ年前ナル大正十年ニ比スレハ二割三分二厘、十ケ年前ナル大正五年ニ比スレハ二分六厘ヲ各々增加ス。

糯米ノ一段步收量二石三斗四升四合ヲ前ノ事實ニ比スレハ三割一分、五ケ年前ナル大正十年ニ比シ二割二分三厘、十ケ年ヲ遡リ大正五年ニ比スルト三分四厘ヲ各增加ス。

陸米一段步收量一石五斗五升三合ヲ前年事實ニ比スレハ十二割四分四厘ヲ增シ、五ケ年前ナル大正十年ニ比ヘルト二割五分五厘ヲ增加シ、十ケ年前タル大正五年ノ事實ニ對比スレハ五厘ノ增加トナル。

即チ粳米、糯米、陸米共ニ本年ハ著シキ增收ナルコトヲ示シテ居ル。

米作付段別及收穫高價額郡市別

作付段別　粳粳米ノ作付段別四萬二千六百七十六町四段步ノ郡市作付シタル割合ハ北河內郡最モ多クシテ總數ノ16.78%ヲ占メテ最モ多ク、次ハ三島郡15.82%、中河內郡14.86%、南河內郡14.37%、泉南郡12.49%、泉北郡10.37%、豐能郡7.45%、大阪市7.22%、堺市0.37%、岸和田市0.30%等ニ該當ス。

糯米作付段別ハ南河內郡最モ多クシテ總數二千六百七十二町四段步ノ16.18%ヲ占メ、次ハ泉南郡15.76%、中河內郡14.77%、北河內郡13.00%、三島郡12.99%、泉北郡11.27%、豐能郡7.68%、大阪市7.61%、岸和田市0.49%、堺市0.28%等ニ該當ス。

陸米ハ作付段別僅カ九町四段步ニシテ泉南郡最モ多ク39.36%ヲ占メ、次ハ北河內郡21.28%、大阪市13.83%　豐能郡7.45%、泉北、中河內郡各6.38%、三島郡3.19%、南河內郡2.13%等ニ該當ス。

收穫高　粳米收穫高百六萬三千三百七十九石ノ各郡市收穫シタル割合ハ北河內郡最モ多クシテ17.59%ヲ占メ、次ハ三島郡16.45%、中河內郡15.39%、南河內郡14.19%、泉南郡11.11%、泉北郡9.74%豐能郡7.62%、大阪市7.24%、堺市0.37%、岸和田市0.30%等ニ該當ス。

糯米收穫高六萬二千六百五十石ノ郡市收穫シタル割合ハ南河內郡16.42%ニシテ最モ多ク、次ハ中河內郡15.61%、泉南郡14.79%、北河內郡13.76%、三島郡13.19%泉北郡10.35%、豐能郡7.84%大阪市7.32%、岸和田市0.46%堺市0.26%等ニ該當スル。

陸米ノ收穫高百四十六石テ郡市收穫シタル割合ハ泉南郡最モ多クシテ30.82%ヲ占メ、次ハ北河內郡23.29%、大阪市17.81%　泉北、中河內郡各8.22%、三島郡4.79%　豐能部4.11%　南河內郡2.74%ニ該當シテ居ル。

價　額　本年收穫シタル米ノ評價ハ四千二百六十一萬千二百六十二圓テアル、其ノ九割四分ハ粳米ノ評價ニ當リ、六分ハ糯米ノ評價テ、陸米ハ極メテ僅少テアル。

粳米評價ヲ郡市ニ百分比ヲ求ムレハ北河內郡ハ最多テ總數ノ17.60%ヲ占メ、次ハ三島郡16.54%、中河內郡15.11%、南河內郡14.06%、泉南郡11.34%、泉北郡10.26%、豐能郡7.49%、大阪市6.97%、堺市0.34%、岸和田市0.29%ニ該當スル。

糯米ノ價額ニ在リテハ作付段別、收穫高ノ多キ南河內郡最多ニシテ總額ノ16.25%ヲ占メ次ハ中河內郡15.65%、泉南郡14.78%、北河內郡13.93%、三島郡12.95%、泉北郡10.86%、豐能郡7.64%、大阪市7.23%、岸和田市0.45%、堺市0.26%等ニ該當ス。

陸米價額ハ泉南郡最多テ總額ノ31.85%ヲ占メ次ハ北河內郡21.51%、大阪市19.25%、中河內郡7.53%泉北郡7.46%、三島郡5.87%、豐能郡4.05%、南河內郡2.48%等ニ該當スル。

平均一段步收穫高　粳米ノ本年一段步收穫高ハ二石四斗九升二合テアル、之ヲ前年同一事實ニ比スレハ二割五分九厘ノ增加テアル、郡市ニ在リテハ北河內郡二石六斗一升二合ハ最モ多ク、次ハ三島郡二石五斗九升二合モ亦多ク、其ノ他ハ主トシテ二石三、四斗ニシテ中河內郡、豐能郡、堺市、大阪市岸和田市、南河內郡、泉北郡ノ順ヲナシ、泉南郡ノ二石二斗二升一合ハ最少量ノ收穫高テアル。

糯米ノ本年平均　一段步收量ハ二石三斗四升四合テアル、之ヲ前年同一事實ニ比スレハ三分一厘ノ增加テアル、郡市ニ於ケル狀況ハ北河內郡ノ二石四斗八升一合ハ最多テ、中河內郡ノ二石四斗七升九合之ニ亞キ、其ノ他ノ郡市ハ概ネ二石二、三斗ニシテ豐能郡、三島郡、南河內郡、岸和田市、大阪市、堺市、泉南郡ノ順ヲナシ、泉北郡ノ二石一斗五升二合ハ最少ノ收穫テアル。

陸米ノ一段步收量一石五斗五升三合ニ當リ、前年ニ比シ十二割四分六厘ノ增加テアル、三島郡ノ二石五斗ハ最多ニシテ泉北、南河內、中河內郡ノ二石之ニ亞キ、豐能郡ノ八斗三升三合ハ最少量テアル。

麥作付段別及收穫高累年比較　本年麥作付總段別ハ一萬五千九百九十五町七段步ナリ、裸麥ハ其ノ

七割四分五厘ニ當リテ最モ多ク大麥ハ一割八分一厘、小麥七分四厘ニ割合ス。

總數ヲ前年ノ事實ニ比スレハ二厘ヲ減シ、五ケ年前タル大正十年ニ比シ三割九分五厘ヲ減少シ、十ケ年前タル大正五年ニ比スレハ四割七分四厘ノ減退テアル。

前說セル如ク本府ハ商工業進展ノ關係上年々耕地減退ノ趨勢ニアルモノナレハ、麥作ニ於ケルモ之等ノ現象現レツヽアリ、今大正五年ヲ百トシタル各年ノ指數ヲ算出シ、之カ增減ノ狀況ヲ對比スレハ大正六年九十六、七年九十五、八年九十二、九年九十一、十年八十七、十一年五十六、十二年五十二、十三、十四年各五十三ニ該當ス。

即チ大正五年ヨリ遞減シ十一年ヨリハ急激ニ減退ヲ示シテ、大正五年作付ノ半トナル。以下種類ニヨリ概說スレハ大麥ノ作付段別二千八百九十三町八段歩ニシテ前年事實ニ比スレハ一割二分四ヲ增加シ五ケ年前ナル大正十年ニ比スレハ一割六分二厘ヲ減シ、十ケ年前ナル大正五年ニ比スレハ二割九分四厘ノ減退ニ當ル。

尙最近十ケ年ニ於ケル增減狀況ヲ大正五年ヲ百トセル各年ノ指數ニヨリ對比スレハ大正六年八十四、七年九十一、八年九十三、九年八十八、十年八十四、十一、十二年各七十、十三年六十三、十四年七十一ニ該當シ遞減ノ現象ヲ示セリ。

稞麥ニ在リテハ其ノ作付段別一萬千九百二十町八段歩ニシテ之ヲ前年事實ニ比スレハ二分二厘ヲ減シ五ケ年前ナル大正十年ニ比スレハ四割三分四厘ヲ減シ、十ケ年前ナル大正五年ニ比スレハ五割ノ減退ニ當ル、尙最近十ケ年ニ於ケル增減ノ狀況ヲ大正五年ヲ百トシタル各年ノ指數ニヨリ對比スレハ六年九十八、七年九十五、八、九年各九十二、十年八十八、十一年五十四、十二年五十、十三年五十一、十四年五十ニ該當シ、即チ各年遞減殊ニ大正十一年ヨリ其ノ減退著大ナルヲ示セリ。

小麥作付段別千百七十八町八段歩ヲ前年ノ事實ニ比ヘルト六分八厘ヲ減シ、十ケ年前タル大正十年ニ比スレハ三割七分八厘ヲ減シ、十ケ年前タル大正五年ニ比スレハ五割二分一厘ノ減退トナル、尙大正五年ヲ百トシタル各年ノ指數ニヨリ之カ增減ノ狀況ヲ觀レハ、大正六年百六、七年百四、八年八十九九年八十二、十年七十七、十一年四十六、十二年四十八、十三年五十一、十四年四十八ニ該當ス、即チ大正五年以降遞減ノ現象ヲ示シ、十一年ヨリ其ノ減退著大ナルヲ示セリ。

收穫高　收穫高ハ三十萬七千九百九十八石ナリ、其ノ內稞麥ハ六割九分八厘、大麥ハ二割四分三厘小麥ハ五分九厘ニ割合セリ、總數ヲ前年事實ニ比スレハ四割一分七厘ヲ增加シ、五ケ年前ナル大正十年ニ比スレハ二分八厘ヲ減シ、十ケ年ヲ遡リ大正五年ニ比スレハ三割一分六厘ノ減退ヲ示シテ居ル。

尙之等增減ノ狀況ヲ大正五年ヲ百トセル各年ノ指數ニヨリ對比スルト大正六年九十四、七年九十五、八年八十四、九年九十、十年七十、十一年五十二、十二年四十五、十三年四十八、十四年六十八ニ該當ス。即チ大正五年ヨリ九年ニ至ル間ハ一高一低ノ現象ヲ示シ、十年以降ハ遞減ノ率急ナルヲ示セリ更ニ各種類ニ付增減ノ狀況ヲ概說スレハ本年大麥ノ收穫高七萬四千七百四十八石ナリ、之レヲ前年事實ニ比スレハ七割五分ヲ增シ、五ケ年前ナル大正十年ニ比ヘルト三割九分一厘ヲ增加シ、十ケ年前ナル大正十年ニ比スレハ一割九分九厘ノ減退ニ當ル、尙此ノ增減ノ詳細ヲ大正五年ヲ百トセル各年ノ指數ニヨリ對比研究スレハ、大正六年八十一、七年七十五、八年八十一、九年八十二、十年六十、十一年五十九、十二年五十三、十三年四十八、十四年八十三ニ該當ス。

稞麥ノ收穫高二十一萬四千九百五十二石ヲ前年ノ事實ニ比スレハ二割六分三厘ヲ增シ、五ケ年前タル大正十年ニ比スレハ一割一分三厘ヲ減シ、十ケ年前ナル大正五年ニ比スレハ三割四分五厘ノ減退ニ當ル、尙之等增減ノ狀況ヲ大正五年ヲ百トセル各年ノ指數ニ依リ對比スレハ六年九十七、七年百、八年八十五、九年九十四、十年七十四、十一年五十一、十二年四十三、十三年四十八、十四年六十六ニ該當ス。

小麥ノ收穫高一萬八千二百五十三石ヲ前年ノ事實ニ比スレハ一割六分六厘ヲ增加シ、五ケ年前ナル大正十年ニ比スレハ二割二分ヲ減シ、十ケ年前ナル大正五年ニ比スレハ四割四分六厘ノ減退テアル、尙此ノ增減ノ詳細ヲ大正五年ヲ百トセル各年ノ指數ニヨリ對比研究スレハ大正六年九十九、七年百、八年八十、九年七十八、十年六十三、十一年四十四、十二年四十二、十三年四十八、十四年五十五ニ該シ、各年遞減ノ現象ヲ示セリ。

麥作付段別及收穫高、價額郡市別

作付段別　前述セル如ク、本年麥作付段別ハ一萬五千九百九十五町七段歩、其ノ內田ハ八割五分一厘畑一割四分九厘ニ割合ス、田ノ內大麥ハ一割九分四厘ノ作付ニ當リ、稞麥七割三分三厘、小麥七分三厘ニ割合シ、畑ニ在リテハ一割六厘ハ大麥ニ當リ、稞麥八割一分五厘、小麥七分九厘ニ割合ス

大麥作付段別二千八百九十三町八段歩ノ內91.27%ハ田ニ屬シ、畑ハ8.73%ニ割合ス、郡市作付ノ割合ハ北河內郡ハ總數ノ68.90%、ヲ占メテ最モ多ク、次ハ豐能郡16.04%、三島郡7.25%、泉南郡6.08%中河內郡1.64%、大阪市0.06%、泉北郡0.03%ニ該當ス。

稞麥ニ在リテハ作付段別一萬一千九百二十町八段歩ノ內田ハ83.78%、畑ハ16.22%ニ割合シ、郡市作付ノ割合ハ南河內郡最モ多クシテ總數ノ22.89%ヲ占メ、次ハ泉北郡21.29%、泉南郡15.88%、中河內郡15.53%、三島郡9.38%、大阪市7.48%、豐能郡4.11%　北河內郡2.52%、堺市0.48%、岸和田市0.44%ニ該當ス。

小麥ニ在リテハ作付段別千百七十八町八段歩ノ內田ハ84.12%、畑ハ15.88%ニ割合ス、郡市作付ノ割合ハ豐能郡最多ニシテ總數ノ28.81%ヲ占メ、次ハ三島郡18.91%、北河內郡16.68%、泉北郡11.83%南河內郡11.57%、泉南郡7.44%、大阪市2.41%、中河內郡2.10%、岸和田市0.25%ニ該當ス。卽チ大麥ノ作付ハ北河內郡、豐能郡ニ多ク、稞麥ハ南河內郡、泉北郡ニ多ク、小麥ハ豐能郡、三島郡ニ多キヲ示セリ。

收穫高本年麥收穫高總數ハ三十萬七千九百九十八石ナリ、大麥ハ其ノ24.28%ニ當リ、稞麥ハ69.79%小麥ハ5.93%ニ割合スル。

總數ノ24.28%ヲ占ムル大麥ノ收量七萬四千七百四十八石ノ郡市生產ノ割合ハ北河內郡最モ多クシテ總數ノ75.79%ヲ占メ、次ハ豐能郡11.79%、三島郡6.69%、泉南郡3.92%、中河內郡1.72%、大阪市0.06%、泉北郡0.03%等ニ該當ス。

稞麥ノ收穫高二十一萬四千九百五十二石ノ郡市生產ノ割合ハ南河內郡最多ニシテ總數ノ22.23%ヲ占メ、次ハ泉北郡21.44%、泉南郡16.47%、中河內郡14.90%、三島郡9.56%、大阪市8.24%、豐能郡3.59%、北河內郡2.39%、堺市0.69%、岸和田市0.59%等ニ該當ス。

小麥ノ收穫高一萬八千二百五十三石ノ各郡市生產ノ割合ハ豐能郡最モ多クシテ總數ノ 27.03 %ヲ占メ

次ハ三島郡20.87%、北河內郡15.26%、泉北、南河內郡各11.92%、泉南郡7.86%、大阪市2.81%、中河內郡1.98%、岸和田市0.36%等ニ該當セリ。

價　額　本年收穫シタル麥ノ價額ハ四百八十七萬九千百五十二圓ナリ、內大麥價額ハ一割八分三厘稞麥七割五分、小麥六分七厘ニ割合ス。

大麥價額八十九萬二千六百七十圓ノ郡市分布ノ狀況ハ北河內郡最モ多クシテ、總數ノ73.85%ヲ占メ次ハ豐能郡10.67%、三島郡7.81%、泉南郡5.85%、中河內郡1.70%、大阪市0.08%、泉北郡0.04%等ニ該當ス。

稞麥ノ價額三百六十五萬七千三百七十三圓ノ各郡市所得ノ割合ハ南河內郡最モ多クシテ、總數ノ22.86%ヲ占メ、次ハ泉北郡20.08%、泉南郡16.75%、中河內郡14.79%、三島郡9.42%、大阪市8.79%、豐能郡3.83%、北河內郡2.36%、岸和田市0.58%、堺市0.54%ニ該當ス。

小麥ノ價額三十二萬八千四百九十一圓ノ各郡市所得ノ割合ハ、豐能郡26.41%、三島郡20.83%、北河內郡15.25%、南河內郡12.91%、泉北郡11.50%、泉南郡7.70%、大阪市2.87%、中河內郡2.11%、岸和田市0.42%ニ該當ス。

食用、園藝、工藝農產物價額累年比較

食用、園藝、工藝農產物ノ本年ニ於ケル總價額ハ千三百一萬三千八百二十一圓テアル、其ノ82.54%ハ園藝農產物價額ニ當リ、食用農產物ハ11.44%、工藝農產物ハ6.02%ニ割合ス。

總數ヲ前年事實ニ比スレハ一割一分五厘ヲ減シ、五ケ年前ナル大正十年ニ比スレハ一割四分四厘ノ減退ニ當リ、十ケ年前ナル大正五年ニ比スレハ十三割四分五厘ヲ增加ス、尙此ノ增減ノ狀況ヲ大正五年ヲ百トシタル各年ノ指數ニヨリテ對比硏究スルト、大正六年百二十二、七年百九十一、八年三百十六九年二百八十八、十年二百七十四、十一年二百六十八、十二年二百五十八、十三年二百六十五、十四年二百三十五ニ該當ス、即チ大正五年以降遞增シ大正八年最高ニシテ、九年ヨリ遞下ノ現象ヲ示セリ郡市生產ノ割合ハ泉南郡最多テ20.91%ヲ占メ、次ハ南河內郡17.88%、中河內郡16.44%、泉北郡13.62%、大阪市9.22%、北河內郡7.04%、豐能郡6.62%、三島郡6.42%、堺市1.49%、岸和田市0.36%等ニ該當シテ居ル。

食用農產物　總價額ノ11.44%ヲ占ムル食用農產物價額ノ合計ハ百四十八萬八千七百二十三圓ナリ、之ヲ前年事實ニ比スレハ八分一厘ノ增加ニ當リ、郡市生產ノ割合ハ泉北郡最モ多クシテ總額ノ21.30%ヲ占メ、次ハ北河內郡19.73%、中河內郡18.38%、南河內郡16.07%、泉南郡7.30%、三島郡6.74%、豐能郡6.40%、大阪市3.87%、堺市0.16%、岸和田市0.05%等ニ該當ス。

以下各種類中一、二ノモノニ付概說セハ

甘　藷　本年作付シタル段別千七百五十一町八段步ナリ、之ヲ前年事實ニ比スレハ七分三厘ヲ減シ五ケ年ヲ遡リ大正十年ニ比スレハ二割六分二厘ノ減退ナリ、郡市ニ於ケル作付シタル割合ハ北河內郡最モ多クシテ總數ノ31.69%ヲ占メ、次ハ泉北郡28.12%、南河內郡11.69%、中河內郡10.41%、泉南郡6.87%、三島郡3.85%、豐能郡3.78%、大阪市3.50%、堺市0.09%等ニ該當ス。

收穫高總數四百三十九萬七百二十貫ニシテ前年ニ比シ三割一分三厘、五ケ年前ナル大正五年ニ比シ、六割四分八厘等各增加シテ居ル、郡市ニ於ケル收穫高ノ狀況ハ北河內郡百三十五萬三千四百十七貫ハ最多ニシテ、泉北郡百七萬五十一貫之ニ亞キ、中河內郡ノ五十一萬千九百七十五貫ハ多キニ屬シ、堺市ノ三千九百貫ハ最少量テアル。

總價額　九十萬九千四百三十九圓ヲ前年事實ニ比スレハ一割四分六厘ヲ增加シ、五ケ年前ナル大正十年ニ比スレハ五割八厘ノ減退ニ當ル、郡市生產ノ割合ハ泉北郡最モ多クシテ總數ノ29.36%ヲ占メ、次ハ北河內郡26.79%、中河內郡12.28%、南河內郡10.29%、豐能郡6.51%、泉南郡6.42%、大阪市4.30%、三島郡3.98%、堺市0.07%等ニ該當ス。

園藝農產物　園藝農產物ノ中果實ノ總價額ハ二百七十七萬二千百二十四圓ナリ、之ヲ前年事實ニ比スレハ二割六分八厘ノ減退ニ當ル、郡市生產ノ割合ハ南河內郡最多ニシテ總數ノ38.45%ヲ占メ、次ハ中河內郡17.87%、泉北郡16.98%、泉南郡12.64%、豐能郡6.16%、北河內郡4.56%、三島郡3.20%、大阪市0.12%、堺市0.02%等ニ該當ス。

果實ノ中主ナル葡萄、密柑ニ付概說スレハ

葡　萄　樹數五十三萬三千六百十四本ヲ前年事實ニ比スレハ二割七分七厘ヲ增シ、五ケ年前ナル大正十年ニ比スレハ四十五割三分九厘ノ增加ナリ、郡市分布ノ割合ハ南河內郡最多ニシテ總額ノ79.54%、中河內郡9.10%、泉北郡3.80%、豐能郡3.41%、泉南郡2.22%、三島郡1.23%、北河內郡0.35%、堺市0.32%、大阪市0.03%等ニ該當ス。

收穫高百七十八萬八千三十六貫ヲ前年事實ニ比スレハ三割八分三厘ヲ增シ、五ケ年前ナル大正十年ニ比スレハ二十六割二分ノ增加ニ當レリ、郡市生產ノ割合ハ南河內郡最多ニシテ總數ノ66.33%ヲ占メ、最モ多ク、次ハ中河內郡28.33%、豐能郡1.71%、泉北郡1.44%、泉南郡1.31%、三島郡0.64%、北河內郡0.14%、堺市0.08%、大阪市0.02%等該當ス。

價額百一萬三千四百三十二圓ヲ前年事實ニ比スレハ二分七厘ヲ減シ、五ケ年前ナル大正十年ニ比スレハ十五割八分八厘ノ增加ニ當レリ、郡市生產ノ割合ハ南河內郡最多ニシテ53.51%ヲ占メ、次ハ中河內郡40.98%、泉南郡2.02%、豐能郡1.24%、泉北郡1.15%、三島郡0.85%、北河內郡0.17%、堺市0.06%、大阪市0.02%等ニ該當ス。

密　柑　樹數百七十二萬七千九百九十二本ヲ前年事實ニ比スレハ三分八厘ヲ減退ス、各郡ニ於ケル分布ノ割合ハ泉北郡最モ多クシテ總數ノ62.24%ヲ占メ、次ハ泉南郡16.78%、南河內郡16.55%、豐能郡7.46%、北河內郡3.06%、中河內郡2.17%、三島郡1.74%等ニ該當ス。

收穫高三百十二萬千九百七十三貫ヲ前年同一事實ニ對比スレハ四割一分一厘ノ減退ニ當ル、各郡收穫シタル割合ハ泉北郡最モ多クシテ總數ノ43.21%ヲ占メ、泉南郡25.81%、南河內郡18.00%、豐能郡6.30%、中河內郡3.03%、北河內郡2.02%、三島郡1.63%等ニ該當ス。

價額九十七萬九千三百八十六圓ヲ前年事實ニ比スレハ四割八分八厘ノ減退ニ當リ、各郡生產ノ割合ハ泉北郡最モ多クシテ總額ノ40.50%ヲ占メ、次ハ泉南郡21.19%、南河內郡20.89%、豐能郡8.64%、中河內郡3.67%、北河內郡3.22%、三島郡1.89%等ニ該當ス。

蔬菜及花卉　蔬菜及花卉ノ總價額ハ七百九十六萬九千七百五十三圓テアル、之ヲ前年事實ニ比スレハ九分五厘ヲ減退セリ。之カ郡市生產ノ割合ヲ観レハ泉南郡ハ總數ノ28.34%ヲ占メテ最モ多ク、次ハ中河內郡17.00%、大阪市13.68%、南河內郡12.39%、泉北郡8.14%、三島郡6.45%、豐能郡6.39%、

北河內郡4.77%、堺市2.40%、岸和田市0.44%等ニ該當ス。

蔬菜及花卉中重ナル蔬菜ニ付概說スレハ

蠶　豆　本年作付シタル段別ハ二千二百四町八段歩テアル、之ヲ前年事實ニ比スレハ一分八厘ヲ減シ、五ケ年前ナル大正十年ニ比スレハ五分七厘ノ減退ニ當ル、之カ郡市作付ノ割合ハ南河內郡最モ多クシテ總額ノ35.23%ヲ占メ、次ハ中河內郡22.61%、泉南郡11.75%、泉北郡10.25%、三島郡7.13%北河內郡7.07%、豐能郡4.50%、大阪市1.12%、岸和田市0.34%等ニ該當ス。

收穫高三萬四百五十七圓ヲ前年事實ニ比スレハ二割四分五厘ヲ增シ、五ケ年前ナル大正十年ニ比スレハ五分一厘ノ增加ニ當ル、總數ニ對スル郡市ノ收穫シタル割合ハ南河內郡最モ多クシテ35.72%ヲ占メ次ハ中河內郡21.54%、泉南郡11.37%、泉北郡9.31%、三島郡8.57%、北河內郡7.84%、豐能郡4.05%、大阪市1.35%、岸和田市0.25%等ニ該當ス。

價額五十五萬七千六百四十四圓ヲ前年事實ニ比スレハ五分ヲ減シ、五ケ年前ナル大正十年ニ對比スレハ二割二分五厘ノ減退ニ當ル、郡市所得シタル割合ハ南河內郡ハ總數ノ31.73%ヲ占メテ最モ多ク次ハ中河內郡29.76%、泉南郡10.46%、泉北郡10.37%、北河內郡6.24%、三島郡5.92%、豐能郡 2.43%大阪市1.79%、岸和田市0.30%等ニ該當ス。

胡　瓜　本年作付シタル段別三百十九町二段歩ヲ前年事實ニ比スレハ一割六分二厘ヲ減シ、五ケ年前ナル大正十年ニ比スレハ一割三分一厘ノ減退ニ當レリ、郡市作付ノ狀況ハ泉北郡ノ九十八町歩ハ最モ多ク、中河內郡ノ七十八町五段歩、南河內郡三十四町八段歩、堺市ノ三十町八段歩モ亦多キニ屬シ泉南郡八町九段歩最少ノ作付ナリ。

收穫高百四十九萬九千五百六十六貫ヲ前年事實ニ比スレハ一割三分ヲ減シ、五ケ年前ナル大正十年ニ比スレハ四割二分六厘ノ減退ニ當ル、郡市ニ於ケル收穫量ハ中河內郡最モ多クシテ四十三萬九千六百貫、泉北郡三十四萬千八百三十二貫、堺市二十一萬五千六百貫モ亦之ニ亞イテ多ク、北河內郡ノ三萬五千五百九十三貫ハ最少量ナリ。

價額總數三十一萬六千九百二十七圓ヲ前年事實ニ比スレハ三割三厘ヲ減シ、五ケ年前ナル大正十年ニ比スレハ四割一分三厘ノ減退ニ當ル、郡市所得ノ割合ハ中河內郡最モ多クシテ總數ノ33.29%ヲ占メ、次ハ泉北郡19.05%、堺市12.24%、大阪市11.90%、南河內郡6.99%、豐能郡6.79%、三島郡4.84%、泉南郡2.62%、北河內郡2.28%等ニ該當ス。

西　瓜　作付段別五百二十八町五段歩ヲ前年事實ニ比スレハ八分九厘ヲ增シ、五ケ年ヲ遡リ大正十年ニ比スレハ九割一分四厘ノ增加ニ當ル、郡市作付シタル段別ハ泉南郡ノ百七十九町歩最モ多ク、南河內郡ノ百二十八町五段歩、中河內郡ノ六十二町八段歩、泉北郡ノ五十七町歩モ亦多キニ屬シ、北河內郡ノ十五町六段歩ハ最少ノ作付テアル。

收穫高ノ總數ハ三百七十三萬八千五百四十六貫テ、之ヲ前年事實ニ比スレハ三割九分一厘ヲ增シ、五ケ年前ナル大正十年ニ比スレハ十一割四分七厘ノ增加ニ當ル、郡市ニ於ケル狀況ハ南河內郡ニ於ケル百二十二萬千百八十五貫最モ多ク、泉南郡ノ百十四萬二千五百二十貫之ニ亞キ、中河內郡ノ四十六萬四千七百三十貫、泉北郡ノ二十八萬六千六百八十五貫モ亦多キニ屬シ、北河內郡ノ七萬千九百七十貫ハ最少量テアル。

價額百十八萬八千六百七十四圓ヲ前年同一事實ニ比スレハ一割九分九厘ヲ增シ、五ケ年前ナル大正十年ニ比スレハ七割七厘ノ增加ニ當ル、郡市生產ノ割合ハ泉南郡最モ多クシテ總數ノ48.00%ヲ占メ、次ハ南河內郡ノ20.15%、中河內郡13.68%、泉北郡6.00%、大阪市5.11%、豐能郡3.17%、北河內郡2.07%、三島郡1.82%等ニ該當ス。

茄　子　本年作付シタル段別四百六十三町七段歩ヲ前年事實ニ比スレハ四分三厘ヲ減シ、五ケ年前ナル大正十年ニ比スレハ一割二分ノ增加ニ當ル、郡市ニ在リテハ中河內郡ノ百二十三町九段歩ハ郡市中最多ニ屬シテ居ル、大阪市ノ七十四町六段歩之ニ亞キ、岸和田市ノ二町五段歩ハ最少ナリ。

收穫高二百七十一萬二千四百五十四貫ヲ前年事實ニ比スレハ七厘ヲ減シ、五ケ年前ナル大正十年ニ比スレハ一割二分ノ減退ニ當ル。

郡市ニ於ケル收穫ノ狀況ハ中河內郡ノ七十萬六千二百三十貫ハ最モ多ク、大阪市ノ六十三萬四千五百貫モ亦多ク、岸和田市ノ二萬七千五百貫ハ最少量テアル。

價額五十五萬九千四百七十三圓ヲ前年事實ニ比スレハ二割三分一厘ヲ減シ、五ケ年前ナル大正十年ニ比スレハ四割五分ノ減退ニ當ル、郡市生產ノ割合ハ中河內郡最モ多クシテ、總額ノ30.30%ヲ占メ、次ハ大阪市22.93%、豐能郡9.24%、南河內郡7.99%、泉南郡7.09%、泉北郡6.94%、北河內郡 6.18%三島郡6.14%、堺市2.31%、岸和田市0.88%等ニ該當ス 。

生薑菊　作付段別千四百三十三町歩ヲ前年事實ニ比スレハ一分一厘ヲ增シ、五ケ年前ナル大正十年ニ比スレハ一割三分一厘ノ減退ニ當ル、郡市作付ノ狀況ハ泉北郡ノ二百八十町二段歩ハ郡市中最モ多ク中河內郡二百六十五町一段歩之ニ亞キ、南河內郡二百五十町六段歩モ亦多キニ屬シ、岸和田市二段歩ハ最少ノ作付ナリ。

收穫高九百五十一萬七千六百八十一貫ヲ前年事實ニ比スレハ四厘ヲ增シ、五ケ年前ナル大正十年ニ比スレハ二割一分九厘ノ減退ニ當ル、郡市生產ノ狀況ハ泉北郡最多ニシテ二百三十九萬千餘貫、中河內郡二百二十萬六千餘貫、大阪市ノ百五十一萬八千餘貫モ亦多ク岸和田市ノ千二百貫ハ最少量ナリ。

價額九十四萬三千八百五十圓ヲ前年同一事實ニ比スレハ八分二厘ヲ減シ、五ケ年ヲ遡リ大正十年ノ事實ニ比スレハ四割一分一厘ノ減退ニ當ル、郡市生產ノ割合ハ大阪市最モ多クシテ總數ノ66.05%ヲ占メ次ハ中河內郡19.88%、三島郡4.32%、泉北郡3.50%、北河內郡2.67%、豐能郡1.57%、南河內郡1.42%、泉南郡0.59%等ニ該當ス。

青　芋　本年作付シタル段別四百六十五町七段歩ヲ前年事實ニ比スレハ二割八分ヲ減シ、五ケ年前ナル大正十年ニ比スレハ四分六厘ノ減退ニ當ル、郡市作付シタル狀況ハ南河內郡ノ百七十四町一段歩ハ最モ多ク、次ハ泉南郡八十七町六段歩、中河內郡七十八町四段歩亦多ク、岸和田市ノ二町歩最少ナリ。

收穫高百八十七萬六千二百二十八貫ヲ前年事實ニ比スレハ一分二厘ヲ減シ、五ケ年前ナル大正十年ニ比スレハ四割三分三厘ノ減退ナリ。之カ郡市收穫ノ狀況ハ南河內郡ノ七十四萬八千十六貫最モ多ク、次ハ泉南郡三十八萬千餘貫、中河內郡二十九萬三千餘貫モ多キニ屬シ、岸和田市ノ九千六百貫ハ最少ノ收量テアル。

價額ノ合計ハ五十四萬七千六百五十一圓テ之ヲ前年同一事實ニ比スレハ一割六分七厘ヲ減シ、五ケ年

前ナル大正十年ニ比スレハ一割三分九厘ノ增加ニ當ル、郡市生產ノ割合ハ南河內郡最モ多クシテ、總數ノ30.85%ヲ占メ、次ハ中河內郡20.34%、泉南郡20.05%、大阪市7.47%、北河內郡7.17%、三島郡6.41%、泉北郡4.68%、豐能郡2.63%、岸和田市0.40%等ニ該當ス。

葱　頭　作付段別千四百二十五町歩ヲ前年同一事實ニ對比スレハ六分二厘ヲ增シ、五ケ年前ナル大正十年ニ比スレハ三割六分ノ增加ニ當ル、郡市作付シタル狀況ハ大体泉南郡ニシテ千三百七十町一段歩ノ多キニ達シ、岸和田市三十一町歩之ニ亞キ、堺市ノ六段歩ハ最少テアル。

收穫高七百一萬千二十九貫ヲ前年ノ事實ニ對比スレハ四分六厘ヲ增シ、五ケ年前ナル大正九年ニ比スレハ四割一分ノ增加ニ當ル、郡市ニ於ケル收穫ノ狀況ハ、泉南郡六百七十四萬九千二百三十六貫ハ最多收穫テ岸和田市十七萬九千餘貫之ニ亞キ、堺市二千四百貫最少量ナリ。

價額合計ハ百三萬二百六十七圓テアル、之ヲ前年同一事實ニ比スレハ九分九厘ヲ增シ、五ケ年前ナル大正十年ニ比スレハ九分九厘ノ增加ナリ、郡市生產ノ割合ハ泉南郡總額ノ96.56%ヲ占メテ最モ多ク、次ハ岸和田市2.09%、三島郡0.46%、泉北郡0.33%、北河內郡0.19%、中河內郡0.12%、豐能郡0.11%、南河內郡0.10%、堺市0.04%等ニ該當ス。

工藝農產物

工藝農產物價額ハ七十八萬三千二百二十一圓ナリ、之ヲ前年事實ニ對比スレハ、八割六分四厘ノ增加ニ當レリ、總數ニ於ケル郡市生產ノ割合ハ泉北郡42.85%ニ當リテ郡市中生產最モ多ク、次ハ三島郡16.89%、北河內郡14·68%、豐能郡11.02%、大阪市6.20%、南河內郡4.49%、中河內郡1.95%、岸和田市1.47%、泉南郡0.45%等ニ該當ス、尙分類中重ナル一二ニ付概說スレハ菜種、田作本年作付シタル段別ハ二千八十五町一段歩ナリ之ヲ前年事實ニ比スレハ七分四厘ノ減退ニ當リ、五ケ年前タル大正十年ニ比スレハ四割一分四厘ノ減退ナリ。

郡市ニ於ケル作付シタル狀況ハ北河內郡ノ六百十四町三段歩最モ多ク、豐能郡五百三十三町六段歩之ニ次キ、三島郡三百四十七町五段歩、大阪市二百九十五町四段歩、南河內郡百七十六町六段歩モ亦多キニ屬シ、泉北郡ノ二十町最少ナル作付ナリ。

收穫高二萬五百七十七石ヲ前年事實ニ比スレハ九厘ノ增加ニ當リ、五ケ年ヲ遡リ大正十年ニ比スレハ三割二厘ノ減退ナリ、郡市收穫ノ狀況ハ北河內郡作付面積ノ廣大ナル關係上六千六百三十六石ヲ收穫シテ郡市中最モ多ク、豐能郡四千八百九十八石、三島郡三千六百八十石等ハ之ニ次キ多ク、泉北郡ノ百三十一石最少ナリ。

價額合計ハ三十六萬五千二百二十一圓ニシテ之ヲ前年事實ニ比スレハ一割三厘ヲ增シ、五ケ年前タル大正十年ニ比スレハ三割四分一厘ノ減退ヲ示セリ。

郡市生產ノ割合ハ北河內郡郡市中最多生產ニテ總數ノ30.64%ヲ占メ、次ハ豐能郡23.47%、三島郡19.17%、大阪市12.56%、南河內郡9.27%、中河內郡3.55%、泉北郡0.68%、泉南郡0.66%等ニ該當ス。

綠肥用作物

春季ニ播種シタルモノヽ段別ハ青刈大豆三町二段歩、紫雲英、雚豆及豌豆其他ナク、計三町二反歩ナリ、之ヲ前年事實ニ比スレハ八割九分ノ減退ニ當リ、五ケ年前タル大正十年ニ比スレハ二割二分ノ減退ニ當レリ。泉北郡ハ郡市中最多ニシテ二町八段歩次ハ豐能郡、北河內郡各々二段歩ナリ。

收穫高ハ六千六百十貫ニシテ全部ハ青刈大豆ナリ。各郡收穫ノ狀況ハ泉北郡ノ五千八百六十貫ハ郡市中最モ多キニ屬シ、北河內郡四百貫、豐能郡ノ三百五十貫ハ最少ナリ。

價額總計ハ三百二十七圓ナリ、前年事實ニ比シ九割四厘ヲ減シ、五ケ年前タル大正十年ニ比スレハ六割三分九厘ノ減少ヲ示セリ。

各郡ニ在リテハ泉北郡三百二圓ハ郡市中最多ニシテ豐能郡十三圓、北河內郡ノ十二圓ハ最少ナリ。

秋季ニ播種シタルモノノ段別ハ紫雲英三百三十一町一段歩、雚豆及豌豆三十二町歩、計三百六十三町一段歩、之ヲ前年事實ニ比スレハ二割九分二厘ヲ減シ、五ケ年前タル大正十年ニ比スレハ二割六分九厘ヲ增加セリ。

郡市分布ノ狀況ハ南河內郡最多ニシテ八十七町一段歩、豐能郡八十四町七段歩、之ニ次キ、泉北郡七十一町一反歩、泉南郡六十五町歩、三島郡ノ四十四町一反歩等モ又多キニ屬シ、大阪市ノ二段ハ最少ナリ

收穫高百七十六萬五千百七十九貫ナリ、其ノ九割一分九厘ハ紫雲英ニシテ雚豆及豌豆ハ八分一厘ニ割合セリ。

總數ヲ前年事實ニ比スレハ二割四分二厘ヲ減シ、五ケ年前タル大正十年ニ比スレハ二割五分九厘ノ增加ニ當レリ。各郡市ノ收穫狀況ハ南河內郡ノ五十三萬八千二百二十四貫最モ多ク、豐能郡四十三萬三千三百二十貫、泉南郡三十一萬九千四百四十五貫、泉北郡二十五萬一千五十貫モ又多ク、大阪市ノ四百二十貫ハ最少ノ收穫高ナリ。價額總計ハ六萬二百二十三圓ナリ、其ノ九割一分五厘ハ紫雲英ニシテ雚豆及豌豆ハ八分五厘ニ割合セリ。

總數ヲ前年事實ニ比スレハ二割五分三厘ヲ減シ、五ケ年前タル大正十年ニ比スレハ二割八厘ノ增加ニ當レリ。各郡市所得ノ狀況ハ南河內郡二萬一千七百八十圓ニシテ各郡中最モ多ク、豐能郡一萬三千四百二圓之ニ亞キ、大阪市ノ二十一圓ハ最少ナリ。

桑　畑　本年末現在桑畑段別ハ二百五町八段歩ナリ、之ヲ前年ノ事實ニ比スレハ二割六分六厘ノ減ヲ示セリ。

總數ヲ各種類別ニ分節比ヲ求ムレハ根刈八割七分九厘、最モ多ク、次ハ中刈七分一厘、立通三分二厘高刈一分八厘等ニ割合ス。總數ヲ各郡市別ニ割合ヲ出セハ北河內郡五割三分四厘、豐能郡一割五分南河內郡一割四分七厘、泉北郡一割三厘、泉南郡四分二厘、三島郡二分、中河內郡三厘、大阪市一厘等ニ割合ス。

果樹苗

苗木總數十一萬四千四百三十一本ナリ、之ヲ前年事實ニ比スレハ五割一分七厘ヲ減シ、五ケ年前タル大正十年ニ比スレハ十一割七分八厘ノ增加ニ當レリ。

總數ヲ樹種別ニスレハ桃苗二割六分五厘、葡萄苗二割一厘、柑橘苗一割八分八厘、苹果苗一割八分四厘、梨苗六分四厘、柿苗五分三厘、其他四分五厘等ニ割合ス。各郡生產ノ狀況ハ豐能郡四萬五千二百本ハ郡市中最多ニシテ次ハ泉南郡ノ四萬二千五十本、南河內郡一萬三千六百三十一本、泉北郡九千八百本、中河內郡三千二百五十本、北河內郡五百本等ナリ。

價　額　一萬三千七百九十五圓ヲ前年ノ事實ニ比スレハ六割二分五厘ヲ減シ、五ケ年前タル大正十

年ニ比スレハ三厘ノ增加ニ當レリ。

各樹種ニヨル價額ノ割合ハ柑橘苗五割三分九厘、葡萄苗一割七分八厘、桃苗九分六厘、其他六分九厘柿六分、苹果苗三分、梨二分八厘等ニ割合ス。郡市ニ在リテハ泉南郡五千二百八十四圓最モ多ク、次ハ泉北郡ノ三千八百六十三圓之ニ亞キ多ク、北河內郡ノ五十三圓最少ナリ。

造林用苗木

造林用苗木ノ中小苗ハ三百四十五萬本、價額ハ五千三百八十五圓、山行三百四十一萬四千本、價額六萬八千六百五十三圓ナリ、之ヲ前年事實ニ比スレハ小苗山行共ニ增加ノ趨勢ヲ示セリ。小苗ニ於ケル各郡生產ノ狀況ハ南河內郡ノ千四百二十一本ハ各郡市中最モ多ク、泉南郡ノ八百五本之ニ次キ、泉北郡ノ五百六十五本、三島郡ノ三百四本又多ク、大阪市ノ二十九本最少ナリ。

之カ價額ノ郡市所得ノ狀況ハ南河內郡ノ二千五百九十九圓郡市中最モ多ク、次ニ泉南郡ノ千百二十九圓之ニ次キ、泉北郡七百四十五圓、三島郡四百二十四圓又多ク、大阪市ノ七十一圓最少ナリ。

山行苗ノ各郡生產ノ狀況ハ南河內郡ノ千八百八十九本郡市中最モ多ク、泉南郡ノ七百五本ハ之ニ次キ泉北郡ノ五百二十三本又多ク、大阪市ノ八本ハ最少ナリ。

之カ價額ニ在リテハ南河內郡ノ四萬二千四百二十四圓郡市中最モ多ク、泉南郡一萬一千五百三十七圓之ニ亞キ、泉北郡ノ九千三百七圓、豐能郡ノ五千五十圓又多ク、中河內郡ノ五十七圓ハ最少ナリ。

觀賞樹

樹種ヲ二十三種ニ分ツ、盆栽トシテ生產販賣シタルモノハ十八萬四千七百四十七本、庭木五十四萬千三百四十四本ナリ、之ヲ前年事實ニ比シ盆栽ニ在リテハ五十一割九分四厘ノ增加ヲ示シ、庭木ニ在リテハ六割四分ノ增加ニ當レリ。

價額合計四十七萬八千四百四十一圓ヲ前年事實ニ比スレハ二十五割七分八厘ヲ增加セリ。

郡市生產ノ割合ハ豐能郡總額ノ94.11%ヲ占メ最モ多ク、次ハ大阪市ノ2.96%、中河內郡1.75%、泉北郡0.49%、泉南郡0.47%、南河內郡0.22%等ニ割合セリ。

蠶　業

飼養戶數ハ九百十四戶ナリ、之ヲ前年事實ニ比スレハ二分四厘ヲ增シ、五ケ年前タル大正十年ニ比スレハ一割六分七厘ノ減退ニ當レリ。各郡分布ノ狀況ハ豐能郡ノ三百七十戶最モ多ク、次ハ北河內郡ノ二百九十九戶之ニ亞キ、泉南郡百六戶、南河內郡九十一戶等又多ク三島郡ノ六戶最少ナリ。

掃立シタル枚數ハ四千九十九萬ナリ、之ヲ前年事實ニ比スレハ二割五分ヲ增シ、五ケ年前タル大正十年ニ比スレハ四割三分一厘ノ增加ヲ示セリ。郡市ニ於ケル掃立枚數ノ狀況ハ北河內郡ノ二千四十五枚最モ多ク、南河內郡ノ六百七十一枚、豐能郡六百六十七枚、之ニ亞キ、泉南郡ノ四百六十五枚又多ク、三島郡ノ三十九枚最少ナリ。

產繭總數ハ二萬二千四百五貫ナリ、其ノ內上繭八割七分、玉繭九分六厘、屑繭四分二厘等ニ該當ス。

總數ヲ前年事實ニ比スレハ二割九分ノ增加ナリ、各郡市生產高ノ割合ハ北河內郡57.06%最モ多ク、次ハ南河內郡ノ15.85%、豐能郡13.04%、泉南郡7.88%、泉北郡5.25%、三島郡0.92%等ニ該當ス。

價額總計二十三萬三千五百二十七圓ヲ前年事實ニ比スレハ七割七分四厘ノ增加ニ當リ、五ケ年前タル大正十年ニ比スレハ八割四分四厘ノ增加ニ當レリ。

各郡ニ於テ生產高ノ割合ハ北河內郡56.40%ハ總額ノ最多ニシテ次ハ、南河內郡ノ16.93%、豐能郡12.37%、泉南郡7.77%、泉北郡5.81%、三島郡0.72%等ニ割合ス。

蜜　蜂　飼養戶數ハ十箱未滿ノモノ四十五戶、十箱以上五十箱未滿ノモノ九戶、計五十四戶テ、前年ニ比スレハ一割九分四厘ノ減退ニ當ル、郡市ニ在リテハ泉南郡ノ二十三戶最モ多ク、豐能郡ノ十三戶之ニ亞キ　泉北、南河內郡各五戶、北河內郡四戶、三島郡三戶、大阪市一戶ナリ。

箱數ハ內國種十三箱　外國種四百三箱、計四百十六箱ナリ、之ヲ前年事實ニ比スレハ二割八分三厘ノ減退ニ當ル、郡市ニ在リテハ泉南郡ノ二百五十二箱最モ多ク、豐能郡九十二箱之ニ亞キ、泉北郡二十八箱、南河內郡二十二箱　北河內郡十箱、三島郡九箱、大阪市三箱等ナリ、價額合計ハ三千八十七圓ナリ、之ヲ前年事實ニ比スレハ二割五分六厘ノ減退テアル、總數ノ中蜂蜜價額ハ九割六分ニ當リ、蜜蠟價額ハ四分ナリ、各郡生產ノ狀況ハ泉南郡ノ千七百四十六圓最モ多ク、豐能郡ノ五百二十七圓之ニ亞キ、泉北郡ノ三百四十五圓、南河內郡二百五十二圓、北河內郡百五圓、三島郡八十七圓等ニシテ大阪市ノ二十五圓ハ最少生產額ナリ。

第　四　　家畜及家禽

管內ニ於ケル畜產ノ狀況

之カ助長策ニ關シ最近迄ハ特別大施設モ見ス、唯往昔ヨリノ慣例ニ從ヒ幡丹地方ヨリ犢牛ヲ移入シ、之ヲ育成シナカラ運搬用若クハ耕作用ニ供シツヽアツタノテアルカ近時ニ於ケル諸種經濟ノ發展進化ハ本業ニ於テモ往昔ノ踏襲ヲ許サス、サレハ以上ノ途々外ニ乳牛ノ撰擇モ必要テアル富肉ノ良種モ還ハネハナラヌ、之等ノ必要カラ飼牛ニ付イテハ品種撰擇改良ニ或ハ去勢ヲ奬勵スル等肥育々成ヲ奬勵努力シツヽアルノテアル、尙農家ノ種牡牛並ニ養豚等ニ對シテモ其飼養改善等ニ關シテハ補助金ヲ交付スル等改良ヲ促シ大成ヲ期シツヽアルノテアル、故ニ之等施設ノ効果ハ既ニ著々トシテ顯ハレ曾ニ每年育成ノ移出牛ノミニテモ、六、七千達頭ニスルト注セラレテ居ル、大イニ明ルイ前途カ展開シツヽアルコトハ、本府並國益ノ爲メ欣快トスヘキ現象テアル。馬ハ少許ノ乘馬ト運搬用カアルノミテアル。家禽ニ於テモ從來家畜ニ於ケルト同一狀態ニアツタノテアルカ、時運ニ伴フ卵肉ノ需用ハ幾何級數的テ內地產ナソハ九牛ノ一毛ニモ値シナイ、從ツテ價格モ昂上一方、之等ノ狀勢ハ家禽界ヲ有利ニ刺撃シ爲メ近年ハ飼養モ自然增加シツヽアル、サレハ府ニ於テモ農家副業トシテ大イニ奬勵シ補導シ茲ニ兩々相俟ツテ現下ニ在リテハ洵ニ欣快トスヘキ現象ヲ示シテ居ル。尙ホ府ニ於テハ卵肉共ニ良種ノ撰擇ニ努力シ飼養家ニ對シテハ補助金ヲ交付スル等改善ヲ促シ又一面人工孵化器ヲ交付シ益々發展ヲ企圖シテイル、サレハ近年ニ至リテハ其ノ効果ハ既ニ著々トシテ顯ハレツヽアルヲ觀ル以下各表ニ就キ之等ノ狀況ヲ概說スレハ。

畜產價額累年比較

本年畜產物總價額ハ千三百四十七萬七千三百五十一圓テアル、之ヲ前年同一事實ニ對比スレハ二割七厘增加シテ居ル、尙五ケ年前ナル大正十年ノ事實ニ比スレハ一割一分七厘ノ增加ニ當リ、十ケ年ヲ遡リ大正五年ノ事實ニ比スルト實ニ二十六割二厘ノ增加ニ當ツテ居ル。

總額ヲ大分類ニ分節比ヲ、求ムレハ屠殺ニ係ル價額ハ六割三分八厘ニ當リテ最多ニシテ、次ハ產卵價

額ニシテ、一割八分九厘、家禽價額ハ八分七厘、牛乳價額ハ七分七厘、家畜年內出產價額八厘ニ該當スル、即チ屠殺價額カ六割强ニシテ產卵牛乳等モ相當高率ヲ示シテ居ルコトハ人口稠密ナル大阪市ト云フ大消費場カアル爲メテアル、然シ以上ノ畜產物價額ニテ此ノ大大阪ノ需用ヲ充足シテ居ルカト云フト固ヨリ之等ハ九牛ノ一毛數多移輸入ヲナスコトハ勿論テアル。

以上各分類カ如何ナル徑路ヲ辿リ增減シツヽアルガ之等ノ細詳ヲ大正五年ヲ百トシ各年ノ指數ニヨリ對比スルト、屠畜價額ニ在リテハ大正六年百二、七年百十八、八年百八十一、九年二百六十九、十年三百六、十一年二百五十三、十二年二百八十二、十三年二百七十六、十四年三百三十八ニ該當スル、即チ畜產物ハ大正五年ヨリ十年迄ハ逐年增加シ、以降一高一低大正十四年ニ至リ著シク增加ヲ示シテ居ル。

家畜ノ年內出產價額ハ大正六年百五十八、七年二百五十五、八年四百七十五、九年三百五十六、十年二百七十七、十一年二百六十四、十二年三百二十九、十三年四百二十三、十四年三百三十、即チ九年迄ハ遞增シ大正十年、十一年ハ少降シタルモ氣勢輓回シテ十三年迄ハ遞增、本年ハ少シク頽勢ナルヲ示シテ居ル。

家禽ノ價額ハ大正六年百四十九、大正七年百七十八、八年三百四十五、九年四百十八、十年四百、十一年四百十、十二年四百十九、十三年三百七十四、十四年四百三十三等ニ該當シ、逐年上向ノ氣勢ヲ現ハシテ愉快ナ現象テアル。

產卵價額ハ大正六年百二十、七年百六十四、八年三百二十二、九年三百四十九、十年四百三十四、十一年四百三十一、十二年四百六十一、十三年三百四十五、十四年五百五十六ニ該當スル，即チ大正六年以降十二年迄ハ遞增シ、十三年ニ至リ俄然低下ノ現象ヲ示シ、十四年ハ再ヒ著シキ增加ヲ示シテ居ル。

牛乳價額ハ大正六年百三、七年百六十九、八年百八十六、九年二百五十一、十年二百五十三，十一年三百九十二、十二年二百七十、十三年二百十二、十四年二百三十六等ニ該當スル。

畜產物價額郡市別

前說セル如ク本年畜產物價額千三百四十七萬七千三百五十一圓ノ郡市ニ於ケル生產ノ割合ハ大阪市ハ其ノ61.35%ニ當リテ最多テアル、次ハ中河內郡ニシテ13.28%ニ當リ、豐能郡5.57%、泉北郡5.96%南河內郡4.64%、三島郡2.74%、北河內郡3.41%、泉南郡2.19%、堺市0.56%、岸和田市0.26%等ニ割合スル、即チ大阪市ハ畜產物價額ノ首位ナルコトハ少シク珍妙ナル現象ノ樣ニ思ハルヽモ之等ハ屠殺並ニ牛乳等ノ需求關係テアル、尙分類別郡市ノ生產割合ヲ觀察スルト屠殺價額ニ在リテハ大阪市最モ多クシテ總價額71.22%ヲ占メ、次ハ中河內郡ニテ12.67%、豐能郡6.05%、泉北郡5.32%、南河內郡3.64%、三島郡0.92%、北河內郡0.66%、泉南郡0.43%、等ニ該當スル堺市、岸和田市ハ屠場ノ關係上皆無テアル。

家畜ノ年內出產價額ニ在リテハ大阪市最多ニシテ總數44.76%ヲ占メ、次ハ泉南郡ニシテ15.06%ニ當リ豐能郡8.51%、泉北郡8.09%、南河內郡7.85%、中河內郡5.31%、堺市4.09%、北河內郡2.62%、三島郡2.26%、岸和田市1.61%等ニ割合スル、即チ大阪市ニ產額多キハ搾乳用ノ孕牛ヲ飼養スル關係テアル。家禽價額ニアリテハ大阪市最多ニシテ總額ノ33.42%ニ當リ次ハ中河內郡ノ12.99%、三島郡

10.08%、北河內郡9.55%、南河內郡9.05%、豐能郡8.40%、泉北郡7.90%、泉南郡6.57%、岸和田市1.09%、堺市0.92%等ニ當ル。

產卵價額ハ大阪市亦最多ニシテ總數ノ43.42%ヲ占メ、次ハ中河內郡ニテ16.57%ニ當リ、北河內郡9.16%、南河內郡8.92%、泉北郡7.67%、三島郡5.50%、泉南郡4.08%、豐能郡3.39%、堺市0.94%、岸和田市0.16%等ニ割合シテ居ル。

牛乳價額ニ在リテハ大阪市總數ノ57.14%、中河內郡11.43%、南河內郡6.72%、泉南郡5.87%、泉北郡4.66%、堺市3.54%、豐能郡3.33%、北河內郡3.28%、三島郡2.78%、岸和田市1.23%等ノ順位ニ割合スル。

以上其分類ニ依ル生產率ノ割合ハ明瞭ニ各郡市生產ノ狀況ヲ語ツテ居ル。

家畜家禽飼養戶數

家畜ヲ飼養シタル總戶數ハ三萬二千百十一戶テアル、中牛ノ飼養戶數ハ95.15%ヲ占メ、馬ハ4.70%ニ當リ、豚ノ飼養戶數ハ0.13%、山羊一戶、緬羊七戶テアル。總數ヲ前年事實ニ比スレハ三分三厘增加シテ居ル。尙各種ノ前年事實ニ對スル增減ヲ見レハ牛ノ飼養戶數ハ七分三厘ノ增加テ、馬モ六分八厘增加シ、豚ハ一割一厘減退シテ居ル、緬羊ハ一戶ヲ減シ、山羊ハ變リハナイ。

牛飼養戶數ノ郡市分布ノ狀況ヲ百分比ニヨリ對比スレハ泉南郡最多ニシテ總數ノ18.89%ヲ占メ、次ハ南河內郡ノ15.22%、三島郡13.91%、泉北郡13.80%、北河內郡11.92%、豐能郡10.47%、中河內郡8.69%、大阪市5.71%、堺市0.83%、岸和田市0.40%等ニ割合スル。

馬ニ在リテハ大阪市最モ多ク總數ノ59.39%ニ當リ、次ハ中河內郡8.99%、堺市6.41%、豐能郡5.42%泉北郡5.29%、岸和田市3.57%、泉南郡3.50%、三島郡3.37%、南河內郡2.91%、北河內郡1.12%等ニ割合ス。

緬羊ハ泉北郡ニ一戶アリ、山羊ハ大阪市ニ四戶、豐能郡、泉北郡、北河內郡、ニ各一戶アル。本年中家禽ヲ飼養シタル戶數ハ五萬六千六百五十四戶テアル。

鷄ノ飼養戶數ハ其ノ八割八分五分ニ當リ、鴛ノ飼養戶數ハ一割一分五厘ニ割合スル。總數ヲ前年事實ニ比スレハ七分七厘ノ減退テ尙種類毎ニ前年トノ對比關係ヲ觀レハ鷄ノ飼養戶數ハ七分三厘ノ減退テ鴛ニ於テモ八分二厘ノ減退テアル。

總飼養家ノ郡市ニ於ケル分布ノ狀況ハ三島郡最モ多ク14.16%ヲ占メ、次ハ中河內郡ノ13.93%、南河內郡13.86%、北河內郡13.93%、泉北郡12.51%、大阪市16.75%、泉南郡9.45%、豐能郡9.54%、岸和田市1.19%、堺市0.95%等ニ割合スル。

尙各種類別ニスルト。

鷄ノ飼養戶數ハ南河內郡13.84%ニシテ最モ多ク、次ハ北河內郡ノ13.94%、中河內郡13.70%、三島郡12.60%、泉北郡12.39%、大阪市10.52%、豐能郡9.34%、泉南郡9.03%、岸和田市1.18%、堺市0.94%等ニ該ル。

鴛ノ飼養戶數ハ三島郡最モ多ク總數ノ48.21%ヲ占メ、次ハ泉南郡、北河內郡ノ13.20%、大阪市、中河內郡ハ7.09%、豐能郡6.05%、泉北郡3.34%、南河內郡0.92%、堺市0.52%、岸和田市0.34%等テアル。

家畜頭數累年比較

牛ノ年末現在頭數ハ三萬三千百六十一頭テアル、之ヲ前年事實ニ比スルト僅カ九頭ノ增加テアル、五ケ年前ナル大正十一年ノ事實ニ比スルト一分ノ增加ニ當リ、十ケ年ヲ遡リ大正五年ニ比スレハ七分二厘ノ增加ニ當ル。即チ一高一低テアルカ大勢ヨリ見ルト增加ノ現象ヲ示シテ居ル。尙最近十ケ年ノ狀況ヲ大正五年ヲ百トシタル各年ノ指數ニヨリ對比スルト大正六年九十九、大正七年、大正八年九十八大正九年百二、大正十年百八、大正十一年百七、大正十二年百九、大正十三年百九、大正十四年百九等ニ該當スル。

馬ノ年末現在ノ頭數ハ三千百八頭テアル、內種ハ四割九分六厘、雜種ハ四割八分八厘、外國種ハ一分六厘ニ割合スル。總數ヲ前年事實ニ比スルト六頭ヲ減少シ、五ケ年前ナル大正十年ニ比スルト三割九分一厘ヲ增加シ、十ケ年ヲ遡リ大正五年ニ比スルト實ニ十三割二分八厘ノ增加ヲ見ル。馬總數ノ四割九分六厘ヲ占ムル內國種千五百四十一頭ヲ前年事實ニ比スレハ八分七厘ヲ減少シ、五ケ年前ナル大正十年ニ比シ六分一厘減少、十ケ年前ナル大正五年ニ比スレハ四割三分五厘ノ增加ニ當ル、今大正五年ヲ百トシタル指數ヲ算出スレハ大正六年百三十一、七年百五十一、八年百四十三、九年百二十一、十年百五十三、十一年百五十六、十二年百五十六、十三年百五十七、十四年百四十三等ニ該當シ大勢遞增ノ現象ヲ示シテ居ル。

雜種馬　千五百十六頭ヲ前年事實ニ比スルト一割一分增加シ、五ケ年前ニ比スレハ十六割二分二厘十ケ年前ナル大正五年ニ比スレハ五十三割一分六厘等ノ增加ニ當ツテ居ル。尙大正五年ヲ百トシタル指數ニヨリ最近十ケ年ノ增減ノ詳細ヲ對比スレハ、大正六年百四十三、七年百五十一、八年百九十三九年三百十八、十年二百四十、十一年四百二十六、十二年五百二十三、十三年五百六十九、十四年六百三十二等ニ該當ス、即チ遞增ノ現象テアルカ殊ニ大正十一年ヨリ增加ノ率旬ニ著大ナルモノアルハ如何ナル原因ナルカ、研究ニ値スル馬匹改良ノ結果ナリトスレハ喜ハシイ現象テア　。

外國種五十一頭ヲ前年事實ニ比スルト九頭ヲ減シ五ケ年前ナル大正十年ニ比スレハ三十七頭ヲ增加シ十ケ年ヲ遡リ大正五年ニ比スレハ四十六頭ヲ增加スル、今各年ノ指數ニヨリ對比スレハ大正六年三百七年二百八十、八年千七十九、九年三百四十、十年二百七十九、十一年千百三十九、十二年六百二十三年千二百、十四年千二十等ニ該當シ八年以降增加ノ著大ナルモノアルヲ示シテ居ル。

豚ノ現在頭數五千九百五十二頭ヲ前年事實ニ比スレハ一割二分四厘ヲ減少シ五ケ年前ナル大正十年ニ比スレハ七割九分、十ケ年ヲ遡リ大正五年ニ比スレハ三十五割八分五厘等ノ增加テアル、尙此ノ十ケ年間ニ於ケル增減ノ狀況ヲ大正五年ヲ百トシタル指數ニヨリ對比スルト大正六年八十六、七年百十一八年百八十九、九年二百四十三、十年二百五十六、十一年三百三、十二年五百十三、十三年五百二十三、大正十四年四百五十八等ニ該當シ、即チ遞增ノ現象テアル。

緬羊ノ現在頭數僅カ一頭テアル。

山羊ノ現在頭數百五十頭、之ヲ前年事實ニ比スレハ五頭ヲ增加シ五ケ年前ナル大正十年ニ比スレハ十割一分二厘、十ケ年ヲ遡リ大正五年ニ比スレハ二十割四分六厘等ヲ增加シテ居ル、各年ノ指數ニヨリ對比スレハ大正六年八、七年二、八年八、九年百八十一、十年百五十、十一年二百六、十二年三百三十九、十三年三百二、十四年三百十二等ニ割合スル、即チ增減常ナキヲ示シテ居ル。

牛　牛ノ飼養戶數三萬八百七十五戶ヲ飼養スル頭數ノ階級ニ依ル分節比ヲ求ムレバ一頭ヲ飼養スルモノハ九割八分五厘ニ當リ、二頭ヲ飼養スルモノ九厘、五頭以上ヲ飼養スルモノ六厘、三頭又ハ四頭ヲ飼養スルモノ三厘ニ割合スル。

飼養戶數ノ郡市ニ於ケル割合ハ泉南郡最多ニシテ總數ノ18.89%ヲ占メ、次ハ南河內郡ニシテ15.22%ニ當リ、三島郡13.91%、泉北郡13.80%、北河內郡11.92%、豐能郡10.48%、中河內郡8.67%、大阪市51.74%、堺市0.84%、岸和田市0.52%等ニ割合スル。

年中ニ出產シタル牝ハ六百七十六頭、牡三百九十七頭テアル、郡市ニ於ケル出產割合ハ大阪市最モ多ク總數ノ51.72%ヲ占メ、次ハ豐能郡ノ9.69%、南河內郡9.00%、泉北郡7.17%、中河內郡6.99%、堺市6.24%、北河內郡4.66%、岸和田市2.98%等ニ該當シ泉南郡ハ僅カ一頭ニ過キナイ。

年末現在ニ於ケル成牛頭數ハ三萬一千五百四十七頭テアル、其ノ八割六分七厘ハ牝テ一割三分三厘ハ牡テアル、郡市所在ノ割合ハ泉南郡最モ多ク總數ノ17.07%ニ當リ、次ハ南河內郡テ14.61%、泉北郡13.15%、三島郡13.03%、大阪市10.74%、豐能郡10.64%、北河內郡9.91%、中河內郡9.16%、堺市1.25%、岸和田市0.44%等ニ該當スル。

犢ハ牝千三百三十頭、牡二百八十四頭、計一千六百十四頭テアル、之ノ郡市ニ於ケル割合ヲ見ルト泉南郡最モ多ク總數ノ45.47%ヲ占メ、泉北郡15.86%、大阪市11.89%、南河內郡6.88%、豐能郡5.88%、中河內郡4.89%、北河內郡、3.04%、岸和田市3.03%、堺市2.85%等ノ割合トナル。

犢ノ評價十一萬四千六十六圓ノ郡市所屬ノ割合ハ泉南郡最多ニシテ48.09%ヲ占メ、次ハ大阪市14.15%、泉北郡14.51%、岸和田市5.99%、堺市4.85%、南河內郡5.84%、中河內郡2.93%、豐能郡3.38%北河內郡2.41%、三島郡0.85%等ニ該當スル。

馬　年末現在ニ於ケル馬ノ飼養戶數ハ一千五百十四戶テアル。之ヲ前年事實ニ比スレハ二十、九戶ノ增加テアル、總數ヲ飼養頭數ノ階級二分節比ヲ求ムルト一頭ヲ飼養スル戶數ハ六割二分一厘ヲ占メ二頭ヲ飼養スル戶數ハ一割六分三厘、三頭又ハ四頭ヲ飼養スルモノ一割二分二厘、五頭以上ヲ飼養スルモノ九分四厘ニ割合スル。

飼養戶數ノ郡市分布ノ狀況ヲ百分比ニ依リ對比スルト大阪市最多ニシテ總數ノ59.39%ヲ占メ、次ハ中河內郡8.99%、堺市6.41%、豐能郡5.42%、泉北郡5.29%、岸和田市3.57%、泉南郡3.50%、三島郡3.30%　南河內郡2.91%、北河內郡1.12%等ニ割合スル年末現在ニ於ケル頭數ハ牝四十五頭、牡三千三十二頭、計三千七十七頭テアル。之ヲ前年事實ニ比スレハ三十七頭ノ增加テアル。

郡市ニ於ケル分布ノ狀況ハ大阪市最モ多ク總數ノ68.41%ヲ占メ、次ハ堺市テ9.81%ニ當リ、中河內郡6.21%、泉北郡2.95%、豐能郡2.66%、三島郡、岸和田市2.63%、泉南郡2.27%、南河內郡2.63%、北河內郡0.55%等ニ割合スル。

駒ハ明二才以上明四歲未滿ノモノ三十一頭ヲ價額九千七百四十四圓テ大阪市ニ現在シテ居ル。

豚　飼養戶數ノ年末現在ハ一頭ヲ飼養スルモノ、六戶二頭ヲ飼養スルモノ十六戶三頭又ハ四頭ヲ飼養スルモノ三十五戶、五頭以上ヲ飼養スルモノ百十七戶、計二百四戶テアル、之ヲ前年同一事實ニ比スルト二戶增加シテ居ル、郡市飼養現在ノ割合ハ泉北郡最モ多ク總數ノ28.92%ヲ占メ、次ハ泉南郡ニシテ25.49%ニ當リ大阪市20.10%、南河內郡8.80%、豐能郡6.37%、中河內郡4.90%、堺市2.45%

北河內郡1.47%、三島郡0.98%、岸和田市0.49%等ニ割合スル。

年內ニ出產シタル仔豚ハ四千五百四十九頭、其ノ內牝ハ六割一分二厘ニ當リ、牡ハ三割八分八厘ニ當ル總數ヲ前年事實ニ比スレハ、二割二分六厘ヲ減シテ居ル。成豚ノ年末ニ現存シタル數ハ三千頭テ其ノ六割六分八厘迄ハ牝テ牡ハ三割三分二厘テアル、之ヲ前年事實ニ比スレハ九分一厘ヲ增加シテ居ル總數ニ對スル郡市現在ノ割合ハ泉南郡最多ナルヲ示シ、35.26%ニ當リ、次ハ大阪市32.29%、泉北郡16.43%、豐能郡4.89%、南河內郡4.23%、中河內郡2.79%、三島郡1.79%、堺市1.53%、北河內郡0.46%、岸和田市0.26%等ニ該當スル。

仔豚ノ年末ニ現存シタル頭數ハ二千九百五十二頭テ其ノ五割八分八厘ハ牝テ、四割二分二厘ハ牡テアル。總數ヲ前年事實ニ比スレハ一割五分六厘ノ減少テ郡市ノ割合ハ泉南郡36.68% 大阪市21.61%、泉北郡11.28%、豐能郡9.55%、中河內郡6.67%、南河內郡5.65%、三島郡3.72% 堺市2.57%、北河內郡2.06%ニ該當シ岸和田市ハ皆無テアル。

仔豚ノ評價額ハ三萬六千三百三十九圓、內六割二分三厘ハ牝テ、牡ハ三割七分七厘ニ割合スル。

總價額ヲ郡市ノ所得ニ分テハ泉南郡ハ36.32%ヲ占メ、次ハ大阪市テ26.99%ニ當リ、泉北郡10.99%、豐能郡6.72%、南河內郡5.60%、中河內郡5.15%、三島郡4.27%、堺市2.51%、北河內郡1.44%ニ該當スル。

屠 殺

成牛ノ屠殺 年中屠殺シタル總數ハ三萬八千七百九頭テアル、其ノ內牝ハ七割六分五厘、牡ハ二割三分五厘ニ割合スル。總數ヲ前年事實ニ比スレハ三分三厘ヲ減少シ五ケ年前ナル大正十年ニ比スレハ一割二分七厘ノ增加テアル、總數ニ對スル屠場所在地郡市ノ割合ハ大阪市最多テ66.02%次ハ中河內郡ノ11.59%、泉北郡9.13%、豐能郡7.10%、南河內郡2.76%、北河內郡1.44%、三島郡1.09%、泉南郡0.87%等ニ割合スル。價額總計七百五十九萬三千六百六十六圓テアル、內七割九分九厘ハ牝肉價額テ二割一分一厘ハ牡ニ割合スル。總價額ヲ前年事實ニ比スレハ一割七分三厘、五ケ年前ナル大正十年ニ比スレハ三分八厘ノ增加ニ當ル。肉量總數ハ二百一萬三千三十七斤テ內七割六分一厘迄ハ牝肉テ二割四分九厘ハ牡ノ肉量テアル、百斤ニ付價格平均牝三圓九十七錢、牡三圓十五錢ニ當ル。

犢ノ屠殺 犢ヲ屠殺シタル頭數ハ二千三十九頭、內七割九分六厘ハ牡テ、牝ハ二割一分四厘ニ割合スル總數ヲ前年事實ニ比スレハ一分六厘ノ增加テアル。總數ハ屠場所在ノ郡市ニ分節比ヲ求ムレハ大阪市最多テ總數ノ77.52%ヲ占メ、次ハ泉北郡ノ7.39%、中河內郡3.18%、豐能郡4.68%、南河內郡3.18%、泉南郡1.08%、北河內郡0.71%、三島郡0.42%等テアル。

前記頭數ニ對スル肉量總數ハ二萬二千百九斤、之ヲ前年ニ比スレハ三割七分三厘ノ增加テ百斤ニ對スル價格ヲ見ルニ牝二圓六十四錢、牡二圓五十一錢ニ割合スル。

馬ノ屠殺 年中屠殺シタル頭數ハ一千二百五十一頭、郡市ニ於ケル割合ハ南河內郡七百八十八頭、大阪市四百十九頭、泉北郡三十四頭、豐能郡五頭、泉南郡三頭、中河內郡、北河內郡ハ各一頭テアル。

總數ヲ前年事實ニ比スレハ一割二分五厘ノ減少テアル、肉量總數四萬七千三百六十一斤牝肉ノ割合一分八厘牡ハ九割八分二厘ニ當ル、總額ハ十一萬九千三十六圓前年事實ニ比スルト四分五厘ノ增加テアル、價格ハ平均百斤ニ付牝一圓九十五錢、牡二圓五十二錢テアル。

豚ノ屠殺 年中ニ於ケル屠殺總數ハ一萬五千四百十三頭、前年ニ比スルト六割五厘、五ケ年前ニ比スレハ八割二分四厘ノ增加ニ當ル、郡市別各頭數ノ割合ハ大阪市最モ多ク、總數ノ87.13%ヲ占メ、次ハ中河內郡12.80%、泉北郡1.24%、豐能郡0.97%、泉南郡0.45%、南河內郡0.35%等ニ當リ三島郡僅カニ五頭テアル、前記頭數ニ對スル總肉量ハ三十一萬七千八百三斤之ヲ前年ニ比スレハ十三割三分四厘ノ增加テアル、郡市ニ於ケル割合ハ大阪市89.16%、中河內郡3.85% 泉北郡0.91%、豐能郡0.50%、泉南郡0.30%、南河內郡0.24%、三島郡0.02%ニ該當スル。

總價額ハ八十三萬八百八十四圓前年ニ比スレハ九割七分一厘ノ增加ニ當ル。郡市ニ於ケル割合ハ大阪市88.04%、中河內郡、10.28%、泉北郡0.65%、豐能郡0.32%、泉南郡0.31%、南河內郡0.30%、三島郡二百六十圓等ニ割合スル、價格ハ平均百斤ニ付牝二圓六十錢、牡二圓六十三錢ニ當ル。

牛 乳

搾乳戶數 搾乳戶數ハ百二十二戶內二戶ハ農家其他ニ屬シ、大部分ハ搾乳業者テアル、總數ヲ前年事實ニ比スレハ三戶ヲ增加シ、五ケ年前ニ比スレハ六戶ノ增加ヲ見ル、郡市ニ於ケル分布ノ狀況ハ大阪市五十九戶中河內郡十五戶、泉南郡十三戶、豐能郡九戶、三島郡、南河內郡ハ各六戶、北河內郡四戶泉北郡五戶、堺市三戶、岸和田市二戶テアル。

乳牛頭數 二千四百五十九頭內十七頭ハ農家其ノ他テ大部分ハ搾乳業者ノ所有トス、之ヲ前年ニ比スレハ五分五厘ヲ減少シ、五ケ年前ニ比スレハ二割五分六厘ノ減退テアル、總數ヲ郡市別トシタル割合ハ大阪市57.64%、中河內郡8.83%、豐能郡6.87%、泉南郡5.68%、堺市3.91%、泉北郡3.69%、南河內郡5.23%、北河內郡2.92%、三島郡2.49%、岸和田市1.19%等ニ割合スル。

搾乳高 總數量二萬三千四百四十一石內農家其他ノ搾乳高百十七石、他ハ搾乳業者ノ搾乳シタルモノテアル、之ヲ前年ニ比スレハ十割六厘ノ增加テ郡市生產ノ割合ハ大阪市62.87%、中河內郡10.93%南河內郡5.53%、泉南郡4.27%、泉北郡3.96%、堺市3.12%、北河內郡2.80%、三島郡1.75%、岸和田市1.09%等ニ割合スル。

牛乳價額 牛乳價額ハ百三萬四千百二十七圓其ノ中農家其他ノ生產牛乳ノ價額ハ四千八百十三圓テアル。總額ヲ前年事實ニ比スレハ十一割六厘ノ增加テ之レカ郡市別ノ割合ヲ見ルニ大阪市57.15%、中河內郡11.44%、南河內郡6.73%、泉南郡5.87%、泉北郡4.66%、堺市3.55%、北河內郡3.29%、三島郡2.78%、豐能郡2.37%、岸和田市1.25%等ニ割合スル。

家 禽

鷄現在數 飼養戶數五萬一千八百三十七戶ヲ飼養羽數ノ階級別ニ割合ヲ算出スレハ十羽未滿ヲ飼養スルモノハ七割九分三厘ニ當リ、十羽以上五十羽未滿ヲ飼養スルモノ一割八分八厘、五十羽以上ノ飼養家ハ一分一厘ニ該當スル、總數ヲ前年事實ニ比スレハ六分五厘ヲ減少シ、五ケ年前ナル大正十年ニ比スレハ二分四厘ノ減少ヲ見ル。總數ニ於ケル郡市分布ノ狀況ハ南河內郡最多テ14.30%、中河內郡之ニ亞キ、14.16%、北河內郡13.63%、三島郡12.95%、泉北郡12.81%、大阪市10.87%、豐能郡9.66%、泉南郡9.33%、岸和田市1.23%、堺市0.97%等ニ該當スル。

六月末日ニ現在シタル成鳥ハ雌三十八萬九千六十二羽、雄九萬八千七百九十五羽、計四十八萬七千八百五十七羽テアル、之ヲ前年ト比較スルニ六割二分一厘ヲ增加シテ居ル、成鳥ノ價額總計ハ九十四萬

六千五圓テアル、內八割二分五厘ハ雌ノ價額ニ割合シ、一割七分五厘ハ雄ノ價額ニ當ルノテアル。

總數ヲ前年ニ比較スレハ二割七分八厘ノ增加ニ當ル。

六月末日ニ現在シタル雛ハ二十九萬五千九百十六羽テ、之ヲ前年ニ比較スレハ一割五分四厘ノ增加テアル、總數ニ對スル郡市ノ割合ハ大阪市29.35%、三島郡20.51%、中河內郡14.66%、北河內郡10.33%、南河內郡10.62%、泉北郡8.82%、豐能郡8.05%、泉南郡6.69%、岸和田市0.45%、堺市0.32%、等ニ割合スル。

價額ハ十七萬一千三百八十三圓之ヲ前年ニ比スレハ二割一分一厘ノ增加ニ當ル、尙之レノ郡市所得ノ割合ハ大阪市最多テ31.76%、中河內郡17.03%、三島郡10.74%、泉北郡9.33%、北河內郡8.70%、南河內郡8.50%、豐能郡6.76%、泉南郡5.63%、岸和田市1.35%、堺市0.19%等ニ該當スル。

產卵個數ハ四千八十一萬七千八百個、之ヲ前年ニ比スレハ二割三分七厘ノ增加テアル、總數ニ對スル郡市生產ノ割合ハ大阪市最モ多ク43.69%ヲ占メ、中河內郡之ニ亞キ14.36%、北河內郡11.26%、泉北郡8.74%、南河內郡6.68%、三島郡5.12%、泉南郡5.05%、豐能郡3.63%、堺市0.98%、岸和田市0.49%等ニ割合スル。產卵價額ハ二百四十九萬三千百三十五圓、前年ニ比較スレハ一割五分九厘ノ增加テアル、總數ヲ郡市ニ分節比ヲ求ムレハ大阪市43.17%、中河內郡16.59%、北河內郡9.23%、南河內郡9.12%、泉北郡7.69%、三島郡5.35%、泉南郡4.11%、豐能郡3.45%、堺市0.96%、岸和田市0.32%等ニ該當スル。

實現在數　六月三十日現在ニ於テ鶖ヲ飼養シタル戶數一千七百三十四戶其ノ中七割一分七厘迄ハ十羽未滿ヲ飼養スル戶數ニ當リ、二割七厘ハ十羽以上五十羽未滿七分六厘ハ五十羽以上飼養スル戶數テアル。

總數ヲ前年事實ニ比スレハ七分六厘ノ減退テ、大正十年ニ比スレハ三割七分八厘ノ減退テアル、之レカ郡市ノ割合ヲ見ルニ三島郡最多テ總數48.21%ニ當リ、泉南郡、北河內郡之ニ亞キ、13.20%、大阪市、中河內郡7.09%、豐能郡6.05%、泉北郡3.34%、南河內郡0.92%等ニ割合スル。

現在シタル成鶖總數ハ三萬五千七百四十五羽內雌ハ一割七分六厘、雄ハ八割二分四厘ニ當ル、總數ヲ前年ト比較スルニ一割五分一厘ヲ增加シテ居ル。

總數ニ於ケル郡市分布ノ割合ハ大阪市34.27%、中河內郡33.07%、三島郡28.51%、北河內郡7.06%、泉北郡4.67%、泉南郡4.06%、豐能郡1.13%、南河內郡1.05%、堺市3.36%等テ岸和田市ハ僅カニ十一羽ニ過キナイ。

成鶖價額ハ四萬八千八百七十四圓其ノ內八割四分六厘ハ雌ノ價額ニ當リ一割五分四厘ハ雄ニ該當スル總價額ヲ前年事實ニ比スレハ五割三分四厘ノ增加ニシテ郡市所得ノ割合ハ大阪市38.92%、中河內郡11.58%、三島郡16.74%、北河內郡16.83%、泉北郡5.51%、堺市4.33%、泉南郡3.31%、豐能郡1.67%、南河內郡1.04%、岸和田市0.05%等ニ割合スル。

雛ノ現在數ハ三萬三千二百六十六羽之ヲ前年ニ比スレハ一割三分八厘ノ增加テ郡市ノ割合ハ大阪市31.69%、中河內郡26.25%、三島郡11.81%、北河內郡5.55%、泉北郡12.29%、泉南郡3.75%、堺市4.51%、豐能郡1.92%、南河內郡1.98%、岸和田市0.16%等テアル。

雞ノ價額一萬四千六百三十四圓ヲ前年ニ比スレハ、三分一厘ノ增加テ之カ郡市ノ割合ハ大阪市 24.19

%、中河內郡18.43%、三島郡5.81%、北河內郡6.48%、泉北郡7.79%、泉南郡2.73%、堺市3.20%、豐能郡2.34%、南河內郡2.70%、岸和田市0.31%等ニ該當スル。

產卵數量ハ百十六萬八千百四十個テ價額五萬九千七百二十圓テアル、價額ヲ前年ニ比スルト七割一分三厘ノ增加テ郡市別ニ分節比ヲ求メ、多寡ヲ對比スレハ大阪市50.39%、中河內郡18.43%、三島郡12.44%、北河內郡6.17%、泉北郡6.09%、泉南郡2.73%、堺市1.89%、豐能郡0.95%、南河內郡0.84%岸和田市0.02%等ニ該當ス。

第五　林　業

管內ニ於ケル林業ニ在リテハ、曾テ植林事業補助規程ヲ設置シテ植林或ハ之カ改良ニ努力シ勸奬シタル結果近年ニ至リ面目大イニ改マリ單ニ森林事業トシテ觀レハ南河內郡、豐能郡、泉南郡ノ一部ニハ相當見ルヘキモノアリ。尙竹林品評會、造林品評會等ヲ開催シテ之カ進展ニ努メ大ニ大成ヲ期シツヽアリ。

竹林事業ニ於テモ改善努力ノ結果繁盛見ルヘキモノ續出シ、殊ニ再三開催シタル品評會ハ造成ニ或ハ改善ニ著シク効果ヲ現ハシ來リ、每年數十町宛ノ改善實績ヲ擧ケツヽアルハ本事業ノ爲メ洵ニ欣快トスル現象ナリ。

尙大正十年度ニ於テ樹苗及竹林造成補助規程、部落有林野統一並ニ入會地整理規程等ヲ公布シタル結果之亦効果著々トシテ現ハレ、年々多數ノ部落有林野ハ統一完成セラレツヽアリ。以下各表ニ付キ概說スレハ

林產物價額累年比較

本年林野產物價額總計ハ二百五十八萬二千四百十二圓ナリ、之ヲ前年事實ニ比スレハ五割四分三厘ノ減退ニ當リ、尙最近五ケ年前ニ比スレハ、一割六分八厘ヲ減シ、十ケ年前ナル大正五年ニ比スレハ、二割六分七厘ノ增加ニ當レリ。尙之等增減ノ狀況ヲ大正五年ヲ百トシタル各年ノ指數ニ依リ對比スレハ大正六年百七十八、大正七年二百二十六、八年四百七十、九年三百九、十年三百八十、十一年三百六十四、十二年三百六十七、十三年六百九十二、十四年三百十七、ニ該當シテ概ネ遞增セリ。

總額ヲ四大分類ニ分節比ヲ求ムレハ用材價額三割九分九厘ニ當リテ最モ多ク、次ハ林野產物價額ニシテ三割八分九厘、薪炭材一割六分五厘、竹材價額ハ最少額ニシテ四分七厘ニ割合ス。尙之等分類ニ付增減ノ狀況ヲ觀察スレハ用材價額百三萬五百八十一圓ヲ前年事實ニ比スレハ七割八分五厘ヲ五ケ年前ナル大正十年ニ比スレハ二割七分六厘ヲ減少シ、十ケ年ヲ遡リ大正五年ニ比スレハ二十割九分一厘ヲ增加ス、此ノ增減ノ狀況ヲ大正五年ヲ百トシタル各年ノ指數ニ依リ對比スレハ、大正六年百八十九、七年二百三十九、八年四百三十八、九年三百五十三、十年四百二十六、十一年三百三十一、十二年三百七十五、十三年千百六十八、十四年三百九ニ該當シ、一高一低大正十三年ハ特ニ增加ノ大ナルヲ示セリ。

薪炭材價額四十二萬六千五十五圓、之ヲ前年ニ比スレハ二割五分一厘ヲ五ケ年前ニ比スレハ一割八分五厘ヲ減退シ十ケ年ヲ遡リ大正五年ニ比スレハ十三割三分二厘ノ增加ヲ見ル、尙大正五年ヲ百トシタル各年ノ指數ヲ算出スレハ大正六年三百二十一、七年二百五十八、八年二百七十二、九年二百七十七、

十年二百八十六、十一年三百五十三、十二年三百三、十三年三百十一、十四年二百三十三、ニ該當シ概ネ向上ノ現象ヲ示セリ。

竹材價額十一萬九千四百二十七圓ヲ前年ニ比スレハ僅カニ二百七十七圓ヲ增加シ、五ケ年前ナル大正十年ニ比スレハ一割九分五厘ヲ減少シ、十ケ年前ナル大正五年ニ比スレハ十五割四分六厘ヲ增加ス、尙大正五年ヲ百トシタル指數ニ依リ之カ增減ヲ觀レハ大正六年百六十、七年二百三十六、八年四百七十七、九年三百四十四、十年三百十六、十一年三百四十七、十二年三百十五、十三年二百五十四、十四年二百五十四ニ該當ス。

即チ竹材ハ大正八年財界好況時ニ最多ノ現象ヲ示シ他ハ一高一低ナルモ大勢還下ノ現象ヲ示セリ。

林野產物價額百萬六千三百四十九圓ヲ前年ニ比較スレハ五分九厘ノ增加ニ當リ五ケ年前ナル大正十年ニ比スレハ九厘ノ減退ニ當ル、十ケ年ヲ遡リ大正五年ニ比スレハ四十割六分四厘ノ增加ナリ、尙大正五年ヲ百トシタル指數ニ依リ對比スレハ大正六年百三十四、大正七年百八十四、八年二百九十三、ニ年二百六十九、十年四百、十一年四百十九、十二年四百十四、十三年四百二十一、十四年三百九十八等ニ割合ス。

林產物價額郡別

價額合計二百五十八萬二千四百十二圓ヲ各郡生產高ニヨリ分節比ヲ求ムレハ南河內郡最モ多クシテ總額ノ30.28%ニ當リ次ハ豐能郡ニシテ28.66%、三島郡16.15%、泉北郡11.92%、泉南郡6.63%、北河內郡5.67%、中河內郡0.74%ニ該當ス。

四大分類ニヨリ各郡產額ノ狀況ヲ觀察スレハ、用材ノ產額最多ナルハ南河內郡ニシテ總額ノ40.69%ヲメ、次ハ泉北郡ニシテ19.18%、三島郡17.75%、豐能郡12.49%、泉南郡7.02%、北河內郡2.85%等ニ割合シ中河內郡ハ皆無ナリ、

薪炭材價額ニ在リテハ南河內郡30.02%ニ當リ、次ハ北河內郡20.06%、豐能郡19.42%、三島郡18.32%、泉南郡5.98%、泉北郡4.77%、中河內郡1.43%等ニ該當ス。

竹材價額ニ在リテハ三島郡最モ多ク總數ノ53.03%ヲ占メ、次ハ南河內郡ニシテ15.20%ニ當リ泉北郡10.50%、豐能郡8.35%、泉南郡6.36%、北河內郡5.80%、中河內郡0.58%等ニ割合ス。

林野產物ノ價額ハ豐能郡最多ニシテ53.77%ニ當リ南河內郡19.45%、三島郡8.33%、泉北郡7.98%、泉南郡6.83%、北河內郡2.22%、中河內郡1.10%等ニ割合ス。

林野面積

國有林　國有林野面積ハ三島郡五百四十五町九段、豐能郡三百二十七町、計八百七十五町九段ナリ、之ヲ前年事實ニ比スルモ增減ナク總數ノ保安林ハ2.61%ニ當リ供用林ハ97.39%ナリ。

民有林野面積

民有林野面積ハ三萬三千七十九町二段ナリ總面積ヲ所有ノ別ニ分類スレハ私有ニ屬スルモノハ七割七分九厘ノ多數ヲ占メ、次ハ部落有ニ屬スルモノニテ八分七厘其ノ他ノモノ所有五分二厘、寺院有四分町村有三分四厘、神社有八厘ニ割合ス、之カ郡市分布ノ狀況ハ南河內郡最多ニシテ總數ノ20.75%ヲ占メ次ハ泉南郡17.65%、泉北郡13.66%、三島郡13.30%、北河內郡12.74%、豐能郡8.75%、大阪市0.28%等ニ該當ス。

尙所有別ニ郡市ノ分布ノ狀況ヲ對比スレハ

公有林　面積五千九百町四段歩ノ郡市分布ノ割合ハ、泉南郡最モ多クシテ29.95%ヲ占メ、次ハ北河內郡25.01%、三島郡16.72%、南河內郡12.52%、豐能郡10.68%、泉北郡5.65%、中河內郡1.35%、大阪市0.03%等ニ該當ス。

社寺有林　面積千六百二十三町一段歩ノ郡市分布ノ狀況ハ南河內郡最多ニシテ31.24%ヲ占メ、次ハ泉北郡31.12%、三島郡16.72%、泉南郡9.64%、北河內郡5.41%、豐能郡5.82%、中河內郡2.10%、大阪市0.18%等ニ割合ス。

私有林　面積二萬六千四百五十五町七段歩ノ郡市分布ノ狀況ハ南河內郡最モ多クシテ總數ノ32.22%ヲ占メ、次ハ泉南郡15.39%、泉北郡14.37%、三島郡12.47%、北河內郡10.45%、豐能郡0.97%、中河內郡0.51%、大阪市0.32%等ニ該當ス。

立木地　公有ニ於ケル立木地四千九百四十二町一段歩ノ各郡ニ於ケル分布ノ割合ハ北河內郡ハ最モ多クシテ29.67%ニ當リ、次ハ泉南郡ニシテ28.39%ヲ占メ、三島郡19.75%、豐能郡8.97%、泉北郡6.65%、南河內郡4.96%、中河內郡1.57%、大阪市0.04%等ニ該當ス。

社寺ニ屬スル面積千五百八十三町一段歩ノ各郡分布ノ狀況ハ泉北郡31.41%ニ當リ、南河內郡ハ其ノ次ニシテ31.27%、三島郡14.44%、泉南郡9.20%、豐能郡5.90%、北河內郡5.51%、中河內郡2.10%大阪市0.17%等ニ該當セリ。

私有ニ屬スル面積二萬五千八百五十二町八段歩ノ郡市分布ノ割合ハ南河內郡總數ノ32.55%ニ當リテ最モ多ク、次ハ泉南郡ニシテ15.48%、泉北郡14.34%、三島郡12.53%、北河內郡10.39%、豐能郡8.91%、中河內郡5.73%、大阪市0.07%等ニ該當ス。

無立木地　公有ニ屬スルモノ面積九百五十八町三段歩ノ郡市分布ノ狀況ハ南河內郡最多ニシテ51.47%ヲ占メ、次ハ泉南郡38.04%、豐能郡7.21%、三島郡1.05%、北河內郡0.98%、泉北郡0.49%、大阪市0.50%、中河內郡0.26%等ニ該當ス。

社寺有ニ屬スル面積六百二町九段歩ノ郡市分布ノ狀況ハ南河內郡總數ノ29.75%ヲ占メテ最モ多ク、次ハ泉南郡27.25%、泉北郡21.75%、三島郡11.00%、北河內郡4.75%、豐能郡2.75%、中河內郡2.00%、大阪市0.75%ニ該當ス。

私有ニ屬スル面積六百二町九段歩ノ郡市分布ノ狀況ハ南河內郡最多ニシテ總數ノ18.08%ヲ占メ、次ハ泉北郡15.36%、北河內郡13.29%、泉南郡11.71%、大阪市11.25%、豐能郡11.24%、三島郡9.78%中河內郡9.25%等ニ該當セリ。

保安林　總數二百七十一ケ所、面積五百六十六町五段歩ナリ、之ヲ前年事實ニ比スルモ增減ナク、總數ノ內制限地ハ二百六十九箇所、百三十一町五段歩、禁伐地ハ二箇所三十五町歩ナリ、總數ヲ所有別且ツ目的別ニ觀察スレハ國有ニ屬スルモノニ在リテハ水源涵養ノ目的林ニシテ制限ノモノ一箇所五町三段歩、風致林ハ禁伐地一箇所、二十町五段歩ナリ。公有地ニ在リテハ土砂扞止ノ目的ヲ有スルモノ制限地二十八ケ所、三百六十五町六段歩、魚附林ハ制限地二ケ所二町歩、壁石防止ノ目的ヲ有スルモノ制限地一箇所一町五段歩ナリ。社寺有地ニ在リテハ土砂扞止ノ目的ヲ有スルモノ制限地十六ケ所、九町八段歩、魚附林制限地二ケ所、一町七段歩、風致林ハ制限地四十五ケ所、九十八町九段歩、同上禁伐

地一箇所十四町五段歩ナリ。

私有林ニ在リテハ土砂扞止ノ目的ヲ有スルモノ制限地百二十六ケ所、三十四町四段歩、魚附林制限地、四十一箇所、七町七段歩、風致林ハ制限地十一ケ所、五町六段歩ナリ。

民有林野開墾

總數四百七十七ケ所、面積六十二町六段歩ナリ、之ヲ前年事實ニ比スレハ百三十一ケ所ヲ增加シ、面積二十四町九段ヲ增加ス、五ケ年前タル大正十年ニ比スレハ百〇三ケ所ヲ增加シ、面積三十二町ヲ增加ス。

總數ヲ開墾ノ種類ニヨリ觀察スレハ田トナリタルモノ三十八ケ所、面積三町七段歩、畑トナリタルモノ三百〇六箇所面積四十九町九反歩、宅地トナリタルモノ五十箇所面積四町七反歩、其ノ他變形竇變更セラレタルモノ八十二ケ所面積四町三反歩ナリ、更ニ之ヲ開墾地ノ所有別ニ分類觀察スレハ、公有一ケ所面積四反歩、社寺有十三ケ所四町六反歩、私有四百六十三ケ所面積五十七町六反トス、開墾地分布ノ狀況ハ箇所ニ在リテハ南河內郡百四十一ケ所ニシテ最モ多ク、次ハ泉北郡ニシテ百三十一ケ所三島郡百〇八ケ所、泉南郡三十六ケ所、中河內郡三十一ケ所、豐能郡十六ケ所等ナリ、面積ニ在リテハ南河內郡二十四町六反歩ニシテ最モ多ク、次ハ泉北郡ニシテ十一町七反歩、泉南郡六町八反歩、豐能郡六町三反歩、三島郡四町三反歩、中河內郡三町九反歩等ナリ。

民有林野人工造林

新　植　本年新植シタル面積ハ二百五十七町一反之ヲ前年事實ニ比スレハ七十五町一反歩ヲ減少セリ。

總數ヲ所有別ニヨリ比ヲ求ムレハ公有ニ屬スルモノ二割二分二厘、社寺有二分三厘、私有七割五分五厘等ニ該當ス、更ニ公有林所有別ノ所屬ヲ見レハ市町村有ニ屬スルモノ十二町歩ニシテ最モ多ク、次ハ部落有十町三反歩、其ノ他ノ所有一反歩ナリ。

新植シタル樹數ハ百四十五萬八千百四十一本ナリ、之ヲ前年事實ニ比スレハ二割三分四厘ヲ減退セリ總數ヲ樹林ニヨリ分節比ヲ求ムレハ針葉樹林ハ八割四分五厘ニ當リ、濶葉樹林一割四分三厘竹林ハ僅カニ一分二厘ニ該當ス。

補　植　補植シタル苗木數ハ三十八萬二百八十本ナリ、之ヲ前年事實ニ比スレハ、九割二分三厘ヲ增加セリ、總數ヲ所有別ニスレハ公有ニ屬スルモノ五分五厘、社寺有八厘、私有九割三分七厘ニ割合ス、總數ヲ樹林別ニスレハ針葉樹林ハ九割三分一厘、濶葉樹林ハ六分九厘ニ割合ス、針葉樹林ヲ種類別ニスレハ杉ハ五割六分一厘、扁柏一割八分四厘、松二割五分五厘ナリ。

濶葉樹林ニ至リテハ栗一割八分三厘、櫟七分五厘、樺四分二厘ナリ。

民有林野天然造林

本年中ノ天然造林ハ四百七十三町六段歩ナリ、總數ヲ前年事實ニ比スレハ四割八分六厘ヲ減シ、五ケ年前ナル大正十年ニ比スレハ六割六分七厘ノ減退ナリ、天然造林面積ヲ所有別ニスレハ私有地ハ最モ多クシテ八割八分七厘、公有地七分一厘、社寺有地四分二厘ニ該當ス、更ニ總數ヲ樹林別ニスレハ針葉樹林五割二分一厘、濶葉樹林三割六分三厘、針濶混淆樹林一割一分六厘等ニ割合ス、

針葉樹林ノ面積二百四十六町六反歩ニ付郡市分布ノ割合ヲ見レハ南河內郡最多ニシテ32.69％、北河內郡27.49％、三島郡24.69％、泉南郡7.91％、豐能郡6.69％、泉北郡0.25％等ニシテ中河內郡ハ0.28％等ニ該當ス。

針濶混淆樹林ノ面積五十五町一反ノ郡市ノ割合ハ北河內郡37.38％ニシテ最モ多ク、次ハ三島郡36.84％、泉南郡18.14％、南河內郡3.45％、豐能郡3.26％、中河內郡0.90％等ニシテ泉北郡ニハ該當ナシ。

濶葉樹林ノ面積百七十一町九段歩ノ各郡ノ割合ハ北河內郡41.01％、三島郡37.98％、泉南郡7.56％、豐能郡6.45％、南河內郡6.66％、泉北郡0.69％、中河內郡0.12％等ニ該當セリ。

民有林用材伐採

用材トシテ本年伐採シタル面積ハ三百十八町八反歩材積ハ十五萬九千二百五十石ニシテ之ヲ前年事實ニ比スレハ八割九分五厘、五ケ年前ニ比スレハ八割一分九厘ノ減退ナリ、總數ヲ所有ノ別ニ分節比ヲ求ムレハ私有96.41％、公有1.17％、社寺有 2.42％等ニ割合シ、更ニ樹林別ニスレハ針葉樹林八割二分七厘、濶葉樹林一割〇分五厘、針濶混淆樹林七分八厘等ニ割合セリ。

價　額　價額合計百一萬三千三十二圓之ヲ前年事實ニ比スレハ七割三分八厘、五ケ年ニ比スレハ二割七分五厘ノ減退ナリ。

總額ヲ所有林ニスレハ私有ニ屬スルモノ八割五分九厘、公有ニ屬スルモノ五分二厘、社寺有四分八厘等ナリ。尙樹林別ニスレハ針葉樹林七割九厘、濶葉樹林一割八分三厘、針濶混淆樹林二分六厘等ニ割合ス。總額ニ對スル各郡ノ生產ノ割合ハ南河內郡36.44％、三島郡20.48％、北河內郡19.00％、泉北郡9.67％、豐能郡7.64％、泉南郡5.57％、中河內郡ハ最少ニテ1.27％等ニ該當ス。

林野產物

林野產物總價額ハ百萬六千六十八圓ニシテ之ヲ前年事實ニ比較スレハ五分八厘ヲ減退ス、尙種類別ニ比ヲ求ムレハ木炭ハ總數ノ54.04％ヲ占メ、次ハ松茸19.81％、樹實12.69％、柴草0.80％、樹皮0.52％、五倍子、造林用種子、蔓及葉、其ノ他、12.14％等ニ該當ス。

分類中ノ主ナルモノニ付テ概說スレバ

松　茸　年中採取シタル松茸五十三萬四百二十六斤之ヲ前年事實ニ比スレハ一割四分三厘ヲ增加ス之カ郡市ノ量ヲ見レハ泉北郡最モ多クシテ十九萬三千八百斤、次ハ豐能郡十二萬八千二百五十斤、泉南郡ノ十二萬三千六百四十斤、三島郡四萬三千三百七十五斤、南河內郡三萬二千七百二十四斤、北河內郡八千百八十七斤、中河內郡僅カニ、四百五十斤ナリ。

價額合計ハ、十九萬九千三百五十三圓之ヲ前年ニ比スルト三萬五千四百七十七圓ヲ增加セリ、各郡所得額ハ泉北郡五萬三千二百四十五圓ニシテ首位ヲ占メ次ハ豐能郡五萬十八圓、泉南郡四萬七千五百七圓、三島郡二萬八千六百四十四圓、南河內郡一萬六千三百六十三圓、北河內郡三千四百十九圓、中河內郡百五十七圓ナリ。

木　炭　生產總量百二十萬一千五十五貫、內白炭三十四萬二千八百五十五貫、黑炭八十三萬三千五百貫、其ノ他二萬四千七百貫ナリ。尙各郡種別ニ依ル生產狀況ヲ觀レハ白炭ニ於テハ豐能郡二十二萬五千貫、南河內郡九萬八千五百五貫、泉南郡一萬九千三百五十貫、黑炭ニ在リテハ豐能郡五十二萬五千六百貫、南河內郡十八萬八百貫、三島郡八萬八千五百貫、泉北郡三萬三千貫、泉南郡五千六百貫ナリ、其ノ他ハ豐能郡二萬二千貫、泉北郡、泉南郡各一千貫、南河內郡二百貫ナリ。

價額合計ハ五十四萬三千七百九圓之ヲ前年ニ比スレハ十二萬七千四百十七圓ヲ減少セリ、今種類別ニ依リ分節比ヲ求ムレハ、白炭29.58%、黑炭69.05%、其ノ他1.37%等ニ割合ス。

第六　鑛　業

管內ノ鑛業ハ是ヲ他ノ生產興業ニ比較スルト甚タ僅少テアル、殊ニ大正四年以前ハ土石類ノ調查ヲ缺キタル爲メ生產額洵ニ少ク、甚タ寂寞タルノ感カアツタ、然シ後ノ歐洲大戰ニ因ツテ勃興セル企業熱就中軍需品トシテ鑛物ノ大イニ需用ヲ增シタル關係上、斯業モ著シク發展ヲ來シ、爲ニ價額ノ上ニ於テモ驚ク程增加シタ、顧ツテ歐洲ノ戰雲漸ク平和ヲ招致スルヤ財界ハ急變シ昨ノ好況今ハ悲況ノ內ニ沈ミ年次加ハルト共ニ益々深刻化シテ一般企業モ非常ニ萎靡シ、是ニ伴ヒ鑛業ノ需用モ著シク減退シタ、大正九年ヨリハ探鑛ニ關スル事業ハ皆無トナリ、唯僅カニ土石類ノ少額ヲ產スルニ至ツタ、今以下各表ニ付キ概說スレハ

採鑛高及鑛石價額累年比較

試　掘　稼業區明治四十二年ニハ五區、鑛夫十三人、百二十九坪等ノ事實アリタルモ漸次遞減シ、明治四十三年、四十四年、大正元年等ニハ全部休業、大正二年ニ至リ一區、二人、二萬千八百二十九坪ヲ試掘シ、大正三年ニハ復業シ、大正九年ニハ又事業皆無トナル、今此ノ狀況ヲ明治四十年ヲ百トシタル各年ノ指數ニ依リ觀察スルト、明治四十二年、八十三、四十三年、二百二十二、四十四年二十五、大正元年十三、二年八、三年三十九、四年六十四、五年九百六十七、六年二千二百四十、七年七百一、八年千百七十四ニ該當シ、大正九年ヨリハ事業皆無トナル。

採　掘　明治四十年ニハ七區鑛夫、十七人三十一萬八千四百九十三坪ノ事實アリタルモ、以後大正六年ニ至ル十年間ハ一高一低シテ大正七年ニ至ツテ十一區九十九人、七十二萬二千五十一坪、八年、三區百三人、五十六萬九千五百五十二坪ニ減退シ大正九年ヨリ事業皆無トナル。

石　材　石材價額合計四十二萬五千四百七十五圓テアル、之ヲ前年事實ニ比スルト一割二分二厘ノ減退ニ當ル、今各郡市產出ノ割合ヲ見ルニ泉南郡23.43%、中河內郡22.19%、南河內郡 20.34%、泉北郡14.23%、大阪市5.87%、北河內郡4.05%、三島郡2.25%、豐能郡1.95%、岸和田市 1.69%等ニ該當ス。

有用土石及鑛水

價額合計二十一萬百二十八圓ヲ前年事實ニ比較スレハ一割一分二厘ノ減退テアル、各郡產出ノ割合ハ南河內郡最多テ42.98%、泉北郡26.21%、泉南郡11.15%、中河內郡7.67%、三島郡 5.32%、豐能郡3.69%、北河內郡2.98%等ニ該當シテヰル。

第七　漁　業

本府ノ漁業狀態ハ年ト共ニ漁具ニ、漁船ニ、或ハ出漁ノ方法ニ、改善セラレ逐次發達ノ傾向カアル。殊ニ近海漁業者ニ對シ府ニ於テモ、漁業組合ヲ通シテ補助金ヲ交附シ、奬勵スルト共ニ一面魚群ノ來集策トシテ、沿岸築磯ノ設備ヲ督勵シ、或ハ繁殖保護ノ方法ヲ講シ、加ヘテ漁法ニ又ハ漁具ニ改善ヲ促シ斯業ヲ盛ンナラシムル方法ヲ講シツヽアリ。故ニ漁業ノ全般ヨリ之ヲ觀察スルトキハ、其ノ歩ミ

遲々タル感ハアルカ、進展ノ曙光ヲ覺フコトヲ得、加之ニ沿岸ニハ大阪、神戶、堺市等所謂大都市ニ圍繞セラレ、其ノ需要モ頗ル多ク、且又自然的天惠ノ存スルコトハ本事業ノ前途ハ有望ナリト言フヲ得、サレハ僅々十八里二十餘町ノ沿岸線ヲ有スル府ニアリテハ之ヲ他府縣ニ比スレハ常ニ豐漁ニシテ喜フヘキ現象テアル。以下各表ニ付一瞥スルニ、

水產物價額累年比較

本年水產物ノ總價額ハ七百五十五萬五千七百九十四圓ニシテ、內漁獲物ハ六割九分四厘、水產製造物ハ二割七分三厘ヲ占ム即チ漁獲物ハ之ヲ加工製造スルハ僅少ニシテ大体生ノマヽ消費サレルコトヲ知ル。

更ニ漁獲物ヲ細分シ比ヲ求ムルニ其ノ他ノ水產動物價額ハ最多ニシテ合計ノ五割一分四厘ヲ占メ、漁類ハ其ノ次ニ位シ、一割六分三厘、水產養殖三分一厘、介類一分七厘藻類ハ僅少ニ割合ス。

水產製造物ニ在テハ食料品ハ二割六分六厘ニ當リ、其ノ他ニ屬スルモノハ六分一厘、肥料一分ニ該當ス、總數ヲ前年事實ニ比スレハ一割五分八厘ノ增加ニ當リ、五ケ年前ナル大正十年ニ比スレハ八割ヲ增シ十ケ年ヲ遡リ大正五年ニ比スレハ二十割六分五厘ノ增加トナル。

尙之カ增減狀況ヲ大正五年ヲ百トシタル各年ノ指數ニヨリ對比スルト、大正六年百三十六、大正七年百八十、大正八年二百六十二、大正九年百九十八、大正十年百七十、大正十一年二百三十四、大正十二年二百四十三、大正十三年二百六十五、大正十四年三百七ニ該當ス。以下各分類ニ付其ノ消長ヲ概說スルト漁類價額百二十三萬八千三百二十九圓ヲ前年事實ニ比シ二割一分二厘ヲ減シ、五ケ年前ナル大正十年ニ比スルト八分ノ減少トナリ、十ケ年ヲ遡リ大正五年ニ比スルト、六割六分七厘ノ增加トナル。尙大正五年ヲ百トシタル各年ノ指數ニヨリ之カ增減ノ狀態ヲ觀察スルニ大正六年八十一、大正七年百二十八、大正八年百九十五、大正九年二百六、大正十年百八十一、大正十一年二百四十七、大正十二年二百十二、大正十三年二百十二、大正十四年百六十七ニ各該當ス。介類ノ價額十二萬五千四十九圓ヲ前年事實ニ比スルト九割八分一厘ヲ增加シ、五ケ年前ナル大正十年ニ比スルト五割八分二厘ノ減少トナリ十ケ年前ノ大正五年ニ比スルト三十割六分六厘ノ增加トナル、之カ大正五年ヲ百トセル各年ノ指數ヲ算シミルニ、大正六年二百二十七、大正七年二百四十九、大正八年二百五十一、大正九年一千四百二、大正十年九百七十三、大正十一年一千五十一、大正十二年百八十六、大正十三年二百五大正十四年四百六ニ該當ス。

其ノ他水產動物價額三百八十八萬五千九百十四圓ヲ前年事實ニ比スルニ五割一分八厘、五ケ年ヲ遡リ大正十年ニ比スルト六十一割五分六厘、十ケ年前即チ大正五年ニ比スルト百九十六割六分二厘ノ各增加トナル。

尙此ノ增減狀況ヲ大正五年ヲ百トセル指數ニヨリ對比スルニ大正六年百四十一、大正七年百八十一、大正八年二百十七、大正九年二百六十六、大正十年二百八十八、大正十一年九百九十八、大正十二年千百五十四、大正十三年千三百六十、大正十四年二千六十六ノ如ク、漸次增加ノ現象ヲ示シテイル。

水產製造物中食料品價額二百一萬二百七十七圓ニシテ前年事實ニ比スルト一分六厘、五ケ年前ナル大正十年ニ比シ九十七割二分四厘十ケ年前ナル大正五年ニ比シ百二十五割三厘ニシテ孰レモ增加ノ傾向ヲ示ス。尙之カ大正五年ヲ百トセル各年ノ指數ニ依リ其ノ狀況ヲ觀ルニ、大正六年百七十九、大正七

年百三十二、大正八年百四十五、大正九年百九十二、大正十年百二十五、大正十一年八百八十七、大正十二年千二百二十一、大正十三年千三百四十八、大正十四年千三百五十トナル。

肥料八千七百四圓ヲ前年ニ比シ四割六分一厘ノ增加ヲ示シ、五ケ年前ノ大正十年ニ比シ八割九分三厘ノ減少ヲ來シ、十ケ年前ノ大正五年ニ比シ二割五分ノ減退ナリ。尙大正五年ヲ百トセル指數ニ依リ其ノ消長ヲ窺フニ大正六年九十二、大正七年百二十六、大正八年三百三十二、大正九年四百七、大正十年七百六、大正十一年四百九十八、大正十二年百六十五、大正十三年四十、大正十四年七十五トナル

水產製造物中其ノ他ノ價額四萬六千五百三圓ヲ前年事實ニ比スルト六割九分五厘五ケ年ヲ遡リ大正十年ハ七割一分六厘、十ケ年前ノ大正五年ニ比スルト二割一分六厘トナリ、孰モ減退ノ傾向ナリ。尙大正五年ヲ百トセル各年ノ指數ニ依リ增減ヲ觀ルニ、大正六年二百五、大正七年四百七十、大正八年三百八十、大正九年二百七、大正十年二百七十五、大正十一年二百五十七、大正十二年二百三十五、大正十三年二百五十七、大正十四年七十八トナル。

水產物價額郡市別

本年水產物價額合計七百五十五萬五千七百九十四圓ノ郡市別生產割合ハ、遠洋漁業ヲ包含セル關係上大阪市ハ最多ニシテ65.78%、泉南郡13.49%、岸和田市7.18%、堺市6.95%、泉北郡4.13%、北河內郡1.00%、中河內郡0.56%、南河內郡0.48%、三島郡0.25%、豐能郡0.16%ノ順位トス。

尙漁獲物、水產製造物ニ分チ各郡市ニ付分節比ヲ求メ、比較スレハ五百四十九萬三百拾圓ニシテ郡市生產ノ割合ハ大阪市ハ總數ノ62.32%ニ當リ、泉南郡16.42%、堺市6.97%、岸和田6.77%、泉北郡4.19%、北河內郡1.36%、中河內郡0.73%、南河內郡0.65%、三島郡0.34%、豐能郡0.22%ニ當ル。

水產製造物總價額二百六萬五千四百八十四圓ニシテ大阪市75.02%、岸和田市8.25%、堺市6.89%、泉南郡5.72%、泉北郡3.98%、中河內郡0.11%ニ該ル。

漁獲物　漁獲物ヲ魚類、水產動物、藻類ニ分類シ更ニ魚類ヲ二十四種類　介類ヲ六種ニ、其ノ他ヲ十種類ニ大別シ價額十萬圓以上ノモノニ付概說スルニ、

鯛　本年收穫シタル價額ハ九萬八千九百二圓ニシテ前年ノ事實ニ比スルト五割五分二厘ヲ減少シ五ケ年前ノ大正十年ニ比スルト七割四分六厘ヲ增加ス、尙郡市別所得割合ヲ觀ルニ泉南郡52.37%岸和田市39.67%、堺市3.84%、大阪市3.15%、泉北郡0.95%トナル。

春黑鰯　漁穫價額ハ十萬七千三百三十九圓ニシテ前年ニ比スルニ一割一分九厘、五ケ年ヲ遡リ大正十年ニ比スルニ三割一分二厘ヲ孰モ減退ヲ示ス。尙郡市所得ヲ一瞥スルニ泉北郡46.19%、泉南郡27.52%、堺市19.37%、岸和田市6.89%ニ當ル。

鰮　漁獲價額ハ十萬八百八十八圓ニシテ前年ニ比シ七割五分一厘、五ケ年前ノ大正十年ニ比シ十九割一分六厘ノ孰レモ增加ノ現象ヲ示ス。尙郡市所得ヲ觀ルニ岸和田市47.42%、泉南郡35.15%泉北郡10.86%、堺市4.75%、大阪市1.79%トナル。

水產養殖　年末現在ノ場數ハ二千三百八十五其ノ中公共ノ用ニ供セル水面ハ百四箇所、公共用ニ供セサル水面二千二百八十一箇所ノ割合トナル。面積總數ハ四百七十四萬四千七十四坪ニシテ內公共用ニ供スル水面ハ一割一分、公共ノ用ニ供セサル水面八割八分九厘ニ當ル。郡市分布割合ハ泉北郡35.65%泉南郡22.51%、北河內郡19.58%、南河內郡9.42%、豐能郡4.93%、中河內郡4.62%、大阪市1.52%

三島郡0.97%、堺市0.44%、岸和田市0.31%トナル。

價額總額ハ二十四萬百七十一圓ニシテ前年事實ニ比スルト四割八分七厘ノ增加トナル。尙郡市ニ依ル生產割合ハ北河內郡28.61%、中河內郡16.35%、泉南郡16.01%、南河內郡10.32%、大阪市5.98%、豐能郡2.79%、堺市1.89%、三島郡1.31%、岸和田市0.28%等ニ該當ス。

水產業者

業主年末現在ニ於テ業主ノ總數ハ三千二百五十五人ニテ前年事實ニ比スルト一割八厘ヲ減少ス、業主ノ總數ニ於テ郡市分布ノ割合ハ泉南郡35.88%、大阪市29.00%、三島郡8.81%、堺市8.41%、泉北郡8.26%、岸和田市5.62%、中河內郡1.47%、北河內郡、1.47%、豐能郡0.64%、南河內郡0.39%等トナル。

被用者　年末現在總數三千百八十九人ニシテ前年ニ比スルト三分一厘ノ減少トナル、尙總數ニ於ケル郡市分布ノ狀況ヲ觀ルニ泉南郡37.69%、大阪市26.77%、泉北郡15.30%、堺市11.13%、岸和田市7.74%、三島郡0.59%、南河內郡0.06%、豐能郡0.06%、北河內郡0.03%ノ割合トナル

漁船

動力ヲ有セサルモノ

五噸未滿ノモノ三千八十七、五噸以上十噸未滿八十六ニシテ總數三千百七十三艘トナル。

五噸未滿ノモノヲ郡市別ニ見ルト泉南郡一千六百九十七艘、堺市四百五十八艘、泉北郡二百七十八艘大阪市二百七十七艘、岸和田市二百四十艘、北河內郡百二十七艘、三島郡十艘トナル。

五噸以上十噸未滿ヲ見ルニ泉南郡ノ八十六艘ノミナリ。

動力ヲ有スルモノ

蒸汽機關ヲ有スル三十噸以上五十噸未滿ノモノハ泉南郡一艘ノミナリ。

第八工業

今本府工業界ノ狀況ヲ大觀スルニ尙不況ヲ脫スルヲ得サルノ狀態ニ在リ、彼ノ歐亞ノ大戰ヲ一轉機トシテ白熱的ナリシ黃金時代モ、大正九年所謂恐慌蠶來後ハ全ク打續ク悲境ニ沈淪シ方今ハ全ク命脈ヲ持續スルノ趨勢ナリ。以下各表ニヨリ其ノ概況ヲ摘記スルニ、

工業總覽

製造戶數　大正十四年五大分類ニヨリ工業戶數ハ四萬四千八百四十一戶ナリ、之ヲ前年ニ比較スレハ三分四厘五ケ年ヲ遡リ大正十年ニ比スルト八分ノ孰モ減少トナリ、十ケ年ヲ遡リ大正五年ニ比スルニ九分二厘ノ增加トナル。總數ニ對シ五大分類比ヲ求ムルニ雜工業ノ製造戶數ハ五割九厘、飮食物工業二割二分一厘、機械器具工業一割二分、染織工業一割二厘、化學工業五分九厘トナル。尙總數ニ於ケル郡市分布狀況ヲ觀ルニ大阪市50.11%、三島郡10.08%、泉北郡8.44%、豐能郡7.87%、南河內郡6.18%、泉南郡5.67%、北河內郡3.96%、中河內郡3.66%、堺市3.21%、岸和田市0.82%ニ割合ス

職工　上述ノ五大分類ニヨリ職工總數ハ三十萬五千八百六十一人ニシテ之ヲ前年事實ニ比スルハ六厘、五ケ年ヲ遡リ大正十年ニ比スルト六分七厘、十ケ年ヲ遡リ大正五年ニ比スルト一割三分一厘、各々增加ヲ示ス。總數ニ對スル男女ノ割合ハ男五割五分八厘、女四割四分二厘ノ割合トナル。

五大分類ニヨリ對比ノ狀況ハ染織工業ノ四割四分七厘、雜工業二割一分一厘、機械器具工業一割七分化學工業一割、飮食物工業七分二厘トナル。尙性別ニヨリ對比スルニ男ノ十七萬五百四十五人ヲ前年ニ比スルト一分二厘ノ減少トナリ五ケ年前ノ大正十年ニ比スルト七分三厘、十ケ年ヲ遡リ大正五年ニ比スルト三割四分九厘ノ孰モ增加トナル。尙之カ五大分類ニ依リ從業男職工ノ割合ハ機械器具工業ノ二割八分六厘、雜工業二割五分八厘、染織工業二割二分、化學工業一割三分四厘、飮食工業一割二厘ニ割合ス。尙男職工ノ郡市別分布狀況ヲ一瞥スルニ大阪市72.70%、泉南郡5.56%、三島郡 5.09%、堺市4.87%、泉北郡3.03%、南河內郡3.27%、中河內郡2.15%、豐能郡1.84%、岸和田市1.24%、北河內郡1.15%等トナル。

女工總數ハ十三萬五千三百十六人ニシテ之ヲ前年事實ニ比スルト二分九厘、五ケ年前ナル大正十年ニ比スルト六分ノ孰モ增加トナリ、十ケ年ヲ遡リ大正五年ニ比スルト六分一厘ノ減退トナル。

五大分類ニ依ル其ノ割合ヲ觀ルニ染織工業七割三分四厘、雜工業一割五分一厘、化學工業、五分六厘飮食物工業三分四厘　機械器具工業二分五厘等トナル。尙女職工ノ郡市分布狀況ヲ分節比ニ依リ對比スルニ大阪市42.97%、泉南郡16.41%、堺市6.12%、泉北郡6.08%、三島郡3.73%、南河內郡2.95%岸和田市2.7%、豐能郡2.39%、北河內郡2.02%、中河內郡1.74%トナル。

以下五大分類ニヨリ概說スレバ、

染織工業　本業ニ屬スル製造戶數ハ四千五百九十七戶ナリ。之ヲ前年事實ニ比シ六分三厘、五ケ年ヲ遡リ大正十年ニ比シ五分八厘、十ケ年ヲ遡リ大正五年ニ比シ三割八分ヲ減退ス、

總數ニ對スル郡市分布ノ割合ハ大阪市65.48%、泉北郡13.12%、泉南郡7.59%、中河內郡5.68%、南河內郡3.39%、北河內郡2.50%、堺市1.65%、三島郡1.15%、豐能郡0.80%、岸和田市0.63%ノ順位トナル。

職工總數ハ十三萬六千七百九十四人ニシテ、內男ハ二割七分四厘、女七割二分六厘ニ割合ス。尙性別ニ依リ郡市分布ノ狀況ヲ觀ルニ男總數三萬七千四百八十二人ニ對シ、大阪市61.64%、泉南郡15.59%泉北郡5.60%、堺市4.58%、岸和田市3.11%、南河內郡2.43%、北河內郡1.90%、三島郡1.88%、豐能郡1.70%、中河內郡1.55%等ニ割合ス。

女總數九萬九千三百十二人ニ付郡市別分節比ヲ觀ルニ大阪市48.29%、泉南郡24.93%、泉北郡8.01%堺市6.11%、岸和田市3.95%、南河內郡2.56%、北河內郡2.24%、中河內郡1.43%、豐能郡1.28%、三島郡1.21%ニ割合ス。

機械器具工業

製造戶數ハ五千三百九十一戶ナリ、之ヲ前年事實ニ比スルト二分、五ケ年ヲ遡リ大正十年ニ比スルト一割二分六厘　十ケ年ヲ遡リ大正五年ニ比スルト七割六分七厘ノ孰モ增加ヲ示ス。總數ニ對スル郡市分布ノ割合ハ大阪市84.57%、堺市9.13%、中河內郡3.00%、南河內郡0.85%、岸和田市0.64 %、泉南郡0.56%、三島郡0.43%、北河內郡0.43%、豐能郡0.20%、泉北郡0.19%ノ割合トナル。

職工總數五萬二千百四十九人ニ對シ男女ノ割合ヲ觀ルニ、男九割三分五厘、女六分五厘トナル。尙職工總數ニヨル郡市別分節比ヲ對比スルニ大阪市90.40%、堺市4·8%、中河內郡1.68%、泉南郡1.02%南河內郡0.68%、三島郡0.64%、北河內郡0.49%　堺市0.19%、豐能郡0.05%、泉北郡0.04ノ割合トナル。

化學工業

本年度製造戶數ハ二千六百四十三戶ナリ。之ヲ前年事實ニ比スルニ四分二厘ノ減トナリ、五ケ年ヲ遡リ大正十年ニ比スルニ三割一分二厘、十ケ年前ナル大正五年ニ比スルト四割八分六厘ノ孰モ增加ノ傾向ヲ示ス、之カ郡市分布ノ狀況ヲ見ルニ大阪市48.69%、泉北郡28.23%、泉南郡7.72%、中河內郡4.69%、堺市4.09%、南河內郡2.27%、北河內郡1.51%、三島郡1.44%、岸和田市0.91%、豐能郡0.45%トナル。職工總數ハ三萬五百四十七人ニシテ之カ性別ニ依ル割合ヲ見ルニ男性七割五分一厘、女性二割四分九厘トナル。尙總數ニ對スル郡市分布狀況ヲ見ルニ大阪市75.49%、堺市7.28%、泉北郡4.63%泉南郡3.50%、中河內郡3.39%、三島郡2.39%、岸和田市1.42%、南河內郡1.26%、北河內郡0.44%豐能郡0.19%ノ割合トナル。

飮食物工業

製造戶數九千九百十三戶ニシテ之ヲ前年事實ニ比スレハ四厘、五ケ年前ノ大正十年ニ比シ一割七分五厘、十ケ年ヲ遡リ大正五年ニ比スルニ一割三分六厘ノ各々增加トナル。

之カ總數ニ對シ郡市別狀況ヲ一瞥スルニ大阪市37.37%、豐能郡12.74%、南河內郡10.90%、泉北郡10.82%、北河內郡8.30%、泉南郡7.48%、堺市3.83%、中河內郡3.59%、三島郡 3.55%、岸和田市1.37%トナル。

職工總數ハ二萬一千九百二十一人ニシテ內男工七割九分、女工ハ二割一分トナル。之カ郡市ノ分布狀況ヲ大觀スルニ大阪市57.21%、三島郡16.50%、南河內郡6.28%、堺市6.17%、豐能郡3.67%、泉南郡2.86%、北河內郡2.31%、泉北郡2.15%、中河內郡1.86%、岸和田市0.98%トナル。

雜工業　本年製造戶數ハ二萬二千二百九十七戶ナリ。之カ前年ニ比スルト七分九厘、五ケ年前ノ大正十年ニ比スルニ二割三分六厘ノ孰モ減退ノ傾向ヲ示シ、十ケ年ヲ遡リ大正五年ニ比スルニ四分七厘ノ增加トナル。

職工總數六萬四千四百五十人ヲ性別スルニ男六割八分四厘、女三割一分六厘ニ割合ス、之カ總數ニ對シ郡市別分布狀況ヲ見ルニ大阪市57.30%、三島郡12.23%、堺市6.14%、豐能郡6.29%、南河內郡4.75%、泉北郡4.11%、中河內郡3.17%、北河內郡1.88%、泉南郡3.31%、岸和田市0.73%ノ割合トナル。

工產物價額總覽

本年度工產物總額ハ十三億四千八百八十九萬一千五百二十六圓ナリ、之ヲ前年事實ニ比スルト四割八分八厘、五ケ年前ナル大正十年ニ比スルト三割九分三厘、十ケ年ヲ遡リ大正五年ニ比スルト十割五厘ヲ各々增加ス。尙指數ニ依リ大正五年ヲ百トセル各年ノ指數ヲ對比スルニ大正六年百十七、大正七年二百五、大正八年百九十九、大正九年百六十、大正十年百四十四、大正十一年百五十六、大正十二年百六十六、大正十三年百九十一、大正十四年百八十ニ該當ス。

更ニ總額ヲ六大分類ニ分節比ヲ算出スレハ染織工業37.94%、機械器具工業17.03%、化學工業14.42%雜工業12.26%、飮食工業9.60%、特別工業8.75%ニ當ル。總數ニ於ケル郡市生產ノ狀況ハ大阪市73.81%、泉南郡9.18%、堺市6.11%、泉北郡2.78%、岸和田市2.04%、南河內郡1.44%、中河內郡1.48

%、三島郡1.27%、北河內郡0.97%、豐能郡0.12%ノ割合トナル。

以下大分類ノ各工業ニ付概說スレハ

染 織 工 業

價額總額五億一千百八十二萬七千二百九十一圓ニシテ前年事實ニ比スルニ八分四厘、五ケ年前ナル大正十年ニ比スルト四割七分四厘、十ケ年ヲ遡リ大正五年ニ比スルト六割五分二厘ヲ各々增加ヲ示ス。

郡市ニ於ケル生產ノ割合ハ大阪市52.93%、泉南郡22.56%、泉北郡6.54%、岸和田市4.90%、堺市4.74%南河內郡2.44%、北河內郡1.93%、中河內郡1.93%、豐能郡1.86%、三島郡0.16%等ニ該當ス。

機械器具工業

本年生產シタル價額ハ二億二千九百七十一萬一千九百四十九圓ニシテ之カ事實ヲ前年ニ比スルト三分六厘、五ケ年ヲ遡リ大正十年ニ比スルト一分九厘、十ケ年ヲ遡リ大正五年ニ對比スルト十二割九分一厘ノ各々增加トナル。

本年事實ノ郡市別生產狀況ハ大阪市94.47%泉南郡0.71堺市2.98%中河內郡0.64%三島郡0.37% 南河內郡0.42%北河內郡0.32%岸和田市0.08%豐能郡0.01%泉北郡0.01%ニ該當ス。

化 學 工

本年ノ生產價額ハ一億九千四百四十四萬九千五百九十一圓ニシテ之ヲ前年事實ニ比スルニ三分三厘、五ケ年ヲ遡リ大正十年ニ比較スルト四割三分五厘、十ケ年ヲ遡リ大正五年ニ對比スルト四割七分五厘ヲ夫々增加ヲ來ス。尙郡市生產割合ハ大阪市83.26%堺市9.36%南河內郡1.32%中河內郡2.54% 泉北郡0.89%泉南郡0.80%三島郡0.79%豐能郡0.39%岸和田市0.36 %北河內郡0.28%ニ該當ス

飮 食 物 工 業

生產價額ハ一億二千九百四十七萬一千百圓ニシテ之ヲ前年ニ比較スルト七分ノ減退、五ケ年ヲ遡リ大正十年ニ對比スルト一割二分四厘十ケ年ヲ遡リ大正五年ニ比スルト三十三割三分六厘ノ孰モ增加ヲ示ス。

總額ニ於ケル郡市生產ノ割合ハ大阪市78.62%三島郡9.72%堺市4.33% 泉南郡2.61%南河內郡1.40%豐能郡1.25 %北河內郡0.92%中河內郡0.50%泉北郡0.37%岸和田市0.25%等ニ割合ス。

雜 工 業

總價額一億六千五百三十七萬六千百三十八圓ニシテ前年ニ比シ二厘、五ケ年ヲ遡リ大正十年ニ比シ五分十ケ年ヲ遡リ大正五年ニ比スレハ二十二割三分九厘ヲ各々增加ス。

郡市生產ハ狀況ハ大阪市76.48%堺市16.59%中河內郡1.80%泉北郡1.06%泉南郡1.06%南河內郡0.92%岸和田市0.72%三島郡0.72%北河內郡0.42%豐能郡0.21%ニ割合ス。

特 別 工 業

價額一億一千八百五萬五千四百五十七圓ニシテ之ヲ前年ニ比シ一割五分二厘、五ケ年ヲ遡リ大正十年ニ比シ六割八分四厘、十ケ年前ノ大正五年ニ比シ二十七割二分二厘ニ該當ス。尙郡市生產ノ割合ハ大阪市99.56%三島郡0.14%南河內郡0.11%堺市0.09%岸和田市0.08%ニ當ル。

以下各分類ニヨリ其ノ重ナル生產物ニ付概說スレハ

染織工業　小分類ハ十四種類中重ナルモノハ

綿糸紡績　年末現在ニ於ケル工場數ハ四十一ナリ、總數ヲ前年事實ニ比スルニ一工場ノ增加トナル。

郡市別ヲ見ルニ大阪市二十、泉南郡九、堺市四、岸和田市三、北河內郡二、豐能郡一、泉北郡一、南河內郡一工場ノ順位トナル。本年拂込ヲ了シタル資本金ハ四千三百二十五萬一千二百八十圓ニシテ二厘ノ增加トナル

職工總數ハ五萬四千三百一人ニシテ之カ性別ニ割合ヲ見ルニ女工ハ七割八分二厘、男工二割一分八厘ニ該當ス。

本年中ニ於ケル生產總價額ハ二億一千四百四十七萬一千九百四十二圓ナリ。之ヲ內譯スレハ管糸二億一千十五萬七千七百八十三圓、落綿三百七十六萬四千九百十圓及屑糸五十四萬九千二百四十九圓トナル。

織物價額郡市別

織物總價額ハ二億七百五十七萬九千三十一圓ニシテ內綿織物ノ八割五分七厘、毛及毛交織物一割九厘特殊織物二分竈及其交織物一分一厘、絹及絹交織物一厘ニ該當ス。總數ノ郡市ニ於ケル割合ハ泉南郡38.74%大阪市32.82%泉北郡13.22%南河內郡4.58%堺市3.63%岸和田市3.25% 中河內郡2.16%北河內郡1.33%豐能郡0.18%三島郡0.07%ニ割合ス。

綿 織 物　總戶數八百七十四戶ニシテ內力織機八割二分手織機一割八分ニ該當ス。尙之カ郡市別戶數ヲ見ルニ泉北郡46.10%泉南郡33.98%南河內郡6.64%中河內郡5.72%大阪市2.86%北河內郡2.40%岸和田市1.26%堺市0.69%豐能郡0.34%ニ當ル。

機臺總數ハ五萬七千七百三十三臺ニシテ內力織機ハ九割五分七厘、手織機四分三厘ニ當ル。

職工總數ハ四萬五千二百五十四人ニシテ內女工ハ八割三分三厘、男工ハ一割六分七厘ニ割合ス。職工總數ニ對シ之カ郡市分巴狀況ヲ見ルニ泉南郡38.61%大阪市26.51%泉北郡17.48堺市5.42南河內郡5.22%岸和田市2.51%中河內郡2.30%北河內郡1.69豐能郡0.27%ニ當ル。

絹及絹綿交織物　戶數總計ハ五戶ニシテ內力織機一戶手織機四戶ニ當ル。

職工總數ハ六十人ニシテ內男十二人女四十八人ニ當ル。價額總計ニ於テハ十一萬五百八圓ニシテ之カ郡市別ニ見ルニ三島郡ノ九萬五千五百八圓、南河內郡一萬五千圓トナル。

麻及其交織物　戶數五戶ニシテ內力織機三戶手織機二戶ノ割合トナル。

職工總數ハ七百九人ニシテ內男二百二十一人女四百八十八人ニ當ル。

價額總額ニ於テ二百四十六萬一千百八十三圓ニシテ大阪市ノ百九十萬三千六十七萬泉南郡ノ五十二萬二千六百十六圓南河內郡ノ三萬五千五百圓ノ順位トナル

毛及其ノ交織物　戶數三十三戶、職工數男一千百五十八人女四千二十九人ニシテ總計五千百八十七圓トナル。機臺數一千八百十五臺ニシテ內力織機千四百五十八臺、手織機三百五十二臺トナル。生產總額二千二百七十一萬二千六百十八圓ナリ之カ郡市別分布狀況ヲ見ルニ大阪市94.73% 泉南郡4.70%泉北郡0.43%岸和田市0.14%ニ當ル。

特殊織物業

戶數百二十五戶ニシテ內力織機ニ屬スルモノ十五戶手織機ニ屬スルモノ百十戶トナル。機臺總數千六十臺ニシテ職工總數千三人ニシテ內男二割五分四厘女七割四分六厘ニ割合ス。

本年生產總額ハ四百三十九萬五千六十九圓ナリ之カ郡市ノ分布狀況ヲ見ルニ堺市53.67%大阪市39.22%南河內郡2.82%泉北郡1.65%岸和田市1.33%三島郡1.31%等ニ割合ス。

晒及染物

晒及染物ニ從事スル戶數ハ五百九十一戶ナリ、之ヲ前年ノ事實ニ比スレハ六分ヲ減ス、郡市分布ノ狀況ハ大阪市最多ニシテ總數ノ56.68%ヲ占メ、次ハ泉北郡12.86%南河內郡7.61%堺市5.75%泉南郡5.58%北河內郡3.38%三島郡3.05%豐能郡2.20%岸和田市1.54%中河內郡1.35%等ニ割合ス。

職工總數ハ八千六百八十四人ナリ、內男ハ八割六分九厘、女ハ一割三分一厘ニ割合セリ。總數ヲ前年事實ニ比スレハ一割二分ノ減少ナリ、郡市分布ノ狀況ハ大阪市最多ニシテ總數ノ72.54% ヲ占メ、次ハ泉北郡7.06%堺市5.54%三島郡4.70%泉南郡3.78%南河內郡2.81%豐能郡2.34%北河內郡0.89%岸和田市0.17%中河內郡0.17%等ニ該當ス。

染賃

年中ノ染賃ハ千七百四十三萬五千九百五十九圓ナリ、內絹物四厘、綿八割三分一厘、毛一割四分八厘其ノ他一分七厘ナリ、郡市ニ於ケル割合ハ大阪市最モ多クシテ總數ノ85.03%ヲ占メ、次ハ堺市5.96%泉北郡3.09%三島郡2.11%豐能郡1.20%泉南郡1.16%南河內郡0.89%北河內郡0.39%中河內郡0.09%岸和田市0.08%等ニ割合ス。

晒賃

本年ノ晒賃ハ二百六十二萬八十六圓ナリ、郡市ニ於ケル割合ハ泉北郡最多ニシテ總額ノ35.32% ヲ占メ、次ハ大阪市25.03南河內郡13.82%堺市10.56%泉南郡10.24%北河內郡0.93%等ニ該當ス。

裏大小

製造戶數ハ編立ニ從事スルモノ六百二十九戶、裁縫業五百七十一戶ナリ、編立業ニ於ケル郡市分布ノ狀況ハ大阪市ノ五百七戶最モ多ク、次ハ北河內郡ノ五十五戶之ニ亞キ、中河內郡二十七戶、三島郡十八戶、堺市五戶、豐能、泉北郡、各二戶、泉南郡一戶等ナリ。

裁縫業ハ大阪市最モ多クシテ五百五十八戶、三島郡四戶、南河內郡三戶、堺市、豐能、泉北郡各二戶ナリ。

職工總數ハ一萬五百十人ナリ、其ノ中編立ニ從事スルモノ七千六百二十三人ニシテ、裁縫職二千八百八十七人ナリ。編立職ノ三割九分五厘ハ男職工ニシテ、六割五厘ハ女職工ナリ。裁縫職ニ在リテ其ハノ五割二分ハ男ニシテ、四割九分八厘ハ女ナリ、郡市職工ノ分布狀況ハ大阪市最多ニシテ總數ノ89.68%ヲ占メ、次ハ北河內郡ノ5.56%豐能郡1.30%中河內郡1.19%三島郡0.96%南河內郡0.79% 泉北郡0.28%、堺市0.26%、泉南郡0.08%、等ニ割合ス。

價額合計二千九百十九萬八十五圓ナリ、之ヲ前年事實ニ比スレハ一割六厘ノ增加ニ當ル、總數ノ內綿製品ハ八割二分五厘、毛及毛綿製品ハ一割七分一厘、絹製品二厘、其ノ他ノ製品二厘ニ割合ス、郡市生產ノ割合ハ大阪市最多ニシテ總額ノ96.43%ヲ占メ、次ハ中河內郡ノ1.17%、北河內郡0.96% 堺市0.49%、豐能郡0.42%、南河內郡0.33%、三島郡0.15%、泉北郡0.04%、泉南郡0.01%、等ニ該當ス。

機械及器具工業

本工業ニ屬スル總戶數ハ五千三百九十一戶ナリ、之ヲ前年事實ニ比スレハ二分ノ增加ヲ來シテ居ル、郡市分布ノ狀況ハ大阪市最モ多クシテ總數ノ84.56%ニ當リ、之ニ亞クハ堺市ノ9.12%、中河內郡3.01%、南河內郡0.85%、岸和田市0.65%、泉南郡0.56%、三島北、河內郡各0.43%、 泉北郡0.19%等ニ該當ス。

職工總數ハ五萬二千百四十九人ナリ、事業ノ性質上男職工ハ大部分ヲ占メテ總數ノ九割三分五厘、女職工ハ僅ニ六分五厘ニ割合ス、總數ヲ前年ニ比スレハ三分七厘ヲ增シ、十ケ年前タル大正五年ニ比スレハ四割三分六厘ノ增加ナリ、郡市分布ノ狀況ハ大阪市最モ多ク總數ノ90.40%、堺市4.81%、 中河內郡1.67%、泉南郡1.03%、南河內郡0.67%、三島郡0.66%、北河內郡0.48%、岸和田市0.19%、豐能郡0.05%、泉北郡0.04%、等ニ割合ス。

價額二億二千九百七十一萬千九百四十一圓ヲ前年事實ニ比スレハ三分六厘ヲ增シ、五ケ年前タル大正十年ニ比スレハ二割七分ノ增加ナリ、尙十ケ年ヲ遡リ大正五年ニ比スレハ十二割九分二厘ノ增加ニ當ル、更ニ其ノ增減ノ狀況ヲ大正五年ヲ百トセル各年ノ指數ニヨリ觀察スレハ大正六年百四十五、七年二百七十八、八年百七十七、九年二百二十六、十年百九十、十一年二百十一、十二年二百十、十三年二百二十一、十四年二百二十九ニ該當ス。

郡市生產ノ割合ハ大阪市最モ多ク總數ノ94.46%ニ當リ、次ハ堺市2.98%、泉南郡0.71%、 中河內郡0.64%、南河內郡0.42%、三島郡0.37%、北河內郡0.32%、岸和田市0.08%、豐能泉北各0.01%、等ニ該當ス、以下重ナル種類ニ付キ概說スレハ

アルミニユーム製品

製造戶數四十六戶ヲ前年事實ニ比スレハ一戶ヲ增加ス、內大阪市ハ最モ多クシテ四十三戶、堺市三戶ナリ。

職工數ハ千二百三十七人ニシテ男ハ千四十六人、女ハ百九十一人ナリ、價額ハ八百四十四萬二千十八圓ニシテ前年事實ニ比スレハ二割九分七厘ヲ增加シ、五ケ年前タル大正十年ニ比スレハ十四割七分ノ增加ナリ。之カ郡市生產ノ割合ハ大阪市最多ニシテ總數ノ98.87 %、堺市1.13%等ニ割合ス。

金屬製品

製造戶數三千九百六十六戶、內大部分ヲ占メ三千六百五戶、堺市百六十五戶、中河內郡百二十三戶ハ多キニ屬シ其ノ他ハ何レモ僅少ニシテ三十戶以下ナリ。

職工數ハ三萬四千六百四十七人、內男ハ九割二分五厘、女ハ七分五厘ニ該當ス。

郡市分布ノ狀況ハ大阪市最モ多クシテ總數ノ92.29%ヲ占メ、次ハ堺市2.62%、中河內郡1.56%、 泉南郡1.19%、三島郡0.80%、南河內郡0.64%、北河內郡0.63%、岸和田市0.23%、豐能郡0.02%、ニ割合セリ。價額合計ハ一億六千七十四萬九千五百二十一圓ナリ、之ヲ前年事實ニ比スレハ一分八厘ヲ減シ、五ケ年前ナル大正十年ニ比スレハ十三割五分四厘ノ增加ニ當ル、總額ヲ十一種ニ分類セル生產割合ハ其ノ他ノ雜品ノ生產ハ首位ヲ占メテ43.20%、次ハ諸機械及附屬品23.38%、針金7.98%、各種金屬材料5.56%、金屬管(鐵管以外)4.99%、建築及家具用金具4.86%、點燈用具4.22%、鐵管2.99%諸器具1.65%、鍛力細工1.02%、金銀製品0.15%等ニ該當ス。

總額ヲ郡市別トシタル生産割合ハ大阪市ハ其ノ大部分95.73%ヲ占メ、次ハ堺市1.19%、泉南郡0.87%中河内郡0.60%、南河内郡0.56%、三島郡0.51%、北河内郡0.45%、岸和田市0.09%等ニ該當ス。

車輛製造

製造戸數七百二十二戸ニシテ前年ニ比スレハ二分五厘ヲ增シ、五ケ年前ナル大正十年ニ比スレハ一割二分一厘ノ增加ヲ示セリ郡市分布ノ狀況ハ大阪市ノ五百四十七戸最モ多ク、堺市ノ百十六戸之ニ亞キ中河内郡十三戸、泉南郡南河内郡各十戸岸和田市七戸、豐能郡六戸北河内郡五戸、三島、泉北郡各四戸ナリ。

職工ハ男六千三百十一人、女二百二十一人、計六千五百三十二人ナリ、前年ニ比スレハ五分五厘ヲ減シ、五ケ年ヲ遡リ大正十年ニ比スレハ一割九分五厘ヲ增加セリ、郡市ニ在リテハ大阪市ノ五千二百七十五人ハ最モ多ク堺市ノ九百六十四人之ニ亞キ、中河内郡九十八人南河内郡八十二人、泉南郡六十八人、豐能郡十六人、泉北郡十二人、岸和田市十人、三島郡八人、北河内郡七人ナリ。

價額合計ハ千九百三十二萬二千二百四十圓ナリ、之ヲ前年事實ニ比スレハ一割三分九厘ヲ增シ、五ケ年前ナル大正十年ニ比スレハ二割二分三厘ノ增加ニ當レリ。

總額ヲ種類別ニスレハ自轉車部分品最モ多クシテ32.17%ヲ占メ、次ハ其ノ他24.78%、汽車29.8%、電車6.24%、自轉車4.00%、自動車1.18%、荷車(大車(0.74%、荷車(小車)0.62%人力車0.46%、小兒車0.33%ニ割合セリ。尙汽車中ニハ汽關車最多ニシテ六割七分一厘ヲ占メ、客車二割一分八厘、貨車一割一分一厘ニ割合ス。

郡市生產ノ割合ハ大阪市ハ總額ノ80.44%ヲ占メ最モ多ク、次ハ堺市16.66%、中河内郡1.14%、泉南郡1.13%、南河内郡0.32%、豐能郡0.11%、三島郡0.07%、泉北郡0.05%、岸和田市0.04%、北河内郡0.03%等ニ該當ス。

船舶製造

製造戸數九十五戸ヲ前年事實ニ比スレハ一割八分八厘ヲ增シ、五ケ年前ナル大正十年ニ比スレハ五割三分二厘ノ增加ナリ、郡市ニ在リテハ大阪市ノ六十五戸最モ多ク、岸和田市、泉南郡ノ七戸之ニ亞キ堺市、三島郡ノ五戸、北河内郡ノ四戸、泉北郡ノ二戸ナリ。

職工男ハ四千三百七十三人、女十七人、計四千三百九十人ナリ、之ヲ前年事實ニ比スレハ二分四厘ヲ減シ、五ケ年前ナル大正十年ニ比スレハ四割一分三厘ノ減退ナリ、郡市ニ於ケル分布狀況ハ大阪市總數ノ99.11%、ヲ占メテ最モ多ク、次ハ堺市0.23%、泉南郡0.18%、三島、北河内郡各0.16%、岸和田市0.11%、泉北郡0.05%等ニ割合ス。

價額千五百七萬三千七百六十八圓ナリ、前年ニ比スレハ二割一分四厘ヲ增シ、五ケ年前タル大正十年ニ比スレハ九分ノ減退ニ當ル。總數ヲ製造シタル船舶別ニ觀レハ修繕ハ50.12%、汽船48.66%、日本形船0.73%、バッテーラ及ボート0.29%、其ノ他0.13%、風帆船0.07%等ニ割合ス。郡市生產ノ割合ハ大阪市ハ總額ノ99.63%ヲ占メテ最モ多ク、次ハ岸和田市0.15%、三島郡0.06%、堺市、岸和田市各0.05%、泉南郡0.04%、泉北郡0.02%等ニ該當ス。

化學工業

製造戸數二千六百四十三戸ヲ前年事實ニ比スレハ三分五厘ヲ減シ、五ケ年前ナル大正十年ニ比スレハ

三割一分六厘ヲ增加シ、十ケ年前タル大正五年ニ比スレハ四割八分六厘ノ增加ニ當ル郡市分布ノ狀況ハ大阪市最多ニシテ總數ノ48.69%ヲ占メ、次ハ泉北郡28.23%、泉南郡7.72%中河内郡4.69%、堺市4.09%南河内郡2.27%、北河内郡1.51%、三島郡1.44%、岸和田市0.91%、豐能郡0.45%等ニ割合ス職工合計、ハ三萬五百四十七人、ナリ之ヲ前年ニ比スレハ九分一厘ヲ減シ、五ケ年前ナル大正十年ニ比スレハ一割九分六厘ヲ增シ、十ケ年前ナル大正五年ニ比スレハ二割一分六厘ノ增加ニ當ル、總數ノ內男ハ七割五分一厘、女ハ二割四分九厘ニ割合ス、郡市分布ノ狀況ハ大阪市總額ノ75.49%ヲ占メテ最モ多ク、次ハ堺市7.28%、泉北郡4.63%、泉南郡3.50%、中河内郡3.40%、三島郡2.37%、岸和田市1.42%　南河内郡1.27%、北河内郡0.45%、豐能郡0.19%等ニ割合ス。價額一億九千四百四十四萬九千五百九十一圓ヲ前年事實ニ比スレハ三分四厘ヲ增シ、五ケ年前ナル大正十年ニ比スレハ四割三分六厘ヲ增シ、十ケ年ニ遡リ大正五年ニ比スレハ四割七分六厘ヲ增加ス、尙大正五年ヲ百トシタル各年ノ指數ヲ求メ增減ノ狀況ヲ見レハ大正六年百一、七年二百七十八、八年百七十九、九年百五十五、十年百九、十一年百十四、十二年百二十四、十三年百四十二、十四年百四十八ニ該當ス、即チ大正五年以降遞增シ七年ハ最高ヲ示シ、以降遞減ノ現象ヲ示セリ、

郡市生產ノ割合ハ大阪市最モ多ク總數ノ83.26%ヲ占メ、次ハ堺市9.36%、中河内郡2.54%、南河内郡1.33%、泉北郡9.89%、泉南郡0.80%、三島郡0.79%、豐能郡0.39%、岸和田市0.36%、北河内郡0.28%等ニ該當ス。以下重ナル種類ニ付概說スレハ

硝子製品

製造戸數七百九十九戸ヲ前年事實ニ比スレハ一割五分八厘ヲ減シ、五ケ年前ナル大正十年ニ比スレハ九割四分四厘ヲ增加ス、郡市ノ分布狀況ハ泉北郡ノ六百八十九戸最モ多ク、次ハ大阪市二百八十二、堺市九戸、岸和田市、中河内郡各六戸、南河内郡五戸、三島、泉南郡各一戸ナリ。

職工ハ九千六百八人ナリ、之ヲ前年事實ニ比スレハ六分三厘、五ケ年前ナル大正十年ニ比スレハ四割四分九厘ヲ增加ス、男職工ハ總數ノ八割三分九厘、女職工ハ一割六分一厘ニ割合ス。

郡市分布ノ狀況ハ大阪市最多ニシテ總數ノ77.81%ヲ占メ、次ハ泉北郡12.35%、堺市4.70%、三島郡2.24%、中河内郡1.13%、岸和田市0.82%、南河内郡0.79%、泉南郡0.16%等ニ割合ス。

熔融窯

槽窯二十五個ヲ前年事實ニ比スレハ二割四分二厘ヲ減シ、尙五ケ年前タル大正十年ニ比スレハ四割七分一厘ヲ增加ス、內大阪市二十二個、三島郡二個、南河内郡一個ナリ

瓦斯窯ノ窯數ハ百五個ナリ前年ニ比スレハ十五割ヲ增シ、五ケ年前タル大正十年ニ比スレハ四十二割五分ノ增加ナリ、郡市ニ在リテハ泉北郡八十一個、大阪市二十一個、中河内郡三個ナリ。

瓦斯窯ノ坩堝數ハ二百二十八個之ヲ前年ニ比スレハ三割一分ヲ增シ、五ケ年前タル大正十年ニ比スレハ二十割四分ヲ增加ス、郡市ニ在リテハ大阪市百三十五個、泉北郡八十一個、中河内郡十二個ナリ

直大窯ノ窯數千百四十七個ヲ前年事實ニ比スレハ七分六厘ヲ減シ、五ケ年前タル大正十年ニ比スレハ十八割三分二厘ヲ增加ス、郡市ニ在リテハ泉北郡ノ九百三十八個最モ多ク、次ハ大阪市ノ百七十六個南河内郡二十一個、堺市六個、岸和田市四個、中河郡二個等ナリ

直大窯ノ坩堝數ハ千九十八個ナリ之ヲ前年事實ニ比スレハ二割一分三厘ヲ增シ、五ケ年前ナル大正十

比スレハ二割八分六厘ヲ增加ス、郡市ニ在リテハ大阪市ノ九百四十四個最モ多ク、南河内郡六十五個堺市四十五個、泉北郡三十九個、岸和田市三個、中河内郡二個ナリ。

價額ハ千六百十四萬八千百三十五圓ニシテ、之ヲ前年事實ニ比スレハ五分四厘ヲ增シ、五ケ年前ナル大正十年ニ比スレハ四割九分ヲ增加ス、製品ヲ種類別ニスレハ塗類ハ總額ノ五割六厘、珠玉及光珠一割三分八厘、食器類一割一分四厘、其ノ他九分三厘、燈火用器八分八厘、腕輪五分六厘　板硝子五厘等ニ割合ス。郡市生產ノ割合ハ大阪市總數ノ81.91%、泉北郡8.14%、三島郡3.94%、堺市3.62%、北河内郡0·80%、南河内郡0.72%、岸和田市0.69%、泉南郡0.18%等ニ該當ス。

西　洋　紙

製造工場ハ大阪市六′三島郡一ナリ。拂込資本金ハ百四十六萬四千五百圓ナリ

職工男千八十七人、女四百人、計千四百八十七人ナリ、之ヲ前年ニ比スレハ五分八厘ヲ增シ、五ケ年前ナル大正十年ニ比スレハ二割一厘ヲ增加ス、郡市分布ノ狀況ハ大阪市ハ總數ノ86.65%　ヲ占メ、三島郡ハ13.45%等ニ該當ス。

需要原料ハ亞硫酸木原質最モ多クシテ總需要ノ46.71%ヲ占メ、次ハ藁穰24.55%、　稻藁19.95%、其ノ他7.75%、碎木原質0.94%、曹達木原質0.10%等ナリ。

製產物價額ハ千十二萬二千七百七十七圓ナリ、之ヲ前年事實ニ比スレハ五分二厘ヲ減シ、五ケ年前ナル大正十年ニ比スレハ一割四分五厘ノ增加ニ當ル、總額ヲ生品別ニ觀レハ煙草用紙33.42%、　印刷料紙31.63%ボール板紙18.33%、其ノ他13.04%、儀寸用紙3.58%ニ割合ス。

郡市ヲ生產別ニスレハ大阪市ハ總額ノ94.69%ヲ占メ、三島郡5.31%等ニ割合ス。

油　　類

製造戶數四十一戶、之ヲ前年事實ニ比スレハ二戶ヲ減シ、五ケ年前タル大正十年ニ比スレハ二十四戶ヲ減少ス。郡市ニ分テハ大阪市二十二戶、堺市十四戶、南河内郡、中河内郡各六戶、三島郡二戶、北河内郡一戶等ナリ。

職工數ハ男五百五十七人、女四十六人計六百三人ナリ。之ヲ前年事實ニ比スレハ二分七厘ヲ減シ、五ケ年前タル大正十年ニ比スレハ三割四分ノ減退ナリ。　郡市分布狀況ハ大阪市最多ニシテ總數ノ53.07%ヲ占メ、中河内郡17.58%、堺市13.93%、南河北郡13.10%、三島郡、北河内郡各1.16%　等ニ割合ス。

價額計九十六萬二千六百二十圓ヲ前年事實ニ比スレハ一割五分三厘ヲ增シ、五ケ年前タル大正十年ニ比スレハ二割七分五厘ノ增加ニ當ル。總數ヲ生產九種類ニ分節スレハ其ノ他ハ生產額最モ多クシテ二割一分四厘次ハ菜種油ニシテ二割一分、亞麻仁油一割四分五厘、綿實油一割四分四厘、荏油、九分三厘、大豆油九分一厘、椰子油七分四厘、胡麻油二分二厘、落花生油一分ニ割合ス。

郡市生產ノ割合ハ大阪市最モ多クシテ總額ノ56.60%ヲ占メ、　次ハ堺市22.05%、南河内郡10.82%、中河内郡9.69%、北河内郡0.53%、三島郡0.31%等ニ該當ス。

工業用藥品

製造戶數百十五戶ヲ前年事實ニ比スレハ四十戶ヲ增シ五ケ年前タル大正十年ニ比スレハ二十七戶ヲ

戶ニ增セリ。郡市ニ在リテハ大阪市九十九戶、堺市十一戶、豐能郡泉北郡各一戶、中河内郡三戶ナリ

職工ハ男千六百三十六人、女六十四人、計千七百人ナリ。之ヲ前年事實ニ比スレハ一割八分八厘ヲ減シ、五ケ年前タル大正十年ニ比スレハ一割六分二厘ノ增加ニ當ル、郡市分布ノ狀況ハ大阪市千四百二十五人最モ多ク、堺市二百二十人、豐能郡二十八人、泉北郡二十三人、中河内郡四人等ナリ。二十六種ニ分類セル價額合計千六百九十萬九千二百七十五圓ナリ、之ヲ前年事實ニ比スレハ四分四厘ヲ減シ五ケ年前タル大正十年ニ比スレハ四割八分ノ增加ナリ。

二十六種類中重ナル價額ヲ有スルモノヲ摘記スレハ其他ハ總額ノ38.30%ヲ占メテ最モ多ク、硫酸ハ其ノ次ニシテ20.82%、氷醋酸8.18%、亞鉛華6.87%、醋酸4.50%、　硝酸3.87%、沃度加里3.03%、醋酸曹達2.11%、光明丹2.02%、苛性曹達1.95%、硫酸曹達1.92%、晒粉1.75%、　硫化曹達1.12%鹽酸1.08%、鹽化亞鉛0·87%、醋酸鉛0.53%、沃度0.43%、炭酸鉛0.32%等ニ該當ス

郡市生產ノ割合ハ大阪市最モ多クシテ總額ノ73.60%ヲ占メ、堺市ノ21.07%ハ之ニ亞キ、豐能郡3.6%、三島郡1.37%、泉北郡0.32%、中河内郡0.04%等ニ該當ス。

醫療藥品賣藥

製造戶數ハ二百六十九戶ナリ、之ヲ前年事實ニ比スレハ二割四分六厘ヲ減シ、五ケ年前タル大正十年ニ比スレハ九分五厘ヲ增加ス。郡市ニ在リテハ大阪市二百戶ニシテ最モ多ク中河内郡三十二戶、泉北郡十六戶、堺市十戶、岸和田市、泉南郡各五戶、南河内郡一戶等ナリ。

職工ハ男千百十九人、女千二百九十二人、計二千四百十一人ナリ。之ヲ前年事實ニ比スレハ二分三厘ノ減ヲ示セリ。

總數ニ於ケル郡市分布ノ狀況ハ大阪市二千二百九十三人最モ多ク、堺市六十人、中河内郡二十九人、泉北郡十八人、岸和田市、泉南郡各々五人、南河内郡一人等ナリ。價額合計ハ二千六百二十四萬六千六百三十六圓ナリ、之ヲ前年ニ比スレハ一割三分七厘ヲ增シ、五ケ年前タル大正十年ニ比スレハ十八割四厘ヲ增加セリ。

三大分類ニシタル生產價額ノ割合ハ醫療藥品最モ多ク總數ノ54.31%　ヲ占メ、次ハ賣藥價額ニシテ45.69%、等ニ該當ス。

郡市生產ノ割合ハ大阪市最モ多クシテ總額ノ99.03%ヲ占メ、堺市0·80%、中河内郡0·11%、泉北郡0.04%、岸和田市、泉南郡各々0·01%、等ニ該當シ、南河内郡ハ極メテ僅少ナリ。

セルロイド製品

製造戶數七十四戶之ヲ前年事實ニ比スレハ十八戶ヲ減シ、五ケ年前ナル大正十年ニ比スレハ二戶ノ增加ナリ。

郡市ニ在リテハ大阪市五十六戶、中河内郡十戶、堺市四戶、北河内郡二戶、泉南郡、南河内郡各々一戶ナリ。職工ハ男千四百二人、女三百十四人、計千七百十六人ナリ。之ヲ前年事實ニ比スレハ二割九分四厘ヲ減シ、五ケ年前ナル大正十年ニ比スレハ十八割六分五厘ノ增加ニ當レリ。

郡市分布ノ狀況ハ大阪市八百十人最モ多ク、堺市七百六十九人、中河内郡百十八人、南河内郡九人、北河内郡七人、泉南郡三人等ナリ。

生產價額千七十七萬千五百七十三圓ヲ前年事實ニ比スレハ九分一厘ヲ減シ、五ケ年前タル大正十年ニ

比スレハ三十四割九場七厘ノ增加ナリ。

郡市生產ノ割合ハ堺市57.93%ヲ占メ最モ多ク次ハ大阪市29.46%、中河內郡12.32%、南河內郡 0.17%、泉南郡0.09%、北河內郡0.03%等ニ該當ス。

讃 謨 製 品

製造戶數百十四戶ヲ前年事實ニ比スレハ七割五分四厘ヲ增シ五ケ年前タル大正十年ニ比スレハ二割ノ增加ニ當ル

郡市分布ノ狀況ハ大阪市百七戶、中河內郡四戶、堺市二戶、南河內郡一戶等ナリ。

職工男千八百十五人、女八百九十六人、計二千七百十一人ナリ。之ヲ前年事實ニ比スレハ二割七分三厘ヲ增シ、五ケ年前タル大正十年ニ比スレハ一分六厘ノ增加ナリ。

郡市分布ノ狀況ハ大阪市二千五百九十二人最モ多ク、堺市六十七人之ニ亞キ、南河內郡三十人、中河內郡二十二人等ナリ。

生產價額千三十三萬三千四百七十一圓ヲ前年事實ニ比スレハ二割八分一厘ヲ增シ、五ケ年前タル大正十年ニ比スレハ三割八分五厘ノ增加ニ當レリ。

郡市生產ノ狀況ハ大阪市ハ總額ノ94.78%ヲ占メテ最モ多ク、次ハ堺市3.21%、南河內郡1.43%、中河內郡0.58%等ニ割合ス。

化　粧　品

製造戶數六十一戶ナリ、之ヲ前年ニ比スレハ八戶ヲ增シ、五ケ年前タル大正十年ニ比スレハ四戶ヲ增加セリ。

大阪市五十七戶アリテ最モ多ク、泉南郡二戶、堺市三島郡各々一戶等ナリ。

職工ハ男三百九十三人、女九百八十二人、計千三百七十五人ナリ。之ヲ前年事實ニ比スレハ五分一厘ヲ減シ、大正十年ニ比スレハ五割一分六厘ノ增加ニ當ル。

郡市ニ在リテハ大阪市千三百二十九人最モ多ク三島郡三十五人、泉南郡八人、堺市三人ナリ。

價額ノ合計ハ千六百三十三萬五十圓ナリ。之ヲ前年事實ニ比スレハ三分九厘ヲ減シ、五ケ年前タル大正十年ニ比スレハ十二割九分一厘ノ增加ニ當ル。總額ヲ生產品七分類ニ分テハ白粉ハ各品中ノ最多ニシテ27.56%ヲ占メ、次ハクリーム19.81%、化粧水18.13%、齒磨14.70%、香油6.46%、洗粉6.30%其他5.25%、香水1.79%等ニ割合ス。

郡市生產ノ割合ハ大阪市ハ總額ノ99.75%ニ當リテ最モ多ク、次ハ泉南郡0.13%、三島郡0.04%、堺市0.03%等ニ該當セリ。

石　　鹼

製造戶數七十二戶ヲ前年事實ニ比スレハ六分五厘ヲ減シ、五ケ年前ナル大正十年ニ比スレハ七分七厘ノ減ヲ示セリ。郡市ニ在リテハ大阪市ノ六十二戶最モ多ク、北河內郡四戶、堺市三戶、岸和田市、泉北郡、中河內郡各々一戶等ナリ。

職工ハ男四百九十六人、女四百二十七人、計九百二十三人ナリ。之ヲ前年事實ニ比スレハ三厘ヲ減シ大正十年ニ比スレハ一割七分一厘ノ增加ニ當ル。

大阪市ノ八百八十五人ハ郡市中最モ多ク、堺市十七人、北河內郡十五人、岸和田市三人、中河內郡二人、泉北郡一人ナリ。

價額合計八百八十八萬二千五百六十八圓ナリ。之ヲ前年事實ニ比スレハ八分ヲ增シ、五ケ年前タル大正十年ニ比スレハ七割六分四厘ノ增加ナリ。

總額ノ中ニハ化粧用八割一分、洗濯用其他一割八分、工業用ハ一分ニ當レリ。

郡市分布ノ狀況ハ大阪市ハ總額ノ97.10%ヲ占メテ最モ多ク、堺市之ニ亞キ、1.47%、北河內郡1.34%岸和田市0.08%、中河內郡0.01%、等ニ該當シ泉北郡ハ極僅少ナリ。

酒　　類

淸酒製造場百七十八箇所兼業一箇所ヲ前年事實ニ比スレハ二箇所ヲ減少ス大正十年ニ比スレハ本業二箇所兼業一箇所ヲ增セリ。

郡市分布ノ狀況ハ堺市三十九箇所最モ多ク、三島郡三十一箇所、泉南郡二十九箇所、南河內郡二十八箇所、豐能郡二十箇所、大阪市十四箇所、北河內郡十箇所、中河內郡三箇所、岸和田市、泉北郡各々二箇所等ナリ。兼業ハ大阪市一箇アリ。釀造石數ハ九萬九千五百六十三石ナリ、之ヲ前年事實ニ比スレハ一分一厘ヲ減シ、五箇年前タル大正十年ニ比スレハ六厘ノ增加ニ當ル。

總數ヲ郡市別ニスレハ堺市ハ最多ニシテ其ノ21.79%ニ當リ、次ハ三島郡17.32%、泉南郡16.20%、南河內郡15.64%、豐能郡11.17%、大阪市8.38%、北河內郡5.59%、中河內郡1.67%、岸和田市、泉北郡各々1.12%等ニ該當ス。

價額七百九十六萬五千四十圓ヲ前年事實ニ比スレハ八分三厘ヲ增シ、五箇年前タル大正十年ニ比スレハ一割二分ノ增加ナリ。

郡市生產ノ割合ハ堺市釀造高多キ關係上總額ノ34.45%ヲ占メテ最モ多ク、次ハ泉南郡20.66%、三島郡11.73%、南河內郡10.31%、豐能郡8.60%、大阪市6.56%、北河內郡4.32%、泉北郡1.28%、岸和田市1.16%、中河內郡0.93%、等ニ該當ス。

白　　酒

釀造場ハ兼業五、專業一、計六箇所ナリ。

之ヲ前年事實ニ比スレハ兼業一箇所ヲ增シ、五ケ年前タル大正十年ニ比スレハ同數ナリ。郡市中郡部ニナク大阪市ニ兼業五、專業一箇所アルノミナリ。

釀造高ハ千三百三十九石ナリ。總數ヲ前年事實ニ比スレハ同數ニシテ、五ケ年前タル大正十年ニ比スレハ三割八分九厘ノ增加ニ當ル。

價額ハ十六萬六百八十圓ナリ、之ヲ前年事實ニ比スレハ同數ニシテ、五箇年前タル大正十年ニ比スレハ一割二分ノ增加ナリ。

味　　淋

釀造場ハ兼業二、專業四ナリ、兼業專業共ニ大阪市ニアルノミナリ。之ヲ前年ノ事實ニ比スレハ同數ニシテ、五箇年前タル大正十年ニ比スレハ四割ノ減ニ當レリ。

釀造高ハ一萬二千六百八十二石ナリ、之ヲ前年事實ニ比スレハ同數ニシテ、五箇年前タル大正十五ニ比スレハ十二割二分五厘ノ增加ニ當ル。

價額ハ百五十二萬千八百四十圓ナリ、之ヲ前年事實ニ比スレハ同額ニシテ、五ケ年前タル大正十年ニ

比スレハ八割七厘ノ增加ナリ。

燒　　酎

釀造場ハ兼業十六箇所、專業二箇所ナリ。之ヲ前年事實ニ比スレハ同數ニシテ、五箇年前タル大正十年ニ比スレハ兼業二十一箇所減セリ。兼業ハ大阪市五、三島郡七、豐能郡四、專業大阪市一、三島郡一等ナリ。

釀造高ハ大阪市一萬七千九百七石、三島郡十石、計一萬七千九百十七石ナリ。之ヲ前年事實ニ比スレハ同數ニシテ、五箇年前タル大正十年ニ比スレハ十三割一分一厘ノ增加ニ當ル。

價額總數ハ百七十九萬一千七百圓ナリ、之ヲ前年事實ニ比スレハ九分一厘ヲ減シ、五箇年前タル大正十年ニ比スレハ六割五分四厘ノ增加ニ當ル。

郡市生產ノ割合ハ大阪市99.94%、ニ當リテ最モ多ク三島郡0.06%等ニ該當ス。

靑　　酒

大日本麥酒株式分工場ハ三島郡吹田町ニ在リ、職工男千百三十四人、女百八人、計千二百四十二人ナリ。總數ヲ前年事實ニ比スレハ一割一分二厘ヲ增シ、五箇年前タル大正十年ニ比スレハ二割七分五厘ノ增加ニ當ル。

價額ハ九百七十九萬八千五十六圓ナリ、之ヲ前年事實ニ比スレハ一割三分八厘ヲ減シ、五箇年前タル大正十年ニ比スレハ二分一厘ノ增加ニ當ル。

砂　　糖

製造戶數ハ百九十八戶ナリ、之ヲ前年事實ニ比スレハ五分九厘ヲ增シ、五ケ年前タル大正十年ニ比スレハ二割七分五厘ノ減退ナリ。郡市ニ在リテハ泉北郡、泉南郡各々六十七戶ニシテ最モ多ク、南河內郡ノ五十五戶之ニ亞キ、大阪市九戶等ナリ。

搾事數四十五戶ヲ前年事實ニ比スレハ一割三分五厘ヲ減シ五箇年前タル大正十年ニ比スレハ五割一分一厘ヲ減少ス。郡市ニ在リテハ泉南郡十七、泉北郡十六、南河內郡十二箇ナリ。

製造高ハ一億五千九百八萬七十六斤ナリ、之ヲ前年事實ニ比スレハ一割五分八厘ヲ減シ、大正十年ニ比スレハ七割八分一厘ノ增加ニ當ル、總數ノ內精製糖ハ大部分ニシテ85.12% ヲ占メ其他6.36%、糖蜜2.53%、白下2.32%、氷砂糖2.18%、赤砂糖1.09%、黑砂糖0.40%等ニ割合ス、郡市生產ノ狀況ハ大阪市ハ總數ノ99.96%ヲ占メ次ハ泉北郡0.02%、泉南郡南河內郡各々0.01%等ニ該當ス。

生產總額三千三百八十七萬八百二十四圓ナリ之ヲ前年事實ニ比スレハ三割一分三厘ヲ減シ、五ケ年前タル大正十年ニ比スレハ四割五分九厘ノ增加ニ當ル。

種類別ニスレハ精製糖ハ總數ノ86.01%ヲ占メテ最モ多ク次ハ其他7.17%、氷砂糖2.80%、白下1.67%糖蜜1.23%赤砂糖0.87%、黑砂糖0.25%等ニ割合ス。郡市生產ノ割合ハ大阪市ハ總數ノ99.95% ヲ占メテ最モ多ク次ハ泉北郡、泉南郡各々0.02%、南河內郡0.01%等ニ該當ス。

各種飮食物

製造戶數五千百九十四戶ヲ前年事實ニ比スレハ四分三厘ヲ減ス。郡市ニ於ケル分布ノ狀況ハ大阪市首位ニシテ總數ノ62.82%ヲ占メ、次ハ南河內郡7.16%、堺市5.78%、中河內郡5.27%、泉北郡4.70%北河內郡3.81%、豐能郡2.77%、泉南郡2.70%、三島郡2.54%、岸和田市2.45%、等ニ割合ス。

職工ハ男一萬三千五百一人、女二千六百七十人、計一萬六千百七十一人ナリ。總數ヲ前年事實ニ比スレハ七分二厘ヲ增ス、郡市ニ於ケル分布ノ狀況ハ戶數ニ於ケルト同シク大阪市最多ニシテ總數ノ60.89%ヲ占メ次ハ三島郡9.27%、南河內郡7.97%、堺市7.83%、泉南郡3.25%、豐能郡3.11%、中河內郡2.34%。泉北郡2.10%、北河內郡1.98%、岸和田市1.26%等ニ割合ス。

價額合計ハ三千五百六十一萬八千七百五十二圓ナリ、之ヲ前年事實ニ比スレハ七分八厘ヲ增シ、五ケ年前タル大正十年ニ比スレハ二割二分九厘ノ減ナリ。分類十六種ノ生產狀況ハ菓子類ノ生產ハ最多ニシテ總數ノ49.35%ヲ占メ、トーフ類11.79%、其他11.75%、飴類7.22%、製氷4.34%、酢2.67% サイダー2.38%、精米2.16%、ラムネ1.93%、昆布1.74%、シトロン1.83%、蒟蒻1.34%、密柑水0.89%、麩類0.39%、湯葉0.24%、精麥0.08%等ニ割合ス。

郡市生產ノ狀況ハ大阪市最モ多クシテ總額ノ84.15%ヲ占メ、堺市6.52%、南河內郡2.49%、三島郡2.13%、北河內郡1.79%、中河內郡0.79%、岸和田市0.61%、泉北郡0.57%、豐能郡0.50%、泉南郡0.45%等ニ割合ス。

雜　　工　　業

製造戶數二萬二千二百九十七戶ヲ前年事實ニ比スレハ七分九厘ヲ減シ、十ケ年前タル大正五年ニ比スレハ四分七厘ノ增加ナリ。郡市分布ノ狀況ハ大阪市ハ他ノ工業ニ於テ旺盛ナル如ク、本工業ニ於テモ首位ニシテ總數ノ44.87%、ヲ占メ、次ハ三島郡ニシテ18.19%、豐能郡9.90%、南河內郡6.41%、泉北郡6.07%、泉南郡5.47%、北河內郡3.46%、中河內郡3.30%、堺市1.71%、岸和田市0.62%等ニ該當ス。

職工總數ハ六萬四千四百五十人ナリ、之ヲ前年事實ニ比スレハ六分五厘ヲ減シ、十ケ年前タル大正五年ニ比スレハ九分ノ增加ニ當ル。男ハ總數ノ六割八分四厘、女ハ三割一分六厘ニ割合ス。

總數ノ六割八分四厘ヲ占ムル男職工四萬四千六十一人ヲ前年事實ニ比スレハ五分六厘ヲ減シ、十年前タル大正五年ニ比スレハ一割六分九厘ノ增加ニ當ル。

郡市分布ノ狀況ハ大阪市總數ノ68.91%、ヲ占メテ最モ多ク、次ハ三島郡9.02%、豐能郡4.01%、泉南郡3.87%、泉北郡3.60%、堺市2.96%、中河內郡2.91%、南河內郡2.82%、北河內郡1.14%、岸和田市0.76%、等ニ該當ス。女職工二萬三百八十九人ヲ前年事實ニ比スレハ八割二分九厘十ケ年前タル大正五年ニ比スレハ五分ヲ減ス、郡市ニ於ケル分布ノ狀況ハ大阪市最モ多クシテ總數ノ32.20% ヲ占メ三島郡ハ19.20%ニシテ之ニ亞キ、堺市13.03%、豐能郡11.24%、南河內郡8.92%、泉北郡5.23%中河內郡3.75%、北河內郡3.66%、泉南郡2.09%、岸和田市0.68%、等ニ割合ス。

價額合計ハ一億六千五百三十七萬六千百三十八圓ナリ、之ヲ前年事實ニ比スレハ一分五厘ヲ增シ、十ケ年前タル大正五年ニ比スレハ二十二割三分九厘ノ增加ニ當ル。

倘之等增減ノ狀況ヲ大正五年ヲ百トセル各年ノ指數ニ依リ觀察スレハ大正六年百八十四、大正七年百八十一、大正八年二百三十七、大正九年百六十三、大正十年二百十六、大正十一年二百四十三、大正十二年二百四十三、大正十三年三百十九、大正十四年三百二十四ニ該當ス。

即チ大正五年以降同八年ニ至ルノ間生產ハ遽加シ九年ニ至リ所謂財界ノ影響シタルモノカ小緩シ、十年以降ハ再ヒ擡頭シテ前進セル如ク增加セリ。

郡市ニ於ケル生產ノ割合ハ大阪市最モ多クシテ總數ノ76.48%ヲ占メ、次ハ堺市16.59%、中河內郡1.80%、泉北郡、泉南郡各々1.06%、南河內郡0.93%、岸和田市0.73%、三島郡0.72%、北河內郡0.42%、豐能郡0.21%、等ニ該當ス。以下製品中ノ重ナルモノニ付概說スレハ次ノ如シ。

紙　製　品

製造戶數二百五十二戶ヲ前年事實ニ比スレハ六割七分七厘ヲ減シ、五ケ年前タル大正十年ニ比スレハ六割六分四厘ヲ減ス。

郡市ニ在リテハ大阪市ノ二百五十一戶ハ總數ノ大部分ニ當リ中河內郡一戶等ナリ。

職工ノ總數千九十二人ヲ前年事實ニ比スレハ七割一分八厘ヲ減シ、五箇年前タル大正十年ニ比スレハ五割二分九厘、ノ減少ニ當ル。男ハ總數ノ六割一分四厘、女ハ三割八分六厘ニ割合ス。郡市分布ノ狀況ハ大阪市ノ千八十四人ハ殆ント大部分ニシテ、中河內郡八人等ナリ。

生產價額二百二萬五百四圓ヲ前年事實ニ比スレハ七割六分六厘ヲ減シ、五箇年前タル大正十年ニ比スレハ六割七分九厘ノ減少ニ當ル。郡市ニ於ケル生產ノ割合ハ大阪市99.10%ヲ占メテ最モ多ク、次ハ中河內郡ノ0.90%等ナリ。

木　製　品

製造戶數三千八百六十八戶ヲ前年事實ニ比スレハ八分四厘ヲ減シ、五ケ年前タル大正十年ニ比スレハ四割ノ增加ニ當ル。

分類八種類ノ割合ハ指物最モ多クシテ總戶數ノ三割八分四厘ヲ占メ、次ハ其他ニシテ二割一分九厘、箱類一割四分九分桶樽類一割一分九厘、挽物五分五厘、履物四分六厘、木箸一分六厘、曲物一分二厘ニ該當ス。

郡市分布ノ狀況ハ大阪市ハ總數ノ65.95%ニ當リテ最モ多ク、次ハ泉南郡8.14%、南河內郡7.89%、堺市5.38%泉北郡4.63%、中河內郡3.26%、三島郡1.68%、豐能郡1.14%、岸和田市1.03%、北河內郡0.90%、等ニ割合ス。

職工八千二百六十八人ノ內男九割一分九厘、女九分一厘ニ割合シ、總數ヲ前年事實ニ比スレハ四厘ヲ減シ、五箇年ヲ遡リ大正十年ニ比スレハ三割八分五厘ノ增加ニ當ル。

業務ノ種類ニ分テハ指物總數ハ三割三分七厘ニ當リテ最モ多ク其他二割四分八厘之ニ亞キ、箱類一割八分四厘、桶樽類八分五厘、挽物類七分五厘、履物四分二厘、木箸類一分八厘、曲物類一分一厘ニ割合ス。男職工七千六百二人ヲ前年事實ニ比スレハ一分一厘ヲ減シ、五箇年前タル大正十年ニ比スレハ三割五分三厘ノ增加ニ當ル。郡市ニ於ケル之カ分布ノ狀況ハ大阪市ハ總數ノ72.21%ニ當リテ最モ多ク、次ハ堺市7.75%、泉南郡6.91%、泉北郡3.54%、南河內郡2.64%中河內郡2.60%、三島郡1.76%岸和田市1.22%、豐能郡0.91%、北河內郡0.46%等ニ割合ス。

女職工六百六十六人ヲ前年事實ニ比スレハ五割八分ヲ減シ、五箇年前タル大正十年ニ比スレハ八割九分二厘ノ增加ニ當ル。

郡市分布ノ狀況ハ南河內郡總數ノ49.85%ニ當リテ最モ多ク、次ハ大阪市30.18%、堺市8.41%、中河內郡7.06%、泉南郡2.85%、泉北郡1.50%、岸和田市0.15%等ニ該當ス。

生產價額千四百十一萬八千七百二十三圓ナリ、之ヲ前年事實ニ比スレハ三割六分ヲ減シ、五箇年前タル大正十年ニ比スレハ二割三分二厘。

生產物種類ニヨル割合ハ、指物34.92%、ヲ占メ最モ多ク次ハ其他ノ21.29%、箱類21.24%挽物11.09%、桶樽6.10%、履物3.62%、木箸0.89%、曲物0.85%、等ニ該當ス。郡市ニ於ケル生產ノ割合ハ大阪市最モ多クシテ總數ノ75.19%、ヲ占メ次ハ堺市11.07%、泉南郡3.66%、泉北郡2.63%、三島郡2.61%、南河內郡1.69%、中河內郡1.65%、岸和田市0.80%、豐能郡0.36%、北河內郡0.34%等ニ該當ス。

履物及部分品

製造戶數千四百二十七戶ヲ前年事實ニ比スレハ一割四分二厘ヲ減シ五ケ年ヲ遡リ大正十年ニ比スレハ二割五厘ノ增加ニ當ル。郡市ニ於ケル分布ノ狀況ハ大阪市ニ最モ多クシテ總數ノ46.95%、ヲ占メ次ハ泉北郡23.06%、南河內郡10.72%、泉南郡7.08%、中河內郡5.47%、堺市3.78%、三島郡1.12%、豐能郡1.05%、岸和田市0.49%、北河內郡0.28%等ニ割合ス。

職工三千百二十人ヲ前年事實ニ比スレハ一割九分六厘ヲ減シ、五ケ年前タル大正十年ニ比スレハ一割七分九厘ノ減ヲ示セリ。職工ノ內男ハ多クシテ五割九厘ニ當リ、女ハ四割九分一厘ニ塲合ス。

郡市分布ノ塲合ハ大阪市37.37%ヲ占メ最モ多ク次ハ泉北郡ニシテ36.57%、中河內郡9.87%、泉南郡5.71%、南河內郡5.35%、堺市3.01%、豐能郡0.96%、三島郡0.71%、岸和田市0.29%、北河內郡0.16%等ニ該當ス。

價額三百三十六萬七千三十九圓ヲ前年事實ニ比スレハ一割五分八厘ヲ減シ、大正十年ニ比スレハ一割八厘ノ增加ニ當レリ。

分類七種ノ生產割合ハ履物表ノ生產最モ多ク總數ノ31.27%、ニ當リ次ハ下駄26.10%、鼻緒19.56%其他11.98%、爪革6.98%、草履2.95%、雪駄1.16%等ニ塲合ス。

帽　子

製造戶數二百六十二戶ヲ前年事實ニ比スレハ三十七戶ヲ減シ、五ケ年前タル大正十年ニ比スレハ十二戶ノ增加ナリ。

郡市分布ノ狀況ハ大阪市ハ大部分ニシテ二百五十五戶ヲ算シ、堺市四戶、岸和田市一戶、豐能郡二戶等ナリ。

職工千七百八十一人ヲ前年事實ニ比スレハ一割四分三厘ヲ增シ、五ケ年ヲ遡リ大正十年ニ比スレハ八厘ノ增加ニ當レリ。內男ハ總數ノ六割七分ヲ占メ、女ハ三割三分ニ當ル、郡市分布ノ狀況ハ大阪市ノ千七百三十七人最モ多ク、堺市二十九人、豐能郡十二人、岸和田市三人等ナリ。

生產價額五百九十七萬九千七百六十四圓ヲ前年事實ニ比スレハ二割八厘ヲ增シ、五ケ年前タル大正十年ニ比スレハ一割二厘ノ增加ニ當レリ。

生產五種類ノ割合ハフエルト製ハ最多ニシテ總數ノ36.18%、ヲ占メ、次ハ羅紗(セルヂ)31.29%、其他16.60%、麥稈製12.04%、パナマ製3.89%、等ニ割合ス。

更ニ生產價額ヲ郡市ニ分テハ、大阪市最モ多クシテ總數ノ98.99%ヲ占メ、次ハ堺市0.72%、岸和田市0.17%、豐能郡0.12%、等ニ割合ス

刷子及刷毛

製造戸數ハ三百三十六戸ヲ前年事實ニ比スレハ四百十戸ヲ減シ、大正十年ニ比スレハ三十三戸ノ減ヲ示セリ。

郡市分布ノ狀況ハ大阪市最モ多クシテ總數ノ76.49%ヲ占メ次ハ中河內郡16.37%、北河內郡3.27%、南河內郡2.08%、豐能郡1.19%、泉北郡、泉南郡各々0.30%等ニ割合ス。

職工二千八十九人ニシテ其ノ內男ハ五割二分五厘、女ハ四割七分五厘ニ割合ス、總數ヲ前年事實ニ比スレハ三割三分五厘ヲ減シ、大正十年ニ比スレハ九分五厘ノ減ヲ示セリ。

郡市分布ノ狀況ハ大阪市最モ多クシテ總數ノ66.20%、ヲ占メ、次ハ中河內郡16.61%、北河內郡12.93%、南河內郡2.44%、豐能郡1.05%、泉南郡0.43%、泉北郡0.34%等ニ該當ス。

生產價額四百六十二萬九千五百二十七圓ヲ前年事實ニ比スレハ三割九分四厘ヲ減シ、大正十年ニ比スレハ一割八厘ノ減退ニ當ル。

製品類別ニ價額ヲ分テハ齒磨用ノ生產ハ總額ノ60.79%ヲ占メテ最モ多ク、其他ノモノ24.65%、理髮用12.83%糊付用1.73%ニ割合ス。

郡市ニ於ケル生產ノ狀況ハ大阪市最多ニシテ總額ノ82.86%ヲ占メ、次ハ北河內郡8.30%、中河內郡6.50%、南河內郡1.54%、豐能郡0.74%、泉北郡0.05%、泉南郡0.01%等ニ割合ス。

足袋

製造戸數五十四戸ヲ前年事實ニ比スレハ三割六分五厘ヲ減シ、五箇年前タル大正十年ニ比スレハ八割一分七厘ノ減ヲ示セリ。郡市中ニハ大阪市ノ四十九戸最モ多ク、堺市五戸等ナリ。

職工ハ男四百九十八人、女二千七百十五人、計三千二百十三人ナリ之ヲ前年事實ニ比スレハ二割五分四厘ヲ增シ、五箇年前タル大正十年ニ比スレハ三割三分四厘ノ增加ニ當ル。

郡市ニ在リテハ堺市90.66%ヲ占メ最モ多ク、次ハ大阪市9.34%等ニ該當ス。

生產價額二千四百九十六萬七百七十三圓ヲ前年事實ニ比スレハ六割ヲ增シ、五箇年前タル大正十年ニ比スレハ二十二割二分八厘ノ增加ニ當ル、郡市ニ於ケル生產高ノ割合ハ堺市ハ總數ノ93.91%ニ當リテ最モ多ク、次ハ大阪市ニシテ6.09%等ニ該當ス。

皮革製品

製造戸數六百二十四戸前年事實ニ比スレハ四割ヲ增加シ、郡市ニ在リテハ大阪市ノ五百四十二戸最モ多ク、豐能郡二十八戸、中河內郡十五戸、三島郡十三戸、堺市九戸、泉北郡五戸、岸和田市、南河內郡各々四戸、泉南郡、三戸、北河內郡一戸等ナリ。

職工男千九百七人、女百十四人、計二千二十一人ナリ。之ヲ前年ノ事實ニ比スレハ二割二分三厘ノ增加ナリ。

郡市分布ノ狀況ハ大阪市最モ多クシテ千八百人、次ハ三島郡八十四人、堺市三十八人、豐能郡三十四人、中河內郡二十九人、岸和田市十四人、泉北郡、南河內郡各々八人、泉南郡五人、北河內郡一人等ナリ。

生產價額合計九百四十七萬六千六百四十五圓ヲ前年事實ニ比スレハ一割一分八厘ヲ增ス、製品ノ種類ニ價額ヲ分テハ調帶ノ生產ハ最多ニシテ總額ノ46.79%ヲ占メ、次ハ靴29.68%、其他15.98%、鞄

4.82%、袋2.61%、馬具0.12%、等ニ該當ス。

生產額ヲ郡市ニ分テハ大阪市ハ總額ノ93.51%ニ當リテ最モ多ク、次ハ三島郡4.37%、中河內郡0.90%堺市0.52%、岸和田市0.30%、泉北郡0.17%、豐能郡0.12%、南河內郡0.07%、泉南郡、北河內郡各々0.02%、等ニ割合ス。

特別工業

度量衡器　度量衡器製作者ハ度器七人、量器七人、衡器十六人、計量器十七人、合計四十七人ナリ之ヲ前年事實ニ比スレハ度器一人ヲ增シ、量器ハ同數ニシテ、衡器三人ヲ增シ、計量器十三人ヲ減ス

檢定シタル總箇數ハ百九十八萬三千五百二十七ナリ內本府ニ於テ製作セシモノハ86.22%、輸入10.37%修覆3.37%、使用中ノモノ0.04%等ニ割合ス。

種類ノ割合ヲ觀レハ度器ハ最多ニシテ43.63%ヲ占メ、衡器26.29%、計量器16.06%量器14.02%、等ニ該當ス。

檢定箇數百中不合格ハ計量器總數ノ五箇八分、度器四箇四分、量器三箇一分、衡器二箇八分、ニシテ其率最低ナリ。

檢定金合計十七萬三千七百九十六圓ヲ前年事實ニ比スレハ二割二厘ヲ減ス、總數ノ內衡器48.59%ヲ占メ、次イテ量器24.02%、計量器14.40%、度器12.99%等ニ該當セリ。

生產總價額二百六十二萬七千八圓ヲ前年ノ事實ニ比スレハ一割四厘ヲ減シ、五箇年前タル大正十年ニ比ベレハ四割九厘ノ增加ニ當ル。

總數ノ內製品價額八割四分八厘、材料價額一割五分二厘ニ割合ス。

製品價額ヲ種類別ニスレハ計量器五割二分五厘、量器二割一分一厘、衡器一割七分一厘、度器九分三厘ニ割合シ、材料價額ハ衡器八割三分四厘、量器一割六分六厘等ニ割合セリ。

電氣事業

事業會社數ハ九ニシテ前年ト同數ナリ。各發電所出力ハ四萬八千二キロニシテ、內五割七分一厘ハ常用セラレ、四割二分九厘ハ豫備ナリ。

電線延長二萬一千九百八哩　電燈ノ需用戸數六十六萬九千二十一戸、電球戸數二百六十萬六千四百三十六個ニシテ總燭光數ハ六千五百二十八萬千三百三十一燭光ナリ。收入金額ハ八千八百四十一萬七千三百六十五圓ナリ之ヲ前年事實ニ比スレハ一割一分一厘ノ增加ニ當ル。總數ヲ分類スレハ其ノ二割二分一厘ハ電燈收入ニシテ、一割一分六厘ハ動力ノ收入、其ノ他ハ六割六分三厘ニ該當ス。

瓦斯事業

事業會社ハ四ナリ。之ヲ前年ニ比スレハ差ナシ。拂込資本金千四百八十九萬二千五百圓ニシテ前年ニ比シ三割四分二厘ノ增加ニ當ル。

瓦斯管延長ハ千四十七哩五九鎖ニシテ前年ニ比シ一割三分五厘ヲ增ス。

街燈基數八十七ニシテ前年ニ比シ一分一厘減退ス。收入金ハ瓦斯及副產物賣上代六百五十萬三千八百二十圓其ノ他收入三十八萬七千三十七圓、計六百八十九萬八百五十七圓ナリ、之ヲ前年ニ比スレハ二割一分五厘ノ增加ニ當ル。

金屬製煉

製造戶數二十三戶ヲ前年ニ比スレハ一割四分八厘ノ減ヲ示セリ。

職工ハ男六百五十七人、女三十六人、計六百九十三人ナリ。之ヲ前年ニ比スレハ三割四分八厘ヲ增シ、五箇年前タル大正十年ニ比スレハ一割八分九厘ノ減退ナリ。

價額總數二千十二萬二百二十七圓ヲ前年事實ニ比スレハ四割八厘ヲ增加シ、五ケ年前タル大正十年ニ比スレハ五割六分八厘ノ增加ニ當レリ。

其ノ內銅六割四分六厘、ニシテ最モ多ク、次ハ其他ニシテ一割三分八厘、銀八分六厘、金六分七厘、亞鉛三分六厘、鉛一分七厘丹礬一分等ニ割合セリ。

工　　場

工場總覽　工場統計規則ニヨル調査工場ハ職工五人以上ヲ標準トス、本府管內ニ於ケル大正十四年末現在當該工場數ハ六千三百七十八ヲ算シ、前年ニ比シ二百九十(四分八厘)ヲ增シ、前々年ニ比スルモ大ナル增加ナリ。

本府カ夙ニ工業ノ中心地トシテ我邦樞要ノ地位ヲ占ムルコトハ周知ノ事實ニシテ工場數亦各府縣中首位ニ在リ、而シテ最近ニ於ケル財界不況ハ延イテ工業界ニモ波及シ、其ノ影響少カラスト雖、尙且ツ工業勃興ノ趨勢ヲ現ハシ、前記ノ如ク工場數モ增加ヲ示スニ至レリ。

總數六千三百七十八ノ內原動機ヲ用井ルモノ五千百二十九(八割四厘)、用キサルモノ千二百四十九(一割九分六厘)ナリ、前年ノ割合ニ比スレハ原動機ヲ用キルモノ增シ尙逐年增加ノ傾向アリ。

工業技術ノ進步ハ生產率能ヲ增大セシメ、益々優秀ナル機械ノ利用トナリ、之レカ運用ハ勞力消費ノ節減等ノ關係ニヨリ前記ノ如ク漸次原動力ヲ使用スルモノ增加スルノ趨勢ナリ。

總數六千三百七十八工場ノ郡市分布ノ狀況ハ大阪最モ多ク六割六分六厘ヲ占メ、泉南、泉北ハ殆ント相等シク、中河內、南河內、堺又大差ナク、三島、北河內、豐能之ニ亞キ、岸和田一分一厘ニシテ最モ少シ。更ニ各郡市ニ於ケル原動機使用有無ノ割合ヲミレハ原動機ヲ使用スルモノ、泉北、泉南共ニ八割五分八厘ニ當リテ最モ其ノ率高ク、北河內、大阪、堺、中河內、岸和田、南河內、豐能ノ順ニシテ三島(四割八分五厘)ハ最低ナリ、是即チ地方ニヨリ工場種類ニ差異アルノ結果、ソノ種類ニヨリ原動機使用ニ多少ヲ生スルモノニシテ泉地方、河北地方ニハ染職工場多ク從ツテ原動機使用盛ンナルヲ見、北攝豐能、三島ノ方面ニハ原動機ノ必要比較的少キ飮食物工場多キタメナリトス。

職工及其ノ他

六千三百七十八工場ニ於テ勞働スル一日平均ノ職工數ハ二十三萬千八百七十三人ナリ、前年ニ比シ二千二百九十二人(一分)ノ減少ヲ示ス、然ルニ工場總數ニ於テハ前述ノ如ク著シキ增加ヲ示セルニ職工數却ツテ減少シタルハ果シテ何ニ因ルカ、今茲ニソレヲ詳ニセスト雖モ、蓋シ是、財界大慌恐ニ基ク事業不振ノタメ多少ノ整理淘汰ヲ見タルニ因ルモノナラムカ。

職工總數ノ內男十二萬千三百七十二人、女十一萬五百一人、前年ニ比シ男三千三百九十三人ヲ減シ、女千百一人ヲ增シタルハ少シク異例ノ現象ナリ。男女職工ノ割合ハ男五割二分三厘、女四割七分七厘ニシテ前年ニ比シ男ノ割合低下シ、更ニ最近四五年間ニ徵スルモ概シテ遞減ノ勢アルヲ觀取ス、更ニ

各郡市ニ於ケル男女ノ割合ヲ求ムルニ、ソノ存在スル工場ノ種類ニヨリテ割合又大差アリ、即チ職工千中男ノ割合三島681人、大阪628人、豐能505人、中河內450人、南河內437人、堺417人、岸和田301人、北河內260人、泉北237人、泉南235人ナリ、如斯泉北、泉南兩郡ノ特ニ著シク女子多キハ屢說ノ如ク染職工業ノ盛ンナルカタメナルコト極メテ明白ナリ。

職工ヲ十五歲未滿、十五歲以上ノ二年齡別ニ觀察スルハ男ニ在リテハ十五歲未滿六千二人(五分)、十五歲以上十一萬五千三百七十人(九割五分)ナルモ、女ニ在リテハカヽル甚シキ懸隔ナク、十五歲未滿二萬一千五百二十五人(一割九分五厘)、十五歲以上八萬八千九百七十六人(八割五厘)トナリ、即チ女ハ男ヨリ幼年者多シ、之レヲ前年ニ比較スレハ男女共十五歲以上ノ割合增加セリ。

工場種類別ニヨル年齡別割合ノ差異ヲ考フレハ、染職工場ニ在リテハ女ノ十五歲未滿ノ幼年工ヲ多ク使用シ、化學工場ニハ男女共十五歲未滿ノモノ比較的多ク、機械器具及金屬工場ニ在リテハ十五歲未滿ノモノ少ナク、特別工業ハ殆ント全部十五歲以上ノ者ニシテ、只僅カニ男一人十五歲未滿ノモノ在リ。

一工場ニ使用スル平均職工數ハ三十六人、前年ニ比シ二人ヲ減シ、之レヲ郡市別ニ見レハ岸和田ノ83人ヲ最高トシ、泉南、堺、大阪、豐能、泉北、三島、北河內、南河內、中河內ノ順ナラス。

職工以外ノ勞働者ハ男七千三百五十二人、女千五百五十六人、何レモ前年ニ比シ增加シ、計八千九百八人ナリ。

事務ニ從事スルモノ一萬五十五人、前年ニ比シ百八十六人多ク、技術ニ從事スルモノ七千二百十人、之又前年ノ六千八百六十九人ナルニ比スレハ三百四十一人ノ增加ヲ示セリ。

今勞働者ニ對スル事務員並技術員ノ割合ヲ檢出スレハ、勞働者一萬ニ付711人ニ割合シ前年ニ較ヘ26人ヲ增シ、尙二三年前ニ比スルモ著シク增シタルヲ見ル、更ニ一工場當リノ事務員技術員ノ割合ニ就テモ同樣ナルヘシ、是、近時各種工業カ著シク技術的進步ヲ來シ、タメニ技術者ノ必要ヲ生シ、或ハ經濟組織ノ複雜スルニ連レ事務的繁忙ヲ招來シタル等ニ因ルモノナルヘク、即チ前記ノ如キハ其ノ一端ノ顯レナリ。

種類別工場

六千三百七十八工場ヲ業態ニヨリ大別スレハ機械及器具並金屬工場千七百五十(二割七分四厘)。染職千七百四十三(二割七分三厘)、雜、千四百(二割二分)、化學、七百六十八(一割二分)、飮食、物七百(一割一分)、特別、十三(二厘)トナリ、化學工場ノミ前年ヨリ減少セル外他ハ夫々增加セリ。

而シテコノ六大分類ノ原動機使用ノ割合ハ特別工場殆ント全部ハ使用シ(九割二分三厘)、以下機械及器具金屬工場、染職、化學、雜、飮食(七割一分)ニ當リ、即チ飮食物工場ハ比較的組織小ナルト且又製品上原動機ヲ要セサルカ爲ナラムカ。

種類別職工數ハ染職工場著シク多ク、全職工數ノ半數以上(五割一分六厘)ヲ占有シ、機械及器具金屬、雜、化學、飮食等ノ順ヲナシ特別工場ハ僅少ナリ。尙前年ニ比スレハ染職、飮食、雜工場ハ增加シ他ハ減少セリ。更ニ男女職工ノ割合ヲ觀ルニ職工千中男ハ特別工場955人、機械及器具金屬907人飮食836人、化學727人、雜669人等何レモ男工多キモ只獨リ染職ノミ262人ナル甚シキ男工寡少ヲ示セリ是等ハ事業ノ性質上自然ニ然ラシムルモノナリ、次ニ種類別工場ノ平均職工數ヲ算出スルニ染職1.8人

特別67人、化學35人、機械及器具金屬27人、雜20人、飲食最低ニシテ14人、ニ當リ、前說原動機使用ノ有無ニ就テ述ヘタル如ク飲食物工場小規模ナルコトヲ知ル。

職工以外ノ作業從業者ハ染職最モ多ク、機械器具及金屬、化學、雜、飲食、特別ノ順ヲナス、事務ニ從事スルモノニ在リテハ機械器具及金屬ヲ最多トシ、染職、雜、化學、飲食、特別ノ順ニ多シ、之レカ勞働者トノ割合ヲ求ムレハ勞働者一萬ニ付事務員ノ割合、特別工場千八十二人、雜七百十五人、化學六百二十二人、機械器具及金屬六百九人、飲食五百十五人、染職著シク少クシテ二百十二人ナリ。

次ニ技術ニ從事スルモノニ在リテハ事務從事者ト少シク其ノ割合ヲ異ニス、即チ勞働者一萬ニ付特別千十五人ヲ算シテ最モ多ク、亞クハ機械器具及金屬ノ五百三人、化學四百四十六人、雜四百三十四人、飲食二百九十三人、染職百四十九人トス、依ツテ明ナルカ如ク特別、機械器具及金屬等ノ工場ハ技術的事業多ク、從ツテ之等技術者ヲ多ク使用スル所以ナリ。

原動機

原動機ノ使用如何ハ工場生產能力ノ增加或ハ勞力消費ノ節減等ニ大ナル影響ヲ有ス、殊ニ晚近工業技術ノ發達ニヨリ著シク機械化サレタル各種工場ニ於テハ特ニ然リトス、本府工場界ニ在リテモ之等原動機ノ使用益々增加シツヽアルコトハ既ニ述ヘタル所ニシテ、以下少シク詳ニ原動機ニ就テ觀察セン

原動機ヲ使用スル五千百二十九工場ニ於ケル原動機總個數ハ一萬四千三百四個馬力數二十九萬五千二百九十三馬力九ナリ、前年或ハ前々年ニ比シ個數ハ增加シ馬力數ハ減少ス、原動機ヲ分類スレハ蒸汽機關外七種トナリ、電動機ヲ除ク他ハ皆前年ヨリ減シタリ、然ルニ電動機獨リ著シク增加セルハ所謂電氣萬能トモ云フヘキ現代趨勢ノ一端ヲ有力ニ語レルモノナリ。

原動機使用工場ノ平均個數ハ一工場二•七個ニ當リ、馬力數ハ五七•六馬力ニ該ル。而シテ一個ノ平均馬力數ハ二一•三馬力ナリ。之レヲ郡市別ニ見レハ岸和田ノ三八•一馬力最モ多ク、豐能、泉南之ニ亞キ南、中、北河內三郡ハ何レモ少ナシ、內最少タル南河內ハ一〇•一馬力ナリトス。コノ平均馬力數ハ原動機ノ種類ニヨリ著シク高低アルモノニシテ、蒸汽タービン一〇一七•一馬力、蒸汽機關八五•二、瓦斯機關四五•五、石油機關一六•八、電動機一五•四、タービン水車六•二ペルトン水車四•〇、日本形水車二•〇馬力ニ當リ、スヘテ水車原動機ハ燃料等要セス、規模又小ナルヲ以テソノ出力微弱ナリ。

郡市ニヨリ使用スル原動機ノ種類ニ差異アリ、其ノ概觀ハ蒸汽機關ハ大阪、泉南、泉北等ニ多ク、蒸汽タービンハ大阪ニ大部分トシ、瓦斯機關ニ在リテハ大阪ノ外泉北、泉南、岸和田ニ多ク、石油機關ハ大阪、泉南、南河內等ニ多シ、又タービン水車ニ在リテハ泉北、南河內、豐能ノ諸郡ニ多クシテ大阪モ多數存スト雖モペルトン水車、日本形水車ニ至リテハ三島、豐能、泉北、泉南等ノ諸郡ニ殆ント限ラル、次ニ電動機ニ在リテハ現今電力供給ノ及ハサル所ナク何レノ郡市ニ在リテモ盛ンニ用キラレツヽアリ。

之等各種ノ原動機カソノ種類ニヨリ如何ナル業態ノ工場ニ多ク使用セラルヽカヲ見ルニ、蒸汽機關ニ在リテハ染職工場ニ最モ多ク、化學工場ニモ亦多シ。蒸汽タービンハ染職工場ニ、瓦斯機關ハ染職、化學工場ニ石油機關又染織、化學工場ニ多ク。タービン水車、ペルトン水車ハ其ノ大部ヲ染織工場ニ日本形水車ハ飲食物工場ニ著シク多ク見ラレ。電動機ハ何レノ工場ニ在リテモヨク使用セラレ居レリ即チ此ノ項及前項ヲ對照比較シ、或ハ既ニ記シタル如ク兩泉地方ニ染織工場、三島、豐能地方ニ飲食物工業殷盛ナルコトヲ容易ニ知ルヲ得。

燃料其ノ他消費高

總數六千三百七十八工場ニ消費シタル燃料原料其ノ他ノ內石炭外六種ノ數量ハ石炭二十九億七千七百六十三萬千五百七十斤、コークス四十二億六千六百二十七萬四千百八十八斤、石油五十三萬二千九百十八石九斗、瓦斯四億八千四十萬九千六百三十七立方呎、木炭四百九十七萬九千七百二十八貫、電力三億九千二百八十九萬五千三百五十九キロワット時ナル莫大ナル額ヲ示セリ。而シテ前年ニ比シコークス、石油ハ著シク增加シ、電力モ亦增シ石炭、瓦斯、木炭ハ減少セリ。

各種類ノ郡市ニ於ケル消費ノ狀況ハ石炭ニ在リテハ大阪ニ最モ多ク、泉南、岸和田、泉北ニ又多ク、コークスニ在リテハ大阪ニ大部分ヲ消費セラレ、其ノ他ノ郡市ニ在リテハ堺、岸和田、三島ニ多ク、石油亦大阪殆ント占メ、泉南、岸和田ニ少シク多シ、次ニ瓦斯ニ在リテハ大阪大部ノ外、堺三島等比較的多ク、木炭、電力ニ至ツテハ各郡市何レモ相當ノ消費額ヲ見ル。

更ニ消費高ヲ工場種類別ニ見レハ石炭ハ染織工場ニ最モ多ク、特別工場ニモ多ク、コークスハ特別工場ニ大部分ヲ占メ、石油ハ雜工場ニ瓦斯ニ在リテハ機械器具及金屬工場、並ニ染織工場ニ木炭ハ機械器具及金屬工場ニ夫々多シ、尙電力ニ在リテハ染職工場ニ多ク機械器具及金屬工場ニモ尠カラス。

原動機ノ種類ト前記消費額ノ種類トハ兩者ノ間ニ比較的密接ノ關係ヲ存ス、即チ蒸汽機關、蒸汽タービンニハ石炭ノ消費多ク、瓦斯機關ニハ瓦斯、石油機關ニ石油、電動機ニ電力ノ消費多キ等ニシテ、之皆想像ニ難ラサルモ如實ニ統計ノ數字ハ之ヲ證明セリ。

第九 商業

商業會議所

從來大阪商業會議所ノミナリシモ堺市ニ於ケル一般商工業ノ發展著シク殊ニ大堺市ノ實現近キニ在テ同市ニモ商業會議所設置ノ必要ヲ認メラレ大正十四年九月ニ至リ遂ニ設立ヲ見タリ。

即チ兩所ニ於ケル議員數ハ皆通八十六名、特別二十一名、之レカ選舉有權者三千七百七十四名、選舉並被選舉有權者七千六百十四名ヲ有ス、尙本年度經費ハ十五萬七千百六十八圓トス。

取引所

米穀、株式、三品、砂糖ノ四取引所アリ、內砂糖取引所ハ會員組織トシテ大正十四年ノ暮十二月ヨリ事業開始セリ。以下簡單ニ各所ノ概況ヲ述ヘン。

大阪堂島米穀取引所　本年度末株主人員ハ千六百六十四名、前年ヨリ四十六名ヲ增ス、仲買人ハ六十二名ニシテ前年ヨリ三名減ク、資本金ハ異動ナク積立金、仲買人身元保證金等何レモ增加セリ。

本年度經費ハ收入減シ支出增加シタルヲ以テ純益金並ニ配當金ハ夫々減少セリ。

本年中ノ開市日數ハ二百九十二日前年ヨリ四日少シ、總賣買出來高ハ七千五百萬一千六百石ニシテ前年ヨリ實ニ千二百六萬八千石ヲ減少ス、斯ノ如キハ主トシテ前半期中ニ於ケル激減ニ依ルモノニシテ是レ財界ノ沈滯尙著シク殊ニ米穀法改正發布等ニヨリ思惑心ヲ甚タシク減殺セラレタル結果ナラムモ

後半期ニ入リテハ殘米減少、豐作見越等ニヨリ稍思慮心ヲ惹キ以テ賣買ノ殷盛ヲ見タリ、而シテ各月中最高ヲ示セルハ十月ノ八百五十七萬八千二百石トシ、一月ノ四百二十四萬四千百石ハ最少ナリ。

當年中相場ノ最高ハ九月限ノ四十四圓九十九錢、最低ハ十二月限ノ三十三圓五十一錢ニシテ其ノ値開キハ十一圓四十八錢ナリ。今商況ノ一端ヲ窺ヘハ三月ニ至リテ前月ノ不振ニ買氣萎縮シ、新甫ハ無論ニ發會シ、當月限三十六圓三十八錢ト惡化シタルモ、七月ニ至リ朝鮮水害ノ影響ヲ受ケテ買氣ヲ唆リ七月當月限ハ空賣筋ノ買退キニ四十四圓六十九錢ノ高値ニ納會シ、九月ニ至リ新米氣分ト天候申分ナキ等ニヨリ奔落シタルガ、當限ハ依然濟米不足ノタメ一氣ニ四十四圓九十九錢ト爆發シ、以テ當年中ノ最高値ヲ呼ビ、十一月ニ至リテハ少シク擡頭後濟米出廻豐富等ノ軟材料ニ環境愈々惡化シテ暴落シ續イテ十二月ニ入リ朝鮮產地高ニ少シク擡頭シタルモ買上尚早說ヲ傳ヘテ當限ハ三十三圓五十一錢トナリ、掉尾ニ於テ本年中ノ最安値ヲ顯セリ。

大阪株式取引所　本年度末株主人員ハ一萬五千八百四十八人ニシテ前年ニ比スレハ千七百八十六人ヲ減少セリ、仲買人員ハ前年ヨリ六人減シテ四十五人トナリ。積立金著シク增加シ仲買人身元保證金モ亦增加セリ。

本年度經費ハ收入增加シ支出著シク減セリ、從ツテ純益金亦增シ配當金亦前年ヨリ增シタリ。

本年中ノ開市日數ハ三百十二日ニシテ長期取引ニ係ル賣高總出來高千三百五十三萬九千六百四十枚ナリ、前年ヨリ五百三十二萬千百七十枚多ク、受渡高百四十六萬千六百五十枚、之又前年ヨリ八十二萬五千十枚ノ著シキ增加ナリ。

長期取引賣買高中普通鐵道株四千七百四十株中南滿鐵道株（四千二百三十株）最モ多ク、電鐵株二萬二千六百八十中、京阪ノ一萬七千六百八十最モ多ク、運輸株四十七萬七千三百五十中大阪商船（二十五萬二千百四十）日本郵船（二十二萬五千十）大部ヲ占メ、電氣瓦斯株四萬七千九十中宇治川電氣（二萬二千九百六十）大同電力（一萬五千五百四十）等多キモノトシ、紡績株四百九十二萬五千八百十中鐘淵紡績（三百三十八萬四千六十）最モ多ク、尚又總取引證券中ノ最多ノ地位ニアリ、次ニ製糖株ニアリテハ六十四萬二千中大日本製糖（二十六萬八千八百四十）最モ多ク、土地建物株二十二萬二千六百三十中泉尾土地（六萬九千五百四十）市岡土地（六萬五千七百四十）等比較的多ク、取引所株ニ在テハ四百七十六萬二千九百九十枚中三百九十一萬二千四百四十ナル當所株大部ヲ占メ、其他ノ諸株二百四十三萬四千百四十中、久原鑛業株ノ百萬六千四百七十等多シ。

大阪三品取引所本年度末株主人員ハ七百四十八人ニシテ前年ヨリ三十八人多ク、取引員ハ五十人トナリテ一人ヲ增シ、積立金ハ前年ヨリ減少セリ。

本年度經費ハ收入、支出共ニ增加シ、純益金亦增シタルモ配當金ハ前年ト同樣ニシテ差ナシ。

本年中ノ營業日數二百八十日、取引ハ綿絲ノミトシ、之レガ賣買出來高ハ六百四十一萬三千八百十梱ニシテ前年ヨリ十七萬七千百八十五梱ヲ增加セリ。此ノ增加ヲ說クタメ本年商況ノ概要ヲ見ルニ後半期ニ於テ我紡績界ノ未曾有ノ綿絲多產ヲ見タル上、上海紡績ノ罷工ノ影響ニヨリ輸出ノ盛況ヲ告ケタリシカ、內地經濟界ハ未タ改善ノ途上ニ在リテ內需之ニ伴ハス、米綿漸次增產ノ氣分濃厚ナル等ニヨリ市況ハ不況ヲ呈スルノ止ムナキニ至リタルモ、前半期ニ於テハ海外諸事情ノ良好ト圓價低落トニ綿製品輸出盛況ヲ續ケ假需要又旺盛ニシテ活況裏ニ初期ヲ經過シ以後終始波瀾ヲ呈セルモ概シテ商狀殷

盛ニシテ前記ノ如キ增加ヲ示セルモノナリ。

大阪砂糖取引所　年末ニ於ケル會員數四十五人、據金九萬圓、身元保證金四十五萬圓ニシテ一人當リ保證金ハ一萬圓ナリトス。

本年中（十二月中）經費ハ營業當初トテ千七百七十五圓ノ缺損ヲ示シタリ。

本年（十二月）中ノ立會日數二十二日、賣買出來高六十八萬六千七百五十袋ニシテ市場ノ概況ハ財界ノ沈滯、世界產糖ノ增收、支那動亂等ノ餘波ヲ受ケデ崩落步調ヲ辿リシタメ繁シテ活氣ナク當年ニ遜リタリ。

外國貿易

本邦商工業ノ中心地トシテ極メテ樞要ノ地位ヲ占ムル吾大大阪ノ咽喉ニ當レル大阪港ノ貿易ハ本邦有數ノモノナリ、然レドモ大阪港ノミノ貿易ヲ以テ本府ノ貿易狀況ヲ論スルハ不當ノ嫌ヒアリ、何トナレハ本府ノ貿易ハ本府ト卑近ノ地ニアリ、而モ吾國一二ノ大商港タル神戶港ト密接ナル關係ヲ有スルモノニシテ、之カ貿易ヲ大イニ考慮スルノ要アルナリ、然レトモ今茲ニハ之レカ記述ヲ避ケ單ニ大阪港ノミニ就テ述フレハ次ノ如シ。

大正十四年中大阪港外國貿易總額ハ八億七千四萬六百八圓ヲ算シ前年ヨリ一躍一割九分五厘ヲ增加セリ、コレカ輸出入ノ割合ハ輸出六割二分、輸入三割八分ナリ、總額ヲ最近十箇年ニ亘リ增加ノ狀況ヲ見ルニ實ヲ見サルノ巨額ニ上リ、往年ノ歐洲大亂時ノ好況時代ノ頂點ナリシ大正九年（六億五千七百七十八萬餘圓）ヲ遙カニ凌駕シ又比スヘクモアラス。以下輸出及輸入ニ分チ略說スレハ、

輸　出　總額五億六十七萬二千六百八十一圓ニシテ前年ヨリ九千八百二十九萬三千百六十圓（二割四分四厘）ノ著シキ增加ヲ示セリ、之カ輸出タル行先國別ヲミレハ亞細亞洲四億八千三百七十三萬三千六百八圓（九割六分六厘）歐洲四百七十六萬九百五十九圓（一分）、亞米利加洲四百十八萬千八百八十圓（八厘）、其ノ他諸洲七百九十九萬六千二百三十四圓（一分六厘）ニ割合ス、即チ亞細亞洲大部ヲ占ム、更ニ何レノ地ニ最モ多キカヲ觀察スレハ隣邦支那ニ行クモノ亞細亞洲總數ノ半數ヲ超ヘ、英領印度、關東洲、蘭領印度等ニ多ク、香港、西比利亞等ハ前年ヨリモ減少セリ。歐洲ヘノ內ニ在テハ英國行最モ多ク而モ前年ヨリ著シク增加シ、土耳古之ニ亞キ多量ナルモ前年ヨリ減少ヲ示セリ、亞米利加洲ニ於テハ合衆國行減少シ、其ノ他諸洲ニ在テハ濠太剌利多クシテ前年ヨリ著シク增加セリ。

更ニ輸出ヲ其ノ品種別トスレハ食料粗製品百二十八萬千十八圓（二厘）食料製造品八百八十五萬八千九百四十三圓（一分八厘）、原料品千三百四萬七千六百二十四圓（二分六厘）、原料用製品一億六百五十三萬二千八百七十四圓（二割一分三厘）、全製品三億六千四百五十一萬七千六百五十四圓（七割二分八厘）、其ノ他雜品六百四十三萬四千五百六十八圓（一分三厘）ニ當リ、全製品過半數ヲ占ム、此ノ內細別ニ就テ見レハ食料粗製品中ニ在テハ昆布類、食料製造品ニ在テハ精糖大部分ヲ占メ（但シ前年ヨリ減少ス）原料品ニ在テハ木材及板其ノ主ナルモノトシ。原料品製品ニ在テハ綿織絲殆ント全部ニ當リ前年ヨリ又增加シ。全製品ニ在テハ金巾、生金巾、生シーチング等最モ多シ。

次ニ如何ナル國ニ如何ナル種類ノモノ多キカヲ一瞥スルニ隣邦支那ニ在テハ綿織糸、金巾類、木綿類其ノ他各種織物類等多ク、製糖或ハ洋傘等ノ大部分又支那ニ輸出セラレ、關東洲ニ在テハ各種織物類多ク其ノ他諸機械、鐵製品等又多シ。香港行ニ在テハ綿織糸綿織物最モ多ク、英領印度ニ在テハ綿織

物金巾類其ノ他織物類大部分ヲ占メ、蘭領印度ニ在テハ生金巾、綿木綿等ヲ多シトス。

輸　入　總額三億六百三十六萬七千九百二十七圓ニシテ前年ニ比シ三千三百六十一萬四千三百六十二圓（一割二分三厘）ノ增加ヲ示セリ、之レカ輸入ノ國別ヲミルニ亞細亞洲一億八千三百二十二萬九千八百三圓（五割九分八厘）、歐羅巴洲三千三十六萬千五百五十八圓（九分九厘）、亞米利加洲六千五百五十九萬八千九百八十九圓（二割一分四厘）、其ノ他諸洲二千七百萬六千六百三十八圓（八分八厘）、不詳十七萬九百三十九圓（零）ニ割合ス。即ヲ輸入ノ主ナル相手國ハ輸出同樣東洋諸國ナルモ少シク趣ヲ異ニシ、西洋其ノ他ノ諸洲ニモ多シ。

更ニ各國別ニスレハ亞細亞洲中英領印度ヨリ最モ多ク、支那、蘭領印度之ニ亞キ、歐羅巴洲ニ在テハ英國、獨逸等多ク、亞米利加洲ニ在テハ北米合衆國大部分ヲ占メ、其ノ他諸洲ニ在テハ濠太剌利最モ多シ、而シテ支那、蘭領印度ハ前年ヨリ減少セルモ濠太剌利ノ增加著シ。

輸入ヲ品種別トスレハ食料粗製品九百四十萬六千九百三十五圓（三分一厘）、食料製造品千七百十八萬二千九百八圓（五分六厘）、原料品二億四百五十四萬二百十二圓（六割六分八厘）、原料用製品五千九十萬五千七百五十七圓（一割六分六厘）、全製品二千二百六十萬四千八百二十九圓（七分四厘）、其ノ他雜品百七十二萬七千二百八十六圓（五厘）ニ當リ、原料品半數以上ヲ占ム。之等ノ內各品種ニ就テ見レハ食料粗製品ニ在テハ牛肉最モ多ク、含料製造品中粗糖ハ其ノ大部ヲ占メ、原料品ニ在テハ繰綿最モ多ク、パインフアー及シダー、羊毛之ニ亞キ、原料用製品ニ在テハ各種鐵類大部分ニ當リ、亞鉛、鉛等又多ク。全製品ニ在テハ羅紗及セルヂス、ソノ主ナルモノナリ。之等ノ內、食料品中ノ大豆、牛肉等ハ前年ヨリ多ク、鳥卵其ノ他ノ食料粗製品等ハ減ス。原料品ニ在テハ繰綿、羊毛、棉子等ハ增加セルモ、パインフアー及シダーハ減少ス。原料用製品ニ在テハ亞鉛、鉛、屑及故鐵等增加シ。全製品ニ在テハ羅紗類ノ增加大ナリ。

次ニ國別輸入品ノ種類ヲ見レハ支那ニ在テハ牛肉、牛皮及水牛皮、實棉及繰綿等多ク、關東洲ヨリハ石炭最モ多ク、銑鐵又多シ、英領印度ヨリハ實棉及繰綿ヲ大部分トシ、英國ヨリハ毛製羅紗類等、獨逸ヨリ鐵類、米國ヨリハ繰綿、パインフアー及シダー等最モ多シ。

海陸出貨

出貨總數八百二十八萬三千三百二十四噸、金額三十六億三千百五十八萬四千九百四十三圓ナリ、前年ニ比シ三十四萬五千五百二十六噸（四分三厘）、二億九千九十四萬九千八百三十八圓（八分七厘）ヲ增加セリ、今海陸兩運ニ分チ槪說スレハ、

海　運　數量三百四十萬四千百十五噸ヲ前年ニ比スレハ六分二厘ヲ、金額十七億二千二十五萬六千二百二十四圓ヲ前年ニ比スレハ一割七厘ヲ夫々增加ス。更ニ金額ヲ品種別トスレハ全製品五割八分三厘、原料用製品三割二分一厘、食料品五分四厘、原料品四分二厘、其ノ他零厘ニ當レリ、各分類中ノ主ナルモノハ食料品ニ在テハ砂糖最モ多ク、和酒之ニ亞キ、原料品ニ在テハ棉花最多ニシテ木材又多ク、原料用製品ニ在テハ綿絲大部ヲ占メ、全製品ニ在テハ綿織物ヲ主トシ、藥品、和洋紙、鐵製品等相亞イテ多ク、其ノ他ノ諸品ニ在テハ種子及苗木最多ナリ。

更ニ海運出貨ヲ仕向ケ先ニヨリ分テハ、數量總數ノ內內地向六割八分六厘、朝鮮向六分四厘、外國向二割四分九厘ニ該當ス。金額ニ在テハ五割三分四厘、朝鮮向五分六厘、外國向四割九厘ニ割合セリ、然

レトモ上記割合中ニハ一旦神戸港へ陸揚ケシタルモノハ仕向先不明ナルヲ以テ之ヲ神戸ト大阪トノ間ニ行ハレタル內地貿易ト看做シ。內地向ニ包含シタルヲ以テ仕向先實際ノ割合ハ變動ヲ免レサルヘク自然內地向ヨリ寡少ナルヘシ。

陸　運　數量四百八十七萬九千二百九噸ヲ前年ニ比スレハ十四萬五千八百四十八噸（三分一厘）ヲ金額十九億千百三十二萬八千七百十九圓ヲ前年ニ比スレハ一億二千四百四十二萬千七百六十八圓（七分）ヲ增加セリ、更ニ金額ヲ品種別ニスレハ全製品六割五分、原料用製品一割八分五厘、原料品一割一分五厘、食料品五分、其ノ他零厘ニ當ル、分類中主ナルヲ舉クレハ食料品ニ在リテハ砂糖、米、鮮魚等多ク、原料品ニ在テハ棉花最モ多ク、獸毛、石炭之ニ次キ、原料用製品ニ在テハ綿絲大部分ヲ占メ、鋼及鐵銅、人造肥料之ニ亞キ、全製品ニ在テハ綿織物、藥品、鐵製品等多シ。

海陸入貨

入貨總數量千百二十九萬五千四百五十六噸、金額三十億八千七百四十四萬九千二百五十三圓ナリ、前年ニ比シ數量二萬一千八百二十五噸（一分九厘）ヲ減セルモ金額三億九千七百二十三萬三千五十四圓（一割四分八厘）ノ增加ヲ示セリ、今海陸兩運ニ分チ槪說スレハ、

海　運　數量七百九十四萬九千四百二十八噸ヲ前年ニ比スレハ二分一厘ヲ減シ、金額十四億四千五百二十三萬四千九百五十八圓ヲ前年ニ比スレハ四分八厘ヲ增加セリ。更ニ金額ヲ品種別トスレハ原料用製品三割三分五厘、全製品二割三分九厘、原料品二割三分八厘、食料品一割七分四厘、其ノ他一分三厘ニ當ル。分類中主ナルモノハ食料品中ノ米、砂糖、鮮魚等、原料品中ノ棉花、石炭、木材等、原料用製品中ノ銅鐵及鋼、綿絲、金屬材等、全製品中ノ和洋紙、綿織物、毛寵織物、藥品等ナリトス。更ニ海入運貨ヲ仕入先ニヨリ分テハ數量ニ於テハ內地ヨリ六割五分五厘、朝鮮五分、外國二割九分五厘ニ該當セリ、然レトモ朝鮮或ハ外國ヨリ入貨シタルモノニシテ一旦神戸港へ陸揚シ更ニ大阪港へ入貨シタルモノハ之ヲ神戸港ト大阪港トノ間ニ行ハレタル內地貿易ト看做シ內地ヨリノ分ニ包含スルヲ以テ事實ハ內地ヨリノモノ、割合ヨリ僅少ナルヘシ。

陸　運　數量三百三十四萬六千二十八噸ヲ前年ニ比スレハ十四萬八千五百四十一噸（四分六厘）ヲ金額十六億四千二百二十一萬四千二百九十五圓ヲ前年ニ比スレハ三億三千八十六萬五百九十三圓（二割五分二厘）ヲ增加セリ。更ニ金額ヲ品種別トスレハ全製品六割五分四厘、原料用製品二割三厘、食料品八分八厘、原料品五分四厘、其ノ他零厘ニ當レリ。分類中其ノ主ナルモノハ食料品中ノ鮮魚、米洋酒等、原料品中ノ棉花、羽毛類等、原料用製品中ノ綿絲、銅鐵及鋼等、全製品中ノ綿織物、毛寵織物、和洋紙等ナリトス。

第十會社

總　數

大正十四年末會社現在數ハ四千二百四十九、前年末ノ三千八百七十ニ比シ三百七十九（八分九厘）ヲ增加セリ、此ノ增加ノ內譯ハ合名二百八十一、合資七十一、株式二十五、株式合資二トス、各組織別ノ前年ニ對スル割合亦合名最モ多キモ、株式合資前年ニナルニ對シ本年四ニシテ倍加セリ。

會社分布ノ狀況ハ大阪市最モ多ク總數中三千八百九十四（九割一分六厘）ナル大部分ヲ占メ、其ノ他

ノ都市ニ在リテハ泉南ノ百四、堺ノ八十六等亞イテ多ク、北河内ニ最モ少シ。

最近ニ於ケル會社數增減ノ狀況ヲ十ケ年ヲ遡リテ見ルニ大正五年（千三百四十四）ヲ一〇〇トスレハ六年一〇〇（千三百三十九）七年一二四、八年一五二、九年一九八、十年二三六、十一年二五七、十二年二八一、十三年二八八、十四年三一六ヲ示シ、五年少シク減セルモ以降漸次增加シ、十四年ニハ遂ニ三倍ヲ超スニ至レリ。

組　織　別

會社總數四千二百四十九ヲ組織別トスレハ、合資會社千八百九十七（四割四分六厘）、株式千四百八十四（三割四分九厘）、合名八百六十四（二割三厘）、株式合資四（一厘）ニ當リ、之ヲ前年ニ比ズレハ合資及株式合資ノ割合增加シ、株式及合名ハ減少ス。

最近十ケ年間ノ組織別割合ノ增減ヲ見ルニ大正九年以前ハ株式漸次增シ合資減少セルモ、十年以降ハ反對ノ現象ヲ呈シ株式遞減、合資遞增ノ傾向ヲ有ス。

資　本　別

會社總數四千二百四十九ニ對スル資本金總額ハ三十億二千三百三十萬四千三百圓ヲ數ヘ、前年ニ比シ一億二千七百八十八萬三千圓（四分二厘）ヲ增ス。

會社總數ヲ資本金ノ大小ニヨリ分類スレハ、一萬圓未滿千百五十三（二割七分一厘）、五萬圓未滿千七十三（二割五分三厘）、十萬圓未滿四百十四（九分七厘）、五十萬圓未滿八百四十（一割九分八厘）、百萬圓未滿二百四十三（五分七厘）、百萬圓以上五百二十六（一割二分四厘）トナリ前年ニ較フレハ小資本ノモノ增加セリ。

一會社當リ平均資本額ハ七十一萬千五百圓ニ該當シ、前年平均額七十四萬八千二百圓ニ比スレハ三萬六千七百圓ヲ低下セリ、即チ之ニヨリ解散會社ニ比較的資本ノ大ナルモノアリタルカ、又ハ新設會社ノ多クハ小規模ナルヘシト判定スルストヲ得ヘシ。

更ニ資本金大小ノ割合ヲ組織別ニ見レハ株式ニハ大資本ノモノ多ク、合資、合名ハ資本ノ小ナルモノ多シ、即チ株式ニ在テハ五十萬圓以上ノ資本金ノモノ三割七分七厘、百萬圓以上三割二分五厘ヲ占メ一萬圓未滿ノモノ僅々七厘ナルニ、合資ニ在テハ一萬圓未滿ハ約半數ノ四割九分三厘、五萬圓未滿三割一分九厘ヲ占メ、合名ニ在テハ五萬圓未滿四割二分四厘、一萬圓未滿二割四分ニ當リ、百萬圓以上ノ如キハ合資九厘、合名三分一厘アルノミナリ。

組織別平均資本金ハ株式百七十五萬三千七百圓ヲ算シ、株式合資二十四萬圓、合名二十萬二千四百圓合資十二萬九千二百圓ニ當リ、株式ハ他ニ比シ著シク高ク、尙前年ニ比スルモ株式合資、合名、合資共ニ低下セルニ株式獨リ高マレルヲ見ル。

積　立　金

積立金總額ハ五億六千十三萬八千圓ニシテ前年ニ比シ千二十八萬五百圓（一分八厘）ヲ增加セリ、此ノ總額ヲ組織別トスレハ株式五億四千九十八萬九千八百圓（九割六分六厘）ナル大部分ヲ占メ、合名千八十六萬八千二百圓（一分九厘）、合資八百二十萬八千二百圓（一分五厘）、株式合資七萬千八百圓（零）ニ當ル。

一會社當リ積立金平均額ハ十三萬千八百圓トナリ、前年ニ比シ一萬三百圓ヲ低下ス、之ヲ組織別ニ見

レハ株式三十六萬四千五百圓、株式合資一萬七千九百圓、合名一萬二千六百圓、合資四千三百圓ニ當リ株式他ニ比シ著シク高シ。

更ニ營業別積立金ノ割合ハ一會社當リ水產業六十九萬八千三百圓ヲ算シテ最モ多ク、運輸業二十六萬五千百圓、工業十七萬三千百圓、商業八萬八千九百圓、農業四萬二百圓、鑛業一萬六千三百圓等ニ該當セリ。

社　債

社債總額二億三千三百八十四萬六千九百圓ヲ前年ニ比スレハ五千百八十二萬二千百圓、即チ二割二分三厘ナル著シキ增加ヲ示セリ、次ニ組織別社債ノ割合ハ殆ント全部株式ニ屬シ九割九分四厘ヲ占メ、他ハ僅カニ合資四厘、合名二厘ニ過キス。

一會社當リ社債額組織別ノ割合ヲ算出スルニ、株式十五萬六千六百圓、合名六百圓、合資五百圓ニ當リ、株式獨リ高ク、合名、合資又比スヘクモアラス。

更ニ事業別ニ見タル社債額ノ割合ハ運輸業最モ多ク二十八萬七千六百圓ニシテ、水產業二十五萬圓之ニ亞キ、工業七萬一千二百圓、　商業二萬二千二百圓、鑛業二千四百圓ニ當レリ

事　業　別

會社總數四千二百四十九ヲ營業種類ニ分ツレハ、商業二千二百十六（五割二分二厘）、工業千七百七十五（四割一分八厘）、運輸業二百（四分七厘）、鑛業三十九（九厘）、農業十七（四厘）、水產業二（零厘）トナリ、前年ニ比スレハ商業獨リ增率シ、鑛業並水產業ハ減少ス、尙既往數年間ニ於ケル現象ハ概シテ工業ノ割合減少シ、商業ハ漸增ノ模樣アリ。

會社營業別組織ノ狀況ハ農業、鑛業株式最モ多ク、合名、合資之ニ亞キ、運輸業亦株式最多ナルモ合資比較的多ク、工業及商業ハ合資最多ニシテ株式ハ之ニ亞ケリ。

各都市ニ於ケル會社業總別ヲ覩フニ其ノ割合大阪ニ在リテハ商業最モ多ク工業之ニ亞キ、岸和田、豊能之ト同シク、他ノ各都市ハ工業最多ナリ、而シテ就中三島及泉南北等ノ著シク多キハ前者ハ飮食物工業（寒天製造等）ニ於テ、後者ハ染職工業ニ於テ比較的多キ爲ナリトス、尙農業ハ大阪市ニ大部ノ外豊能、堺、中河内等ニアリ、水產業ハ大阪ノミトシ鑛業ハ大阪及南河内ニ存ス。

事業別資本金ノ大小ヲ觀ルニ一會社當リ平均額ハ鑛業五百八十一萬千九百圓、水產業三百七萬五千圓運輸業二百二萬六千九百圓、農業百十萬九千三百圓、商業六十九萬三千三百圓、工業五十萬六千六百圓ニ當リ、鑛業規模最モ大ナリ、然レトモ商業、工業ノ中ニモ大規模ノモノアルモ比較的小資本多キタメ斯ノ如キ割合ヲ見タルモノトス。

更ニ各事業ノ細別ニ就テ觀察スレハ、

農　業　總數十七アリテ前年ニ比シ三ヲ增シ、內山林ニ關スルモノ六最モ多ク農耕業ノ四、開墾業ノ三之ニ亞ク、前年ニ比スルトキハ農耕業減シ、開墾業增加セリ、而シテ資本ノ大小ハ農耕業最モ大ナルヲ見ル。

水產業　ニ在リテハ總數二ニシテ前年(七)ニ比スレハ大ナル減少トモ云フヲ得ヘク、內捕鯨、魚具蘊　養殖各一トシ捕鯨業ハ其ノ組織比較的大ナリ。

鑛　業　總數三十九ニシテ前年ニ比シ五ヲ減シ、內金屬鑛採掘製煉ニ關スルモノ最モ多ク(二十三)

石炭採掘、土石類採取各々六之ニ亞ク、而シテ金屬鑛採掘及製煉ハ前年ニ比シ增セルモ土石類採取ハ甚タシク減少ス、資本ノ大小ハ金屬鑛採掘及製煉最モ大ニシテ土石類採取ハ小ナリ。

工　業　ニ在リテハ總數千七百七十五トシ前年ニ比シ百三十九多ク、之ヲ分類スレハ染職二百八十八（一割六分二厘）機械及器具二百六十六（一割五分）、金屬二百十四（一割二分一厘）、化學三百二十四（一割八分二厘）、飲食物百五十（八分四厘）、雜五百十六（二割九分一厘）、特別十七（一分）ニ當リ機械及器具、飲食物、雜等ハ前年ニ比シ增加大ニシテ染職工業ハ減少セリ、而シテ染職工業ノ內綿織物ノ減少最モ著シク機械及器具ニ在テハ工匠農土工具、計量器科學器等增加シ、電器機械及器具業ハ減少最モ多シ、金屬工業ニ在テハ鑄造業ノ增加特ニ多ク、化學工業ニ在テハ陶磁器、飲食物工業ニ在テハ菓子、雜工業ニ在テハ被服其ノ他裁縫業、土木建築其ノ他工事請負等ノ增加最モ顯著ナリ。

以上工業ニ關スル各種類中資本大小ノ割合ヲ見レハ、染職工業ニ在テハ綿絲紡績（六百五十四萬二千五百圓）、絹綿紡績（四百六十五萬圓）等、機械及器具工業中、造船（百五十六萬九千九百圓）金屬工業中、金屬壓延及製綿（八十六萬千七百圓）化學工業中、工業用藥品（百七十九萬五千三百圓）製紙（百五萬九千三百圓）、飲食物工業中、清酒（二十四萬九千七百圓）、洋酒其ノ他（十五萬圓）、雜工業中土木建築其ノ他工事請負（六十五萬九千三百圓）、特別工業中電氣（千四百九十七萬九千百圓）等ハ規模ノ大ナルモノナリ。

商　業　總數二千二百十六ニテ前年ニ比シ二百二十七ヲ增シタリ、內物品販賣業千五百八十六（七割一分六厘）ハ三分ノ二以上ニ相當シテ最モ多ク、金融業百十一（五分）之ニ亞キテ多シ、而シテ前年ニ比ヘ物品販賣業獨リ異數ノ增加ヲ示シ、ソノ內酒類、調味料、清涼飲料水ノ增加著シク、機械器具車輛、燃料等又增加シ、反シテ減少ノ甚タシキモノハ金融ヲ筆頭ニ媒介周旋業、旅宿料理店等トス、即チ之等ハ現時ニ於ケル深刻ナル經濟界不況ニヨル反影ト見ルヲ得ヘシ。

商業各分類中資本大小ノ割合ヲミルニ取引所（千六百六十六萬六千七百圓）ハ最モ大キク、銀行（六百十六萬六百圓）、保險（二百八十二萬四千八百圓）等亦大ナリ。

運輸業　ニ在リテハ總數二百、前年ニ比シ二十ヲ增ス、ソノ增加ノ比較的多キモノハ汽船以外ノ運輸トシ、現在數ニ於テモ最モ多ク（五十九）自働車二十六、汽船十九、鐵道軌道十三、其ノ他八十三ノ內譯ナリ、而シテ資本金ノ大ナルハ鐵道軌道ニシテ平均千八百三十七萬六千五百圓ヲ算シ會社全分類ヲ通シテノ最高資本ヲ擁シ最モ組織大ト謂フヘク、汽船會社亦大キク六百九十一萬五百圓ニ該當セリ。

會社支店

大正十四年末ニ於ケル支店現在數ハ八百三十七、前年ニ比シ五十八（六分九厘）ヲ增加ス、總數ノ內株式七百七（八割四分五厘）合資七十六（九分一厘）、合名五十四（六分四厘）、ニ割合シ、假ニ會社本店數ノ割合ニ比スレハ株式著シク多キヲ見ル、是合資、合名ハ其ノ組織概ネ小ナルコト前說ノ如クニシテ勢ヒ支店等ノ設置ハ僅少ナルヲ免レス。

支店數ヲ業態別ニ分ツレハ商業最モ多ク六割七分（五百六十一）ニ該リ、工業二割五分四厘（二百十三）、運輸業六分六厘（五十五）、鑛業七厘（六）、農業二厘（二）等ニ割合ス。

支店都市分布ノ狀況ハ大部（八割八分八厘）大阪ニ屬シ、其ノ他ハ僅少ナルモ堺（三分二厘）、南河內（一分九厘）、泉北（一分七厘）等ヲ多キ部トナス。

第一一　金　　融

銀行總覽

本店數　管內所在ノ銀行數ハ五十五ナリ、前年ヨリ二ヲ減ス。

大正九年、當時世界大戰ノ好況時大膨脹ノ反動ニヨリ突如恐慌ノ襲來ヲ受ケタル財界ハ、更ニ十二年ノ大震災ニ遭遇シテヨリ一層憔悴ヲ極メ、爾來益々不況ヲ續ケテ容易ニ回復ノ徵ナク、遂ニ本年ニ入リシモ尙混沌トシテ未タ機運挽回ノ曙光スラ見ルニ至ラサルノ狀況ナリ、爲メニ金融界ノ波瀾重疊、比較的不良ナル銀行ノ破綻、休業、或ハ小銀行ノ併合等相亞イテ起リ、遂ニ大正十一年ヲ頂點トシテ以後年ト共ニ減少ヲ重ネ、本年又併合解散等ニヨリ前記ノ如ク二行ヲ減少セリ。

五十五銀行ノ內、特殊銀行一、普通銀行四十五、貯蓄銀行九ニシテ普通銀行及貯蓄銀行ニ於テ夫々一ヲ減少セリ。

支店數　前記本店數ニ屬スル支店數ハ二百、前年ヨリ十五ヲ增シ、更ニ其ノ出張所等ヲ數フレハ百二十一、前年ヨリ十六多シ、コノ支店二百ノ內譯ハ普通銀行ニ係ルモノ百五十八、貯蓄銀行ニ屬スル四十二トス。

更ニ管外ニ本店ヲ有スルモノヽ管內ニ於ケル支店數ハ百十、前年ヨリ一少ク、之レニ屬スル出張所等ハ三十八ナリ、而シテ種類別內譯ハ特殊銀行六、普通銀行九十、貯蓄銀行十四ナリ。

銀行郡市別

銀行總數ヲ所在地別ニ見レハ大部分ハ大阪ニ屬シ他ノ郡市ニ在リテハ僅少ナリ、即チ特殊銀行本支店七行トモ大阪ニ存シ、普通銀行本店四十五行中十九ハ大阪ニシテ泉南ニ七、岸和田ニ五、其ノ他ハ一乃至三ニシテ北河內ニハ無シ。支店數二百四十八ノ分布ハ百八十四ヲ大阪ニ、其ノ他ニ在リテハ南河內ニ十四、堺ニ十一、豐能ニ十ヲ存スル等ハ比較的多ク岸和田ニハ僅カニ一ナリトス。

貯蓄銀行ニ在リテハ本店九行中、六ハ大阪トシ、岸和田二、南河內一ニシテ他ニ無ク、支店五十六行ハ內四十ヲ大阪ニ、堺、南河內ニ各五、泉北、中河內ニ各二、岸和田、泉南ニ各一ヲ有シ三島、豐能北河內ニハ存セス。

更ニ大阪市ニ在リテハ東區ニ大部分ヲ占メ、西區、北區、南區等ニ概シテ多シ。

資本金

本店銀行總數ノ公稱資本總額ハ三億一千八百八十六萬六千圓ヲ算ス、前年ニ比シ五萬圓ヲ減セリ、銀行種類別資本ハ普通銀行ハ前年ヨリ十五萬圓ノ增資ヲ示セルモ、貯蓄銀行ハ一ケ所閉鎖ニ伴ヒ二十萬圓ヲ減シ、差引五萬圓ノ減少トナレリ。

以上資本金ニ對スル拂込資本額ハ二億二千二百二十五萬七千圓ニシテ前年ニ比シ百六十萬五千二百五十圓ヲ增加セリ、此ノ內譯ヲ見ルニ、貯蓄銀行ニ於テハ減少セルモ普通銀行ノ增加著シキタメ總額ニ於ヲ以上ノ如キ增加ヲ示スニ至レリ。

資本總額ニ對スル拂込濟額ノ割合ハ六割九分七厘、前年（六割九分二厘）ニ比スレハ少シク增加シ、

更ニ數年前ニ比スルモ大イニ增加セリ、是、從來徒ラニ公稱資本ノミ多クシテ拂込額少キカノ如カリシモ財界不安ニ際シ或ハ減資ヲ斷行シ、或ハ拂込資本ヲ增額スル等內容ノ充實ニ努メタルノ傾向ヲ示セリ。

積立金

總額九千八十一萬九千三百三十六圓ヲ前年ニ比スレハ八百六十三萬九千七百七十三圓（一割五厘）ヲ增シ、尙最近數ケ年ヲ比較スルモ、資本金等年ニヨリ增減アルニ不拘、獨リ年々增加シツヽアリ、之等ノ如キモ前項記載ノ如ク基礎安定ヲ圖レルノ證左トモ見ルヘキカ、

積立金總額ノ內普通銀行ニ屬スルモノ九割一分六厘、貯蓄銀行五分一厘、特殊銀行三分三厘ニ割合ス

預金

預金總額三百八十八億七千二百九十八萬五千四百六十六圓ヲ前年ニ比スレハ二十八億四千三百十八萬六十一圓（七分九厘）ヲ增シ、更ニ前々年ニ比スルモ增加ヲ示セリ、然レトモ、コレヲ所謂恐慌襲來ノ始メテ見タル大正九年ニ比較スレハ尙三十億三千三百四十四萬圓餘ノ減少ニ當レリ、今九年ヲ百トシタル指數ヲ以テ各年ノ預金ヲ表ハセハ、十年八九、十一年九〇、十二年八四、十三年八六、十四年九三トナリ、即チカノ大震災ノアリタル十二年ニ預金最モ減少セリ。

預金總額ノ銀行種類別ノ割合ハ普通銀行五割九分二厘、特殊銀行三割五分三厘、貯蓄銀行五分五厘ニ該當ス、更ニ之レヲ分類スレハ當座預金最モ多ク、其ノ他ノ普通預金之レニ亞キ、定期預金、特別當座預金、官公金預金、貯蓄普通預金、同定期積金ノ順序ナリ。

年末ニ於ケル預金現在高ハ十六億三百三萬九千三百十四圓ニシテ前年ニ比シ四千四十八萬七百九十四圓（二分五厘）ヲ增セリ、之ヲ銀行種別トスレハ普通銀行八割八分四厘、特殊銀行二分五厘、貯蓄銀行九分一厘ニ割合ス。更ニソノ種類別トスレハ定期預金最モ多ク、當座預金、特別當座預金、其ノ他普通預金、定期積金、貯蓄普通預金、官公金預金ノ順位ニシテ即チ前記預金總額ニ於ケルト甚シク順位ヲ異ニセリ、是レ總額ニ於ケルト年末ニ於ケルトノ預金ノ動キノ一端ヲ表ハセル現象察知スルニ足ルヘキカ。

貸付金

總額百九十一億三百七十三萬七千七百五十一圓ヲ算シ前年ニ比スレハ二十四億千三百七十八萬八千五百三十八圓（一割四分五厘）ナル著シキ增加ナリ、今茲ニ大正九年ノ貸付高ヲ一〇〇トシタル指數ヲ以テ各年ノ數ヲ表ハセハ十年一〇三、十一年一〇三、十二年一〇六、十三年一一四、十四年一三〇トナリ逐年累進シ、以テ預金ニ於ケルト著シク異ナレルヲ示セリ。

總額ノ內普通銀行ニ屬スルモノ九割五分八厘、特殊銀行三分九厘、貯蓄銀行三厘ニ該當シ更ニ貸付ノ種類ヨリ見レハ、コールロン半數以上ヲ占メ、當座貸越、手形貸、其ノ他貸、證書貸ノ順ニ位ス。

年末ニ於ケル現在貸付高ハ十二億五千二百六十四萬七千五百八十九圓ニシテ前年末ニ比シ一億六千九十一萬三千六十圓（一割四分七厘）ヲ增加ス、コレヲ銀行種類別トスレハ普通銀行八割八分、特殊銀行一割八厘貯蓄銀行一分二厘ニ該ル。更ニ種類別トスレハ手形貸最モ多ク半數以上ヲ占メ、以下證書貸、當座貸越、コールロン、其ノ他貸ノ順トナリ前述貸付總額ニ於ケル割合ト甚シキ差異アリ。

以上ノ外本年中ニ於ケル割引手形三十三億五千百六十六萬二千八百二十四圓、之レカ年末現在四億五千九百四十萬千二百五十三圓アリ、前年ニ比シ總額減少セルモ年末現在高ハ大ナル增加ヲ示ス。

今最近數年間ノ年末現在ニ於ケル預金高ト貸付高（割引手形ヲ含メテ）トヲ對照比較スレハ、大正九年預金一、四〇一、九二二（單位千圓）貸付一、五二二、六二七、十年預金一、六〇九、二〇〇、貸付一、五〇八、八二九、十一年預金一、五七三、三三一、貸付一、五五八、六二〇、十二年預金一、四六五、九三五、貸付一、五二三、七二三、十三年預金一、五六二、五五九、貸付一、四九〇、一四三、十四年預金一、六〇三、〇三九　貸付一、七一二、〇四九トナリ、即チ揭出ノ如ク大正九年、十二年、十四年ハ何レモ預金ヲ超過スルノ膨大ナル貸付額ヲ顯ハセリ。

特殊銀行

七行アリ、本店ハ農工銀行ノミトシ他ノ六行ハ皆支店ナリ、各銀行ニ於ケル預金總額ハ百五十六億三千六百三萬六千二百七十四圓ニシテ各行概ネ前年ヨリ增加シ、內殆ント九割ハ日本銀行支店ニ屬ス。

貸付金總額七億三千六百六十二萬六千四百七十七圓ニシテ內、橫濱正金銀行、朝鮮銀行等多キモ、尙前年ニ比スレハ各行中ニハ減少セルモノ多シ。

普通銀行

本店數四十五、前年ヨリ一少ク、ソノ組織別ハ株式四十、合資三、個人二ナリ。四十五本店ニ屬スル管內所在ノ支店數ハ百五十八、前年ヨリ十四ヲ增シ、全部株式ノモノニシテ合資、個人組織ニハ無シ而シテ之ニ屬スル出張所、派出所ヲ合シテ百十九ケ所アリ。更ニ管外ニ本店ヲ有スルモノヽ管內支店數ハ九十、之ニ屬スル出張所、派出所二十九アリ。

四十五銀行ノ資本金ハ三億二百八十六萬六千圓ニシテ前年ニ比シ十五萬圓ヲ增加シ、其ノ內拂込額ハ二億千二百三十六萬九千五百圓前年ニ比シ百七十四萬五千二百五十圓多ク、公稱資本額ノ七割一厘ニ割合ス。

預金總高二百三十億二千三百九十八萬八千二百十九圓ヲ前年ニ比スレハ二十一億六千四百二十七萬八千九百圓ヲ增加セリ

貸付總額百八十三億千百五十四萬六千七百九十二圓ニシテ、前年ニ比シ二十七億五百十六萬四千七百五圓ノ大增加ヲ示セリ。

貯蓄銀行

本店數九、前年ヨリ一ヲ減シ之ニ屬スル支店數四十二、其ノ他出張所等二アリ、管外ニ本店アルモノヽ、支店數ハ十四ケ所、是ニ屬スル出張所等ハ九ナリ。

本店九行ノ公稱資本ハ九百萬圓、前年ニ比シ一行減シタル結果二十萬圓ヲ減セリ、ソノ內拂込額ハ四百三十八萬七千五百圓ニシテ即チ公稱資本ノ四割八分八厘ニ當リ、前年ニ比シ十四萬圓ヲ減シタリ。

積立金ハ四百六十六萬二千五百五十一圓トナリ、前年ニ比シ六十七萬二千百四十一圓ヲ增加ス。

預金總額二億千二百九十六萬九百七十三圓ニシテ前年ニ比シ三千二百五十四萬五千二百六十圓ノ增加ヲ示シ、貸付金ハ五千五百五十六萬四千四百八十二圓ニシテ前年ニ比シ五百七十五萬八千二百二十八圓ノ減少ヲ示セリ。

貯蓄預金職業別

預金總額一億二千四百九十八萬三百二十五圓ヲ職業別トスレハ、農業三百十三萬三百七十三圓（二分

五厘）商業四千七百四十萬四千一圓（三割七分九厘）、工業千百七十二萬五千九百六圓（九分四厘）、雜業六千二百七十二萬四十五圓（五割二厘）ニ該リ雜業最モ多ク農業最寡ナリ、之ヲ前年ニ比スレハ農業雜業ノ割合增加シ、商業、工業ノ割合減少セリ。

預金者人員ハ百四十三萬八千五百七十九人、前年ニ比シ、十萬七千八百五十人ヲ增加ス、職業別人員ハ農業五萬七千三百五十六人（四分）、商業四十五萬七千十三人（三割一分八厘）、工業十五萬八千三百人（一割一分）、雜業七十六萬五千九百十人（五割三分二厘）ニ當リ、雜業最多、農業最寡ニシテ前年ノ割合ニ對比スレハ農業、雜業ノ割合增シ、商業、工業ハ減少セリ。

平均一人當リ貯蓄金額ハ八六•八八圓トナリ、前年ノ八六•九五圓ニ比スレハ少シク低下セリ。職業別平均額ハ商業一〇三•七二圓ヲ示シテ最モ多ク、雜業八一•八九圓、工業七四•〇七圓、農業五四•五八圓ニシテ農業最低ナリ、之レヲ前年ニ比スレハ農業、商業ノ增加割合高ク、雜業又少シク高マリタルモ獨リ工業ハ七•三六圓方ヲ低下セリ。是亦社會相ノ一面ヲ窺フニ足ルヘキ乎。

尙貯蓄預金最近十ケ年間ニ於ケル平均額增減ノ狀況ヲ見ルニ、大正五年二四•〇三圓、六年二九•一七圓七年三五•〇三圓、八年二六〇•五四圓、九年三六•二八圓、十年三七•〇〇圓、十一年三九•七二圓、十二年八三•六九圓十三年八六•九五圓、十四年八六•八八圓ニシテ八年著シク高ク、十二年以降亦高シ。

銀行爲替

內國爲替　內國送金爲替ハ八十九億六千六百十八萬八千九百十四圓ヲ算シ、內各地ヘ向ケタル分四十億八千四百一萬七千五百六圓（四割五分五厘）、各地ヨリ受ケタル分四十八億八千二百十七萬千四百八圓（五割四分五厘）ニ當ル、之ヲ前年ニ比スレハ前者ハ三億一千九百六十八萬五千六百十六圓（八分五厘）ヲ、後者ハ五億三千七百六十三萬七千五百八十七圓（一割二分四厘）ヲ增加ス。以上ノ內各地ヘ向ケタル分ヲ更ニ分類スレハ普通爲替十四億八千四百三十一萬千九百六十五圓（三割六分三厘）、電信爲替二十六億三千九百二十七萬千七百四十一圓（六割三分七厘）ニ該當ス。更ニ銀行種類別トスレハ普通銀行二十二億八千八百八十八萬六千七百四十六圓（五割六分）、特殊銀行十七億九千五百十三萬七百六十圓（四割四分）ニ當ル。

次ニ各地ヨリ受ケタル分ヲ區別スレハ普通爲替ニ十二億四千二百八十九萬九千六百六十七圓（四割五分七厘、電信二十六億三千九百二十七萬千七百四十一圓（五割四分三厘）ニ當ル。更ニ銀行種別トスレハ普通銀行二十七億八千六百四萬五千七百六十圓（五割七分一厘）、特殊銀行二十億九千六百十二萬五千六百四十八圓（四割二分九厘）ニ該當ス。

代金取立爲替ハ五十七億八千五百五十四萬九千一圓ニシテ、內各地ヘ向ケタル分二十五億六千四百二十九萬二千三百四十七圓（四割四分三厘）、各地ヨリ受ケタル分三十二億二千百二十五萬六千六百五十四圓（五割五分七厘）ナリ、前年ニ比スレハ前者ハ四千十二萬千七百六十一圓（一分六厘）ヲ、後者ハ五億八百六十五萬七千百四十九圓（一割一分九厘）ヲ夫々增ス。更ニ銀行種別トスレハ各地ヘ向ケタル分ハ普通銀行二十四億九千百四萬六千四百九十三圓（九割七分三厘）、特殊銀行六千九百二十萬五千八百五十四圓（二分七厘）ニ當リ、各地ヨリ受ケタル分ハ普通銀行三十一億三百三十六萬六十五圓（九割六分三厘）、特殊銀行一億一千七百八十九萬六千五百八十九圓（三分七厘）ニ該レリ。

外國爲替

外國爲替ハ八億三千六百二十四萬五千三百三十七圓ヲ算セリ、內各地ヘ向ケタル分五億二百六十九萬九千七百八十四圓（六割一厘）、各地ヨリ受ケタル分三億三千三百五十四萬五千五百五十三圓三割九分九厘）ニ當ル、之ヲ前年ニ比スレハ前者ハ二億六千二百三十萬八千三百四十圓）十割九分一厘）ナル著增ヲ示シ、後者亦六千五百四十三萬八千二十五圓（二割四分四厘）ヲ增加セリ。而シテ各地ヘ向ケタル分ヲ更ニ區別スレハ普通爲替三億二千三百八萬七千百九十三圓（六割四分三厘）、電信爲替一億七千九百六十一萬二千五百九十一圓（三割五分七厘）ニ割合ス。銀行別トスレハ普通銀行四億、九百四萬六千七百六十四圓（八割一分四厘）、特殊銀行九千三百六十五萬三千二十圓（一割八分六厘）ナリ。次ニ各地ヨリ受ケタル分ヲ區別スレハ普通爲替五千九百二十萬千二百三圓（一割七分七厘）、電信爲替二億七千四百三十四萬四千三百五十圓（八割二分三厘）、銀行別トスレハ普通銀行二億一千七萬六千四百八十四圓（六割三分）、特殊銀行一億二千三百四十七萬九千六十九圓（三割七分）ニ該當ス。

貿爲替總額ハ十三億九千二百八十八萬八千九百六十三圓ニシテ、內各地ヘ向ケタル分五億二千二百十五萬三千二百三十七圓（三割七分五厘）、各地ヨリ受ケタル分八億七千七十三萬五千七百二十六圓（六割二分五厘）ニ當リ、前年ニ比スレハ前者ハ一億一千五百九萬三千二百六十三圓（二割八分三厘）ヲ後者ハ一億八千四十九萬五千八百圓（二割六分一厘）ヲ更ニ區分スレハ普通爲替三億九千六百八十三萬八千二百五十圓（七割六分）、電信爲替一億二千五百三十一萬四千九百八十七圓（二割四分）、銀行別トスレハ普通銀行一億七千九百六十三萬二千二百二十七圓（三割四分四厘）特殊銀行三億四千二百五十二萬一千十圓（六割五分六厘）ニ當ル。次ニ各地ヨリ受ケタル分ヲ區別スレハ普通爲替七億九千四百十二萬六千二百九圓（九割一分二厘）、電信爲替七千六百六十萬九千五百十七圓（八分八厘）、之レヲ銀行別トスレハ普通銀行一億八千二百三十五萬九千九百四十一圓（二割九厘）特殊銀行六億八千八百三十七萬五千七百八十五圓七割九分一厘ニ當レリ。

日本銀行大阪支店預金及貸出高

本年中ノ預金總額ハ百三十八億五千八百七十六萬四千四百十九圓ヲ算シ、年末ニ於ケル現在高ハ九百五十一萬八千三百二圓ナリトス。今各月末ニ於ケル預金高ヲ見ルニ二月末ニ少ナク三月末ハ比較的多ク六月末ニ至リテ一躍增加シテ（千三百三十四萬三千百三十七圓）本年中ノ最高ヲ示シ、九月ニ入リテハ最低ノ百六十六萬九千六百九圓）トナリ、十二月末即チ年末ニ於テハ再ヒ增加ヲ示セリ。

貸出高中當座貸付ハ千四百十九萬二千六百三十圓ニシテ、年末現在ニハ皆無ナリ、各月末ノ現在高ハ三月ノ二十四萬六千九百九十三圓最モ多ク、次ニ割引手形ハ貸出ノ大部分ヲ占メ、本年中ノ總額七億四千七百三十萬九千九百七十七圓ヲ算シ、帳尻ニ表ハレタル年末現在高ハ六千八百八十六萬千七百三十三圓ナリ、今各月末ノ帳尻ヲ見ルニ八月末ニ於テハ本年中ノ最高貸出高ヲ示シ（九千百五十二萬八百八十二圓）、五月末ノ三千五百二十一萬百五十九圓ハ年中ノ最低ナリ。

手形交換

手形交換所組合銀行ハ三十九行、前年ニ比シ四行ヲ減ス、交換日數二百九十八日、前年ニ比シ三日尠シ。

交換枚數ハ九百六十一萬九千百八枚、前年ニ比シ三十二萬千五百九十枚（三分五厘）ヲ增加セリ、各月中最モ多カリシハ十二月ノ百四萬九千二百三十八枚、續イテ六月、十一月等多ク、一月ノ六十九萬千九百六十枚最寡ナルモ一日平均ノ枚數ヲ算出スレハ十二月最高、十一月之ニ亞キ、八月最低ナリ。

交換シタル金額二百七十五億七千七百七十六萬六百四十六圓、前年ニ較ヘ六億九千七百三十五萬八千八十二圓（二分六厘）ノ增加ニ當レリ、月別ニ見タル多少ノ割合ハ十二月ノ二十八億九千百二十三萬九千九百六十九圓ヲ最多トシ、六月、四月、七月ノ順ニ多ク、一月ノ十九億五千九百六十一萬七千五百四十八圓最寡ナリ。

本年中ノ午後交換枚數ハ二百八十五萬七千二百七十九枚金額二十五億九千八百六十八萬二千二百十四圓ニシテ、前記午前交換高ニ對比スレハ其ノ百分率ハ枚數29.7、金額9.4ニ當ル、之レヲ月別ニ見レハ枚數ニ在テハ九月ノ31.9最高、一月ノ 23.2 最低金額ニ在リテハ十一月ノ10.4最高、四月、六月ノ8.6最低ナリトス。

本年中手形交換一日平均ノ枚數ハ三萬二千二百七十九枚、金額九千二百五十四萬二千八百二十一圓ニシテ枚數金額トモ前年ヨリ著シク增加セリ、而シテ手形一枚ノ平均金額ハ二千八百六十七圓ニ相當シ前年ヨリ少シク低下シ、尙大正七年乃至十年頃ニ比シテモ大ナル低下ヲ示セリ。更ニ本年中ノ最大最小交換ヲ檢スレハ最大交換ハ一月六日ノ二十萬九千三百八十二枚、四月一日ノ一億六千四百八十萬七千三百九十七圓ニシテ前年ノソレヨリモ枚數、金額トモ少ナク而シテ最小交換ハ七月二十三日ノ一萬一千九百六十枚、八月十九日ノ五千九百七十萬二千三十八圓ニシテ前年ニ比シ枚數、金額共ニ多シ。

不渡手形

本年中ノ不渡手形枚數五百五十八枚、前年ニ比シ八十二枚ヲ增シ、金額五十五萬九千百六十一圓ニシテ前年ニ比シ七萬六千七百五十九圓ヲ增加セリ。

不渡一枚ニ對スル交換手形ノ比例ハ一萬七千二百三十八枚ニシテ前年ヨリハ減少シ、金額ノ不渡一圓ニ對スル比例ハ四萬九千三百二十圓トシ之亦減少セリ。

尙最近十ケ年間ニ於ケル不渡多少ノ概況ヲ見ルニ枚數ニ在リテハ大正十一年ニ最モ多ク、七年ニ最モ少シ。金額ニ在リテハ九年最モ多クシテ六年ニ最少ナルコトヲ知ル。

不渡手形ヲ手形ノ種類ニヨリ見ルニ、爲替手形、枚數三百二十二枚、金額三十六萬九千百五十圓ニテ最モ多ク、小切手百五十八枚、十一萬六千百十九圓、約束手形六十八枚、七萬三千八百九十二圓ナリトス。

各月中不渡ノ最モ多カリシハ七月ノ六十一枚、五月ノ八萬四百四十二圓、少カリシハ一月ノ二十九枚同月ノ二萬二千四百七十七圓ナリトス。

第一二　貯蓄及保險

郵便貯金

大正十四年中ニ於ケル管內郵便貯金ノ預入高ハ四百五十七萬四千六百四十一度、此ノ金額五千六百三十九萬七千七百二十八圓ナリ、前年ニ比スレハ度數ハ實ニ二割二分六厘（八十四萬三千二百九十七度）

ヲ增シタルニ、金額ハ九分一厘（五百六十六萬四千四百二十八圓）減シ、而シテ最近五ケ年間ノ傾向ハ度數ニ於テハ大正十年ヨリ十一年、十二年ト漸次增シ十三年ニハ少シク減シテ十四年著シク增ス、即チ概シテ增加ノ勢アリト云フヲ得ヘキモ、金額ニ在リテハ十一年ヲ頂點トシテ以降明ニ遞減シツヽアリ。コノ原因ヲ强イテ探求スレハ度數ノ增加ハ郵便貯金思想ノ普及ニヨルモノト見ルコトヲ得ヘク金額ノ減少ニ就テハ深刻ナル不景氣ノ反影ト見ルコトヲ得ン、預入高各月中最モ多カリシハ度數八月ノ五十五萬六千二十度、金額一月ノ五百六十二萬二千六百七十三圓トシ、十二月ノ度數四月ノ金額之ニ亞キ他ノ各月ハ度數三十萬臺、金額四百萬圓臺ヲ出テス

本年中ノ拂戻高ハ百五十七萬五千三百八十六度、金額五千九百三十八萬千二百七十一圓ナリ、前年ニ比スレハ度數二分二厘（三萬四千百七十七度）ヲ增シ金額五分三厘（三百二十九萬三千二百二十四圓）ヲ減ス、最近五ケ年間ニ於ケル趨勢ハ度數遞增、金額十二年迄ハ漸次多ク、以降遞減セリ。拂戻高各月中度數五月ノ十四萬三千四百六十五度、金額十二月ノ五百九十七萬二十六圓ヲ最高トス

平均一度ノ預入高ハ十二圓三十三錢、前年ヨリ著シク低下シ最近五ケ年ノ最低ヲ示セリ、而シテ拂戻高平均額ハ三十七圓六十九錢、之又前年ヨリ減少シ、最近中ノ最低ヲ示セリ、之レヲ前記預入高ニ比スレハ大差アリ即チ預入ハ少額ニシテ徐々ニ、拂戻ハ多額ニシテ一擧ニ行ハルヲ常トス。

貯金職業別

大正十三年度貯金（大正十四年度分ハ調査未了）ヲ職業別トスレハ人員總數百五十六萬四千三百四十二人ノ內、農業最モ多ク28.4%（四十四萬四千二百七十三人）ヲ占メ、學生19.5%、商業11.3%、職業不詳10.0%、勞働者7.5%、無職業5.9%、工業5.9%、官吏軍人5.4%、雜業3.3%、漁業狩獵業1.5%ニ割合シ、團体最モ少クシテ1.3%（二萬三百三十七人）ナリ、前年ニ比シ農業、學生、官吏軍人等ノ增加著シク職業不詳、商業、工業等前年ヨリ減少セリ。

貯金額七千三百七十一萬四千四百七十三圓ノ內最モ多キハ農業ノ28.5%（二千百萬八千六百二十五圓）ニシテ商業15.7%、職業不詳11.0%、無職業8.2%、學生6.9%、工業6.3%、官吏軍人5.8%、勞働者5.6%、雜業5.4%、團体4.2%、トナリ、漁業狩獵業ハ最少ノ2.4%（百七十六萬九千百四十七圓）トス、之レヲ前年ニ比スレハ人員同樣農業、學生、官吏軍人ノ增加多ク職業不詳、商業、工業等ノ減少大ナリ。

平均一人當リ金高ヲ算出スレハ團体一五二•二三圓ノ最高ナルハ勿論トシ、雜業七七•一一圓、漁業狩獵業七五•四〇圓、無職業六五•四九圓、商業六五•四七圓、職業不詳五一•八三圓、官吏軍人五〇•六一圓、工業五〇•三五圓、農業四七•五四圓、勞働者三五•一八圓、等ニ割合シ、學生最モ少ク一六•六七圓ナルハ之又當然ノコトナルヘシ、之レヲ前年ニ比スルトキハ其ノ多寡ノ順位ハ大ナル異動ヲ見ス而シテ工業、勞働者、官吏軍人、職業不詳等ハ何レモ平均額ヲ增加セリ。

貯金現在高

大正十四年度末ニ於ケル郵便貯金現在高ハ人員百六十二萬四千五百八十八人、金額七千五百三萬六千九百二十八圓ニシテ前年度末現在高ニ比較スレハ人員四萬八千二百三人（三分一厘）ヲ、金額四十九萬九千七百八十五圓（七厘）ヲ增加セリ。

之レヲ郡市別ニ分ツレハ先ツ人員ニ在リテハ大阪市最モ多ク七割四分二厘ヲ占メ、以下堺市、北河內

郡、泉北郡、三島郡、泉南郡、中河內郡、南河內郡、豐能郡、岸和田市等ノ順トシ、金額ニ在リテハ大阪市最モ多ク七割九厘ヲ占メ、以下北河內郡、堺市、中河內郡、泉北郡、三島郡、泉南郡、南河內郡、豐能郡、岸和田市等ノ順ナリトス。

今平均一人ノ貯金額ヲ算出スレハ北河內最モ高ク七〇•七二圓ヲ算シ、堺之ニ次キ以下中河內、大阪泉北、三島、泉南、南河內、豐能、岸和田（二六•三九圓）等ノ順ヲナセリ。

貯金額對人口ノ割合ヲ見ルニ、人員ニ在リテハ總人口千ニ付五三一人ニ當リ之ヲ郡市別トスレハ大阪五七〇人、北河內五二〇人、堺五〇七人、岸和田四六八人、三島四一三人、豐能三四一人、泉北三二一人、南河內三〇〇人、泉南二四六人、中河內二三八人等ニ割合スルモ、金額ニ在リテハ現住人口一人當リ二四•五三圓ヲ示シ郡市別ニ見レハ北河內三六•七七圓、堺三一•〇六圓、大阪二五•一五圓、三島一五•七九圓、泉北一二•九一圓、岸和田一二•三七圓、中河內一二•二五圓、南河內八•五九圓、泉南七•三九圓ニ當リテ人員ニ於ケル順位ヲ異ニス以上ノ如ク北河內ハ最モ郵便貯金ノ成績良好ト云フヘク、堺、大阪又比較的多シ、而シテ豐能、南河內、中河內等ハ振ハス。

保　　險

生命保險四十二、火災保險四十一、機關汽罐保險一、傷害保險一アリ前年ニ比シ生命保險一ヲ增ス、以下各種ニ就キ概說スレハ

生　命　保　險

大正十四年中ニ於ケル新契約ハ契約人員件數ヲ合シテ六萬三千八百七十、此ノ金額一億一千二百六十三萬三千二百八十七圓ヲ算ス、前年ノ事實ニ比スレハ人員九千八百五十二（一割八分二厘）、金額千百八十萬九千四百十八圓（一割一分七厘）ヲ增加セリ、之レヲ更ニ分類スレハ人員件數ニ在リテハ死亡保險三萬三千五百七十九、生存二萬三千九百六十四、養老六千三百二十一、終身六トシ、金額ニ在リテハ死亡六千三百四十五萬八千九百四十七圓、生存二千七百八十六萬八千九百七十五圓、養老二千百二十九萬六千九百六十五圓、終身八千四百圓トス。

本年中被保險者ノ死亡シタルモノハ人員三千四百二十五人、金額四百三十三萬千五百四十八圓ニシテ前年ヨリ人員三百七十三（一割二分二厘）、金額五十一萬七千二百七十七圓（一割三分六厘）ヲ增シタリ。

保險期限ノ滿了シタルモノ、人員千九百四十六人、金額百二十七萬五千四百八十九圓ニシテ、前年ニ比スレハ人員ハ六十二（三分三厘）、金額ハ九萬二千三百二十九圓（七分八厘）多シ。

以上二項ノ外ノ事由ニヨリ保險ノ消滅シタルモノハ本年中ニ人員二萬九千七十五、金額四千八百九十四萬八千六百三十圓ニシテ前年ニ比スレハ人員一萬二千四百六十三（七割五分）、金額千七百九十四萬二千二百九十圓（五割七分九厘）ナル著シキ增加ヲ示ス。

年末現在人員ハ二十八萬九千五百三十四、金額四億四千八百二十八萬九千百三十七圓ヲ算シ之レハ前年ニ比スレハ人員三萬九千百三十九（一割五分六厘）、金額六千八百二十一萬四千七十八圓（一割八分三厘）ヲ增加セリ、之レヲ種類ニヨリ分テハ死亡保險最モ多ク、人員二十二萬二千六百六十一、金額三億二千四百五十三萬二千八百八十八圓ニシテ、養老ハ人員三萬五千六百三十五、金額九千百三十六萬六千四十五圓、生存ハ人員三萬一千百九十、金額三千二百三十三萬二千五十四圓、終身ハ人員四十

八、金額五萬八千百五十圓ナリトス。

保險一人ニ對スル金額ハ千五百四十八圓ニ當リ、前年ニ比シ三十四圓ヲ向上セリ、更ニ本府人口ニ對スル保險割合ヲ見レハ總人口千ニ付九十四人ニ當リ前年ニ比シ八人ヲ增シ、尙人口一人當リ保險金ハ百四十七圓トナリ之又前年ヨリ二十三圓ヲ增セリ、即チ保險ハ年々發達シツヽアリ。

火　災　保　險

大正十四年中ニ於ケル新契約ハ動產保險件數五十萬二百五十五件、金額二十六億一千六百五十七萬六千五百七十二圓、不動產件數、二十一萬四千七十六件、金額十億四千二百七十八萬三千三百六十二圓ヲ算ス、前年ニ比シ件數五萬一千九百十九件、金額八千三百三十五萬千九百八十九圓ヲ減少ス。

本年中ニ收入セル保險料ハ八百九十七萬四千二百七十七圓ニシテ前年ニ比シ三十九萬七千五百四十五圓ヲ增シ、支拂ヒタル保險料ハ件數四千四百二十五、金額二百二十六萬二百十八圓トシ之レヲ前年ニ比スレハ件數千八十七件ヲ增シ、金額八十八萬六千九百十七圓ヲ減少ス、更ニ保險金ノ外契約ニヨリ支拂ヒタル件數六萬五千三百十件、九十一萬九千八百三十四圓アリテ前年ヨリ件數金額トモ夫々增加セリ。

年末現在ニ於ケル火災保險ハ動產件數三十萬九千八百三十七件、金額十億三千四百八十七萬九千二百五十五圓、不動產件數二十一萬千三百六十七件、金額八億六千九百九萬二千四百三十九圓ヲ算シ、前年ニ比シ件數二萬一千四百四十六件ヲ增セルモ金額一億三千萬六千九百六十二圓ヲ減少セリ。

機關、汽罐保險

本年中ノ新契約ハ汽罐保險ノミトシ、件數二百四件金額百三十萬五百圓、前年ニ比シ件數ハ少シク增セルモ金額ハ減少セリ、收入シタル金額ハ二萬一千十六圓前年ヨリ少シク增加シ、支拂ヒタル保險料ハ皆無ニシテ保險金ノ外契約ニヨリ支拂ヒタルモノ件數六件、此金五百十一圓ナリ年末ニ於ケル件數ハ二百四件、金額百三十萬五百圓ナリトス。

傷　害　保　險

新契約件數五百九件、前年ヨリ少シク增シ、金額百七十六萬九千九百圓、前年ヨリ減少ス、件數ノ內普通傷害保險四百六十一、旅行二、切符四十六、ニシテ金額ノ內普通百七十六萬九千九百圓、旅行二萬圓、切符四萬六千圓ナリトス

保險金額支拂ノ事由ヲ發生シタル契約件數六十二件、金額二十一萬五千九百六十五圓アリテ皆普通保險トシ、其ノ他事由ニヨリ消滅シタル契約五百三十二件、二百三萬二千五百圓アリ內、件數ハ普通四百八十三件、旅行三件、切符四十六件トシ、金額ハ普通百九十五萬六千五百圓、旅行三萬圓、切符四萬六千圓ナリトス。

年末現在ニ於ケル件數ハ四百三十一件前年ヨリ二十三件ヲ減シ、內普通四百三十件、旅行僅カニ一件ナリ、金額ハ百三十五萬九千七百圓ニシテ前年ヨリ十九萬千六百圓ヲ減シ、內普通大部分ナル百五十二萬九千七百圓ヲ占メ旅行一萬圓アルノミ、

第一三　交　　通

道　　路

近時交通ノ頻繁其ノ度ヲ加ヘ人馬ノ往來駢又貨物ノ運搬等漸次複雜ヲ極ムルニ從ヒ道路ノ新築改築、並ニ修繕等ノ完備ヲ促サレ道路網愈々綿密トナレリ。殊ニ大阪市ニ在リテハ市區擴張ノ事由トシテ道路事業ノ大革新ノ傾向ヲ示セリ。今國道府道里道ニ分チ其概況ヲ示セハ、

國　　道　三線有リテ之カ總延長ハ二十六里二町二十二間、前年ニ比スレハ二十三町五十二間ヲ增加セリ。中山地ニ屬スルモノハ異動ナク二里十七町十一間內二十三里二十一町十一間ハ平地ニ屬ス。此ノ比平地九割五厘、山地九分五厘ニ該當ス。

府　　道　總數二百九十六線ニシテ其總延長三百七十一里三十五町五十一間、前年ニ比スレハ五里十六町四十六間ノ增加ナリ。中平地ニ屬スルモノ二百六十九里七町三十七間則チ七割二分四厘、山地ニ屬スルモノ百二里二十八町十四間則チ二割七分六厘ニ相當ス。之等道路ノ平均幅員ハ狹キハ三尺ヨリ廣キハ十間餘ニ亘ルモノアリテ一間乃至二間ノモノ半數以上ヲ占メ、二間乃至三間ノモノ三割以上ニシテ其他ハ僅少ナリ。

里　　道　總延長ハ二千二百三十八里七町五十七間ナリ、以上ノ內府費補助ノ規定アルモノ二百四里十八町九間、同規定ナキモノ二千三百三十三里二十六町四十八間ニシテ後者九割一分ニ當ル。

補助規定アルモノヽ內五十三里十四町五間ハ山地ニ百五十一里四町四間ハ平地ニ屬ス。此ノ比平地ハ七割三分九厘、山地二割六分一厘ニ相當ス。之ヲ更ニ幅員ノ廣狹ニ依リ區分スレハ幅員一間以上ノモノ七割二分二厘、一間未滿ノモノ僅カニ二割七分八厘ナリ。

同規定ナキモノヽ內平地ハ一千七百六十八里十一町五間、山地ハ二百六十五里十五町四十三間ナリ、則チ前者八割六分九厘、後者一割三分一厘ニ割合ス。尙之ヲ前同樣幅員ノ廣狹ニ依リ區別スレハ幅員一間以上ノモノ六割、一間未滿ノモノ四割ニ相當ヌ。之ヲ規定アルモノニ比スレハ幅員一間以上ノモノニシテ補助規定ナキモノ八割九分二厘、同規定アルモノ一割八厘、一間未滿ノモノ前者九割三分五厘、後者六分五厘ニ相當シ何レモ規定ナキモノ遙カニ高シ。然レ𪜈前記補助規定ナキモノヽ內大阪市ニ在リテハ新區擴張ノ爲現今實地調查中ニ付其ノ概況ヲ示シタルモノナリ。

橋　　梁

總數六千百六十三、前年ニ比スレハ五百三十、則チ八分四厘ノ增加ナリ。內國道ニ架セルモノ一分四厘、府道ニ架セルモノ一割九分三厘、里道ニ架セルモノ七割九分三厘ニ割合ス。

總數ヲ其橋質ニ依リ區別スレハ石橋39.45%、土橋及其他ノ混合橋34.14%、木橋22.31%、鐵橋4.10%ニ相當シ石橋最多ナリ。

社會ノ進步或ハ商工業ノ發展ヨリ來ル交通量ノ增加又ハ耐火、耐震、水害等ニ依ル橋梁破壞ノ豫防等ノ爲從來ノ土橋及木橋ノ如キ耐久力ニ乏シキモノヨリ石橋或ハ鐵橋ノ如キ堅牢ナルモノニ改築新設セラレアルハ明カナル所ナリ。今最近十ケ年間ニ於ケル橋梁總數ニ對スル鐵橋ノ割合ノ增減ヲ示セハ大正五年1.9%、六年2.0%、七年2.0%、八年2.4%、九年2.3%、十年2.1%、十一年2.4%、十二年2.9%十三年3.3%、十四年4.1%ニ該當シ、即チ年ニ依リテ一高一低スルヲ免レサルモ過去十ケ年ニ於テ二倍餘ノ增加ヲ示ス。

鐵　　道

本邦商工業ノ中心地タルノ影響ヲ受ケ本府ノ交通機關ハ愈々隆盛ヲ極ム。殊ニ鐵道網ハ本府ヲ中心トシテ各方面ニ走リ軌道モ亦同樣其手ヲ延シ何レモ管內ニ止マルモノナシ。則チ之カ營業者數ハ九ニシテ其線數二十七線ノ多キニ達ス。而シテ尙年ト共ニ發展ノ傾向ヲ示セリ。今之等各線ノ概況ヲ揭クレハ次ノ如シ。但シ軌道ニ在リテハ他府縣ニ跨リテ之ヲ明確ニ管內ノモノヲ劃遽シ能ハサルヲ以テ唯支線ニシテ起終點共管外屬スルモノヽミヲ除キタルモノヲ表ハセリ。

哩　　數　百六十三哩三ニシテ前年ニ比シ少シク增加セリ。

軌道哩數ハ百九十四哩七二ニシテ前年ユ比シ減セルハ前記支線ヲ除キタル事由ニ依ルモノニシテ同區域內ニ在リテハ前年ヨリ少シク發達シ、尙進展ノ傾向ヲ示セリ。

旅　　客　鐵道各線乘車人員ハ九千三百九十萬六千八百四十七人ナリ、前年ニ比スレハ五百八十五萬八百五十二ヲ增加ス。此ノ一日平均數ハ二十五萬七千二百七十九人ヲ算セリ。電氣鐵道乘車人員ハ四億八千五百九十七萬千百七十八人ナリ、前年ニ比シ千三百十八萬七百八十五人ヲ增加ス。此ノ一日平均數ハ百三十三萬千四百二十八人ニ相當ス。

最近ニ於ケル鐵道並ニ電氣鐵道乘車人員ノ增加狀態ヲ示サンカ爲大正五年ノ一日平均乘車人員數ヲ百トシ十年間ノ比ヲ示セハ六年125、七年150、八年183、九年186、十年199、十一年218、十二年235、十三年242、十四年251トナリ即チ十箇年間ニ二倍半ノ激增ヲ示セリ。

乘客取扱收入總額六千六百七十萬三千二百四十三圓ヲ前年ニ比スレハ三十二萬九千七百四十九圓ヲ增收セリ、之カ一日平均收入額ハ十八萬二千七百四十九圓ノ多額ニ達ス。

貨　　物　鐵道各線小手荷物發送高ハ九萬九千八百六十九噸ニシテ前年ニ比シ約一萬一千噸ヲ減少セリ。

貨物發送高ハ四百三十五萬九千四百九十一噸ナリ、前年ニ比スレハ二萬四千百三十九噸ヲ增加ス。

電氣鐵道運輸貨物ハ二十一萬二千八百九十三噸並ニ一萬四千三百二十六箇ヲ算ス、前年ニ比スレハ約一萬五千噸ヲ增シ、三千八百餘箇ヲ減少セリ。以上貨物運輸收入總額ハ一千六百十三萬七千五十五圓ニシテ前年ニ比シ十二萬二千六百六十一圓ノ增收ナリ、之カ一日平均收入額ハ四萬四千二百十一圓ニ達セリ

電氣鐵道車輛　總數千五百五十八輛ヲ前年ニ比スレハ百十八輛ヲ增加ス。之ヲ五ケ年前ノ大正十五年ヨリ見レハ四百八輛ヲ增加ス。總數ノ內譯ハ客車千四百三十六、貨車九十、撒水車三十二ニシテ此ノ割合客車92.17%、貨車5.78%、撒水車2.05%ニ相當ス。

客車中更ニ分類セハボギー車66.43%、普通車33.57%ニ相當ス、之ヲ既往ニ比スルニボギー車ノ割合漸次增加ノ傾向ナリ。惟ニ之運輸量ノ增加ヲ計ルト共ニ乘客ノ被害ヲ減少セシメムトスルノ大計ナリ、平均一日使用車輛數ハ九百四十一輛ニシテ全車輛ノ六割五分五厘ニ該當ス。

電氣鐵道事故　運轉上ノ事故度數九百八十五ニシテ前年ニ比シ多大ノ增加ヲ示ス。總度ヲ事故別ニ列記セハ衝突2.74%、脫線27.72%、停電25.28%、斷線1.62%、人爲被害9.14%、其他33.50%ニシテ其他最モ多ク脫線之ニ亞ク。線路上ノ事故ハ二千四百五十二ニシテ前年ニ比シ三百八十三ヲ減ス。最近

ニ於テ事項最多ヲ示シタル大正十一年度ニ比シ一割七分二厘ヲ減少セルハ洵ニ好傾向ト云フヘク、總數ノ内死亡セシモノ百三十一人、負傷セシ者二千三百二十一人ニ當リ即チ總數中死亡者五分三厘ニ相當ス。

而シテ本年度ノ運轉上ノ事故斯クモ激增セルハ洵ニ遺憾トスル現象ナルモ、一面線路上ノ事故ノ死亡者並負傷者ノ漸次減少ノ氣運ニ向ヘルハ之レ一般人ノ注意並ニ交通宣傳ノ効果大ナルニ依存スルモノナルヘク、喜フヘキ傾向ナリトス。

諸　車

近時交通機關ノ發達ニ伴ヒ人力車ノ如キ遲鈍ナルモノハ漸次衰退シ、自動車等ノ敏速ナルモノヲ利用スル事愈々增大スルニ至レリ、今此處ニ其概況ヲ述フレハ、

諸車總數ハ三十九萬六千八臺ナリ。中種類別ニ比ヲ示セハ自轉車最大ニシテ65.25%、荷車29.00%、牛車2.81%、馬車1.81%、人力車1.19%、自動車0.61%ニ相當ス。之等諸車中二、三ノ盛衰ヲ示セハ自動車二千四百三十六臺中乘用千七百九十五臺、荷積用六百四十一臺即チ乘用七割三分七厘ヲ占ム。今大正十年度ノ自動車ヲ百トシ其後ノ狀況ヲ見ルニ十一年119、十二年157、十三年213、十四年272トナリ、其ノ發達ノ急激ナルコト喫驚ニ値ス。

自轉車二十五萬八千三百九十四臺中自動自轉車千五百四十三臺、普通車二十五萬六千八百五十一臺ニシテ普通車九割九分四厘ヲ占ム。大正十年度ヲ百トシ自轉車ノ增加率ヲ見ルニ十一年119、十二年135十三年201、十四年229ニ相當シ、殊ニ自動自轉車ノ發達ハ著シク五ケ年間ニ三倍ノ增加ヲ示セリ。

人力車四千六百八十六臺中一人乘四千六百七十四臺、二人乘十二臺ニシテ一人乘九割九分七厘ヲ占メ二人乘ハ漸ク其ノ影ヲ止ムルノミ、今大正十年ノ人力車數ヲ百トシテ示セハ、十一年91、十二年82、十三年73、十四年63ニ該當シ歲ト共ニ衰退ノ傾向交通運輸ニ關スル時代相ヲ如實ニ語レリ。

汽　船

船數四百一ヲ前年ニ比スレハ四十一、則チ九分三厘ノ減退ナリ。

總數ヲ噸數ノ大小ニ依リ分類セハ五噸以上二十噸未滿ノモノ12.84、百噸以上五百噸未滿14.76%、二十噸以上百噸未滿11.22%、千噸以上7.48%、五百噸以上千噸未滿ノモノ3.75%ニ該當ス。

之等ハ主トシテ大阪市ニ屬シ堺市ニ二、泉北郡、泉南郡各一アルノミナリ。

帆　船

帆船類數船々數三百六十六ニシテ前年ニ比シ二十七隻ノ減少ナリ。之ヲ噸數ノ大小ニ區別スレハ五噸以上二十噸未滿ノモノ61.48%、二十噸以上百噸未滿28.14%、百噸以上五百噸未滿10.11%、五百噸以上千噸未滿0.27%ニ相當ス。之ヲ郡市諸屬別ニスレハ大阪市大部分ヲ占メ堺市四十五、岸和田十三、泉南郡十一ノミニシテ他郡ニナシ。

帆船石數船々數二百三十六ヲ前年ニ比スレハ十一隻ヲ減少ス。之ヲ更ニ五ケ年前ノ大正十年ニ比スルニ百六十則チ四割餘ヲ減少ス。總數中五十石以上二百石未滿ノモノ九割八分七厘、二百石以上ノモノ僅カニ一分三厘ニ相當ス。而シテ其ノ所屬別ハ堺市32.20%、岸和田市34.32%、泉南郡19.49%、大阪市13.99%ニ相當シ他ニナシ。

小　船

動力ヲ有スルモノ二百九十九、動力ヲ有セサルモノ一萬六千四百十五ニシテ總數ノ九割八分二厘ヲ占ム、之ヲ前年ニ比スレハ動力ヲ有スルモノ二百九十四即チ四割九分六厘、動力ヲ有セサルモノ千五百七十七、則チ八分八厘等ヲ減少セリ。然レトモ動力ヲ有スルモノハ本年ヲ除ク外年々增加ノ傾向ニ在リ、動力ヲ有スルモノ二百九十九ヲ區別スレハ五噸又ハ五十石未滿ノ帆艙二分七厘、端舟九割七分、其他三厘ニ相當ス。

動力ヲ有セサルモノ一萬六千三百十五中五噸又ハ五十石未滿ノ帆船3.87%、端舟7.39%、其他ニ屬スルモノ88.74%ニ該當ス。郡市所屬別ノ狀況ハ大阪市第一位ニシテ北河内郡之ニ亞キ堺市、三島、泉北泉南、中河内、豊能、岸和田市ノ順位ニ在リ。

入港船舶數

總數十萬六百一ニシテ五千二百七十一隻即チ約五分前年ヨリ減少ス。更ニ五ケ年間ノ比ヲ表ハサンカ爲ニ大正十年ノ入港船舶數ヲ百トセハ十一年102、十二年106、十三年59、十四年54ニシテ十三年ヨリ衰退ノ氣運ニ向ヘリ。

總數ノ内大阪港ニ入ルモノ最大ニシテ八割三分五厘ヲ占メ岸和田之ニ次キ八分六厘、堺港七分九厘ニ相當ス。

汽船旅客

出船旅客五十九萬五百六十人、入船旅客六十八萬七百二十九人ナリ、此ノ比前者46.45%、後者53.55%ニ相當シ、入船旅客多シ、例年又同樣ナリ。

出船入船旅客大正十年ノ總數ヲ百トシ累年比較セハ十一年104、十二年120、十三年134、十四年142トナリ陸上交通ノ發展ト共ニ海上交通モ愈々發達セリ。

郵便局數

總數二百三十四ヲ前年ニ比スレハ三ノ增加ニシテ五ケ年前ノ大正十年ニ比較セハ二十四ケ所ノ增加ナリ。内一等局、二等ハ異動ナク三等局ノ集配局一ヲ增シ四十五、無集配局二ヲ增シ百六十九、特定局例年ニ同樣ニシテナシ。

郵便切手賣捌所數二千二百八十五、收入印紙ノミノ賣捌所十一、前年ニ比シ前者六十四ケ所、後者一ケ所各增加ス。郵便函數二千四百四十五ケ所、私書函三十六ケ所、前者三十九ケ所、後者九ヲ前年ヨリ增加ス。

通常郵便

引受郵便　總數四億五千三百九十三萬五千六百六十一通ニシテ前年ニ比シ六百五十三萬九千三十九通ヲ增加ス。之ヲ五ケ年前ノ大正十年度ニ比スレハ七千二十一萬八千四百三十二通即チ一割八分三厘ノ增加ニ當レリ。

總數ノ内普通郵便98.58%、書留1.39%、價格表記0.03%ニ該當ス、尚集金郵便八十一萬千四百二十八通アリ、之ヲ前年ニ比スレハ十九萬五千三百九十七通ヲ減少ス。

之カ内譯約束郵便最高ニシテ71.49%、市内特別郵便27.39%、配達證明0.65%代金引換0.24%、内容證明0.18%、別配達0.05%ニ該當ス。

配達郵便　配達セル郵便物ハ三億八千四十三萬千三百九十三通ニシテ前年ヨリ八百五十二萬千七百七十八通ノ增加ナリ、而シテ更ニ之ヲ五ケ年前ノ大正十年ニ比スレハ五千百五十一萬九千六十五通即チ一割五分七厘ノ增加ナリ。

以上ノ內普通郵便98.68%、書留郵便1.30%、價格表記0.02%ニ該當セリ。此ノ外集金郵便ニ屬スルモノ三十三萬百三通ノ內取立十四萬七千七百五件、取立不能十八萬二千三百九十八件ニシテ前年ニ比シ何レモ減少セリ。

以上ノ內特殊取扱ノモノヲ別記スレハ總數六百四十九萬六千百二十四通ノ內私書函渡98.49%、留置1.14%、代金引換0.37%ニ相當ス。

之ヲ引受郵便物ト比較セハ引受郵便物54.40%、配達郵便物45.60%ニ割合シ則チ府下ニ於ケル郵便物ハ發送スルモノ多ク例年ニ比スルモ同樣ナリ。

小包郵便　引受小包郵便物ハ六百六十五萬三千七百八十八個前年ニ比シ二十萬七千五百四十九個即チ三分三厘ノ增加ナリ、更ニ五ケ年前ナル大正十年ヨリ見レハ百六十二萬六千百十七個則チ三割二分三厘ヲ增加ス。

以上總數ヲ種類別ニ列記セハ普通48.26%、書留51.73%、價格表記0.01%ニ相當シ書留最モ多ク通常郵便物ニ在リテハ普通郵便ノ最高ナルニ比シ其趣ヲ異ニス。

配達小包郵便三百二十六萬六千三百三十九箇ヲ前年ニ比スレハ十三萬三千五百八十一箇則チ四分三厘ヲ增加シ、更ニ大正十年度ニ比スレハ二割六分三厘ノ激增ヲ示ス。

以上總數ヲ種類別ニスレハ普通56.85%、書留43.11%、價格表記0.04%ニ相當シ普通小包最多ナリ。之ヲ引受小包ト比較セハ引受小包六割七分一厘、配達小包三割二分九厘ニ該當シ通常郵便物ト同樣發送スルモノ多額ナリ。

電信取扱

局數百三十七ケ所、內一ケ所ハ無線電信局ナリ。內一等局二（但シ一ハ前記無線電信局）、二等局十九三等集配局四十、三等無集配局四十五、公衆電報取扱所三十一ケ所ニシテ前年ニ比スレハ三等無集配局一ケ所增加セシノミナリ。

發信電報通數六百四十七萬三十五通、中內國ニ係ルモノ九割五分三厘、外國ニ係ルモノ四分七厘ニ割合ス。

着信電報通數六百十萬一千四十二通、內國ニ係ルモノ九割四分七厘ヲ占メ外國ニ係ルモノ僅カニ五分三厘ナリ。更ニ發信、着信ノ比ヲ示セハ發信五割一分五厘、着信四割八分五厘ニ該當シ發信數多シ。發信、着信共ニ前年ヨリ少シク增加セリ。

電話取扱

交換局數四十六、同分局九、通話取扱局六十一ケ所ニシテ前年ニ比シ交換局三、通話取扱局一ヲ各々增加ス。更ニ大正十年度ニ比スレハ交換局十ケ所、同分局二ケ所ヲ增加シ通話取扱局一ヲ減少ス。

加入者六萬一千三百六十七人、加入申込者三萬七千七百八十二人、之ヲ前年ニ比スレハ前者七千百四十三人ヲ增加シ、後者五千六百六十九人ヲ減少ス。

加入者相互間通話數一億八千三百十二萬七千五百九十三ニシテ前年ヨリ三百三十六萬六千四百二十一ヲ減少ス。然レトモ五ケ年前ノ大正十年ヨリ見レハ一割一分六厘ノ增加ヲ表セリ。

第一四　土　功

土木費決算

大正十三年度土木費決算額ハ二千百八十九萬三千六十七圓ニシテ前年度ヲ超過スルコト四百六萬二千四百四十六圓ナリ。即チ大正十年度ヲ除キ年ト共ニ增加ヲ示シツヽアリ。總額ノ內通常土木費ハ二千百八十六萬七千三百八十六圓即チ九割九分八厘、災害土木費僅カニ二厘ニ該當ス。

總額ノ內市費ニ係ルモノ最多ニシテ85.18%ニ當リ、國庫補助金6.44%、府費5.51%、町村費1.70%、府費補助0.81%ニ割合シ、寄附金ナク協議費極メテ僅少ニシテ水利組合費ト合シテ0.36%ニ過キス。

通常土木費ヲ工事別ニ示セハ道路55.66%、上水道工事12.67%、港灣11.82%、下水道3.91%、河川4.40%、雜工事1.85%、用惡水工事1.40%、橋梁1.14%、渡船0.95%、吏員費0.75%、雜費0.36%ニ割合シ、共同物揚場工事ハ極メテ少額ナリ。道路工事、雜工事共異常ノ增額ヲ示シ渡船工事費モ增加シ他ハ大差ナシ。

災害員數並ニ損失價額

災害度數中水害三、暴風雨一ニシテ前年ニ同シ。被害地ハ二十箇村ニ亘リ前年ニ比シ少シク範圍ヲ增セリ。

河川損害中堤防切閧箇所三十七、此ノ延長九百六十九間、道路損害箇所六十九、延長一萬千百五間、橋梁損害十九ニシテ前年ニ比スレハ何レモ增加セリ。以上損失價額ハ十九萬八千六百四圓ニシテ前年ヨリ二十萬千七百五十六圓ノ減少ヲ示セリ。之カ內譯ハ水害ニ係ルモノ六割七分四厘ニシテ暴風雨ノ堺港ニ於ケル其他ノ諸損耗三割二分六厘ニ割合ス。之ヲ費途別ニセハ道路56.97%、河川16.56%、堺港14.67%、橋梁10.89%、港灣及海岸0.91%ニ該當セリ。

道路築造及修繕費

新築改築費千百十六萬一千五百三十九圓ヲ前年ニ比シ七百七十萬千二百八十五圓ヲ增加セリ。惟フニ是等ハ十二年度ヨリ計畫セル阪神國道並ニ大阪市都市計畫ニ依ル市街道路ノ改善ノ結果ニ依ルモノヽ如ク、之カ既往ニ於テ見ルモ年々其ノ增加ハ急ナリ。即チ大正十年ヨリ僅々五ケ年間ニ十八倍ノ激增ヲ示セルヲ見ル。

之カ費用ノ所屬別ヲ示セハ市町村費38.14%、國庫補助9.41%、府費補助1.27%、府費1.16%、水利組合費0.02%ニシテ即チ市町村費最多ナリ。更ニ道路ノ種類別ニ表セハ市道最モ多ク八割六分七厘、府道之ニ亞キ九分五厘、里道二分六厘、國道僅カニ一分二厘ニ割合ス。

修繕費總額百三十六萬六千五百十八圓ヲ前年ニ比スレハ二百十六萬千八百餘圓ヲ減少ス。之ヲ費途ノ所屬別ニ示セハ市町村費65.17%、府費33.58%、府費補助0.97%、水利組合費0.28%ニ該當ス。更ニ之ヲ道路別ニセハ市道最多ニシテ府縣道、里道相亞キ國道最少額ナリ。

橋梁架設並修繕

架設シタル橋梁ハ百十六ニシテ前年ニ比シ十六多シ。之カ種類別ハ鐵橋二十八、石橋六、木橋十、土橋及其他七十二ナリ、此ノ比ハ土橋及其他最多ニシテ62.07%、鐵橋24.14%、木橋8.62%、石橋5.17%ニ割合シ石橋最少數ナリ。

以上ノ橋梁架設費ハ七萬九千百八十五圓ナリ、前年ニ比シ大イニ減少セリ。之ヲ費途別ニスレハ府費

七割四分一厘、市町村費一割三分二厘、府費補助一割二分七厘ニシテ水利組合費、寄附金、協議等ハ皆無ナリ。

修繕橋梁數千四百三十七、之ヲ前年ニ比スレハ五百六十四ノ增加ナリ、築材ノ種類別ニスレハ鐵橋二百四十七、石橋六十九、木橋六百九十四、土橋及其他四百二十七ニシテ、此ノ比木橋48.30%、土橋及其他29.71%、鐵橋17.19%、石橋4.80%ニ該當ス、更ニ之ヲ所屬、道路別ニ區別スレハ國道ニ屬スルモノニ百十一、府道ニ屬スルモノ百五十五、里道ニ架セルモノ千二百四十一ナリ。

以上ノ修繕費總額十六萬七百八十二圓ヲ前年ニ比スレハ多大ナル減少ヲ示セリ。之カ費用支出ノ主体ハ市町村最高ニシテ九割二分六厘ヲ占メ、府費六分九厘、殘餘ハ府費補助ニシテ水利組合費、寄附金協議費等全然ナシ。

河川堤防築造及修繕

築造並ニ修繕シタル河川數五十三ニシテ之ニ要シタル費額築造費三十七萬六千六百四十一圓、修繕費十三萬五千八百三十九圓ナリ。之ヲ前年ニ比スレハ河川六ヲ減シ其ノ所要額モ亦七萬六千餘圓ノ減少ヲ示セリ。

築造費ハ主トシテ市費ニ屬シ前年ニ比シ二萬千餘圓ノ增額ナリ、修繕費ハ市費五割九分四厘、府費二割二分五厘、町村費八分九厘、殘餘ハ府費補助金ニ屬ス、即チ市費最高ナリ。

上　水　道

近時都市ノ隆盛日ニ加ハリ人口增加スルニ從ヒテ之ニ伴フ水道工事ハ愈々發達シ尙漸次擴張ノ趨勢ヲ示セリ。今其概況ヲ述フレハ次ノ如シ。

水管ノ延長ハ實ニ百四萬二千七百五十八間ノ長距離ニ亘リ、前年ニ比スレハ五十三萬五千八十九間ノ增加ナリ、更ニ之ヲ五ケ年前ノ大正十年度ヨリ見レハ五十五萬二百五間ヲ增加ス。總延長中導水鐵管ハ千七百七十七間、送水鐵管二萬五千四百九十三間、配水鐵管九十四萬八百十間、同鉛管七萬四千六百七十八間ナリ。

栓數合計二十五萬三千九十五ヲ前年ニ比スレハ四萬二千二百八十即チ二割ノ增加ナリ、更ニ之ヲ五ケ年前ノ大正十年度ニ比較セハ十二萬五千八百五間ヲ增加セリ。此ノ總數ヲ栓種別ニスレハ計量給水栓96.59%、消火栓3.41%ニ相當シ放任給水栓ナシ。

給水戸數三十九萬千六百四十九戸ニシテ前年ニ比シ四萬五千三百二十四戸ノ增加ナリ、更ニ之ヲ大正十年度ニ比スレハ七割二分四厘ノ激增ヲ示ス。

給水總量ハ四億八百九十四萬六千八百五十七石ニ及ビ前年ヨリ少シク減少セルモ之ヲ大正十年度ヨリ見レハ四割七分八厘ノ增加ヲ見ル。之カ一日平均量ハ百四十一萬六千六百十五石ニシテ之ヲ地域別ニスレハ大阪市九割六分九厘ヲ占メ殘餘ハ堺市ニ屬ス。

第十五　教　育

管內學事ノ狀況

學事施設並ニ監督指導奬勵上ノ事項ニ關シテハ形式改善ニ努ムルト共ニ最モ力ヲ內容ノ充實ニ致シ最善ノ効果ヲ收メンコトヲ期シタリ、即チ師範學校、中學校、高等女學校、實業學校等各學校長會ヲ屢々開催シ、或ハ府市視學ヲ數名召集シテ教育上喫緊ノ問題ニ付審議討究セシメ、以テ一般學事振作ノ機運ヲ促進センコトニ努力セシムルト共ニ、視學ヲシテ努メテ管內學事ノ實際ヲ精細ニ視察セシメ、學事改善ノ參考資料ヲ補促スルト共ニ、本府ニ於ケル各市町村ニ適切ナル指導奬勵ヲ與ヘンコトニ留意セシメタリ。其他成績優良ナル學校及教員又ハ市町村吏員、學務委員等ヲ表彰シ他ヲシテ之レニ則ラシムル所アラン等或ハ學校教育ニ或ハ社會教育等ニ關シ終始一貫努力ヲ盡シ完全ナル發達ヲ遂ケシメンコトニ留意セシメタリ。

學令兒童

本府學令兒童ノ就學歩合ハ他府縣ニ比シ常ニ遺憾ノ狀態ニアルヲ以テ、之レカ向上ニ關シテハ嚴ニ猶豫又ハ免除ノ事由ヲ糺シ、簡易就學並ニ工場法施行第二十六條ニ依ル就學施設ヲ周密ニ監督シ、學令簿、學籍簿等就學ニ關スル諸帳簿ノ整理ヲ督勵スルト共ニ進ンテ就學ノ奬勵出席ノ督促ニ努メツヽアリ。

今學令兒童對人口並ニ就學ニ關スル狀況等ニ就キ記述スレハ、

大正十四年度學令兒童總數ハ四三二、四八八人ニシテ、內男二二二、六九八人女二一〇、七九〇人ナリ。之レカ人口百ニ對スル割合ハ14.14%ニ當ル、其最モ高キハ南河內郡ニシテ21.15%、其他北河內郡、中河內郡等ハ多キ部ニ屬シ、大阪市ハ遙ニ劣ナク12.81%ニ當リ、其他堺市、岸和田市ハ比較的少數ナリ、是等ハ市內並ニ近接商工業地帶ニ壯年階級ノ者多數居ヲ有スルト、一方出入寄留繁多ナル結果或ハ學籍簿、學令簿ノ完全ナラサルモノ等アリテ以上ノ結果ヲ齎シタルモノナラン乎。

學令兒童中既ニ就學ノ始期ニ達シタルモノハ男一八八、三二一人、女一七七、九三六人計三六六、二五七人、未タ就學ノ始期ニ達セサルモノ男三一、三七六人、女三〇、五八七人計六一、九六三人ナリ、既ニ就學ノ始期ニ達シタル兒童百人中就學ノ割合ハ99.13%ニシテ前年度ニ比シ0.12%不良ナリ、尙五ケ年前ノ大正十年度全國ノ就學歩合ハ99.17%ニテ此ノ平均數ニ比シ本府ハ不良ノ地位ニ在ルハ遺憾トスル所ナリ。

更ニ不就學者ノ內譯ハ就學猶豫者三七九九人內大阪市八割一分八厘ヲ占メ、次ハ泉北郡五分九厘ニ當ル。不具廢疾ニ依リ免除セラレタルモノハ總數六四〇人內四〇五人ノ七割〇三厘ハ大阪市ニ在リテ其他ハ少數ナリトス。

學齡兒童中盲者男、七八人、女四九人、聾啞者男五三人　女三八人ナリ、即チ學齡兒童一萬ニ對スル割合ハ盲者二、二一人ニシテ郡市中ノ最モ多キハ泉南郡ノ八　四八人、豐能郡ノ五、六三人、次ニ靜ナキハ堺市ノ一、四〇人岸和田市ハ皆無ナリトス。聾啞者ハ三、八八人ニ當リ最モ割合ノ多キハ泉北郡ノ一〇、一四人次ニ豐能郡ノ八、八五人最モ少ナキハ北河內郡ノ一、七六人岸和田市ノ皆無等ナリトス。

小　學　校

小學校教育ハ其形式內容共ニ漸次發達シ本年度末ニ於ケル尋常小學校ハ一八五校（他ニ分校九）尋常高等小學校三一一校（他ニ分校一八）高等小學校一四校計五一〇校ナリ、前年ニ比シ、尋常小學校ニ於テ二四校ヲ減シ、尋常高等小學校三〇校ヲ增シ、高等小學校ニ於テ二校ヲ減シ、差引四校ヲ增加セリ。即チ漸次義務教育ノ延長ヲ考慮シ、尋常小學校ヨリ尋常高等小學校ニ推移シツヽアルコトヲ示スモノニシテ、一方公立學校ノ完備ニ基キ私立學校ハ年々減少シ、總數ニ於テ公立校四校ノ增ヲ見タル

モノナリ。以上ノ内私立學校ハ尋常小學校一六校、尋常高等小學校二校、計一八校ナリ。之ヲ前年ニ比スレハ一校ヲ減シ逐年減少ノ狀況ヲ示ス。而シテ之レカ指導監督ニ關シテハ一層周密ヲ期シタル結果、設備施設等概シテ良好ナリ。補習科ヲ設置セル學校ハ三校、前年ニ比シ一校增加セリ、之レ即チ本府ニ實業補習學校及青年會夜學校等ノ設置漸次其ノ數ヲ加ヘツヽアル結果ナリトス。

學 級

就學兒童ノ增加ニ伴フ學級編成ノ狀況ヲ見ルニ本年度ニ於ケル學級總數七、三四〇內尋常科六、四二八高等科九一二ナリ、大正十年ヲ百トセル指數ニヨリ學級增加ノ狀態ヲ示セハ十一年度百六、十二年度一一二、十三年度一一六、十四年度一一九ニ該リ逐年增加ヲ示セリ。

小學校各一校當リ學級數ハ尋常科ニ在リテハ大阪市最多ニシテ一八.四、次ハ堺市ニシテ一六、六以下岸和田市一三、六泉北郡九、六、ハ多キ部ニ屬シ、最少ナルハ南河內郡ノ七、〇、三島郡ノ七 三等尠シ高等科ニ在リテハ堺市最多ニシテ一七、〇次ハ大阪市四、一、三島郡ノ三、八等ハ多キ部ニ屬シ、最モ少ナキハ泉北郡ノ一、二學級ナリ。

今一學級當兒童數ヲ見レハ尋常科ニ在リテハ五ケ年前ナル大正十年度五六、四人、同十一年度五、五〇人、同十二年度五二、六人、同十三年度五〇、五人、同十四年度四五、九人ニ當リ、高等科ニ在リテハ大正十年度四六、〇人、同十一年度四四、四人、同十二年度四三、一人、同十三年度三九、五人、同十四年度三九七人ニ該當シ、即チ尋常高等共ニ逐年少數トナリツヽアルコトハ喜フヘキ現象ナリトス。

郡市ノ尋常科ニ在リテハ岸和田市最モ多ク六二、二人、次ニ三島郡五三、九人、堺市五二、四人、中河內郡五二、三人等ニ當リ、高等科ニ在リテハ四〇、二人、內最モ多キハ堺市ノ四七、四人、三島郡ノ四三、一人豐能郡四一、四人、大阪市三九、七人、岸和田市三九、七人、北河內郡ノ三九、一人、南河內郡ノ三九、〇人、中河內郡ノ三八、五人、泉北郡ノ三七、三人、泉南郡三六、五人ニ該當ス。

二 部 教 授

從來兒童數動モスレハ法定ノ制限ヲ超過セムトスル趨勢ナルヲ以テ之カ緩和策トシテ二部教授ヲ施行セルモノ現ニ尋常小學校ニ於テ二三校一三八學級、尋常高等小學校尋常科ニ於テ一八校一一六學級アリ、之ヲ前年ニ比スレハ尋常小學校ニ於テ一八校增加シ、尋常高等小學校ニ於テハ增減ナシ是レカ該當地區ニ於テハ誠意之レカ緩和ノ方法ヲ講シ居レリ。

教 員

教員ノ需要供給勤續轉免俸給加俸其他待遇上ニ關シテハ轉退及學級增加ニ對スル需要額ニ加ハリ之ニ對スル師範卒業生男三〇七(內上級學校へ入學一九名)女一三八名(內上級學校へ入學一五名)計四四五名(內上級學校へ入學三四名)ニシテ供給不充分ナルハ洵ニ遺憾トスル所ナルモ各府縣ヨリ希望スル者多數ニシテ之レヲ充當シ緩和ノ策ヲ講シツヽアルヲ以テ比較的圓滑ナリ。

本年度末現在ニヨル教員總數ハ七、九二三人ナリ、內本科正教員六、九一四人(八割七分二厘)專科正教員四〇二人(四分一厘)准教員及代用教員六〇七人(八分)ニ當ル。

市及比較的大ナル町等ニ多數ノ教員ヲ有スルコトハ語ヲ要セサルトコロナリ、今如何ナル割合ニ各郡市カ包有スルカヲ知ランカ爲、百分比ヲ算出對比スレハ大阪市ハ殆ント半數以上ノ64.02%ヲ占メ次ハ中河內郡ノ5.54%南河內郡、泉南郡ノ5.24%、北河內郡ノ4.21%、泉北郡ノ4.17%、豐能郡ノ3.03%、堺市2.93%、最後ニ岸和田市1.15%ニ割合ス。

教員總數ニ對スル正教員ノ割合ハ87.40%ヲ占ム、此割合ヲ遡ツテ觀察スレハ大正十年度70.90%、大正十一年度75.64%、十二年度80.00%、十三年度85.11%ニ當リ、十年以降減少セリ。

教員俸給別

俸給者總數七、八四〇人ナリ、俸給額ノ割合ヲ百分比ニヨリ示セハ六十圓ヨリ六十五圓ノ者最多ニシテ10.20%、ヲ占メ、次ハ五十圓ヨリ五十五圓ノモノ9.09%、以下五十五圓ヨリ六十圓ノ者9.01%、六十五圓ヨリ七十圓ノ者8.13%等ナリ。

一人ニ對スル平均額

尋常小學校ノ教授ニ從事スル本科正教員ニ在リテハ平均額男ハ八六、五七〇錢女六一、五七錢ナリ、前年ニ比スレハ男三、二三錢、女ハ三、三二錢ヲ增ス、尙五ケ年前ナル大正十年度ニ比スレハ六、八九錢女ハ三、九七錢ヲ增シ即チ男ハ遞增シ、女子ニ在リテハ十一年、十二年十三年ト減額ノ現象ヲ示セルモ、本年少シク增加シタリ。郡市ニ在リテハ大阪市最モ良好ニシテ七九、七一錢次ハ堺市七八、二〇錢以下岸和田市六八、八四錢、豐能郡六九、二三錢、三島郡六五、三六錢、泉北郡六四、七六錢、中河內郡六四、三三錢、泉南郡六〇、五二錢北河內郡五五、〇〇錢南河內郡ノ最低額ノ四一、六四錢ナリトス。

尋常小學校ノ教授ニ從事スル專科正教員ニ在リテハ大阪市最良好ニシテ七二、〇八錢岸和田市五五、五〇錢等ハ又良好ニシテ三島郡ノ四二、一四錢、中河內郡ノ四四、〇九錢等低額ノ部ニ屬セリ。

高等小學校ノ教授ノ從事スル准教員ニ在リテハ大阪市最良好ニシテ八七、八〇錢、次ハ堺市七八、〇六錢ニシテ泉南郡ノ六八、七五錢ハ最低額ナリ。

代用教員ノ尋常科ヲ教授スル者ニ在リテハ岸和田市最良好ニシテ五七、二〇錢、次ハ大阪市五五、五五錢堺市五四、三八錢等ニシテ三島郡ノ三六、一五錢ハ最低ナリトス。同高等科ニ在リテハ大阪市、岸和田市良好ニシテ泉南郡ハ四五、五〇錢ノ最低額ナリトス。

教員在職年數

本科正教員ノ在職年數ハ五ケ年未滿ノ者最モ多クシテ二、七二二人(三割九分七厘)次ニ五年以上十年未滿ノ者一、五三七人(二割二分四厘)十年以上十五年未滿ノ者一、二九一人(一割八分八厘)十四年以上二十年未滿八、五三八(一割二分四厘)二十年以上二十五年未滿三三人(五分)二十五年以上三十年未滿九〇人(一分三厘)三十年以上ノモノ四三人(四厘)ナリトス。

兒 童

本年度ニ於ケル尋常科在籍兒童總數ハ三一三、五五二人ニシテ內男一六一、三八五人(五割一分七厘)女一五二、一六五人(四割八分三厘)ナリ。之レヲ前年ニ比スレハ總數ニ於テ二、九一六人(一分)ヲ減少シ五ケ年前ナル大正十一年ニ比スレハ三、一二八人(一分)ヲ增加セリ。兒童ノ郡市ニ於ケル割合ハ大阪市最多ニシテ62.34%、次ハ中河內郡6.15%以下南河內郡5.69%、泉南郡5.51%、泉北郡5.32%、北河內郡3.89%、三島郡3.69%、堺市3.23%等ニシテ最少ナルハ岸和田市ノ1.13%ナリトス。

學年別ニ依ル兒童數ハ一年ノ者五〇、六八七人(一割五分八厘)二年五一、五八一人(一割六分四厘)三年五四、一九七人(一割七分二厘)四年五一、七〇四人(一割六分五厘)五年五三、七五三人(一割七分一厘)六年五一、六二五人(一割六分五厘)ニ該當セリ。

高等科ノ在籍總數ハ三六、一〇八人ニシテ內男二二、七〇三人(六割二分八厘)女一、三四〇五人(三割七分二厘) 五ケ年前ナル大正十年ニ比スレハ五、八八八人 (一割六分三厘)ヲ增加ス。

郡市ニ於ケル兒童ノ割合ハ大阪市最多ニシテ61.26%、次ハ南河內郡5.95%、以下泉南郡5.19%、北河內郡5.44%、中河內郡5.47%、三島郡5.16%、豐能郡4.02%、泉北郡4.24%、堺市2.23%、ニシテ岸和田市最少ニシテ1.04%ナリトス。

出席歩合

本年度市町村立小學校生徒ノ出席歩合ハ男九九、二五女九九、〇〇ナリ、前年ニ比シ男、三五%、女、三〇%ヲ減ズ、五ケ年前ナル大正十年ニ比スレハ男一、〇五%、女一、一一%良好ナリ。之カ郡市狀況ハ男ニ在リテハ堺市最モ良好ニシテ99.80%ニシテ、次ニ中河內郡99.71%、北河內郡99.40%、三島郡99.63%、豐能郡99.66%、岸和田市99.38%、泉南郡99.27%、泉北郡98.73%等ニシテ大阪市98.59%最モ不良ナリ女ニ在リテハ堺市及中河內郡ノ99.81%次ハ岸和田市99.70%、豐能郡99.74%、南河內郡99.73%、北河內郡99.65%、泉南郡99.46%、大阪市98.35%、三島郡99.43%等ニシテ泉北郡97.17%ニ該當シ、即チ和泉ノ郡ニ在リテハ男女通シテ出席狀態不良ナルヲ觀取ス。

入學者

本年度ニ於テ尋常科ニ入學シタル者ハ五二、二六五人ニシテ前年ニ比シー、〇〇七人減少セリ。今五ケ年前ナル大正十年ヲ百トセル指數ニ依リ消長ヲ示セハ大正十一年度九十四、十二年度百二、十三年度九十四、十四年度九十三ニ該當ス。郡市ノ割合ハ大阪市最多ニシテ54.80%次ハ中河內郡ノ5.65%、以下南河內郡5.30%、泉南郡5.15%、北河內郡3.65%、堺市3.50%、豐能郡2.99%、三島郡2.60%、岸和田市1.64%等ニ該當ス。

高等科

入學者總數二二、五四六人ニシテ逐年增加シ來リタルモ本年ニ於テ減少セリ、既往ニ遡リ指數ヲ以テ增加ノ狀態ヲ示セハ大正十一年度百二、十二年度百五、十三年度百十四十四年度百十二ニ該ル。郡市ニ在リテハ大阪市最多ニシテ62.51%、次ハ泉南郡5.69%、南河內郡5.52%、中河內郡5.02%、北河內郡4.99%、豐能郡2.83%、泉北郡4.35%、堺市3.34%、三島郡3.27%、岸和田市2.48%等ニ割合ス。

卒業者

本年度尋常科ノ卒業者ハ五〇、六七三人ナリ、大正十年ヲ百トセル指數ニヨリ卒業者ヲ觀レハ 大正十一年度百六人、十二年度百十五、十三年度百十四、十四年度百十五ニ該當ス。郡市ニ於ケル割合ハ大阪市最多ニシテ61.86%次ハ中河內郡6.01%等ニシテ以下泉南郡5.91%、南河內郡5.57%泉北郡5.31%、北河內郡4.02%、三島郡3.89%、堺市3.21%豐能郡2.97%、岸和田市1.25%等ニ割合ス。

加設科目

尋常科ニ在リテハ手工、高等科ニ在リテハ手工、農業、商業、家事、英語、圖畫、等ヲ加設セル學校數三百十校、逐年增加ヲ示セリ、即チ大正十年ヲ百トセル指數ニ依リ狀況ヲ見レハ大正十一年度百十四十三年度百二十四、十三年度百三十七、十四年度百四十九等ニ該當ス。

幼稚園

幼稚園ハ公立五六(休園中ノモノ一) 私立二三(休園中ノモノニ) 計七九園ニシテ前年ニ比シ公立、九私立一、增加シ、其幼兒總數一一、一一六名、內男五、六五八名、女五、四五八名ニシテ前年度ニ比シ二、八四八名ヲ增加セリ、而シテ園舍ノ設備改良並ニ保育方法ノ研究等漸次向上シ見ルヘキモノアリ。

盲聾唖學校

大阪市立ニシテ各一校宛アリ、盲學校ニ在リテハ現在生徒初等部五六人、音樂科四六人、鍼按科七二人計一七四人ニシテ之ヲ十五學級ニ編制ス。聾唖學校ニ在リテハ豫科六一人初等科一八一人普通科四人、和服裁縫科三〇人、洋服裁縫科一五人、家具工藝科一五人ニシテ之レヲ一四學級ニ編制ス。

右二校ハ何レモ敎員ノ配置敎具ノ設備敎授訓育ノ方法等其成績特ニ見ルヘキモノアリ、而シテ卒業生中ニハ中學部入學及自宅開業ヲ爲スモノ多シ。

師範學校

男子師範學校二、女子師範學校一校ニシテ生徒定員ハ第一部男六八〇名、女三二〇名第二部男二〇〇名、女八〇名計一、二八〇名尙豫備科二五〇名ヲ加フレハ一、五三〇名ナリトス。

敎員

敎員總數八六名ナリ內有資格七六名 (八割八分三厘)無資格十名 (一割一分七厘)ニシテ經費ノ許ス限リ增俸ヲ行フ等優遇シ勤續ヲ奬勵シツヽアリ。

生徒

生徒ノ敎養ニ關シテハ從來ト異ルコトナシ、將來敎育ノ重任ヲ全フスル人格氣風ヲ養成スル事ニ深甚ナル注意ヲ拂ヘリ、各師範學校ニ於テモ種々方法ヲ研究シ施設ヲ意ラス、何レモ相當實績ヲ收メツヽアリ。本年度生徒總數ハ一、三八九人ニシテ內第一部男七六一人、女三八一人、第二部男一八二人、女六五人ニシテ本年豫備科ナシ、之ヲ前年ニ比スレハ二〇人ヲ減少ス。

五ケ年前ナル大正十年ニ比シ三七五人ヲ增加ス。

入學志願者、入學者

入學志願者ノ狀況ハ年々良好ヲ示シ募集人員ニ對シ何レモ數倍セリ、志願者ノ增加ハ籠ヲ素質ノ善良ナル者ヲ入學セシムルヲ得タリ、師範敎育ノ目的ヲ達成上欣快トスヘキ現象ナリ之レカ入學志願者對入學者ノ割合ハ本科第一部男19.55%、女18.72%、第二部男37.51%、女24.22%等ニ該當ス。

卒業者

本年度卒業者第一部男一四四名、女七五名、第二部男一六三名、女六三名計二二六名ナリ、前年ニ比シ二〇名ヲ減シ、五ケ年前ナル大正十年度ニ比スレハ二四名ヲ增加ス、然レ共府下各郡市小學校ニ於ケル學級數ノ增加ト、一面轉退職者トノ數ニ比スレハ需要ニ添フ能ハサルハ遺憾トスル所ナリ。

附屬小學校及幼稚園

狀況ハ前年ニ於ケルト大差ナク、何レモ本府初等敎育ノ研究機關トシテ銳意改善ヲ企圖シツヽアリ、小學校兒童數ハ一、六七二人、入學者三八八人、卒業者三五四人ナリ、幼稚園組數三收容兒童數六七

名ニシテ内保育滿期者六六人ナリトス。

講 習 科

各師範ニ於テ夏期學力補習講習ヲ開催シ、各郡市小學校本科正教員ノ養成ト學力技藝ヲ補足セリ。府ハ教育會ニ補助金ヲ交付シ以テ尋常科正教員ノ養成ニ努メ其ノ成績佳良ナリ。

中 學 校

府立一五、私立三校ニシテ前年ト相違ナシ之レヲ大正九年ニ比スレハ公立三、私立二校ヲ增加セリ。

教 員

教員總數五七一名ナリ、內有資格者四四五名（七割七分九厘）無資格者一二七名（二割二分一厘）ニ割合シ、資格ハ逐年向上シツヽアルモ需給ハ常ニ困難ヲ感シツヽアリ、待遇上ニ關シテモ大ニ留意シ他ニ比シ敎テ遜色ナキヲ示セリ。

生 徒

生徒ノ敎養ニ關シテハ常ニ社會ノ中堅タル男女ニ必要ナル品格ノ具備ニ努力シ、實踐窮行質實剛健ノ氣風ノ養成ニハ一段ノ注意ヲ拂ヘリ、本年度生徒總數ハ一五、三一〇人ナリ、增加ノ狀態ヲ知ランカ爲大正十年ヲ百トセル指數ニヨリ對比スレハ大正十一年度百十六大正十二年度百三十四、大正十三年度百五十、大正十四年度百六十五ニ該當シ、遞增ノ現象ヲ示セリ。

入學志願者、入學者

學校ノ增設セラレタルト一面財界ノ不況ニ因リ幾分緩和ノ現象ヲ示セリ、今大正十年度ヲ百トシタル指數ニヨリ增加ノ割合ヲ見レハ、大正十一年度百二十、同十二年度百二十四、同十三年度百二十六、同十四年度百三十八ニ該當ス。本科入學者ニ對シ入學者ノ割合ハ大正十年度31.28%、大正十一年度43.86%、大正十二年度37.60%、大正十三年度41.57%、大正十四年度57.72%等ニ當リ稍緩和スルヲ見ルモノナリ。尙入學者ニ對スル家庭ノ狀況ヲ窺ハンカ爲ノ父兄職業別ニ依ル入學者ハ農業四一九人(12.46%)水產業二人(0.06%)鑛業17人(5.05%)工業六四三人(19.13%)商業八五五人(25.49%)交通業九六人(2.85%)公務自由業八八六人(26.36%)其ノ他ノ有業者一五二人(4.52%)家事使用人四人0.12%無職業二八七人(8.53%)計三、三六一人ニ該當ス。補習科ノ設置ハ北野中學校ノミニシテ本年度入學者四四人ニシテ何レモ受驗準備ノ爲一時的修業ニ止マルモノナリ。

退學者 生徒ノ一ケ年中ニ於ケル中途退學者ハ一、五九七人ナリ、內疾病ニヨル退學二五八人(16.15%)、轉學一九六人(12.27%)、高等學校其他學校入學六三人(3.94%)、懲戒二人(0.01%)死亡四〇人(2.50%)其ノ他一、〇三八人(64.99%)等ニ該當ス。

卒業者 本年度ノ卒業者總數ハ一四五九名前年度ニ比スレハ一九九人（一割五分八厘）大正十年度ニ比スレハ三三五人（二割二分九厘）ヲ增加ス。前年度卒業者ノ本年度末ノ狀況ヲ指數ヲ以テ示セハ實業從事者(17.41%)、學校職員(2.67%)官公吏(1.71%)高等學校生徒(26.69%)專門學校生徒)29.19%其他學校生徒'18.50%)、一年志願兵(041%)其他(受驗準備中ノ者未定等ノ者)(26.79%)等ニ該當シ即チ生徒卒業後ノ進路ノ一端ヲ窺フヲ得ヘシ。

高等女學校

府立一二、市立二、私立一二、計二六校ナリ、之レヲ五ケ年前ナル大正十年度ニ比スレハ公立五私立四校ヲ增加ス。

教 員 教員總數ハ六八六名內有資格五三二名(七割七分五厘)無資格一五四名(二割二分五厘)ナリ。之カ待遇ニ關シテハ豫算ノ範圍內ニ於テ可及的優遇ノ途ヲ講セリ。

生 徒 生徒敎養ノ方針ニ關シテハ年々大差ナク、社會ニ於ケル中流婦人トシテ或ハ家庭ニ於ケル淑女トシテ、必要ナル品性ヲ具ヘン事ニ努力シ、學力ノ進歩ニ付テモ銳意考慮シタル結果其ノ成績良好ナルヲ示ス、生徒總數本科ハ一七、四八二人、實科一六七人補習科一九三人、專攻科一〇六人、計一八、〇八七人ナリ今之カ增加ノ狀況ヲ見ムカ爲、大正十年度ヲ百トセル指數ニヨレハ大正十一年度百二十、十二年度百四十二、十三年度百六十七、十四年度百九十六ニ該當シ逐年ノ遞增ノ現象ヲ示セリ。

入學志願者入學者 入學志願者ニ關シテハ前述ノ如ク財界不況ニ因ル緩和ト一面私立學校ノ增設ニ伴ヒ收容力擴大セルモ、未タ充分ナラス入學難ハ尙其ノ聲高ク幼少子女ノ苦惱ハ洵ニ絕大ナルモノアリ之レカ累年ノ狀況ヲ見レハ各年遞增セリ。

入學志願者ニ對スル入學者ノ割合ハ逐年多キヲ加ヘツヽアリ、之カ狀態ヲ明ナラシムル爲五ケ年ヲ遡ツテ割合ヲ求ムレハ、大正十年37.15%、十一年度43.86%、十二年度41.61%、十三年度48.51%、十四年度48.28%等ニ該當ス。

入學者ノ家庭ノ狀況ハ生徒敎養ノ上ニ至大ノ關係ヲ有ス、今目的達成上ノ一助トシテ入學者父兄職業別指數ヲ求ムレハ、農業者三一四人(13.04%)、鑛業四人(0.15%)、工業四三二人(16.41%)商業七三七人(28.27%)交通業三九人(1.49%)、公務自由業六六六人(25.55%)其他ノ有業者一一〇人(4.21%)家事用人八人(0.30%)、無職二九六人(11.35%)等ニ割合ス。

退學者 生徒ノ一ケ年中ニ於ケル中途退學者ハ一、二五〇人ナリ、內疾病ニ因ルモノ一九四人(15.51%)、轉學二九九人(23.92%)、徵戒一人(0.09%)、死亡四〇人(3.20%)、其他七一六人(57.28%)等ニ該當ス。

卒業者 本年度卒業者總數ハ二、九七九人ナリ、前年ニ比シ一、一三七人增加ス、卒業者ハ何レモ家庭ニ入リテ家事ニ從事スルモノ多キモ、近年追々職業婦人トシテ活動スルモノ增加シ、上級學校ニ進ム者亦激增シツヽアルヲ見ルモノナリ。

實業學校

府立六業、市立一三校組合立二校私立一四校計三五校ナリ前年ニ比シ一校增加ス。

教 員 教員總數ハ九六六名ナリ、內有資格六九六名（七割二分一厘）、無資格二七〇名（二割七分九厘ナリ。之レカ需給關係ハ困難ナリ、待遇ニハ關シテハ近時周到ナル注意ヲ拂ヒ益々優遇ノ途ヲ講シツヽアリ。

生 徒 生徒ノ敎養ハ質實剛健ノ氣風養成ヲ目的トス、學術ノ研究ニハ實修ト修學旅行ト相俟チテ實際知能ヲ獲得スル事ニ留意セリ。本年度生徒總數ハ一九、九三六人ヲ數ヘ逐年增加ノ狀況ヲ示セリ。

入學志願者、入學者 本年入學志願者一六、五四六人入學者七、四九〇人ニシテ之ニ對スル割合ハ38.22%ニ當ル。

退學者 以上生徒ノ一ケ年中ニ於ケル退學者ハ一、九七五人ニシテ內疾病ニ依ルモノ二一四人(10.83%)轉學一五七人(7.94%)懲戒二〇人(9.32%)死亡五九人(2.99%)其他一、五二五人(77.92%)等ニ該當ス。

卒業者 本年度總數ハ三、一九五人ナリ前年ニ比シ一、〇二六人ヲ增加ス。尙前年度卒業者ノ本年度ノ狀況ヲ指數ヲ以テ示セハ、實業從事者一、四五 〇人(67.43%)學校職員一二人(0.55%) 實業專門學校生徒四一七人(19.22%)、官公吏四三人(1.98%)、兵役一四人(0.65%)死亡九人(0.41%)、其他二二四人(10.32%)等ニ該當ス。

高等程度以上ノ學校

國民敎育ノ進展ニ依リ高等或ハ專門敎育ヲ志望スル者頓ニ增加シ、本府ニ於テモ大正十一年度ヨリ男子ニ在リテハ外國語學校ノ高等學校ノ設置ヲ見既設ノ醫科大學關西大學、高等工業、高等商業、藥學專門、齒科醫學專門學校ヲ加ヘ八校ヲ有スルニ至レリ、何レモ自治的訓練ト人格ノ養成ニ深ク留意シ修學旅行其他必要ナル事項ハ年來ノ施設テ繼承シ、學術ニ就テハ研究的態度ヲ執ラシメ成績ノ向上ニ意ヲ致セリ。卒業者ハ何レモ社會ニ重キヲナスヲ以テ爲ニ實業界トノ關係益々密接ノ度ヲ加ヘツヽアリ。

女子敎育ニ關シテモ近年著シキ覺醒セルモノ多キニ伴ヒ、高等敎育ヲ志望スル者年ト共ニ增加シ、從ツテ增校ノ必要トナリ爲ニ大正十三年度ヨリ女子專門學校ノ開校アリ、又梅花女子專門學校ニ在リテモ現在ノ設備ニテハ到底希望ヲ充ス能ハサルノミナラス理想ヲ實現シ能ハストシテ、校地移轉、校舍新築ノ計畫ヲ立テ着々歩ヲ進メツヽアリ、近時思想界ノ混亂憂フヘキモノアルヲ以テ何レモ思想上ノ奇矯ニ走ルヲ警メ、風紀上ニハ特ニ消極的取締ヲナスト共ニ、積極的ニモ啓發指導シ、以テ品性ノ向上ト相俟ツテ學力ノ養成ニ腐心シツヽアリ、以下各學校ニ付概說スレハ

高等學校

本校ハ大正十一年度開設シ大正十三年度ニ於テ初メテ一四二人ノ卒業者ヲ出シタリ、本校ノ生徒總數ハ五七九人ヲ有シ、文科甲類一七七人、同乙類一一一人、理科甲類一二〇人、同乙類一一六人、同丙類一一五人ナリ。敎育總數六四名ヲ有ス。本年入學志願者ハ一、二五九人ニシテ之ニ對スル入學者ハ一九〇人、其割合15.09%ニ當ル。本年卒業シタル者ハ一七七人ナリ。

外國語學校

大正十一年ノ開校ニ係リ職員五八名、在籍生徒數五八六人、內支那語九八人、蒙古語二一人、馬來語六九人、印度語四二人、英語一〇六人、佛語六九人、獨語七一人、露語七六人、西語三四人ニシテ九科目トス。本年度志願者一、六一一人ニシテ入學者二六八人ナリ、各科志願者ニ對スル入學者ノ割合ハ16.63%ニシテ本年度卒業者一七二人ヲ出セリ。

高等工業學校

職員總數一〇二名ニシテ在籍生徒數五四六人ナリ、內機械科一二九人、應用化學科八三人、釀造科一〇二人、採鑛冶金科六〇人、造船科四五人、船用機關科四七人、長氣科七七人ヲ收容セリ、本年度入學志願者總數七三五人、入學者一八七人即チ入學者ノ割合ハ25.40%ニ當ル。本年卒業者ハ一八九人ニシテ內養成所卒業者一五人ヲ出セリ。

醫科大學

職員總數一五四名(兼務者五名)在籍生徒豫科三一三人、尙學生基礎學記一九七人、臨床學記一八七人計六九七人ナリ。本年度志願者八五四名ノ內入學者一八六名ニシテ志願者ニ對スル入學者ノ割合ハ21.78%ニ當ル。而シテ本年卒業者ハ八七名內尙大學ニ止マリ研究スル者或ハ開業醫其他公私病院ニ就キ研究スル者多シ。

女子專門學校

職員總數三六名、在籍生徒數豫科三九人、本科一一〇人計一四九人、志願者一二一人ノ內入學者ハ三六人、即チ入學志願者ニ對スル入學者ノ割合ハ29.75%ニ當ル。

市立高等商業學校

職員總數六七名、生徒數本科生八七一人、研究科二七人、計八九八人、入學志願者一、九七六人、內入學者三五九人18.16%ニ當ル、卒業シタル者ハ二五七人ナリトス。

藥學專門學校

職員一九名、在籍生徒數三九六人、入學志願者四九〇人、ノ內入學者一二〇人、即チ志願者ニ對スル入學者ノ割合ハ24.48%ニ當ル。

齒科醫學專門學校

職員二十七名ノ內(兼務者二十二名)生徒數四八〇人志願者三四一人入學者一七二人ニシテ志願者ニ對スル入學者ノ割合ハ50.43%ナリ、而シテ本年度卒業者一九一人ナリ。

梅花女子專門學校

職員十八名、生徒百十一人、入學志願者一三二人、入學者四九人ニシテ志願者ニ對スル入學者ノ割合ハ37.12%ナリ、而シテ本年度卒業者ハ四六人ナリ。

關西大學專門部

職員六一名、生徒一、七〇三人、入學志願者一、六七一人、入學者一、二一二人 ニシテ志願者ニ對スル入學ノ割合ハ72.53%ナリ、而シテ卒業者四三一人ナリ。

以上各學校ニ在リテハ卒業者益々增加シ何レモ社會ニ重任ヲ負フ者ナルモ、近時財界ノ不況ニ依リ就職難ノ聲喧シク局者ハ種々適切ナル方策ヲ案シツヽアリ、即チ中等學校、專門學校ト入學難ニ怖サレ奮勵努力其ノ効ヲ致シテ一度校門ヲ出ツレハ茲ニ就職難タル辛酸ヲ舐ムルノ現況ナリトス。

藥學專門學校

職員一九名、在籍生徒數二八五人、志願者三一五人、入學者一三〇人ニシテ志願者ニ對スル入學者ノ割合ハ41.26%ニ當ル。

實業補助學校

本年度ニ於ケル校數ハ工業ニ關スルモノ公立二、農業ニ關スルモノ公立一一八、私立九、商業ニ關スルモノ公立七九、私立一、其ノ他ノモノ公立八五計二九四校ナリ、生徒總數ハ二三、七五二名ニシテ二、三校ノ獨立ノモノヲ除キ其ノ他ハ概ネ市町村立小學校又ハ其ノ他ノ公立學校ヲ利用シ私立ノモノニ至リテハ多少設備ニ遺憾ノ點ナキニアラサルモ大体ニ於テ良好ナリ、學校ノ布置未タ充分ナラサル

ヲ以テ未設ノ町村ニ於テハ之レカ設立ヲ勸奬シ既設ノモノニ對シテハ鋭意其ノ改善ヲ督勵シツヽアリ

各種學校

本年度ニ於ケル校數ハ小學ニ類スルモノ私立二、高等女學ニ類スルモノ公立一、私立三、其ノ他ノ公立學校二二、私立九九アリ、而シテ公立ノモノニアリテハ學校維持ノ基礎確實ニシテ其ノ設備等ニ至リテ亦整頓セルモ私立ノモノニアリテハ財團法人組織ノモノヲ除ケハ多クハ授業料ヲ財源トスルヲ以テ從テ設備不充分ノ感ナシトセス、公私ヲ通シテ敎員ノ配置又宜シキヲ得、敎員總數八九八名ヲ前年ニ比スレハ一名ヲ減シ生徒總數一四、五四五人ヲ前年ニ比スレハ八三四人ヲ增加ス、生徒ノ訓育ニ就テモ時勢ノ進運ニ伴ヒ其成績漸次佳良ニ向ヒツヽアリ。

學校衞生

學校衞生ニ關シテハ法規ノ示ス所ニ依リ傳染病豫防及消毒方法等清潔方法ヲ完全ニ施設督勵ヲナシ務メテ學校醫ノ視察回數ヲ多カラシメ校地校舍等ノ設備通風採光ノ適否生徒兒童ノ身体狀態ヲ調査セシメ以テ將來ノ施設改善ニ資スル所アラシム學校醫ハ深甚ノ興味ト周到ナル用意トヲ以テ熱心職務ニ從事シ其ノ成績逐年良好ニ向ヒツヽアルハ識ニ悅フヘキ現象ナリトス、而シテ學校醫資格別ハ第一類二三名、第二類三名、第三類四〇名、第四類六四名、第五類一三三人、第六類五七名、第七類一九名、第八類七二名、計四一一名ハ何レモ公立學校ニ於ケル學校醫ナリトス。

敎員檢定免許狀授與

本年度師範學校卒業者生男三〇七名、女一三八名ニ對シテ小學校本科正敎員ノ免許ヲ授與セシ外小學校敎員檢定ニ依ルモノ正敎員ニ於テ無試驗男三三人、女二三人、試驗男一五〇人、女一二〇人准敎員無試驗女二人、試驗男一五人トス。

敎員講習

本年度ニ於ケル各種敎員講習ノ重ナルモノハ府ニ於テハ七回之レカ講習員一、二〇三名其他郡市敎育會主催ノモノ及私設ノモノ等臨時的ニ有益ナル講習ヲ開催セルモノ多數アリ。

通俗敎育ニ關シ施行シタル事項ノ狀況及其ノ効果財團法人懷德堂ヲ始メ府立各學校其他市町村立小學校ニ對シ屢々講演會展覽會等ヲ開催セシメ多大ノ効果ヲ得タルコトハ明カナル事實ナリ。

敎科用圖書

小學校ニ於ケル敎科用ノ需用ニ對シテハ遺憾ナク圓滑ニ供與セラルヽコトヲ認ムルト共ニ中等學校ニ於ケル敎科用圖書ノ變更採定ニ關シテ嚴密ニ査閱セル結果何等不都合ナキヲ認メタリ。

圖書館

公立圖書館八、私立圖書館七、計一五ナリ府立大阪圖書館ハ規模ノ大設備完全ニシテ經常費ノ如キモ六五、五一二圓ヲ示セリ、而シテ年々閱覽人員增加シ本年度ノ如キハ四二九、六六六名ヲ算シ年々其ノ盛況ヲ見ルニ至レリ。

敎育會

府下各郡市區ニ敎育會ノ組織アリ、大阪市ノ各區ヲ聯合シテ大阪市敎育會アリ、又各町村ニ於テハ町村敎育會若クハ敎育懇話會ノ組織セルモノ頗ル多ク何レモ學校ヲ中心トセル敎育上必要ナル諸問題ヲ調査研究シ或ハ學校敎育ノ後援トナリ若クハ各種講演會、又ハ敎員養成事業、体育奬勵事業ヲ施設シ又

ハ通俗敎育巡回文庫其ノ他各般ノ敎育的施設ヲナシ、時ニハ監督官廳ノ諮問ニ應スル等敎育ノ普及發達輿論作興上貢獻スル所多大ナリ。

青年團体處女會等青年女子敎育修養ニ關スル施設ノ狀況

青年敎育ノ振興ヲ圖ルハ現下社會敎育上ニ於ケル一大急務ニシテ前年ヨリ一層各郡市ニ奬勵スル所ナリ、今ヤ各市町村ニ於テ青年團及處女會ノ設立ヲ見サル所ナク進ンテ內容充實修養方法ノ改善ヲ督勵シ實業敎育ト密接ナル事業ヲ企劃シ國民道德ノ修養ニ努ムルト共ニ身体ヲ錬磨シ知識ヲ增進シ實務ニ熟達セシメ國家ノ期待ニ應スル所アランコトヲ期シツヽアリ。

敎育ニ關スル法人

社團法人六、財團法人三三、何レモ基礎確實ニシテ子弟敎養學術ノ研究其他敎育事業ニ寄與スル所尠カラス

敎育ト府會、市町村會

本府ニ於ケル人口增加ノ度他府縣ニ比シテ甚シク、且商工業ノ發展ニ伴ヒ敎育上新ニ施設スヘキ事項多クシ、從ツテ經費ヲ要スルコト頗ル多キニ係ラス、府市町村會ハ何レモ必要ナル經費ヲ支出スルニ吝ナラス、故ニ其ノ施設經營ニ關シテ支障ヲ見サルハ識ニ悅フヘキ所ナリ。

學事關係職員及學事視察

本府學事關係職員ハ書記官兼視學官一名、視學二名、屬七名、府吏員六名、雇二名、敎育主事一名、主事三名ニシテ學事ニ關スル事務及學校敎育ノ實況ヲ視察シ、指導改善ヲナシツヽアリ。郡市區役所ニアリテハ一名乃至十數名ノ吏員其ノ局ニ當リ、郡市視學ハ專ラ郡內學校ノ視察ヲ行ヒ、益々改善ノ實ヲ擧ケツヽアリ。市町村學務委員ニ於テモ逐年其ノ職責ヲ自覺シ來レリ、學校ノ設備就學ノ督勵出席奬勵其ノ他ノ事項ニ關シ熱心ニ執務シ其ノ狀況大ニ良好ノ域ニ達スルニ至レリ。

公學費收入

本年度ニ於ケル公學費收入總額ハ七、二五三、八五〇圓ナリ、前年ニ比スレハ七五一、五二五圓(一割一分六厘)ヲ增シ、五ケ年前ナル大正十年度ニ比スレハ三、一一六、二七三圓(四割二分九厘)ノ增加トナレリ。內府ノ經濟ニ屬スルモノ四、二四四、八九九圓(五割八分五厘)大阪市二、二〇七、六六六圓(二割七分六厘)堺市一〇五、五一三圓(一分四厘)岸和田市一六、〇七四圓(二厘)町村六七九、六九八圓(一割二分三厘ニ割合ス。

府ノ經濟ニ屬スル四、二四四、八九九圓ヲ再說スレハ前年ニ比シ一八九、七五四圓(二割九分二厘)ヲ增加ス、費目ニ別チタル收入ノ割合ハ雜收入最多ニシテ43.07%、次ハ授業料25.36%、以下國庫補助17.47%、基本財產ヨリ生スル收入1.27%、保育料8.59%、寄附金3·78%等ニ該當ス。而シテ增額ヲ來シタルハ醫科大學及其他ニ於ケル雜收入ノ增額ニ基因シ、寄附金、基本財產收入等ハ醫科大學ニ係ルモノニシテ、前年ニ比シ減少シ雜收入ノ增額ニ比スレハ甚タ僅少ナリトス。

大阪市ノ經濟ニ屬スル二、二〇七、六六六圓ヲ算ス、本年度ニ於テ東西兩成郡ノ編入セルヲ以テ確實ニ比較シ能ハサルモ强イテ比較スレハ前年度市一、一三〇、三一〇圓、西成郡二五三、五〇二圓、東成郡二一六、六二五圓計一、六〇〇、四三六圓ニ比シ六〇七、二二九圓ヲ增加シ、之レカ內容ヲ示セハ雜收入ノ四七九、〇六〇圓、寄附金一六五、〇四三圓、授業料五九、九一六圓、保育科二四、七七五圓等ハ增加

シ、國庫補助一〇一、一二七圓、府費補助一四、九九三圓、基本財產ヨリ生スル收入五、四四五圓ハ減少シ之等ヲ相殺スレハ以上ノ金額ヲ示ス。其事由ハ高等女學校及實業學校甲ニ於ケル雜收入ノ增收ニ基因スルモノトス。

堺市ノ經濟ニ在リテハ一〇五、五一三圓ニシテ前年ニ比シ四、四三三圓ノ增加ヲ示ス、收入ノ種類別ノ割合ハ授業料最多ニシテ八、五〇五圓84.50%、次ハ雜收入4.32%、保育料2.08%、以下國庫補助2.04%等ナリトス。

岸和田市ノ經濟ニ在リテハ收入總額一六、〇七四圓ニシテ前年ニ比シ一、二四〇圓ノ增額ヲ示ス、其內容ハ保育料最多ニシテ77.09%、次ハ國庫補助2.84%、以下授業料2.51%、基本財產收入1.54%、府費補助1.08%等ニシテ保育料、授業料等ニヨリ增加セルモノナリ。

町村ノ經濟ニ在リテハ六七、九六九圓ヲ示ス、本年度ニ於テ東西兩成郡ハ大阪市ニ編入セルヲ以テ確實ニ前年ト比較シ能ハサルモ、强イテ比較スレハ前年度一、一九四、六九七圓ノ內兩成郡ニ係ル四七〇、一二七圓ヲ控除セル七二四、五七〇圓ニ對シ四四、八七二圓ヲ減少ス、之レカ內容ハ國庫補助二三、〇九六圓、雜收入一八、七九八圓、寄附金一五、二八二圓等ハ減退シ、府費補助四、〇八一圓、保育料三、二一一圓、學校基本財產ヨリ生スル收入二、七五五圓、授業料二、二五七圓等ハ增加シ、以上ヲ相殺シタルモノハ前顯ノ金額ヲ示スモノトス。

公學費支出

本年度ニ於ケル公學費支出總額ハ二四、七三九、八九八圓ニシテ前年度ニ比スレハ三、三八九、九〇一圓(一割三分五厘)五ケ年前ナル大正十年度ニ比スレハ(八分八厘)ノ增額トナレリ。

內府ノ經濟ニ屬スルモノ五、七一一、三三九圓(二割三分四厘)大阪市一五、二八六、九九〇圓(六割一分七厘)堺市四〇一、四九四圓(一分六厘)岸和田市一四四、四〇〇圓(五厘)町村三、一九五、六七五圓(一割二分八厘)ナリ。

府ノ經濟ナル五、七一一、三三九圓ヲ前年ニ比スレハ一、七八八、〇〇八圓ヲ減少ス、費目別經費ノ割合ハ教諭訓導俸給24.35%、次ハ其他ノ諸費13.25%以下新營費22.45%、雜給8.60%、消耗品費7.20%、代用教員俸給5.01%、圖書器械標本費3.66%、幹事書記助手俸給2.36%、學校長俸給1.74%、旅費1.56%、學校生徒給費2.93%、器具費2.28%、修繕費1.09%、校醫手當0.11%、學生舍監俸給0.09%借地借家費0.02%等ニ割合シ、即チ新營費、修繕費、其他ノ諸費等ハ減少ヲ示セルモ教授助教授等ノ俸給、旅費等ニ於テ增加セルモ之等ヲ相殺シタルモ前顯ノ金額ヲ示スニ至レリ。

大阪市ノ經濟ニ屬スルモノ一五、二八六、九九〇圓、前年ニ比シ一、二六五、二五二圓ヲ增加ス。支出ノ費目別ニ見タル割合ハ教授助教授訓導俸給最多ニシテ36.19%、次ハ雜給10.61%以下借地借家費3.53%、器具費2.25%、修繕費2.08%、新營費28.95%、其ノ他ノ諸費7.55%、消耗品費2.07%、圖書器械標本費2.21%、代用教員俸給1.04%、保姆俸給1.07%、學校醫手當0.03%、旅費0.38%、書記俸給0.30%、學校長俸給0.31%、准訓導俸給0.04%、舍監俸給0.03%、生徒給費0.03%等ニ該當ス。

堺市ノ經濟ニ屬スルモノ四〇一、四九四圓ヲ前年ニ比スレハ二四、四二八圓(六分)ヲ增加ス、費目別支出ノ割合ハ訓導俸給半額以上ヲ占メ58.28%ニ當リ、次ハ其他ノ諸費ニシテ13.49%以下雜給5.12%、圖書器械標本費4.91%、器具費4.27%、代用教員俸給2.97%、保姆俸給1.72%、學校長俸給1.34%、書記俸給0.84%、旅費0.42%、借地借家費2.20%、消耗品費2.03%、修繕費2.33%、准訓導俸給0.08%，學校醫手當0.03%等ニ該當ス。即チ其ノ他ノ諸費、訓導俸給等前年ニ比シ著シキ增加ヲ示シ前記ノ金額ヲ示シタルモノナリ。

岸和田市ノ經濟ニ屬スルモノ一四四、四〇〇圓ヲ前年ニ比スレハ一三、八七四圓(九分六厘)ヲ增加ス、費目別支出ノ割合ハ訓導俸給最多ニシテ45.04%、次ハ新營費26.58%、以下雜給8.74%、代用教員俸給3.02%、器具費2.83%、其他諸費2.52%、借地借家費2.82%、修繕費2.08%、保姆俸給1.74%、圖書器械標本費1.64%、消耗品費1.57%、生徒給費0.30%、准訓導俸給0.49%、學校醫手當0.34%、旅費0.25%、等ニ該當ス、前年ニ比シ增加シタルハ兒童增加ニ伴ヒ學校增築ノ新營費ナリ。

町村經濟ニ屬スル支出總額三、一九五、六七五圓ヲ前年ニ比スレハ二、八五六、五九一圓(四割七分)ノ減少セルハ東西兩成郡ノ大阪市ヘ編入セラレタル關係ニ依ル。

費目別經濟ノ割合ハ訓導俸給最多ニシテ50.33%、次ハ新營費17.10%、以下其ノ他ノ諸費5.31%、代用教員俸給5.81%、雜給5.87%、消耗品費3.31%、器具費2.38%、圖書器械標本費2.18%、修繕費2.05%、借地借家費7.82%、准訓導俸給2.72%、保姆俸給0.39%、學校醫手當0.20%、生徒給費0.11%學校長俸給0.06%等ニ該當ス。以上何レモ逐年增加ノ傾向ヲ示セルハ入學兒童ノ增加ニ伴ヒ人件費ノ膨張ト之ニ伴フ諸雜費、設備費ノ增加ナルコトハ勿論ナリ、尙學校ノ種類別ニ依ル支出ノ割合ハ小學校ハ半額以上ノ62.00%、醫科大學15.49%、實業學校14.57%、高等女學校1.70%、中學校2.19%盲聾唖學校0.60%、圖書館0.55%、師範學校0.37%、專門學校0.45%、幼稚園1.30%各種學校0.78%等ニ該當ス。

公學資產

本年度公學資產總額一一九、一二一、八八七圓ヲ前年ニ比スレハ五、〇五一、七一五圓(九分五厘)五ケ年前ナル大正十年度ニ比スレハ(五割九分一厘)ノ增加トナレリ。內府ニ屬スルモノ一割八分一厘、大阪市六割八分五厘、堺市一分七厘、岸和田市三厘、町村一割一分四厘ニ該當ス。

府ノ資產二一、六三八、六四四圓ヲ前年ニ比スレハ一、〇〇七、七九〇圓(一割七厘)ヲ增加ス種類別資產ノ割合ハ整地最多ニシテ46.05%、以下建物40.23%、器械標本5.01%、器具4.98%、圖書價額3.73%等ナリ。即チ以上資產增加シタルハ校舍ノ新築ト之ニ伴フ設備品ノ增大ニ依ルモノナリトス。

大阪市ノ資產八七、六五九、七三九圓ヲ前年ニ比スレハ一五、三〇三、四四〇圓(五割七分二厘)ヲ增加ス種類別資產ノ割合ハ敷地價額最多ニシテ52.11%以下建物41.20%、器具3.60%、器械標本2.51%、圖書0.58%等ニ該當シ之亦增校ニ依ル自然增加ナリトス。

堺市ノ資產二、一二六、三〇圓ヲ前年ニ比スレハ一二七、四五五圓(一割六厘)ヲ增加ス。種類別資產ノ割合ハ敷地價額最多ニシテ46.46%以下建物43.01%、器具價額5.49%、器械標本價額2.78%、圖書2.26%等ニ該當ス、即チ前年ニ比シ增加セルハ土地價額ノ騰貴及器具等ニ依ル。岸和田市ノ資產四四八、六八五圓ヲ前年ニ比スレハ四一、七七一圓(一割一分)ヲ增加ス。種類別資產ノ割合ハ建物價額60.53%、以下敷地價額32.70%、器具價額4.43%、器械標本價額1.20%、圖書價額1.14%等ニ該當シ、前年ニ比シ增加セルハ建物價額ノ增加ニ依ルモノナリ。

町村ノ資產八八、二七三、四三九圓ヲ前年ニ比スレハ一〇、四〇三、九一一圓(二割一分四厘)ヲ減少ス種類別資產ノ割合ハ建物價額最多ニシテ66.12%、以下敷地價額21.83%、器具價額5.25%圖書價額3.

12%、器械標本價額3.06%、其他附屬地0.62%等ニ該當ス、減少ノ原因ハ東西兩成郡ノ市ニ編入セル結果ニ依ル。尙資產ノ學校ノ種類別ニ觀タル狀況ハ總數一一九、一二一、八八七圓ノ內小學校ニ係ルモノ最多ニシテ67.24%、以下實業學校10.26%、中學校5.62%、高等女學校4.71%、幼稚園4.36%、醫科大學2.62%、圖書館1.13%、師範學校0.88%、盲聾啞學校0.02%、各種學校0.03%、女子專門學校0.46%等ニ割合ス。更ニ小學校ニ屬スル資產總數八〇、九九五、八八四圓ヲ前年ニ比スレハ四、五七六、九五五圓(九分四厘)ヲ增加ス、而シテ郡市ニ於ケル割合ハ大阪市最多ニシテ87.36% 以下堺市2.13% 中河內郡1.67%、豐能郡1.58%、泉南郡1.51%、泉北郡1.52%、南河內郡1.41%、三島郡1.34%、北河內郡1.02%、岸和田市0.46%等ニ該當ス。

學校基本財產積立金

基本財產及積立金ノ增殖ニ關シテハ常ニ留意シ逐年良好ノ域ニ進展シツヽアリ、而シテ本年度ニ於ケル土地、建物、器械標本、器具等ノ價額ハ一二〇、一四六、七一七圓、學校基本財產金額ハ一、八六二、六〇七圓、內現金六三九、二三八圓、公債二五八、三〇三圓、債券九六五、〇六七圓ナリ同土地ノ價額一七八、五七二圓、建物價額六、七一四圓、尙積立金二、七四五、五〇五圓內現金一、四七三、八三二圓、公債八二〇、五九九圓、債券四五〇、六二四圓ニシテ計一二四、九三九、六六六圓ニ達シ之レカ維持狀況ハ極メテ順調ナリ。

教育資金

本年度ニ於ケル教育資金貸付金ハ一六五、八二四圓、本年中ニ貸付セシ金額五四、四〇〇圓ニシテ內町村四五三圓九、一〇〇圓ハ學校町村組合ニ對スルモノトス。又本年度內戻入金額ハ五六、七九三、二三〇厘ニシテ町ニアリテハ九六〇圓、村ニアリテハ四二、二四三圓、町村學校組合ニ在リテハ九〇〇圓トス其他資產ノ使途ヲ擧クレハ小學校教員疾病療治料ニナク普通教育奬勵金一二、五六九圓ニシテ何レモ適切ニ使用シタルモノナリ。

市町村立小學校教員加俸資金

本年度ニ於ケル國庫配布金七九、〇七四、九七〇厘ニシテ府費充當金七四、五九一圓支出年功加俸一四六、八一七、四九〇厘、特別加俸九六六圓ナリ前年ニ比シ增加ヲ見タルモ大差ナシ。

市町村立小學校義務教育費國庫負擔金

本年度ニ於テ交付金ニ依ルモノ一、〇八一、七〇五、四三〇厘第五條ニ依ルモノ二三、五七三圓計一、一〇五、二七八、四三〇厘ナリ之レヲ法規ノ示ス所ト管內町村ノ實情ニ鑑ミ適當ニ割當交付セリ然レトモ市町村經濟ノ內容ヲ觀ルニ歲出豫算ノ大部分ハ教育費ニ充當セラレ逐年增加ノ狀況ヲ示シ財政上大ニ考慮ヲ要スヘク之レカ緩和策ハ國庫交付金ノ益々增額ヲ希望スル所ナルモ反ツテ前年度ニ比シ第三條ニ依ルモノ一〇三、四五六、一一〇厘第五條ニ依ルモノ一九、六二九圓計一二三、〇八五、一一〇厘ノ減少ヲ見タルハ誠ニ遺憾トスル所ナリ然レ共一般ノ狀況ハ逐年良好ノ域ニ進ミツヽアリ。

第一六　救　濟

府下ニ於ケル公私各方面ノ社會事業ハ逐年隆盛ニ趣キ諸種ノ救濟事業機關ノ增設又ハ既設ノ社會事業團體ハ其ノ內容充實改善ニ努力シ、一般社會モ亦之ヲ利用シ、又ハ救濟セラレタルモノ著シク增加シ

ツヽアリ。殊ニ大阪市ニ在リテハ夙ニ社會事業ニ最モ努力シ、其ノ機關ヲ整備シ、各種ノ社會問題ニ對シ常ニ適切ナル施設經營ヲ企圖シ實行シツヽアリテ、本年度ニ於テハ幼兒保育所、共同宿泊所、職業紹介所、質舖、住宅等ヲ增設セリ、就中職業紹介事業ノ如キハ一般職業紹介、又ハ勞働職業紹介等ニ最モ意ヲ用ヒ、其ノ成績亦優良ニシテ常ニ斯界ニ覇ヲ爲シツヽアリ。更ニ私設團體ノ事業ニ在リテハ一々列擧スルニ遑アラスト雖其ノ最モ著シキモノハ內鮮協和會ノ活躍ナリトス。近時朝鮮人ノ內地移住者ハ頓ニ增加シ、彼等ハ徒ニ遠ク故鄕ヲ離レテ本土ニ來ルモ事志ト違ヒ不遇ニ苦シムモノ多クノ之レカ救濟ハ誠ニ緊切ナリ、即チ內鮮融和ヲ目的トスル同協和會ハコヽニ着眼シ、昨年貧兒敎育、職業紹介、宿泊救護、施藥、救療等ノ事業ヲ開始シテ以來其ノ効果著シク、本年更ニ宿泊所、診療所ヲ增設シ彼等ノ生活ノ改善向上ニ銳意活躍セリ。

救　恤

大正十四年中各市町村ニ於テ救助シタル人員ハ千三十三人アリテ前年ニ比シ二百五十三人多ク、ソノ內前年ヨリ越シタルモノ三百五十三人(三割四分二厘)、本年新規救助六百八十人(六割五分八厘)トス。

以上ノ內年內ニソノ救助ヲ廢止シタルモノ二百二十八人、前年ヨリ百八十一人數ク、死亡シタルモノ二百十四人アリテ前年ヨリ三十五人ヲ增セリ。

年末ニ於テ現在救助中ノモノハ五百九十一人アリテ前年末ニ比スレハ二百三十六人多ク、更ニ此ノ五百九十一人ヲ事由別トスレハ、疾病二百二十六人(三割八分三厘)、老衰百七十四人(二割九分四厘)、幼弱百五十六人(二割六分四厘)、癈疾三十五人(五分九厘)ニ當ル。

本年中ノ救助人員ヲ郡市別ニ見レハ、大阪市九百人、堺市八十七人、南河內郡二十七人、泉北郡十二人、其ノ他ハ少クシテ岸和田市四人、泉南郡三人ナリトス。

以上救助ニ要シタル費額ハ總計五萬三千九百十圓ニ及ヒ、前年ヨリ三千七十三圓多ク、ソノ負擔別ハ市費五萬三千三百三十八圓(九割九分)、町村費二百八十一圓(五厘)、國費二百九十一圓(五厘)ニ該當ス。

棄兒養育

十四年中ニ於ケル養育人員ハ、六十一人前年ニ比シ十四人少ク、內前年ヨリ越シタルモノ五十人、本年新ニ養育十一人トス。

養育廢止シタル人員ハ十五人、前年ニ比シ二人少ク、死亡シタルモノハ皆無ナリ。年末ニ於ケル現在員ハ男二十九人女十七人、計四十六人ナリ、前年末ニ比シ十一人ヲ減ス。

本年中ノ養育者ノ郡市別ハ大阪市五十七人、三島郡二人、堺市、泉北郡、各一人ナリトス。

以上ニ要シタル費額ハ五千五百七十六圓ニシテ、內府費大部分ノ四千百七十八圓(七割四分九厘)、國費千百十圓(一割九分九厘)、私費二百八十八圓(五分二厘)等ニ割合ス。

行旅病人及行旅死亡人

十四年中ニ救護シタル行旅病人ハ千五百八十七人、前年ニ比シ百五十二人多ク、男女ニ分テハ、男千三百人、女二百八十七人トス。更ニ前年ヨリ越シタルモノハ二百七十七人(一割七分四厘)、本年新ニ

救護千三百十人(八割二分六厘)ナリ。

以上ノ内救護廢止シタルモノハ引渡百七十八人(一割三分九厘)、退去四百六十四人(三割六分二厘)、逃亡二百八十七人(二割二分五厘)、死亡三百四十九人(二割七分四厘)。計千二百七十八人ナリ)。年末ニ於ケル現在收容人員ハ三百九人、前年末ニ比シ三十人多ク、内男二百四十八人、女六十一人トス。

以上行旅病人ニ要シタル府費支辨金額ハ三萬九千六百三十九圓トシ、前年ニ比シ二萬千八百六十四圓減少ス。

本年中ノ行旅死亡人ハ男二百八十八人、内病死七十三人(二割五分三厘)、變死二百十五人(七割四分七厘)ニシテ女ハ七十九人、内病死七人(一割二分七厘)、變死七十二人(八割七分三厘)ナリ。

此等死亡人ニ要シタル金額ノ内府費支辨ノ額ハ二千九百六十七圓ヲ數ヘ前年ヨリ千百二十六圓減少シタリ。

感化事業

府立修德館ニ於ケル十四年中ノ概況左ノ如シ。

本年中ノ入院總數ハ三百八十九人、前年ニ比シ四十二人ヲ增シ、内前年ヨリ越シタルモノ三百一人七割七分三厘)、本年新ニ入院シタルモノ八十八人(二割二分七厘)、ニ當ル。更ニ總數三百八十九人ヲ區別スレハ命令ニ依ルモノ百三十五人(三割四分七厘)、出願ニ依ルモノ二百五十四人(六割五分三厘)トス。退院者總數ハ五十一人、前年ヨリ五人多ク、事由別ニ見レハ改悛二十四人(四割七分一厘)逃亡十人(一割九分六厘)ヲ占メ、滿年及其ノ他ノ事故各六人(一割一分七厘)、疾病三人、(五分九厘)犯罪二人(四分)ニ割合ス。

年末ニ於ケル現在員ハ三百三十七人、内男二百八十九人、女四十七人アリ、前年末ニ比シ三十六人ヲ增ス。之カ種別ハ在院者百七十人(五割四厘)、假退院七十三人(二割一分七厘)、他ノ委託六十三人(一割八分七厘)無斷外出二十八人(九分二厘)ニ該當ス。年末現員三百三十七人ヲ身分別トスレハ公生二百五十六人(七割六分)、私生六十七人(二割二分六厘)、不詳十四人(一分四厘)ニ當リ前年ト大差ナシ。

更ニ收容當時保護者トノ關係ヲ見ルニ、實父母又ハ實父實母ノミノモノ百五十五人(四割六分二厘)ヲ占メ、繼父實母、實父繼母又ハ繼父母ノミ九十六人(二割八分四厘)、親族三十九人(一割一分六厘)、養父母又ハ養父養母ノミ十八人(五分三厘)、他人三人(九厘)、保護者ナキモノ二十六人(七分六厘)等ニ割合シ、前年ニ比シ大差ナクモ保護者ナキモノハ增加シ他人ノモノハ減少ス。

尙進ンテ收容當時ノ年齡ニ及ヘハ十歲未滿百二十四人(三割六分八厘)、十二歲未滿百十三人(三割三分五厘)、十四歲未滿八十八人(二割六分一厘)、十六歲未滿十一人(三分三厘)、十八歲未滿一人(三厘)ニ當リ、前年ニ比スレハ十歲未滿ノモノ減少セルモ十歲以上ノモノハ增加セリ。

改悛退院シタルモノハ十四歲未滿ノモノ二十四名ニシテ十四歲以上ノモノニハ一名モナク、而シテ十四歲未滿ノ收容者ノ在院期間ノ長短ヲ檢スルニ、三年以上四年未滿、四年以上五年未滿各六人、三年未滿五人、二年未滿四人、一年未滿三人アリ。更ニ退院後ノ方途ハ自家ニ在ルモノ、十三人、他家ニ入リタルモノ十一人、其ノ内譯ハ工業從事者十三人、商業從事者三人、農業從事者一人、其ノ他七人

ナリ、

幼兒保育事業

本事業ニ關スルモノ九箇所アリ、内市營三、財團法人二、個人三トシ、前年ニ比シ市營一ヲ增ス。

本年中ニ保育シタル幼兒二千五百五十八人ヲ算シ、前年ニ比シ二百四人ヲ增加シ、内前年ヨリ越シタルモノ千百八人(　？　)、本年新ニ保育シタルモノ千三百九十人(　？　)ナリ、更ニ男女ニ分ツレハ男千三百七十九人、女千百七十九人ナリ。

本年退所シタル人員ハ男七百三十六人、女五百九十六人、計千三百三十二人トシ、前年中ニ於ケル同人員ニ比シ百九十二人多ク、又前記保育人員總數ニ比スレハソノ五割二分一厘ニ該當ス。

年末ニ於ケル現在人員ハ男六百四十四人、女五百八十七人、計千二百三十一人ニテ前年末現在ヨリモ十人ヲ增加シ、尙入所保育人員ハ四割八分一厘ニ相當ス。更ニ之ヲ年齡ニ依リ分類スレハ三歲乃至六歲八百四十九人(六割九分)、六歲以上二百六十八人(二割一分八厘)一歲乃至三歲百人(八分八厘)、一歲未滿三人(四厘)ニ當リ、前年同一事實ニ對比スレハ年齡ノ分布三歲乃至六歲ノ階級ニ著シク集中サレタルヲ見ル。本年中ノ保育人員延數ハ男十三萬五百九十二人、女十一萬七千三百三人、計二十四萬七千八百九十五人ニ達ス。

保育入所人員二千五百五十八人ヲ箇所別トスレハ、弘濟會保育部千三百八十人、不動保育園三百六十六人、泉尾愛兒園五十人櫻宮託兒所百三十九人、鶴町第一託兒所百三十八人、同第二託兒所二百二十五人、愛染託兒所七十八人、鷺洲保育園三十九人、鶴橋保育園百〇二人ナリ。

婦人保護事業

本年事業ニ關スルモノハ節婦館、救世軍女子希望館二箇所ナリ。

本年中保護人員四十七人ニシテ、前年ニ比シ三十二人增加セリ、其ノ内前年ヨリ越シタルモノ十五人、本年入所三十四人ナリ。退所人員三十三人ニテ前年同事實ヨリ二十六人多ク、入所保護人員ノ五割三分一厘ニ該ル。

本年中保護人員ヲ箇所別トスレハ節婦館十四人、救世軍女子希望館三十五人ナリ。

育兒事業

前年ト同ク財團法人三、社團法人二、計五ナリ。

本年中育兒人員六百四十五人、前年ニ比シ6人ヲ減ス、其ノ内前年ヨリ越人員四百七十六人(七割三分八厘)、本年新ニ育兒百六十九人(二割六分二厘)ニ當リ、男女ニ別テハ男三百七十九人、女二百六十六人ナリ。

本年中ニ退所シタルモノハ百四十五人、前年事實ヨリ五人減シ、内男九十一人、女五十四人トス、退所人員ヲ事由ニ依リ分ツレハ父母又ハ親族ヘ引渡百十五人(七割九分三厘)、就業其ノ他獨立ノ爲六人(四分一厘)、養子女トシテ引渡四人(二分八厘)、其ノ他二十人(一割三分八厘)ニ該リ、前年ノ割合ニ比スレハ其ノ他ノ者增加セルモ他ハ何レモ減少セリ。入所中死亡シタルモノ男十四人、女十六人、計三十人ナリ、前年ノ死亡者數ヨリ五人多シ。

年末ニ於ケル現在收容者ハ四百六十六人ニシテ前年末ニ比シ十人減ク、内男二百七十一人、女百九十五人ナリ。之ヲ收容當時ノ狀態別ニ見レハ棄兒百七十一人(三割六分七厘)、貧兒百二十九人(二割七

分七厘)、孤兒六十二人(一割三分三厘)、其ノ他百四人(二割二分三厘)ニ該リ、前年ノ割合ニ對比セハ大差ナキモ孤兒ハ減少シ棄兒ハ增加ス。更ニ年齡別トスレハ十八歲以上百六十人(三割四分三厘)、六歲乃至十四歲百四十六人(三割一分三厘)、十四歲乃至十八歲八十二人(一割七分六厘)、一歲乃至三歲四十人(八分六厘)、三歲乃至六歲三十八人(八分二厘)ニ相當シ、前年ノ割合ニ對比スレハ夫々大ナル差異ヲ見サルモ三歲乃至六歲ノモノ比較的增加セリ。

年末現在員ノ內他ヘ委託シタルモノ二百五十六人、即チ徒弟見習百八十一人、里子六十五人、其ノ他十人ナリトス。

本年中育兒人員ヲ箇所別ニ見レハ弘濟會育兒部二百七十六人、大阪聖約翰學園二十八人、愛育社百三十人、大阪汎愛扶殖會三十四人博愛社百七十七人ナリ。

乳兒哺育事業

前年ト同樣堀川今宮ノ二ケ所ナリ。

兩所ニ於ケル入所人員三百八十一人、前年ニ比シ三十人ノ增加ニ當リ、內前年ヨリ越シタルモノ八十二人(二割一分五厘)、本年入所二百九十九人(七割八分五厘)ナリ。總數ノ內男百七十九人(四割七分)女二百二人(五割三分)ナリ。本年中ノ退所人員ハ期間滿了1人、事故退所二百八十七人、計二百八十八人ニシテ入所總員ノ七割五分六厘ニ該當ス。

年末ニ於ケル現在哺育人員ハ男四十三人、女五十人、計九十三人ナリ、前年ニ比スレハ十一名多ク、又入所總數ノ二割四分四厘ニ當ル此ノ九十三人ヲ年齡別ニ見レハ生徒一年以上ノモノ六十二人(六割六分七厘)、二百日以上一年未滿十五人(一割六分一厘)、百五十日以上二百日未滿十人(一割八厘)、百日以上百五十日未滿六人(六分四厘)ニ該當ス。之ヲ前年ノ割合ニ比スルトキハ二百日以上一年未滿ノモノハ減少シ、百五十日以上二百日未滿ノモノハ增加セリ。

本年中延哺育人員ハ一萬九千八百七十六人ニ達シ前年ニ比シ三千七十七人多シ。

入所哺育總員ノ箇所ハ堀川乳兒院百七十三人、今宮乳兒院二百八人、又哺育延人員ハ堀川一萬九百五十三人今宮八千九百二十三人ナリ。

貰兒敎育事業

總數十三ケ所ナリ。內市立二、財團法人十一、トシ前年ニ比シ一ヲ減ス。本年中ノ入學人員ハ二千八人ナリ、前年ニ比シ八百七十人餘シ、內前年ヨリ越シタルモノ千三百四十人(六割六分七厘)、本年入學六百六十八人(三割三分三厘)トス。而シテ總數ノ內、男千三百三十三人、女六百七十五人ヲ示ス。

本年中ニ於ケル卒業者男百五十二人、女八十七人、計二百三十九人、退學者男二百三十七人、女百五十四人、計三百九十一人ニシテ前年ニ比シ退學者ハ約七百人餘ク、卒業者ハ殆ント差異ナシ。入學者總數ニ對スル卒業者ノ割合ハ一割一分五厘、退學者ハ一割八分三厘トス。

年末ニ於ケル現在員ハ男九百六十人、女四百四十九人、計千四百九人ナリ、昨年末ニ較ヘ百三十八人餘シ、之ヲ通學別トスレハ自家通學千二百二十一人(八割六分七厘)、他家通學百八十八人(一割三分三厘)ナリ、前年ニ比シ他家通學ノモノ、割合減少ス。

年末現在員千四百九人ノ內、內鮮協和會ニ屬スル四ケ所ニ就テハ年齡別不明ナルヲ以テ、之ヲ除キタル數千百九十八人ヲ年齡別トシ見レハ、十歲以上十四歲未滿五百十八人(四割三分二厘)、十歲未滿四

百十五人(三割四分六厘)、十四歲以上十八歲未滿二百十二人(一割七分七厘)、十八歲以上二十歲未滿三十七人(三分一厘)、二十歲以上十六人(一分四厘)ニ該當シ、前年ニ比シ十歲未滿ノ割合最モ多ク增加セリ。

本年中敎育總人員二千八人ヲ箇所別ニ見レハ大阪市營ニ係ル二ケ所八百二十二人、私立弘濟小學校七十二人私立堺累德小學校ニ係ル三校二百六十二人、私立岩崎特志夜學校百八十九人、私立愛染小學校ニ係ル二校四百二十三人、內鮮協和會ニ係ル四校二百四十人ノ割トス。

異常兒敎育事業

前年同樣桃花塾一ケ居ナリ。

本所ニ於テ本年中敎育シタルモノ男二十五人、女四人、計二十九人ナリ、前年ニ比シ五人多シ、ソノ內前年ヨリ越シタルモノ二十二人、本年新規七人ナリ。

本年中ニ終了シタルモノハナク、中途退學シタルモノ二人ナリ、而シテ年末ニ於ケル現在員ハ二十七名トス、是等ハ皆前年ト等シク他家通學ノモノヽミナリ、尙年齡別ハ十歲以上十四歲未滿十人、十四歲以上十八歲未滿九人、十八歲以上二十歲未滿四人、二十歲以上三人、十歲未滿一人等ナク。

盲啞敎育事業

本事ニ關スルモノハ六ケ所ニシテ、內市立二、社團法人一、會員組織一、個人經營ニナリ。前年ニ比シ個人經營一ケ所增加ス。

本年中ニ於テ敎育シタル總數ハ盲生五百十四人、聾啞生三百二十六人ニシテ前年ニ比シ前者ハ九十五人多ク、後者ハ九十四人尠シ。總數ノ內盲生ニ在リテハ前年ヨリ越員二百三十七人(四割六分一厘)、本年新規二百七十七人(五割三分九厘)ニ當リ、聾啞生ニ在リテハ前年ヨリ越員二百三十人(七割六厘)、本年新規九十六人(二割九分四厘)ニ該ル。

本年中ニ卒業セルモノ盲生九十六人、聾啞生六十一人、之ヲ前年ニ比スレハ前者ハ二十八人、後者ハ四十一人多ク、尙敎育總人員ニ對シ兩者共其一割八分七厘ニ相當ス。

本年中ニ中途退學セシモノ盲生百十九人、聾啞生二十七人、之ヲ前年ニ比スレハ前者ハ七十人多ク、後者ハ百三人尠シ、尙敎育總人員ニ對スル割合ハ盲生ハ二割三分二厘ニ、聾啞生ハ八分七厘ニ該當ス。

本年末ニ於ケル現在員ハ盲生二百九十九人、聾啞生三百六人ナリ、之ヲ前年ニ比スレハ前者ハ八人尠ク、後者ハ七人多ク、更ニ年末現員ヲ通學別トスレハ盲生ニ在リテハ通學二百六十人(八割七分)、寄宿ハ三十九人(一割三分)ニ當リ、聾啞生ニ在リテハ通學二百五十六人(八割三分七厘)、寄宿五十人(一割六分三厘)ニ割合ス。次ニ年末現員ヲ年齡別トスレハ盲生ニアリテハ二十歲以上百四十三人(四割七分八厘)、十四歲以上二十歲未滿百五人(三割五分一厘)、十四歲未滿五十一人(一割七分一厘)ニ當リ。聾啞生ニアリテハ十四歲未滿百九十九人(六割五分)、十四歲以上二十歲未滿九十五人(三割一分)、二十歲以上十二人(四分(ニ割合ス。即チ盲生、聾啞生ヲ對比スルニ前者ハ年齡ノ長スルニ從ヒ多キモ後者ハ反シテ年齡ノ低キモノ程多數ナルヲ見ル。

本年中敎育總人員ヲ箇所別トスレハ聾啞生三百二十六人ハ市立聾啞學校ノミトシ、盲生ニ在リテ市立盲學校百八十一人、大阪訓盲院百六十三人、東盲人保護協會五十九人、北盲人保護協會五十八人積德

盲學校五十三人ナリトス。

職業紹介事業

本年ニ於ケル紹介所ノ二十七ケ所ヲ數ヘ前年ニ比シ二ケ年ヲ增加ス、即チ組織經營別トスレハ市營十九財團法人八ニシテ、市營ニ係ル十八ケ所ノ內四ケ所ハ勞働紹介ニ從事セリ。今一般紹介ノ內ニモ勞働紹介ヲナスモノアルヘキモ區別シ能ハサルヲ以テ特ニ市營勞働紹介所ノ分ヲ勞働紹介トシ、其ノ他ヲ一般紹介トシテ概說スレハ次ノ如シ。

一　般　紹　介

本年中ニ於ケル求職申込數ハ男二十五萬八千四百五十二人、女二萬五千八百五十三人、計二十八萬四千三百五人ナリ、前年ニ比シ男三萬九千百九十八人(一割三分二厘)減ク、女七千百四十二人(三割八分二厘)多ク、計ニ於テ三萬二千五十六人(一割三厘)減少ス。

求職申込者中紹介シタル人員ハ男十六萬七百八十七人、女二萬千二百五十三人、計十八萬二千四十人之ヲ前年ニ較レハ男二萬五千七百五十七人(一割三分八厘)減ク、女四千百九十六人(二割四分六厘)多ク、計二萬千五百六十一人(一割一分六厘)減シ、男ハ申込者ノ六割二分二厘、女ハ七割八分三厘ニ當ル。

本年中ニ於ケル需用者申込數ハ男二十一萬七百五十九人、女四萬五千百六十二人、計二十五萬五千九百二十一人ナリ、之ヲ前年ト對比スルニ男七萬二千五十四人(二割五分五厘)減ク、女ハ六千六百五人(一割七分一厘)ヲ增シ、即チ計ニ於テ六萬五千四百四十九人(二割四厘)ヲ減シタリ。更ニ求職申込者ニ對スル此ノ需用申込者ノ割合ヲ算出スレハ男八割一分七厘ニ當リ、女ハ實ニ十七割五分ニ該ル、即ヲ男子ハ求職者多キニ拘ラス需用者少ク、以テ就職ノ困難ナル顯ハシ女子ハ需用者著シク多ク、爲ニ就職比較的容易ナルモノアルヲ示セリ、尙之ニ關シテ後述申込者ニ對スル就職者ノ割合ヲ見レハ一層明カナルヲ得ヘシ。

本年中ニ於ケル求職申込者中就職シタルモノハ男七萬八千七百五十五人、女一萬一千三百十五人、計九萬七十人ナリ、前年ヨリ男二萬七千八百六十人(二割六分一厘)減ク、女七十九人(七厘)多ク、計二萬七千七百八十一人(二割五分四厘)減少セリ。而シテ申込者ニ對スル割合ハ男三割五厘、女四割三分九厘ニ當リ、前說ノ如ク女ノ就職甚タ多ク容易ナルヲ知ル。既往五ケ年間ニ於ケル此ノ就職歩合ハ男ニ在テハ大正十年七割一厘、十一年三割八分三厘、十二年三割二分四厘、十三年三割五分八厘、大正十四年三割五厘トナヒ、女ニ在リテハ大正十年六割八分、十一年三割七分八厘、十二年五割一分二厘十三年六割九厘、十四年四割三分九厘ニ當リ、男女共十年最モ割合好ク其ノ後亦振ハス、前年稍好況ヲ呈シタルモ本年亦振ハス。

更ニ需用者ニ對スル就職者ノ割合ヲ見ルニ男三割七分四厘、女二割五分一厘ニ該當シ、最近五ケ年間ニ於ケル狀勢ハ、男ニ在リテハ大正十年九割九分二厘、十一年七割三分二厘、十二年三割六分二厘、十三年三割七分七厘、十四年三割七分四厘ヲ示シ、女ニ在リテハ大正十年二割一分一厘、十一年一割三分三厘、十二年一割二分一厘、十三年二割九分六厘、十四年二割五分一厘トナリ、男ノ割合概シテ低キヲ見ル。就職者總數六萬六千六百三人ヲ職業別ニ觀察スレハ工業及鑛業一萬七千七百三十七人(二割六分六厘)、商業一萬四千四百二十人(二割一分七厘)、土木建築一萬二千二百四十五人(一割八分五厘)、雜業一萬二千三百四十人(一割八分四厘)、戶內使用人六千八百十人(一割二厘)、通信運輸二千九百六十六人(四分五厘(農林業八十五人(一厘)ニ割合シ、前年ニ比シ著シキ增減ナシ。

勞　働　紹　介

本年中ニ於ケル求職申込數ハ二十七萬九百八十五人(男ノミトス)ナリ、前年ニ比シ四萬二千百八十六人ヲ增加セリ。

本年中ニ於テ前記申込者ノ內紹介シタル數ハ二十萬二百三十八人、前年ヨリ二萬六千八百六十一人ヲ增加ス。

就職者總數ハ即チ紹介セラレタルモノ全部ナルヲ以テ前記紹介人員ト等シク二十萬二百三十八ヲ算ス而シテ申込者總數ニ對スル割合ハ七割三分九厘ニ該當シ、前年ニ比シ割合低ク、尙最近五ケ年間ニ於ケル何レノ年ノ割合ヨリモ不良ナリ、即チ此割合ヲ示セハ大正十年八割四分三厘、十一年八割五分七厘、十二年八割九厘、十三年七割五分八厘、十四年七割三分九厘等ナリトス。

此ノ就職者ハ又需用者ノ多寡ニヨリテ左右セラレ、一般職業紹介ト趣ヲ異ニシ需用者カ申込ミタルハ直チニ全部求メニ應セラルヽヲ以テ、從ツテ前記紹介數就職數ト共ニ相均シキ數ヲ示セリ。

宿泊救護事業

十三年中ニ於ケル經營箇所財團法人八、市營三、個人經營一、計十二ケ所ナリ、前年ニ比シ財團法人一ケ所ヲ增ス。

本年中ニ於テ宿泊セシメタル實人員ハ男三萬七千四百六十六人、女百一人、計三萬七千五百六十七人ニシテ、前年ニ比シ、男九千九百三十六人、女二人、計九千九百三十八人多ク、之等宿泊人ノ一ケ年中延人員ハ實ニ六十二萬五千百十一人ヲ算シ、前年ニ比シ九萬六千六百七十人(一割八分三厘)多シ。

而シテ之カ月別ハ十二月ノ五萬七千九十九人(九分一厘)最モ多ク、十一月ノ五萬千五百七十四人(八分三厘(之ニ亞キ二月ノ四萬六千七百五十九人(七分五厘)ハ最寡ナリ、之ヲ前年ニ比スルモ順位ニ大ナル差異ヲ見ス。

宿泊延人員ヲ館所別ニ見レハ大阪曉明館一萬四千百六十六人、大阪職業紹介所七萬四千四百七十九人市營共同宿泊所二十九萬四千九百六十一人、大阪自彊館八萬三千六百十七人、日本海員掖濟會一萬三千四百三十七人、天滿職業紹介所八萬千三百九十三人、內鮮協和會共同宿泊所六萬三千五十八人等ナリトス。

養　老　事　業

箇所數ハ前年ト同シク財團法人三ナリトス。三ケ所ニ於ケル入院者中前年ヨリ越シタルモノ百四十四人(四割四分九厘(、本年新ニ入院シタルモノ百七十七人(五割五分一厘)、計三百二十一人ナリ、前年ヨリ總數ニ於テ十九人少ク、內男百二十九人、女百九十二人トス。

本年中ハ退院者總數ハ百十一人、之ヲ前年ニ比スレハ二十四人減ク、內男女ニ分ツレハ男五十人、女六十一人ナリ。退院者ヲ事由ニヨリテ分テハ扶養義務者ヘ引渡シタルモノ十七人(一割五分四厘)、事故ニヨルモノ九十四人(八割四分六厘)ニ割合シ、前年ニ比シ大差ナシ。

本年中ノ死亡者ハ三十七人、前年ヨリ二十四人減ク、內男十五人、女二十二人トス。

年末ニ於ケル現在人員ハ百七十六人、内男六十四人、女百十二人ニシテ前年末ヨリ三十二人多ク、之カ健否分類別ハ健康者百十七人(六割六分四厘)病弱者五十九人(三割三分六厘)ニ當リ、前年ノ割合ニ比シ大差ナキモ健康者ハ增加シ、病弱者ハ減少ス。更ニ年齡別トスレハ七十歳以上八十歳未滿六十八人三割八分六厘六十歳以上七十歳未滿五十人(二割八分四厘)、六十歳未滿三十五人(一割九分九厘)八十歳以上二十三人(一割三分一厘)ニ該當シ、前年ノ割合ニ比スレハ七十歳以上八十歳未滿ハ減少セルモ他ハ何レモ增加セリ。

本年中入院者總數ノ箇所別ハ大阪養老院百五十七人弘濟會養老院百四十三人、堺養老院二十一人ナリトス。

施藥救療事業

市營五、府縣立一、財團法人十一、會員一、計十八ケ所ナリ、前年ニ比シ一ケ所ヲ增セリ。

十四年中ニ於ケル入院患者總數ハ六千九百三十四人ヲ示シ、前年ヨリモ千四百九十四人多ク、內前年ヨリ越シタルモノ千二百五十三人(一割八分一厘)、本年入院五千六百八十一人(八割一分九厘)ニ割合ス、之レカ年中ノ延人員ハ五十一萬七千五百七十六人ニ當レリ。(大阪市立市民病院ハ大正十四年不明ニ付總數ニ算入セス)

本年中ニ於ケル外來患者ノ總數ハ二十二萬三千七百六十五人ヲ算シ、前年ニ比シ一萬七千五百七十五人多ク、之レカ延人員ハ實ニ百九十九萬六千八百八十人ヲ數ヘ、入院延患者數ノ約四倍以上ナリ。

入院患者中年內ニ退院シタル人員ハ四千三百三十四人、前年ニ比シ七百二十九人多ク、又死亡シタルモノハ千百四十三人、前年ヨリ三百五十六人多ク、而シテ年末ニ於ケル現在員ハ千三百三十五人ニシテ前年末ニ比シ四百八十三人多シ。

入院及外來患者ノ主ナル疾患ヲ列擧スレハ、肺結核五千三百一人、其ノ他ノ結核九百人、花柳病八千七百四十一人、トラホーム八千二百九十二人、何レモ前年ヨリ增加ス。

以上ノ各ケ所ノ內大阪慈惠病院、實費診療所大阪支部、日本赤十字社結核療養所、日本海員掖濟會等ハ入院患者多ク、赤十字社支部病院、濟生會實費診療所、堺公民病院等ハ外來患者多ク、又外島保養院、刀根山療養所ハ入院患者ノミ、每日新聞慈善團、信貴山成福院積德會、內鮮協和會登崎診療所、同中道診療所、堀川、今宮兩乳兒院等ハ外來患者ノミナリトス。

釋放者保護事業

財團法人四、會員組織三、計七ケ所ニシテ前年ト同樣ナリ。

十四年中ニ於ケル保護人員ハ千三百八人、前年ニ比シ九百五十四勘ク、內前年ヨリ越シタルモノ三百十二人(二割三分九厘)本年新ニ保護九百九十六人(七割六分一厘)トス。以上ノ外一時的ニ保護シタル數七百七十八人アリ、前年ヨリ七百四十九人勘シ。

本年中ニ保護ヲ解除シタルモノハ、總數ハ千七十七人ニテ、前年ニ比シ五百十四人ヲ減シタリ、ソノ種別ハ他ハ引渡三百八十三人(三割五分六厘)、保護ノ必要ナキニ至リタルモノ二百五十三人(二割三分五厘)、親族引渡シ二百八十一人(二割六分一厘)、無斷退會百二人(九分五厘)、其ノ他四十六人(四分三厘)、入監十二人(一分)等ニ割合シ、之ヲ前年ニ比スレハ親族引渡ハ增加シ、保護ノ必要ナキニ至リタル者ハ減少シ他ハ大差ナシ。

年末ニ於ケル現在員ハ直接保護收容二十五人、間接保護收容八百五人ニシテ間接保護著シク多シ、更ニ直接保護者ノ延總員ハ二萬五百七十八人、內男二萬五百五十八人、女二十人ナリ、前年ヨリ五千百八十二人勘ク、異ニ女ハ著シク減少セリ。

產　院

前年市營三、個人二計五ケ所ナリシモ個人一ケ所減シタリ。

大正十四年中ニ於ケル産褥婦診療人員ハ一萬二千百二十四人、前年ニ比シ二千四百十一人多ク、內入院セルモノ三千三百八十八人(二割七分九厘)、自宅八千七百三十七人(七割二分一厘)ニ當ル。

以上診療人員ノ內診療廢止九千七百四十三、死亡三十三人ナリテ前者ハ三百六十九人多ク、後者ハ十五人勘シ。

年末現在員ニ於ケル診療人員ハ千八百七十一人、前年ヨリ九百二十九人勘ク、又年中ニ於ケル延人員ハ六萬三百四十五人ヲ算シ、前年ヨリモ一萬三千百二十六人勘シ。

分娩シタル産兒數ハ三千百七十七人、前年ニ比シ八百二十八人ヲ減ス、更ニソノ內譯ハ正規産男八百二十九人、女八百十四人計千六百四十三人(五割一分七厘)、異常産男六百四十二人、女六百三十二人計千二百七十四人(四割一厘)、死流産二百六十人(八分二厘)ニ割合シ、前年ノ割合ニ比スレハ正規産ハ減シ異常産、死流産ハ增加ス。

診療人員ノ箇所別ヲ見ルニ本庄産院ノ五千九百十六人最モ多ク、天王寺産院二千九百五十六人、阿波堀産院二千四百二十六人、大阪産婦園七百九十六人等ナリトス。

窮民救助事業

財團法人二、社團法人一、計三ケ所ニシテ前年ニ比シ財團法人一ケ所ヲ減ス。

十四年中救助シタル戶數癈疾不具八、罹病十計、十八ナリ、ソノ人員ハ總數八百十四人ニテ前年ニ比シ五百四十五人ノ增加ナリ、內癈疾不具八人、罹病二十二人、其ノ他七百八十四人ニ當リ、前年ニ比シ其ノ他ノモノ著シク增加セリ。

救助人員ヲ箇所別トスレハ弘濟會二十二人、大阪保養院四十三人、愛國婦人會大阪支部七百四十九人等ナリトス。

其ノ他救濟事業

大阪市立少年職業相談所ニ於ケル本年中ノ成績ヲ見ルニ、相談人員七千九百四十二人ヲ數ヘ、前年ヨリ五千六百三十二人勘ク、ソノ內譯ハ職業撰擇五千五百二十二人(六割九分五厘)、學校撰擇六人(一厘)職業紹介二千三百七十四人(三割)、其ノ他四十人(五厘)ニ當リ、前年ニ比スレハ職業撰擇增加セルモ其ノ他ニ屬スルモノハ著シク減少ス。更ニ男女ニ分テハ男七千六百人、女三百四十二人トナリ、前年ニ比シ女ノ割合著シク減少ス。

大阪市立人事相談所五ケ所ニ於ケル本年中ノ成績ハ總人員三千九百六人ヲ示シ、前年ヨリ四十六人多シ、此ノ內譯ヲ見ルニ法律的相談八百六人(二割六厘)、家事的千百三十五人(二割九分一厘)、社交的七百三十五人(一割八分八厘)、身上千二百三十人(三割一分五厘)ニ割合シ前年ニ比スレハ法律的相談ハ減少シ、其ノ他ハ一般ニ增加セリ。

大阪市設住宅經營事業ノ概況ハ櫻宮住宅外三ケ所アリテ特別ノモノ四十二、甲二百三十四、乙百八十

三、丙二百九十七、丁三百五十六ニシテ前年ヨリ何レモ増加セリ、尚開場浴場二、理髪所三、診療所二、店舗百十二等ヲ設置ス。

以上ノ外海員救濟ノ爲ニスル日本海員扱濟會大阪出張所、貧民部落ノ改善ヲ目的トスル鳴風青年會、慈善團体事業援助ノ目的ヲ有スル大阪毎日新聞慈善團、社會的事業ノ施設研究ノ社會事業聯盟、大阪社會事業協會、釋放者保護ヲ主トスル仁濟會及立正舍、府立修徳館ノ修友會、外島保養院ノ患者慰藉會、下層民家ノ敎化及娯樂ノ施設ヲスル市民館、方面委員後援會、大阪職業輔導會、市營共同宿舍、同青年宿舍、小額所得者ノ金融ヲ計ルヲ目的トスル市營質舖等其ノ他諸種社會事業アリ、之等ハ何レモ年々隆盛ニ趨キ著々其ノ効果ヲ收メ以テ好成績ヲ示シツヽアリ。

第一七 警 察

警察職員

總數五千八百五十五人ニシテ五年前ニ比シ八百六十一人即チ一割七分二厘ノ増加ニ當ル、而シテ其ノ大部分ヲ占ムルハ警察官ノ五千三百四十五人ニシテ總職員ノ91.3%ニ相當ス。更ニ詳細ニ内譯スレハ以上警察官中警視二十四人、警部七十一人、警部補二百三十四人、巡査部長四百九十一人、巡査四千五百二十五人トス。

警察官對現住人口

警察各署ニ屬スル巡査ハ四千八百三十六人ニシテ之カ一人ニ對スル人口六百三十三人ノ割合トス、尚市郡別ニ觀察スレハ市部（大阪、堺、岸和田）ニ在リテハ一人ニ對スル現住人口ハ五百二十一人、郡部ニ在リテハ千五百六十二人ヲ示ス。

巡査勤續年數

巡査部長四百九十一人、巡査四千五百二十五人ニ付其ノ勤續年數別ヲ見ルニ、巡査部長ニ在リテハ七年以上十年未滿百三十一人、十年以上十五年未滿百人、五年以上七年未滿九十一人、十五年以上二十年未滿五十七人、三年以上五年未滿四十七人、二十年以上二十五年未滿三十二人、一年以上三年未滿二十二人、二十五年以上三十年未滿七人、三十年以上三人、一年未滿一人ノ順位トス。

巡査ニ在リテハ五年以上七年未滿ノモノ千百四十二人ニシテ最モ多ク、一年以上三年未滿千二十七人、一年未滿八百二十四人、三年以上五年未滿七百五十七人、七年以上十年未滿四百五十六人、十年以上十五年未滿百八十七人、十五年以上二十年未滿七十四人、二十年以上二十五年未滿三十九人、二十五年以上三十年未滿十四人、三十年以上五人ノ順位トス。

花街狀況

年末現在ニ於ケル貸座敷千五百九十八、之ヲ前年ニ比スレハ僅カニ二ノ増加ナルモ娼妓數ハ八千五百五十七人ノ増ニシテ即チ前年ヨリ二百三十人ノ増加ヲ示ス、内大阪市88.4%、堺市8.0%、郡部3.6%（岸和田市貝塚町、北河内郡枚方町）ノ割合トス。

遊客數ハ延人員四百五十四萬三千三百十八人此ノ消費金額二千四百二十八萬六千三百二圓ヲ算シ平均一人當五圓三十四錢五厘ニ相當ス。

投宿人員

總數五百六十四萬七千六百十人ナリ、内下宿最モ多ク42.7%ヲ示シ、次ハ旅人宿29.3%、木賃宿27.7%、外國人0.3%トス、尚之ヲ月別ニ觀察スレハ四月ノ五十二萬七千五百五十九人最多ニシテ二月ノ四十三萬六千六百六十六人最モ少シ

新聞雜誌

發刊現在數ハ六百七十一ニシテ前年ヨリ九十四ヲ増ス、内一箇月五回以下發刊スルモノ五百六十七ニシテ最モ多ク次ハ日刊ノモノ九十六、一箇月十回以下六、六箇月五回以下四ノ順位トス、以上ノ内違法犯トシテ刑事訴追セシモノ十一件前年ニ比シ三件ヲ増加ス。

行政執行ニ因ル處分人員

救護ヲ要セシモノ二萬二百二十九人ニシテ五年前ナル大正十年ニ比シ八千八百九十四人ノ増加ヲ示ス内泥酔者最モ多ク總數ノ60.0%ヲ占メ、家出人10.6%、自殺ヲ企ツル者8.8%、迷子7.5%、瘋癲者4.2%、其ノ他9.4%ニ相當ス、以上ノ内泥酔者ハ逐年増加ヲ示シ五年前ニ比シ約二倍ノ多キニ當レリ。

公安ヲ害スル虞アリシモノハ一萬五千二百九十九人ニシテ此ノ割合ハ暴行者20.0%、闘爭者5.6%、不良少年1.3%、其ノ他73.1%トス。

監置精神病者

本年中監病者男九百二十一人、女四百三十二人ナリ、前年ニ比シ男四十二人ヲ減シ、女四十二人ヲ増加ス、之ヲ種類別ニスレハ男女共ニ早發性最モ多ク男三百五十一人38.1%、女百四十八人34.2%ヲ示シ、躁鬱性男二百六人22.4%、女百十八人27.3%之ニ亞ク、而シテ男女相反セルハ癲癇性ニシテ男三人ニ對シ女六十人ヲ算ス、又中酒性ハ男五十二人ニ對シ女一人ノ割合ヲ示ス。同上中全治シタルモノハ男百九十七人、女八十五人ナリ。死亡者ハ男二百十四人、女八十人トス。

年末現在員男五百三十一人、女二百八十人ナリ、内早發性男二百八十二人、女百二十七人ニシテ最モ多ク次ハ躁鬱性男七十五人、女六十二人、麻痺性男六十一人、女十五人ノ順位トス。

棄兒

男十四人、女十七人ニシテ前年ニ比シ男ニ於テハ同數ナルモ、女ニ於テ五名ヲ増加ス、總數三十一人ノ内生存シ居リシモノ十四名、死亡シ居リシモノ十七名トス。

變死

總數千六百三十三人、内男千百十八人、女五百十五人ナリ、前年ニ比シ男十五人、女五十四人ヲ増加ス。總數ノ内自殺者最モ多ク男四百八十五人、女三百二十一人ヲ算シ、謀死男二百九十五人、女八十人ニシテ之ニ亞キ、中途發病男六十九人、女八人ノ順位トス。

自殺

總數八百六人ニシテ前年事實ニ比シ九十八人ヲ増加ス。内男四百八十五人、女三百二十一人ノ割合トス、尚之ヲ手段別ニ分類スレハ入水者男百二十八人、女百三十七人ニシテ最モ多ク、縊死者男百六十七人、女七十七人之ニ亞キ、毒物又ハ劇藥ニ依ルモノ男六十五人、女六十七人、汽車ニ觸レテ男十九人、女十三人ノ順位トス。

自殺者ノ月別

自殺者ヲ月別ニ見ルニ六月最多ニシテ九十四人ヲ算シ、次ハ五月、七月、八月ニシテ何レモ八十四人以下四月、二月、九月、十月、十一月、三月、十二月、一月ノ順位トス。即チ夏期ニ於テ比較的多ク冬期ニ於テ少シ。

自殺者年齢別

自殺者ヲ年齢別ニ見ルニ二十年以上三十年未滿ノモノ最多ニシテ二百四十四人ヲ占メ、五十年以上二百十四人、三十年以上四十年未滿百二十人、四十年以上五十年未滿九十九人、十六年以上二十年未滿五十九人、年齢不詳五十一人、十六年未滿十九人ノ順位トス。尙男女別ニスレハ男五十年以上ノモノ百三十人ニシテ最モ多ク、女ハ二十年以上三十年未滿ノモノ百十七人ニシテ最モ多シ。

自殺者原因別

自殺者ヲ自殺原因別ニ見ルニ男四百八十五名中厭世ニ因ルモノ百四十一名最モ多ク、原因不詳ノ九十八名之ニ亞キ、病苦ニ因ルモノ八十六名、精神錯亂ニ因ルモノ六十五名等比較的多キ部ニ屬ス。女ニ在リテハ三百二十一名中厭世ニ因ルモノ最多ニシテ百四名ヲ算シ、次ハ病苦ニ因ル六十五名、精神錯亂三十八名ノ順位トス。

以上ノ外薄命ヲ嘆キ又ハ生計困難ニ因ルモノ男十四名、女六名、商業ノ爲損失又ハ負債償却ノ困難ニ因ルモノ男十名、失戀ニ因ルモノ男八名、女十三名、家庭又ハ親族ノ不和ニ因ルモノ男六名、女十四名等男女其ノ趣ヲ異ニスルモノアルヲ觀取ス。

難　波　船

總數七百四十一艘前年ニ比シ六十二艘ヲ減セリ、其ノ內築港內ノ四百艘54.0%第一位ヲ占メ、市內河川百一艘13.5%、安治川筋ノ百三十一艘17.6%、築港外7.4%等之ニ亞キ、泉北沖合等ハ比較的少シ。

難波船損害程度

難波船數七百四十一艘中浸水四百二十八57.7%最モ多ク、次ハ破損百五十九艘21.4%、沈沒流失及其ノ他四十九艘6.8%等ノ順位トス。而シテ損害見積金高ハ八十五萬二千二百十七圓ニシテ一艘ニ付千百五十圓ニ相當ス。

火　　災

年中火災度數五百三ニシテ前年ニ比シ八十四多ク、尙五年前ナル大正十年ニ比シ約二倍ニ當リ、年々增加ノ現象ヲ示セルハ寒心ニ堪ヘス、今警察署別ニ見ルニ船場、福島署ノ二十四最多ニシテ、九條、島ノ內署ノ二二之ニ亞キ其ノ他今宮、泉尾、高津、川口各署管內等比較的多シ、而シテ總數ノ內延燒セシ度數41.7%、延燒セサリシ度數27.0%、直チニ消シ止メシ度數31.3%ノ割合トス。

燒失家屋

火災ニ罹リシ家屋中住家六百九十二戶、非住家四百二十一棟ナリ、此ノ割合ハ住家六割二分三厘、非住家三割七分七厘ニ當リ、前年ニ比シ何レモ增加セリ。

住家、非住家總數千百十三中、全燒セシモノ五百二十八、半燒又ハ直ニ消止メシモノ五百八十五ニシテ此割合ハ四割七分四厘對五割二分六厘ニ相當ス。

火災月別

總數五百三ヲ月別ニ見ルニ十二月ノ八十二最モ多ク、三月ノ七十五之ニ亞キ、其ノ他一月、二月等多ク七月、八月、九月等ニ於テハ尠シ、即チ冬期ハ比較的火氣ヲ使用スルコト多キヲ以テ前述ノ如キ現象ヲ示スモノトス。

火災原因別

火災原因ハ原因不詳八十六ヲ除ケハ煙草吹殼ニ因ルモノ六十一ニシテ最モ多ク、煙突三十二、電氣及瓦斯三十一、焚火三十、竈火二十九等ノ順位トス。

損害見積金高

火災ニ因ル損害見積金高ハ四百七十五萬一千九圓ニ達シ百二十萬二千二百二十九圓ヲ減少セリト雖今之レヲ火災度數一回ニ對スル割合ヲ見ルニ實ニ九千四百四十五圓餘ニ當リ、月ニ平均スルトキハ毎月約四十萬ツヽノ巨額ヲ空シク灰燼ニ歸シツヽアルノ現象ナリ。

盜　難、詐　欺

强盜被害件數百二十件ニシテ前年ニ比シ三十件ヲ增加ス、內家ニ於ケル被害ハ九十三件ニシテ77.5%ニ當ル、尙之レヲ月別ニ見ルニ六月ノ二十件最モ多ク、一月、九月ハ比較的尠シ。

竊盜ニ因ル被害件數ハ五萬二千五百五件ヲ算シ、內屋內被害68.1%、屋外15.3%、船中ニ於ケルモノ0.7%、人ニ對スルモノ2.8%、掏摸4.9%、橫領8.2%ナリ、之ヲ前年ニ比スレハ人ニ對スルモノヽモヲ除キ他ハ何レモ增加ス。以上ヲ月別ニ見ルニ屋內竊盜ニ在リテハ三月ノ三千三百五十八件最モ多ク十月、十一月之ニ亞ク。屋外竊盜ニ在リテハ十二月ノ八百三十五件ニシテ第一位ニ當リ、十月、十一月ノ順位トス。船ニ於ケル竊盜ニ在リテハ十二月ノ五十二件最モ多ク九月、二月之ニ亞ク。人ニ對スル竊盜ニ在リテハ九月ノ百七十三件最多ニシテ八月、十月之ニ亞ク。掏摸ニ於テハ五月ノ二百九十四件最多ニシテ二月、六月之ニ亞ク。橫領ニ在リテハ十月ノ四百九十七件最多ニシテ八月、五月之ニ亞ク。以上竊盜ヲ總括スレハ十月、十一月、十二月ニ比較的多キヲ見ル。詐欺恐喝被害件數ハ七千九百八十三件ニシテ前年ニ比シ二千九百三十八件ヲ增加ス、尙月別ニ見ルニ三月ノ九百六十六件最モ多ク一月、五月之ニ亞ク。

被　害　價　額

被害價額ハ八百三十三萬五千五百九十八圓ナリ、內橫領ニヨルモノ最モ多ク34.9%ヲ占メ、詐欺恐喝33.6%、竊盜30.8%、强盜0.7%ニ當ル、前年ニ比スルニ何レモ增加シ、就中橫領ハ約二倍强ニ當レリ今被害件數ト被害價額トノ割合ヲ見ルニ件數一件ニ付被害價額ハ橫領六百八十八圓ニシテ最モ多ク、詐欺恐喝三百四十八圓、强盜八十八圓、竊盜四十九圓ニ相當ス。

檢　擧　件　數

總數四萬一千三百六十五件ニシテ內竊盜60.3%ニシテ最モ多ク、詐欺恐喝24.9%、橫領14.3%、强盜0.5%ノ順位トス。

第十八 衛 生

死 亡 者

總 數 本年中ニ於ケル死亡者ノ總數ハ六萬一千二百九十五人ナリ、之ヲ前年事實ニ比スレハ千五百九十一人ヲ減少ス、其ノ內男三萬一千八百四十九人、女二萬九千四百四十六人ナリ。今既往ニ遡リテ死亡率ヲ見ルニ明治三十八年、大正七年、同九年等ニ於テ高シ、即チ明治三十八年ハ日露戰爭ニ基因シ、大正七年ハ彼ノ流行性感冒ニヨルモノニシテ、九年ハ比例算出ノ人口減少ト又他面同年ニ於ケルモ流行性感冒猖獗セシニ原因セルモノト見ルヲ至當トスヘキカ。

死亡者ヲ郡市別ニ見レハ死亡率最モ高キハ大阪市ニシテ69.01%ヲ算シ、泉南郡之ニ亞イテ高ク4.72%ニ當リ、以下中河內郡4.66%、泉北郡4.17%、南河內郡3.80%、堺市3.66%、三島郡3.19%、豐能郡2.86%、北河內郡2.78%、岸和田市1.15%ノ順位トス。

月 別 死亡者ヲ月ニヨリ分チ見ルニ男ニ在テハ一月最モ高ク、一年平均一日ノ死亡千ニ付各月平均一日ノ死亡一、三五三、二人ヲ數ヘ、二月之ニ亞キ一、二二七、〇人、三月等比較的高ク、十一月九〇二、五人最モ低シ。女ニ在テハ男同樣一月ノ一、二八八、七人最高ニシテ二月、三月等之ニ亞イテ高キモ十一月ノ七九三、〇人最低ナリ。普通死亡者ハ夏季ニ多キモ流行性感冒ノ猖獗ニ依リ該病ト密接ノ關係アル肺炎及氣管支肺炎等ニ依リ冬季ニ於テ多キヲ見ル、尙之ヲ前年ニ比スレハ此點ニ於テ著シク變化セリ。

死 亡 年 齡 別

死亡者總數ヲ五歲階級ニ分チ各階級ノ分節比ヲ求ムレハ五歲未滿ノモノ最モ多ク43.74%ヲ占メ、次ハ七十歲以上ニシテ9.74%ニ當リ、以下二十歲以上二十五歲未滿4.76%、十五歲以上二十歲未滿4.70%六十五歲以上七十歲未滿4.36%、二十五歲以上三十歲未滿4.15%、五十歲以上五十五歲未滿3.74%、六十歲以上六十五歲未滿4.04%、四十五歲以上五十歲未滿3.21%、四十歲以上四十五歲未滿3.14%ノ順トス。

即チ幼年階級ニ最モ多キヲ見ルハ例年ノ現象ナリト雖モ注意ヲ要スヘキモノナリ。

更ニ五歲未滿ナル幼年死亡者二萬六千八百十三人ニ付キ、各歲別ノ比ヲ求ムレハ一歲未滿ノモノ大半ヲ占メ62.17%ニ當リ、一歲以上二歲未滿20.20%、二歲以上三歲未滿9.86%、三歲以上四歲未滿4.68%、四歲以上五歲未滿3.27%ニ割合ス。

死 亡 原 因 別

死亡ノ原因ヲ大別シ其ノ比ヲ求ムレハ其他ノ諸病ニ屬スルモノ22.45%ヲ除ケハ、呼吸器病ニ屬スルモノ最モ多ク16.62%ヲ占メ、先天性病12.44%、結核性病10.91%、泌尿器病6.58%、血行器ノ疾患4.28%、傳染性病6.91%、消化器病6.71%等ニ割合シ、前年ニ比スレハ呼吸器病等ニ於テ增加ス。更ニ死亡原因中其重ナルモノニ就テ見ルニ

肺炎及氣管支肺炎 總數八千三十二人ハ死亡總數ノ13.10%ニ當リ、前年ニ比スレハ增加セリ。之ヲ既往ニ徵スレハ大正七年、同九年ノ流行性感冒猖獗セシ特例ノ年ヲ除ケハ最多ナリ之ヲ月別ニ見レハ一月最多ニシテ、三月、二月、四月等比較的多シ。之ヲ年齡別ニ見レハ五歲未滿ノモノ殊ニ一歲未滿

ノモノニ多ク、尙十歲以上十五歲未滿ノ青年期ニ多キヲ見ルハ例年異ナルコトナシト雖モ憂フヘキ現象ナリ。

肺 結 核 總數四千六百六十七人ハ總死亡ノ7.77%ニ當リ、前年ニ比シ大差ナシ、內男二千四百二十七人、女二千三百四十人ナリ、其割合男死亡千中39.59%、女ハ38.16%ヲ算ス、既往ニ比スレハ最近五ケ年間ニ於テ最低ヲ示セリ。月別ニシタルモノハ十二月最モ多ク五月、九月等之ニ亞キ十一月、三月等尠シ。之カ年齡別ハ男ニ在テハ二十歲以上二十五歲未滿最モ多ク。女ニ在テハ十五歲以上二十歲未滿最モ多シ。即チ男女ヲ通シテ十五歲以上三十歲未滿ノモノ多ク總數ノ半數以上ヲ占メ五割二分八厘ニ該當ス。

腦 膜 炎 總數三千八百三十四人ハ總死亡ノ6.25%ニ當リ、前年ヨリ減少セリ、內男千八百七十人、女千九百六十四人ニシテ例年女多シ。之カ月別ハ八月最モ多ク七百十人ヲ數ヘ、七月、九月等之ニ亞イテ多ク、十一月、十二月等尠シ。尙歲別ニ之ヲ見レハ年少者ニ多ク五歲未滿ノモノ二千九百六十三人ヲ算シ、數數ノ77.29%ニ當リ、其內一歲未滿ノモノ千五百八人ニシテ27.59%ヲ占ム。

先天性弱質及畸形 總數六千二百三十一人ハ總死亡ノ10.17%ニ當リ、前年ヨリ增加セリ、內男三千四百四十六人、女二千七百八十五人ナリ、其割合死亡千中男10.82%、女9.45%ニ該當シ、例年男多シ之レカ月別ハ一月最モ多ク二月、十二月之ニ亞キ、五月、六月等最モ尠シ、尙年齡別ニスレハ一歲以上五歲未滿ノモノ、ミナリ。

傳 染 病

總 數 本年患者總數ハ四千九百十一人ナリ、前年ニ比シ七百十二人ヲ減少ス。內死亡者ハ千三百九十人ニシテ前年ニ比シ九十一人少ナシ、患者百ニ付死亡者ノ割合ハ28.30%ニ當リテ前年ニ比シ增加ス。之ヲ郡市別ニ見レハ患者百ニ對スル死亡者ノ割合最モ高キハ岸和田市ノ37.0ニシテ以下順ニ豐能郡34.7、堺市34.6、三島郡31.3、中河內郡29.1、北河內郡29.0、大阪市28.4、泉北郡23.7、泉南郡23.1トス。

總數ヲ月別スレハ九月最モ多ク患者七百七十九人、死亡者百九十七人ヲ算ス、八月ハ之ニ亞キテ患者六百二十三人、死亡者百五十五人ナリ、其他七月、十月モ多ク二月、十二月最モ尠シ。即チ炎暑ノ候ニ於テ多シ。

傳染病死亡者ヲ年齡別ニ見レハ十五歲以上二十歲未滿最多ニシテ百三十九人ヲ數ヘ、二十歲以上二十五歲未滿ノモノ百三十六人アリ、其他二十歲以上ノ壯年階級ニモ比較的多シ、傳染病ヲ最近十ケ年間ニ亘リ比較スルニ大正六年最モ多ク患者七千二百三十三人、死亡者二千五十六人ヲ算セリ °即チ實布垤利亞及格魯布ノ流行ニ因ルモノナリ。

更ニ各病ニ付テ見ルニ

虎 列 剌 本年患者五十三人、死亡者二十四人アリ、前年ニ於テナカリシモ本年斯クノ如ク多數出テタルハ憂フヘキナリ。

赤 痢 本年患者八百十六人、死亡者三百三十人ヲ前年ニ比スレハ患者九十七人多ク、死亡者九十四人ヲ增加ス。

患者ニ對スル死亡ノ割合ハ40.44%ナリ、之ヲ最近十ケ年ニ亘リ比較スレハ、大正六年最モ多ク患者千

百十四人、死亡者三百八十六人ヲ算シ、七年ノ患者九百九十一人、死亡者二百人ヲ算セリ。本年ニ於ケル事實ノ月別ハ九月最モ多ク患者二百十人、死亡者七十九人、八月、七月之ニ亞イテ多ク、二月、三月ノ冬期ニ尠シ。尙死亡者年齢別ハ五歳未滿ノモノ最多ニシテ百六十一人、死亡者總數48.78%ニ當レリ。

腸窒扶私及パラチブス　死亡者六百四十四人ヲ前年ニ比スレハ、患者七百七十三人、死亡者二百七十六人減少ス、患者百ニ對スル死亡ノ割合ハ23.37%ニ當ル。之ヲ最近十ケ年ノ事實ニ亘リ比較スレハ大正八年、同七年ハ多ク、八年患者三千四百四十七人、死亡者九百五十一人ヲ算セリ。本年患者ノ月別ハ九月最モ多ク、患者五百六人、死亡者百四人ヲ數ヘ、其他八月、七月モ多シ。尙死亡者ヲ年齢別ニスレハ、十五歳以上二十歳未滿ノモノ最モ多ク百八人、二十歳以上二十五歳未滿百五人ハ次ニ多ク其他二十五歳以上三十歳未滿ノモノ等比較的多シ。

實布垤利亞及格魯布　本年患者千七人、死亡者三百六人ヲ前年ニ比スレハ患者三百二十六人、死亡者百二十四人ヲ增ス。而シテ患者百ニ對スル死亡者ノ割合ハ30.30%ニ當ル。之ヲ最近十ケ年間ノ事實ニ亘リ比較スレハ大正六年ノ患者千三十九人、死亡者三百九人ノ多キ時ト大差ナシ、尙患者ノ月別ハ三月最モ多ク、其他ハ各月ニ分布セラレ三月、四月ノ春氣ニ多シ死亡者ノ年齢ハ十五歳未滿ノモノニ多キカ二歳以上三歳未滿者ニ最モ多ク七十二人ヲ算ス。

猩紅熱　本年患者八百三十九人、死亡者七人ヲ前年ニ比スレハ、患者二十六人多キモ死亡者ニ在テハ三人ヲ減ス。而シテ患者百ニ對スル割合ハ5.02%ニ當ル、之ヲ最近十ケ年間ニ亘リ比較スレハ患者ニ在テハ本年最多ニシテ死亡者ハ大正九年十八人最モ多シ。本年患者ノ月別ハ十二月ノ二十二人、死亡者十二月ノ二人最モ多シ。尙死亡者ノ年齢別ハ、二十五歳未滿ノ間ニ分布サレ、內一歳以上二歳未滿ノ三人最多ナリ。

痘瘡　本年患者五十六人、死亡者二十人ヲ前年ニ比スレハ、患者三十五人、死亡者十七人ヲ增加ス。而シテ患者百ニ對スル死亡者ノ割合ハ3.57%ナリ。最近十ケ年間ノ事實ニ比較スレハ大正六年、同九年ニ多ク即チ六年ニハ患者二千三百九十五人、死亡者六百五十四人ヲ算シ、九年ニハ患者千二百九人、死亡者四百人ヲ算セリ。患者ノ月別ハ大部分四月ヨリ八月ニ至ル間ニシテ、六月ノ三十三人、死亡者十三人ヲ最多トス。尙死亡者ノ年齢別ハ各歳ニ分布セラル、モ二十歳以上二十五歳未滿者ニ多シ。

流行性腦脊髓膜炎　本年患者八十七人、死亡者五十九人ヲ前年ニ比スレハ患者十六人ノ減少ナルモ死亡者ニ於テハ二人ヲ增ス。而シテ患者百ニ對スル死亡者ノ割合ハ67.12%ニ當ル。之カ月別ハ各月ニ分布セラル、モ四月最モ多ク患者十七人、死亡者十人、最モ多シ。死亡者年齢別ハ各歳ニ分布セラルモ十五歳以上二十歳未滿ノ青年者ニ最モ多ク四十二人ヲ算ス。

病　院

公立病院　病院數五ニシテ此病床數千七百四十九他ニ傳染病患者ノ病床三十五アリ。入院患者數ハ前年ヨリ越シタルモノ二百七十二人、他ニ施療患者八十二人、本年入院シタルモノ一萬七千五百十六人他ニ施療患者千二十二人ナリ、以上ノ延人員ハ三十三萬四千七百六人、他ニ施療患者三萬一千六百七

十三人ナリトス。外來患者五萬七千六十三人、他ニ施療患者一萬二千九百十人ナリ。

公立施療病院　病院數八ニシテ前年ニ比シ三ノ增ナリ、病床數千二百五十一アリ。入院患者ハ前年ヨリ、越シタルモノ千五十一人、本年入院シタルモノ六千百八十七人ニシテ其延人員四十一萬八千四百五十四人ナリ。外來患者二萬百四十九人、其延人員四十二萬三千九百四十四人ナリ。

之ヲ前年事實ニ比スレハ病院數三、病床數二十二ヲ增シ、入院患者二百九十二人、其延人員五萬三千六百七十八人、外來患者七千二百五十二人、其延人員三十七萬五百五十五、人等ヲ增加セリ。

私立病院　病院數百四十七、病床數四千二百四、前年ニ比スレハ病院六、病床數百六十九ヲ增ス、之ヲ病床ノ多少ニヨリ區別スレハ、病床十ケ以上ヲ有スル病院五十九ニシテ此ノ病床九百三十三、三十ケ以上ノモノ病院十七、病床數六百七十七、五十ケ以上ヲ有スルモノ病院十一、病床數七百七、百ケ以上ヲ有スル病院九病床數千五百三十一ニシテ、其他十ケ以下ヲ有スルモノ、病院五十一、病床數三百五十六ナリ。

是等病院ヲ診療科目ノ種類ニヨリ區別スレハ一般ニ屬スルモノ最モ多ク七十五ニシテ51.02%ニ當リ其他產婦人科14.28%、眼科8.16%、外科7.48%、精神病科5.12%、內科6.12%、耳鼻喉科4.76%皮膚花柳病泌尿生殖器科1.37%、小兒科0.69%トス。都市分布ノ概況ハ總數ノ八割二分八厘ナル百二十二ハ大阪市ニ在リテ、堺市、豐能郡等稍多キカ其他ノ郡市ハ僅少ナリ。

傳染病院及隔離病舍　病院數十ニシテ前年ニ比シ二ヲ減少セルハ郡ノ設立ニ係ルモノニ於テ減少シタル結果ニ依ル、病床數ハ千十六ニシテ、前年ニ比シ百三十六ノ減少ナリ隔離病舍ハ百三十二ニシテ此病床數千三百四十九、前年ニ比シ病院數十、病床數百三十九ヲ減少セルハ町村若クハ之ニ準スヘキモノ、設立ニ係ルモノ五、減少セルニ依リ、病床數モ從テ減少セリ。

醫　師

總數二千六百五十四人中女醫ハ七十九人ナリ、之ヲ前年ニ比スレハ男九十七人、女十四人ヲ增加ス。免許資格別ニ見レハ、官公立專門學校卒業ノモノ最多ニシテ千百五十人、即チ總數ノ43.33%ニ當リ其他試驗及第32.02%、大學卒業21.21%、從來開業2.22%、其他ノモノ3.44%トス。

即チ大學校官立專門學校卒業者及試驗及第ノモノ九割以上ニシテ大部分ヲ占メ、之ヲ前年ニ比スレハ大學卒業試驗及第、指定私立專門學校卒業等ノ割合增加シ、其他ハ減少シツヽアルヲ見ル。更ニ女醫七十九人ニ付テ見レハ試驗及第四十二人、指定私立專門學校卒業三十七人ニシテ此割合ハ試驗及第52.92%、指定私立專門學校卒業46.98%ナリ。

醫師一人ニ對スル現住人口ノ割合ハ千百五十二人ニ當ル。而シテ人口ニ對シ醫師ノ割合ハ減少スルカ如クナルハ醫師ノ增加ニ比シ人口增加ノ勢大ナルカ爲メナリ。郡市別ニ見タル狀況ハ堺市最モ人口ニ對スル醫師ノ數多ク、醫師一人ニ對シ人口八百九十人ナリ、之ニ亞クハ豐能郡九百五十五人、其他大阪市千二百七人、北河內郡千五百九十七人、三島郡千七百十三人、中河內郡千九百二十四人、南河內郡千九百四十二人、泉北郡二千七十五人等ニシテ、泉南郡ノ割合最モ少ナク二千四百五十五人ヲ算ス

藥劑師

總數千八百八十二人中女五十七人ナリ、之ヲ前年ニ比スレハ男二百九十人女三人增加セリ。

免許資格別ニ見レハ、試驗及第最モ多ク千三百八十二人ニテ總數ノ73.43%ヲ占メ、其他官公立學校卒業10.73%、指定私立專門學校卒業、11.14%、舊試驗及第3.35%大學卒業1.35%ナリ。之ヲ前年ニ次スレハ舊試驗及第ニ於テハ大差ナキモ其他ニ於テハ何レモ增加セリ、女五十七人ハ試驗及第者ナリ更ニ藥劑師一人ニ對スル醫師數ヲ見ルニ百四十一人ニシテ前年ニ比シ減少セルモ逐年醫師ニ對スル藥劑師ノ數ハ增加シツヽアルヲ見ル。

產婆看護婦

產　　婆　總數三千五百五人ヲ前年ニ比スレハ二百六十三人ヲ增ス。之ヲ免許資格別ニ見レハ試驗及第ノモノ大部分ニテ總數ノ81.34%ヲ占メ、其他從來開業12.78%、指定學校若クハ講習所卒業5.87%ナリ、之ヲ前年ニ比スレハ從來開業ハ減少シ其他ハ增加ス、產婆一人ニ對スル出產數ハ27.02人ナリ前年ニ比シ減少ス。郡市別ノ狀況ハ泉南郡ノ50.24人最高ナリ。南河內郡40.54人、三島郡40.01人等之ニ亞キ、大阪市ノ23.73人ヲ最低トス。

看護婦　總數四千九百八十六人ヲ前年ニ比スルニ四百七十一人ヲ增ス、之ヲ區別スレハ正看護婦四千三百九十三人、準看護婦五百九十三人ニシテ此割合ハ正八割八分一厘準一割一分九厘トナル。之ヲ既注ニ比較スルニ正看護婦ハ年々增加スルモ準看護婦ハ反シテ逐年減少スルヲ見ル。

入齒、抜齒、口中療治、接骨水蛭吸角業

入齒業者ハ只一人ニシテ前年ト差ナシ。入齒、齒拔兼業者ハ十一人ニシテ前年ニ比シ差ナク即チ大阪市ニ於テ二人增シタルモ郡部ニ於テ二人ヲ減セリ。接骨業者四人ニシテ大正九年以降差ナク大阪市ニ二人、堺市、泉南郡ニ各一人アリ。

吸角業者三人ニシテ前年ニ比シ差ナク、大阪市ニ二人、南河內郡ニ一人アリ、水蛭業者ハ一人ニシテ大阪市ニアリ。

鍼灸按摩營業者

總數五千五百七十六人ノ內男三千九百四十一人、女千六百三十五人ナリ。前年ニ比スレハ二百九十人ヲ增ス、之ヲ晴眼者、盲人ニ區別スレハ晴眼者二千八百六十三人、盲人者二千七百十三人ニテ此割合ハ晴眼者五割一分三厘、盲人四割八分七厘ナリ。總數ヲ業體別ニスレハ按摩術業者最多ニシテ三千七百十九人ヲ數ヘ、總數ノ66.82%ヲ占メ、鍼灸術兼業者13.70%、鍼灸按摩術兼業者10.20%、鍼術業者3.54%、鍼按術兼業者3.15%、灸術業者2.03%、灸按術兼業者0.51%ニ割合ス。業體別ニ依ル晴眼盲人ノ割合ヲ見ルニ、鍼灸術兼業者ハ晴眼者ニ多ク九割五厘ヲ占メ其他灸術業者、鍼術業者、鍼按摩術兼業者、鍼灸按摩術兼業者等モ晴眼者ニ多シ、之ニ反シ按摩術業者、鍼按術兼業者ハ盲人多シ。

藥種商製藥者及賣藥者

藥種商總數四千百六十五人ヲ前年ニ比スレハ七百二十人ヲ減少ス。郡市分布ノ狀況ハ大阪市最多ニシテ三千七百七十三人ヲ有シ、堺市九十五人、泉北郡六十三人之ニ亞キ、岸和田市僅ニ十人ナリ。

製藥者三百四十九人ヲ前年ニ比スレハ四人ヲ減ス。之カ郡市別ハ大阪市ノ三百二十二人最多ニシテ、中河內郡之ニ亞イテ九人、三島郡、岸和田市、北河內郡等ニハナク豊能郡、泉南郡ニハ僅ニ一人ヲ數フルノミ。

賣藥製造人員　二千七百五十五人ヲ前年ニ比シ六十四人ヲ增加ス。請賣人員七千四百二十五人ヲ前年ニ比スレハ四百十人ヲ減少セルハ賣藥製造人員即チ藥劑師ノ增加ニ依ル。

行商人員四萬六千五百四十八人ヲ前年ニ比スレハ三千八人ノ增加ナリ、之カ郡市別ハ大阪市ノ四萬六千二百六人、其大部分ヲ占メ、北河內郡ノ如キハ僅ニ一人ナリ。

汚物掃除

掃除區內戶數四十七萬二千三百九十戶ヲ前年ニ比スレハ八萬六千六百五十二戶ヲ增加ス。塵芥搬出量七千二十二萬六千百貫ヲ前年ニ比スレハ七百三十九萬二千七百三十一貫ヲ減少ス、之カ市別ハ大阪市最モ多ク總數ノ 93.51%、堺市4.75%、岸和田市1.74%、ニ割合ス。

尙之カ一日平均搬出量ハ塵芥十九萬二千四百貫汚泥二千四百四十五貫ナリ、前年ニ比スレハ塵芥二萬二百五十四貫、汚泥二萬五千四百十六貫等減少ス。

工場職工疾病傷者

總數二萬七百四十九人ヲ前年ニ比スレハ三十五人ヲ減少セリ。之ヲ病類別ニ見レハ呼吸器ノ疾患總數ノ29.52ヲ占メヲ最モ多ク、次ハ消化器ノ疾患19.10%、以下負傷15.95%傳染性病及全身病11.80%、皮膚及運動器ノ疾患8.93%、眼ノ疾患4.43%、神經系ノ疾患4.13%、泌尿生殖器ノ疾患4.07%血行器ノ疾患2.07%ノ順位トス。

更ニ之ヲ業体別ニ見レハ紡織業最モ多ク、總數ノ約半數ナル52.65%ニ當リ、織物業ノ23.03%、之ニ亞キ、金屬品製造業、金屬精錬業等ニ多シ。

疾病負傷者治療成績

患者總數二萬一千百六十九人ノ內治癒セシモノ二萬六百三十人、死亡セシモノ三十二人、未治解雇セシモノ百九十一人ニシテ此ノ割合、治癒者九割七分七厘、未治解雇者九厘、死亡者一厘ニ當ル。前年ニ比スレハ治癒者ノ割合增加ス。

更ニ之ヲ病類別ニ見レハ治癒者ノ割合最モ多キハ眼疾患者ニシテ99.56%ヲ占メ、其他皮膚運動器ノ疾患呼吸器ノ疾患、消化器ノ疾患等比較的多ク傳染性病及全身病神經系ノ疾患等ハ治癒者尠シ。

死亡ノ割合ハ傳染性及全身病甚タ高ク0.68%ニ當リ、呼吸器ノ疾患ハ0.48%ヲ算シテ次ニ高ク、血行器ノ疾患0.29 消化器ノ疾患0.10%最低ナリ。未治解雇者ニ在テハ消化器ノ疾患者最モ多ク、7.01%ヲ算シ、呼吸器ノ疾患6.29%、モ比較的多ク、泌尿及生殖器ノ疾患最寡ニシテ2.08%ニ當リ中毒ハ皆無ナリ。

第十九　財　政

國　費

大正十四年度國庫支出總額ハ七百十一萬三千百四十一圓ナリ、前年ニ比シ八十四萬四百七十四圓即チ八割八分ノ增加ヲ示ス、之等ハ臨時部臨時畜牛傳染病豫防費ニ於テ增加セル結果ニ依ル、更ニ五年前ノ大正十年ニ比スレハ五割七分六厘ノ增加ヲ示セリ、總額ノ內經常部ニ屬スルモノ四百九十九萬五千九十三圓、臨時部ニ屬スルモノ二百十一萬八千四十八圓ニシテ經常部70.28%、臨時部29.77%ニ割合セリ。

總額ヲ所管別ニ比例ヲ求ムレハ內務省所管ニ屬スルモノ最多ヲ占メ76.17%ニ該リ、文部省ノ15.67%之ニ亞キ多ク、農林省ノ8.14%、遞信省所管0.01%、大藏省所管最寡ニシテ0.001%ニ相當セリ。

以上各所管ノ內、內務省所管ニ在テハ警察費連帶支辨金最モ多ク臨時部ニ屬スル道路改修及助成費次ニ多ク、地方改良費、大阪市下水道費補助等多シ、又文部省所管ニ在テハ小學校教員俸給分擔金、農商務省所管ニ在テハ臨時畜牛傳染病豫防費最多ナリ。

府　　費

歳　　入　大正十四年度歳入決算額ハ二千四百四十三萬三千四百十九圓ニシテ前年ニ比スレハ千五十六萬二千五百六十四圓即チ六分九厘ノ減少ニ該レリ、今五年前ナル大正十年度ニ比スレハ九厘ノ減少ヲ示セリ。

以上ノ減少ハ經常部ニ屬スル府稅雜收入及臨時部ニ於ケル寄附金ノ減少シタルモノナリ、更ニ各年增減ノ狀況ヲ十年前ナル大正四年度ヲ百トシタル指數ヲ以テ示セハ、大正五年度百十三、六年度百五十五、七年度二百十九、八年度三百十八、九年度四百三十四、十年度五百四十一、十一年度六百二十、十二年度五百八十五、十三年度七百四十五、十四年度五百二十九ナル數ヲ示シ、大正五年度ニ於テ少シク減シタルモ其後逐年增加セリ。

歳入總額ヲ經常臨時ニ分テハ千五百九十五萬四千三百七十九圓ハ經常部ニ、八百四十七萬九千四十圓ハ臨時部ニ屬シ、其割合ハ經常部六割五分三厘、臨時部三割四分七厘ニシテ前年ニ比スレハ經常部、臨時部共ニ減少セリ。

經常部總額ノ內府稅ハ64.44%ヲ占メ、雜收入19.32%、國庫下渡金14.99%、財產收入1.24%ニ割合ス尙府稅千四十五萬七千百十三圓ノ主ナルモノハ雜種稅ノ三百三十七萬二千百五十六圓、營業稅附加稅ノ二百四十萬九千四十圓、家屋稅百六十一萬二千七百二十三圓等ニシテ雜收入二百九十一萬五千七百八十八圓ノ內主ナルモノハ過年度府稅ノ五十五萬餘圓、授業料ノ九十一萬二千餘圓等トス。

臨時部總額ヲ分テハ繰越金60.96%、財產賣却代10.23%、國庫補助金8.50%、府債6.69%、大阪府積立金編入5.94%、繰入金3.54%、補償金0.86%、寄附金0.66%、返納金2.49%、國庫補給金0.10%、國庫交付金0.02%等ニ割合セリ。以上ノ內其主ナルモノハ繰越金ハ全部前年度繰越金ニシテ、財產賣却代ニ在テハ不動產賣却代八十五萬九千餘圓、國庫補助金ニ在テハ土木費補助金ノ四十五萬五千餘圓衞生補助金十九萬三千餘圓等ナリトス。

歳　　出　大正十四年度府費歳出決算總額ハ二千百三十三萬五千八百七十五圓ニシテ前年度決算額ニ比スレハ八百四十九萬三百七十二圓即チ七分二厘ノ減退ニ該當ス、內約五百萬圓ハ臨時部ニ於テ減少シ他ハ經常部ニ於テ減少セルモノナリ、更ニ各年增加ノ狀況ヲ見ムカタメ十年前ナル大正四年度ヲ百トシタル指數ヲ以テ示セハ、大正五年度百十七、六年度百二十、七年度百七十八、八年度二百六十五九年度二百八十一、十年度三百七十三、十一年度四百二十九、十二年度二百六十五、十三年度六百七十、十四年度四百七十八ナル數ヲ示シ、即チ大正五年度ヨリ逐年增加シ來リ十三年度ニ於テ著シク膨脹シタルモ本年度ニ於テ少シク減少セリ。

歳出總額ヲ經常部臨時部ニ分テハ千二百五十三萬六千七百九十八圓ハ經常部ニ、八百七十九萬九千七十七圓ハ臨時部ニ屬シ、其割合ハ經常部五割八分七厘、臨時部ハ四割一分三厘ニ該當ス。

經常部總額ノ內主ナル費目ハ警察費ノ六百八十九萬餘圓、敎育費二百六十四萬餘圓ヲ大ナルモノトシ其他土木費六十八萬餘圓、勸業費三十九萬餘圓、府吏員費五十二萬餘圓等多キ部ニ屬ス。

臨時部總額ノ內主ナル費目ハ土木費百五十萬餘圓、小學校敎員恩給補充費七十七萬餘圓、敎育費六十四萬餘圓、土木費十四年度支出額百八十三萬餘圓等トス。

市町村費

大正十三年度市町村歳入總額ハ二億一千七百十九萬五千四百七十二圓ナリ、前年總額ニ比スレハ二千三百六十三萬三千九百七十八圓（一割六厘）ノ增加ニ當ル、更ニ最近市町村ニ於ケル歳入增加ノ趨勢ヲ見ンカ爲、大正三年度ヲ百トシタル指數ニヨリ比較スレハ、大正四年度百四、五年度四百七十五、六年度六百二十五、七年度八百三、八年度千二百五十三、九年度千七百五十四、十年度二千百五十六十一年度二千四百五十七、十二年度二千八百十一、十三年度三千百五十四ニ該當シ、即チ大正五年ヨリ漸次增加シ來リタルモ尙八年度ヨリ十倍以上ノ膨脹ヲ示セリ。

歳入總額ノ大部分ヲ占ムル二億七百三十萬一千圓ハ大阪市ノ經濟ニシテ94.62%ニ當リ、堺市ハ百三十九萬六千三百二十五圓0.65%ニ、岸和田市0.23%ニ該當シ、他ノ七百九十八萬八千八百二十二圓ハ町村所屬ニシテ0.45%ニ相當ス。

歳　　出　大正十三年度市町村歳出總額一億七千四百五十四萬二千五百十七圓（九分六厘）ヲ增加ス尙最近ニ於ケル歳出增加ノ趨勢ヲ見ムカタメ十年前ナル大正三年度ヲ百トシタル指數ニヨリ對比スレハ大正四年度百四、五年度四百五十二、六年度五百十五、七年度六百九十八、八年度千六十四、九年度千五百六十四、十年度千七百九十、十一年度二千四百四十一、十二年度二千七百二十一、十三年度二千八百三十九トナル、即チ大正四年ニ於テ僅ニ增加ノ狀ヲ示セルモ爾後逐年增加シ最近二三年前ヨリハ其膨脹率甚大ナルヲ見ルモノナリ。

歳出總額ノ大部分ナル一億六千六百三十四萬八千圓ハ大阪市所屬ニシテ95.31%ニ當リ、堺市ハ百二十五萬六千二百二十六圓0.72%ニ、岸和田市ハ三十七萬八千七百二十八圓0.21%ニ該當シ、他ノ六百五十五萬九千七百四十五圓ハ各町村所屬ニシテ3.76%ニ相當セリ。

普通水利組合

大正十三年度歳入決算ハ七十二萬八千五百五十三圓ニシテ前年ニ比スレハ二十八萬三千六十四圓ノ增加ナリ、尙大正三年度ヲ百トシタル指數ヲ以テ增減狀況ヲ示セハ大正四年度九十三、五年度百四十四六年度百六十四、七年度百四十九、八年度百八十九、九年度百七十七、十年度二百十八、十一年度二百三十五、十二年度二百八十二、十三年度四百六十一ナル數ヲ顯ハセリ。總額ヲ更ニ費目別ニ見レハ其主ナルモノハ組合費二十萬六千餘圓、財產費却代三十萬一千餘圓ニシテ臨時部ニ於テハナシ。歳出總額ノ內經常部ハ二十二萬五千八百三十三圓、臨時部四十二萬一千百一圓ニシテ經常部ノ內主ナルモノハ事業費十萬三千餘圓管理費ノ八萬餘圓等ナリ。

水害豫防組合費

大正十三年度歳入決算額ハ十四萬五千二百十圓ナリ、前年ニ比スレハ一萬三千九百十二圓ノ增加ナリ今大正三年度ヲ百トシタル指數ヲ算出シ以テ增減狀況ヲ對比スレハ大正四年度百十一、五年度百十七

六年度二百十五、七年度二百四十七、八年度三百八十一、九年度千四百五十六、十年度九百七十九、十一年度千百八十二、十二年度八百八十三、十三年度九百七十六ニ該當シ、即チ大正四年乃至八年迄ハ逐年增加シ來リタルモ九年度ノ如キハ實ニ驚クベキ高率ヲ示セリ。總額ノ內主ナルモノハ前年度繰越金ノ四萬三千餘圓、寄附金ノ四萬七千餘圓ナリトス。

歲　出　大正十三年度歲出決算額六萬九千六百七圓ヲ前年ニ比スレハ一萬三千八百四十二圓ノ減少ナリ。今大正三年度ヲ百トシタル指數ヲ以テ最近十ケ年間ニ於ケル增減ノ狀況ヲ示セハ大正四年度百八、五年度百十七、六年度二百三十九、七年度三百九十五、八年度四百九十五、九年度千六百五十九十年度千二百九十三、十一年度千五百七、十二年度千二、十三年度八百三十六ニ該當シ、即チ大正四年乃至八年迄ハ逐年增加ヲ示セルモ九年度ニ於テハ十倍以上ナル異常ノ增加ヲ示セリ。總數ノ內經常部ニ屬スルモノハ四萬八千百八十圓69.22%、臨時部二萬一千四百二十七圓30.78%ナリ。其主ナル費目ハ管理費ノ一萬九千餘圓27.46%、公債費ノ一萬七千餘圓25.48%等トス。

諸　稅

大正十三年度諸稅總額ハ七千七百五十一萬七千八十四圓ナリ。前年ニ比シ百六十四萬二千七百二十四圓9..77%ヲ增加ス。今大正三年度ヲ百トシタル指數ヲ以テ其ノ狀況ヲ示セハ、四年度百四十二、五年度百十、六年度百十六、七年度百四十五、八年度二百二十九、九年度二百四十二、十年度二百六十九十一年度二百八十五、十二年度二百七十二、十三年度二百七十四ニ該當シ、即チ逐年增加シツヽアリシモ八年度ニ於テ增加著シク遲增ノ現象ヲ示ス。

總額ヲ稅種ニ分テハ直接國稅四千七百八十八萬四千九百十八圓61.66%、府稅一千百十三萬三千三百十七圓14.34%、市町村稅一千八百四十九萬八千八百四十九圓23.71%。其ノ他ノ公課二十三萬二千八十六圓0.29%ナリ、即チ直接國稅半ヲ占メ、其他公課最寡ナリ。

大正十三年度現住人口一人當リ諸稅負擔額ハ二十五圓八十六錢九厘ニ當リ、前年度ニ比スレハ四錢八厘ヲ減シタリ、尙五年前ナル大正八年ノ二十三圓十七錢二厘、十年前ナル大正三年度ノ七圓七十六錢三厘ニ比スレハ遙カニ增加セリ。

國稅調定額

大正十四年度國稅調定額ハ八千五百十八萬三千二百二十三圓ヲ算シ前年ニ比シ百八十七萬一千九百二十二圓2.21%ヲ增加セリ、今最近十ケ年間ノ狀況ヲ見ムカ爲大正四年度ヲ百トスレハ五年度百三十五六年度二百十一、七年度三百二十四、八年度四百六十四、九年度三百九十五、十年度三百五十六、十一年度三百九十三、十二年度四百十二、十三年度三百八十七、十四年度四百五十四ナル數ヲ示シ、即チ五年前ヨリ漸次上昇シ八年度ニ至リテ最高ヲ示シ九年、十年度ハ低下シ十一年、十二年度ハ上昇シ十三年度ニ於テハ低下シ本年度ニ至リ上昇セリ。

總額ノ內直接國稅最モ多ク57.88%（四千九百三十餘萬圓）ヲ占メ、間接國稅42.12%（三千五百八十餘萬圓）ニ當レリ、更ニ此種二種ニ付觀察スレハ直接國稅ノ四千九百三十一萬五千三百三十四圓ヲ前年ニ比スレハ百四十三萬四百十六圓29.00%ヲ增加セリ、今十年前ナル大正四年度ヲ百トシタル指數ヲ以テ各年ノ增減ヲ示セハ、五年度百二十八、六年度二百三十六、七年度三百九十六、八年度四百四、九年度四百七十九、十年度四百十四、十一年度四百四十三、十二年度四百三十九、十三年度四百七十

ナル數ヲ示シ五年度ヨリ漸次上昇シ九年度最高ナリ。

總額ヲ種類ニヨリ分テハ地租稅6.45%、所得稅63.61%、營業稅21.14%、鑛業稅0.02%、取引所營業稅8.78%等ニシテ賣藥稅ナシ。

郡市ニ於ケル割合ハ大阪市當モ多ク八割七分五厘ヲ占メ、北河內郡ノ一分八厘、堺市ノ一分九厘之ニ亞キ南河內郡ノ九厘最モ少ナシ。

間接國稅三千五百八十六萬七千八百八十九圓ヲ前年ニ比スレハ四十五萬八千七百三十三圓ノ增加ナリ今十年前ナル大正四年度ヲ百トシタル指數ヲ以テ各年ノ增加狀況ヲ見レハ大正五年度百四十二、六年度百五十九、七年度百七十三、八年度二百三十六、九年度二百二十二、十年度二百九十七、十一年度三百四十、十二年度二百六十二、十三年度三百八十、十四年度三百九十一ナル數ヲ示シ、大正九年度ニ少シク低下シタル外逐年增加シツヽアリ。

總額ヲ其種類ニヨリ分テハ酒稅21.10%、醬油稅0.03%、砂糖消費稅41.91%、相續稅46.65%、通行稅7.86%、織物消費稅24.36%ナリ。

郡市ニ於ケル割合ハ大阪市最モ多ク總數ノ82.91%ヲ占メ、三島郡ノ9.13%、岸和田市ノ4.73%之ニ次イテ多ク北河內郡ノ3.93%ヲ最低トス。

府　稅

大正十四年度府稅總額ハ千四十六萬七千五百九十九圓ナリ、之ヲ前年ニ比スレハ八十八萬五千八百四圓1.18%ノ增加ヲ示セリ。今十年前ナル大正四年度ヲ百トセル指數ヲ以テ各年增加ノ狀況ヲ見レハ大正五年度百八、六年度百二十八、七年度百七十七、八年度二百六十七、九年度三百三十二、十年度三百五十五、十一年度四百六十二、十二年度三百六十九、十三年度四百二十、十四年度四百二十一ナル數ヲ示シ逐年上昇セリ。

總額ヲ其種類ニヨリ分テハ地租割15.95%、雜種稅33.43%、營業稅附加稅21.45%、家屋稅15.63%、所得稅附加稅6.01%、營業稅2.21%、戶數割 50.7%、取引所營業稅附加稅0.25%ニ相當シ、賣藥營業稅附加稅ナシ。

郡市ニ於ケル割合ハ大阪市73.52%最モ多ク泉南郡3.94%、中河內郡3.66%、之ニ次キ豐能郡2.08%最寡ナリ。

第一　土　地

管內面積			115.52 方里
管內總段別	總數		121,405.42 甲
	官有地		9,573.45
	民有地	有租地	103,879.66
		免租地	6,886.65
		年期地	1,065.66
官有地	第一種		319.85
	第二種		875.45
	第三種		8,208.86
	第四種		169.29
民有有租地	田		54,135.17
	畑		12,943.56
	宅地		9,309.51
	池沼		209.66
	山林		25,696.37
	原野		1,441.38
	雜種地		144.01

第一　土地

第一表　本府ノ面積及廣袤　大正十四年

	面積	廣袤					
		方位	地名	里程	方位	地名	里程
	方里			里 町			里 町
全管	115.52	極東 極西	河内國北河内郡永室村大字穂谷 和泉國泉南郡多奈川村大字小島	20.18	極南 極北	和泉國泉南郡多奈川村 攝津國豊能郡池根莊村大字天王	21.08
攝津國ノ内	42.08	同	三島郡島本村大字山崎 豊能郡北豊島村大字神田	8.16	同	住吉區杉本町 豊能郡池根莊村大字天王	12.21
大阪市	11.78	同	東成區今津町東端 西淀川區布屋町西端	4.02	同	住吉區杉本町南端 東淀川區江口町北端	5.05
北區	0.56	同	善源寺東端 中之島七丁目西端	1.11	同	中之島七丁目南端 天神橋六丁目北端	0.38
此花區	0.65	同	上福島南一丁目東端 常吉町西端	1.22	同	櫻島町南端 上福島北一丁目北端	1.07
東區	0.43	同	中道川西町東端 西横堀川渡邊橋中央	0.30	同	下味原町南端 大川町淀屋橋中央	0.28
西區	0.28	同	西横堀川渡邊橋中央 本田町通三丁目西端	0.24	同	岩崎町南端 土佐堀通一丁目肥後橋中央	0.26
港區	1.14	同	今木町東端 北海岸通西端	1.11	同	南恩加島町南端 富島町北端	1.22
天王寺區	0.28	同	東上町東端 南日東町西端	0.19	同	大道五丁目南端 上汐町一丁目北端	0.32
南區	0.19	同	内安堂寺町一丁目東端 淡町西端	0.25	同	日本橋筋五丁目南端 順慶町北端	0.24
浪速區	0.24	同	北霞町東端 木津川町一丁目西端	0.23	同	北霞町南端 櫓川町三丁目北端	0.20
西淀川區	1.10	同	大仁町東端 布屋町西端	2.00	同	布屋町南端 加島町北端	1.10
東淀川區	1.59	同	柵寺町東端 三津屋町西端	2.12	同	中津町南端 北大道町飛地北端(江口町)	1.31
東成區	1.93	同	今津町東端 毛馬町西端	1.21	同	生野田島町南端 赤川町淀川中央	2.21
住吉區	2.22	同	喜連町東端 釜口町西端	2.28	同	杉本町南端 天王寺町北端	2.24
西成區	0.47	同	東田町東端 津守町西端	0.25	同	粉濱町南端 津守町北端	1.08
三島郡	16.11	同	島本村大字山崎 豊川村大字粟生	4.26	同	吹田町大字吹田 清水村大字原	5.35
豊能郡	14.19	同	東能勢村大字切畑 池根莊村大字天王	5.27	同	庄内村大字洲到止 池根莊村大字天王	8.28
和泉國	31.10	同	泉北郡横山村大字槇尾 泉南郡多奈川村大字大島	10.31	同	泉南郡西葛城村大字蕎原 泉北郡三寶村大字松屋	9.08
堺市	0.55	同	向井町北庄南岡 大濱通四丁目	1.04	同	濱町 七道所鳳大和川	1.04

本府ノ面積及廣袤（續）

	面積	廣			袤		
		方位	地名	里程	方位	地名	里程
	方里			里町			里町
岸和田市	0.33	同	藤井町 南ノ町	0.18	同	南上町 下野町	0.23
泉北郡	13.00	同	横山村大字槇尾 忠岡村大字忠岡	4.28	同	山瀧村大字大澤 三寶村大字松屋	6.30
泉南郡	17.22	同	東葛城村大字塔原 多奈川村大字小島	8.31	同	多奈川村大字西畑 北掃守村大字磯上	8.06
河內國	42.34	同	中河內郡堅上村大字峠 南河內郡金剛村大字長曾根	4.17	同	南河內郡高向村大字瀧畑 北河內郡樟葉村大字樟葉	16.30
南河內郡	20.94	同	國分村大字國分 金剛村大字長曾根	4.04	同	高向村大字瀧畑 志紀村大字老原	7.19
中河內郡	9.30	同	堅上村大字峠 天美村大字我堂	3.33	同	松原村大字岡 北江村大字鴻池新田	4.03
北河內郡	12.10	同	氷室村大字穗谷 庭窪村大字八雲	4.02	同	四條村大字中垣內 樟葉村大字樟葉	3.26

本表ハ陸軍參謀本部ノ實測圖二萬分ノ一ニ據リ算出セリ

第二表　山　嶽　大正十四年

	所屬郡	登山口ノ地名	山頂ヘノ里程
			里町
神峰山	三島郡	三島郡清水村大字原	0.03
本山寺山	同	同	1.09
勝尾寺山	同	同　豊川村大字粟生	1.00
箕面山	豊能郡	豊能郡箕面村大字平尾	1.02
妙見山	同	同　吉川村	0.25
月峰山	同	同　西郷村大字大里	2.00
槇尾山	泉北郡	泉北郡横山村大字坪井	1.14
牛尾山	同	同　山瀧村大字大澤	0.15
七越嶺（一名横山）	同	同　南横山村大字父鬼	1.15
葛城山	泉南郡	泉南郡東葛城村大字塔原	1.08
神於山	同	同　大字神於	0.10
飯盛山	同	同　深日村	0.35
犬鳴山	同	同　大土村大字大木	0.25
金剛山	南河內郡（大和ニ跨ル）	南河內郡赤阪村大字森屋	4.00
篠峰山	同	同　大字水分	0.25
旗尾山	同	同　天見村大字岩瀬	0.06
巖湧山	同	同　加賀田村大字加賀田	0.04
藏王嶺	同（河泉紀ノ三〇）	同　高向村大字瀧畑	1.00
天野山	同	同　天野村大字下里	0.23
鷲尾山	中河內郡	中河內郡大戸村大字神立	0.24
高安山（一名鉢伏山）	同	同　中高安村大字郡川	0.12
交野山	北河內郡	北河內郡交野村大字倉治	0.10
飯盛山	同	同　四條村大字北條	0.10
ゴンジヤウ山	同	同　甲可村大字南野	0.12

本表ハ日本地誌提要等ニ就キ著名大著ノモノヲ掲載セリ里程ハ未タ實測セシモノナキニ依リ假リニ慣稱里程ヲ記ス

第三表　河　川　大正十四年

		水源地名	流末地名	管內經過里程
				里町
	淀川	滋賀縣近江國琵琶湖	大阪市港區天保町	10.18
支	芥川	京都府乙訓郡大野村大字外畑	三島郡三箇牧村大字唐崎	3.18
支	天野川	北河內郡田原村大字上田原	北河內郡枚方町大字岡新町	3.30
支	船橋川	同　氷室村大字穗谷	北河內郡牧野村大字上島	2.15
支	穗谷川	同	北河內郡牧野村大字阪	2.25
支	水無瀬川	三島郡島本村大字大澤	三島郡島本村大字山崎	2.17
支	檜尾川	同　清水村大字原、神峰山	同　大冠村大字大塚	1.21
支	寢屋川	北河內郡星田村大字星田	大阪市東區京橋二丁目	5.08
派	神崎川	三島郡味生村大字一津屋	同　西淀川區西洲町	6.16
派	新淀川	大阪市東成區毛馬町	同　西淀川區西島町 同　此花區島船町	2.19
派	中津川	同　東淀川區北長柄町運河下流	同　西淀川區傳法町	1.23
派	東横堀川	同　東區京橋三丁目	同　南區瓦屋町	0.21
派	西道頓堀川	同　南區二ツ井戸町	同　西區幸町通五丁目	0.26
派	西横堀川	同　西區土佐堀通一丁目	同　西道頓堀通一丁目	1.22
派	木津川	同　土佐堀通五丁目	同　住吉區柴谷町	1.32
派	堂島川	同　北區中之島山崎ノ鼻	同　北區中之島七丁目	0.24
	大和川	奈良縣山邊郡介野村大字藏生	泉北郡三寶村大字若松	0.52
支	石川	南河內郡高向村大字瀧畑	南河內郡道明寺村大字船橋	9.30
支	東除川	同　狹山村大字池尻	中河內郡惠我村大字大堀	3.23
支	西除川	同	泉北郡五箇莊村大字花田	2.18
支	原川	奈良縣北葛城郡二上村大字關屋	南河內郡國分村	0.31
	男里川	泉南郡雄信達村大字男里	泉南郡尾崎村	0.21
支	菟砥川	泉紀國界、雄山峰	同　東鳥取村大字自然田	1.06
	樫井川	泉南郡大土村大字大木、犬鳴山	同　西信達村大字北野	2.24
支	新家川	同　新家村大字新家	同　北信達村大字苗代	1.19
	近木川	同　西葛城村大字蕎原	同　北近義村大字神前	3.18
支	秬谷川	同　大字大川	同　木島村大字三松	1.06
	大津川	泉北郡横山村大字槇尾、横尾山	泉北郡大津町大字宇多大津	5.13
支	牛瀧川	同　牛瀧山	同　忠岡村大字北出	3.12
	石津川	同　鶴田村大字草部	同　濱寺町大字下石津	2.15
	田津川	泉南郡東葛城村大字塔原葛城山	泉南郡麻生鄕村大字津田	3.18

第四表　池沼　大正十四年

所屬地	周圍	面積	東西廣表	南北廣表
	里町	町反	町間	町間
久米田池	泉南郡八木村外十二箇村	1.02	63.4	8.20	6.20
狹山池	南河内郡日置荘村外十箇村	0.33	35.8	2.44	6.20

第五表　公園　大正十四年

所在地		坪數	職員 取締	職員 圖丁	職員 其他	大正十三年度經費 收入	大正十三年度經費 支出
總數	.....	坪 647,086	5	29	59	円 195,919	円 122,323
住吉	大阪市住吉區住吉町	38,537					
龜寺	泉北郡龜寺町大字船尾、間下 高石町大字今在家	147,073	4	8	1	61,302	60,720
箕面	豐能郡箕面村、萱野村	259,233					
天王寺	大阪市天王寺區玉水町	67,263					
中之島	同　北區中之島一丁目	27,321					
櫻之宮	同　北區東野田町、川崎町	16,163					
清水谷	同　東區清水谷四ノ町	803					
北野	同　北區北野東之町	419					
西野田	同　此花區玉川町一丁目	377					
御藏跡	同　南區御藏跡町	418	—	14	58	116,339	53,009
阿波座	同　西區阿波座一番町	519					
九條	同　港區九條南通二丁目	1,214					
四九條	同　此花區四野上之町	2,061					
鶴島	同　此花區中二丁目	900					
末津	同　浪速區幸町	708					
扇町	同　北區扇町	12,900					
大濱	堺市大濱通四丁、大濱南町 吾妻橋通四丁、大町東一丁	71,177	1	7	—	18,278	8,594

本表外ニ公私立ノ遊園地等アルモ略ス

第六表　郡市區劃　大正十四年十二月末日現在

所在地名	町村役場數	町數	村數	大正十四年國勢調査 世帶數	大正十四年國勢調査 人口	面積	平均一方里ノ人口
全書	.....	*2 256	19	229	683,638	3,059,502	方哩 115.52	26,831
大阪市役所	北區中之島一丁目	—	—	—	483,990	2,114,804	11.78	179,525
西區役所	西區江ノ子島東ノ町	—	—	—	25,791	130,146	0.28	464,807
南區役所	南區竹屋町	—	—	—	24,816	121,406	0.19	638,979
東區役所	東區本町一丁目	—	—	—	32,719	172,411	0.43	400,956
北區役所	北區曾根崎上一丁目	—	—	—	44,481	200,479	0.56	357,998
浪速區役所	浪速區新川三丁目	—	—	—	33,580	149,890	0.24	642,542
天王寺區役所	天王寺區六萬體町	—	—	—	26,881	116,427	0.28	415,811
港區役所	港區南境川町二丁目	—	—	—	69,730	281,678	1.14	247,086
此花區役所	此花區上福島南二丁目	—	—	—	38,137	159,547	0.65	245,457
西淀川區役所	西淀川區浦江町	—	—	—	29,470	122,332	1.10	111,211
東淀川區役所	東淀川區本庄町	—	—	—	34,770	145,812	1.59	91,706
東成區役所	東成區鶴橋木野町	—	—	—	57,353	236,137	1.93	122,351
住吉區役所	住吉區阿倍野町	—	—	—	32,982	140,907	2.22	63,472
西成區役所	西成區花園町	—	—	—	33,280	137,632	0.47	292,834
堺市役所	車ノ町東一丁	—	—	—	23,145	105,009	0.55	190,925
岸和田市役所	岸和田市岸城町	—	—	—	7,153	32,050	0.33	97,121
三島郡役所	三島郡茨木町	32	3	29	21,059	97,665	16.11	6,062
豐能郡役所	豐能郡池田町	23	1	22	16,775	78,349	14.19	5,521
泉北郡役所	泉北郡鳳町	35	4	31	26,559	128,672	13.00	9,898
泉南郡役所	岸和田市岸城町	*1 38	2	37	28,616	142,406	17.22	8,270
南河内郡役所	南河内郡富田林町	47	4	43	24,136	118,500	20.94	5,659
中河内郡役所	中河内郡八尾町	*1 39	3	37	31,781	146,194	9.30	15,720
北河内郡役所	北河内郡枚方町	32	2	30	20,524	95,853	12.10	7,922

表中町村役場欄内ニ＊印ヲ附シタルハ組合役場ニシテ町村役場數中ニ包含ス
尙大阪市ノ面積ノ各區ノ合計ヨリ多キハ新淀川水面各區別因縁ノ爲此ノ分ノミハ大阪市ノ行ニ算入セシモノナリ

第七表　警察區劃　大正十四年十二月末日現在

所在地		派出所數	駐在所數	出張所數	立番所數	臨時派出所數
總數	.....	502	299	13	36	50
大阪水上署	港區築港北海岸通	14	—	1	—	2
安治川分署	此花區安治川上通二丁目	2	—	—	—	1
木津川分署	西區南堀江三番丁	—	—	—	—	—
船場署	東區本町二丁目	26	—	—	6	6
玉造署	南區上本町筋三丁目	20	—	—	—	—
新町署	西區立賣堀北通三丁目	19	—	—	2	—
川口署	西區川口町	17	—	—	6	—

警察區劃（續）

	所在地	派出所數	駐在所數	出張所數	立番所數	派出所數 請願
九條署	港區九條南通一丁目	25	—	—	4	—
朝日橋署	此花區西野田上ノ町	15	—	1	—	1
築港署	港區三條通一丁目	11	—	—	—	1
泉尾署	港區大正通六丁目	16	—	1	1	1
島之內署	南區東清水町	24	—	—	6	1
高津署	南區田島町	15	—	—	2	—
天王寺署	天王寺區六萬體町	18	—	1	1	1
茨署	天王寺區南日東町	18	—	1	—	2
難波署	浪速區元町四丁目	17	—	—	1	—
芦原署	浪速區芦原町	12	—	2	1	3
天滿署	北區若松町	17	—	—	4	2
曾根崎署	北區曾根崎中二丁目	16	—	1	2	—
鶴島署	此花區江成町	22	—	—	—	1
鯛島署	北區東野田町九丁目	8	—	—	—	1
鴫橋署	東成區鴫橋木野町	30	—	—	—	—
平野署	住吉區平野宮町	9	2	—	—	—
今福署	東成區今福町	17	—	1	—	1
今宮署	西成區海道町	32	—	1	—	—
中津署	東淀川區中津町	17	—	1	—	1
住吉署	西成區粉濱町	13	—	—	—	7
十三橋署	東淀川區十三南之町	12	—	1	—	1
大和田署	西淀川區大和田町	6	—	—	—	1
柴島分署	東淀川區柴島町	6	—	—	—	—
池田署	豐能郡池田町	3	8	—	—	2
岡町分署	豐能郡豐中村大字岡町	1	12	—	—	3
地黃分署	豐能郡東鄉村大字地黃	—	8	—	—	—
茨木署	三島郡茨木町大字茨木	1	19	—	—	—
高槻分署	三島郡高槻町大字高槻	1	9	—	—	—
吹田分署	三島郡吹田町	1	8	—	—	3
堺署	堺市市之町西一丁	15	4	1	—	4
鳳署	泉北郡鳳町大字長承寺	2	15	—	—	3
鶴田分署	泉北郡東陶器村大字鶴田	—	12	—	—	—
三林分署	泉北郡南池田村大字和田	—	9	—	—	—
大津分署	泉北郡大津町大字下條大津	—	10	—	—	—

警察區劃（續）

	所在地	派出所數	駐在所數	出張所數	立番所數	派出所數 請願
岸和田署	岸和田市本町	5	17	—	—	—
佐野分署	泉南郡佐野町	—	13	—	—	—
尾崎分署	泉南郡尾崎村	—	9	—	—	—
市場分署	泉南郡北信達村大字市場	—	7	—	—	—
富田林署	南河內郡富田林町大字毛人谷	1	17	—	—	—
長野分署	南河內郡長野町大字長野	—	9	—	—	—
古市分署	南河內郡古市町大字古市	—	7	—	—	—
黑山分署	南河內郡黑山村大字北余部	—	11	—	—	—
柏原分署	南河內郡柏原町大字市村	—	5	—	—	1
八尾署	中河內郡八尾町大字大信寺	1	15	—	—	—
三宅分署	中河內郡三宅村	—	9	—	—	—
御厨分署	中河內郡意岐部村大字御厨	1	11	—	—	—
額田分署	中河內郡枚岡村大字額田	—	6	—	—	—
南高安分署	中河內郡南高安村大字教興寺	—	4	—	—	—
枚方署	北河內郡枚方町大字三矢	1	10	—	—	—
守口分署	北河內郡守口町大字守口	—	13	—	—	—
四條畷分署	北河內郡甲可村大字南野	—	11	—	—	—
津田分署	北河內郡津田村大字津田	—	9	—	—	—

第八表　稅務區劃

大正十四年十二月末日現在

	所在地	管轄區域	町村數	面積	大正十四年國勢調査 現住戶數	大正十四年國勢調査 現住人口
總數	……	……	248	115.52 方里	683,638	3,09,502
大阪稅務監督局 東稅務署	大阪市東區內本町二丁目	大阪市東區	—	0.43	32,719	172,411
大阪稅務監督局 西稅務署	同　四區江之子島東之町	同　港區、四區	—	1.42	95,521	411,824
大阪稅務監督局 南稅務署	同　南區千年町	同　天王寺區、浪速區、南區	—	0.71	85,277	337,723
大阪稅務監督局 北稅務署	同　北區中之島四丁目	同　此花區、北區	—	1.21	82,618	360,026
大阪稅務監督局 玉造稅務署	同　東成區東小橋町	同　西淀川區、東淀川區、東成區、住吉區、西成區	—	8.01	187,855	782,820
大阪稅務監督局 茨木稅務署	三島郡茨木町大字茨木	三島郡、豐能郡	55	30.30	87,834	176,014
大阪稅務監督局 堺稅務署	堺市櫛屋町東二丁	堺市、泉北郡	35	13.55	49,704	233,681
大阪稅務監督局 岸和田稅務署	岸和田市岸城町	岸和田市、泉南郡	39	17.55	35,769	174,456
大阪稅務監督局 富田林稅務署	南河內郡富田林町大字富田林	南河內郡	47	20.94	24,136	118,500
大阪稅務監督局 住道稅務署	北河內郡住道村大字三箇	中河內郡、北河內郡	72	21.40	52,205	242,047